

2016

# 京都大学大学院案内

地球社会の調和ある共存を目指して



GRADUATE SCHOOLS of KYOTO UNIVERSITY

# 京都大学において新しい出会いと発見を

京都大学は1897年の創立以来、高い倫理性に支えられた「自由の学風」のもと自由闊達な対話を根幹としながら、京都の地において自主自律と創造の精神を涵養し、日本と世界の高等教育を先導し、先端的・独創的の学術研究を推進してまいりました。2015年現在で118年の歴史を積み重ねてきています。また、京都大学は、日本の学制制度発足以来の大改革とされる国立大学法人化制度の下、2004年4月から国立大学法人京都大学となり、新たな法人化制度と環境変化の中で大きな変革を続けています。

激動の変革期といえる今、自由の学風を継承発展させつつ、多面的な課題の解決に果敢に挑戦し、地球社会の調和ある共存に向けて京都大学らしく貢献することについて以前にも増して大きな期待が寄せられています。

教育基本法第七条第一項に「大学は、学術の中心として、高い教養と専門知識を培うとともに、深く真理を探究して新たな知見を創造し、その成果を広く社会に提供することによって、社会の発展に寄与するものとする」と明記されています。この基本法の本質において、第一の使命の教育は「知の伝承」を通して世界の動きに適切に対応できる能力を育成すること、第二の使命の研究は、最先端の研究活動を行い「知の創造」、「知的体系の構築」のため深く真理を探究することです。また、大学における創造的な研究活動は、その過程に学生のみなさんを参加させ、多様な能力を育成することが含まれています。このように、大学における教育と研究は車の両輪をなすものであり、不即不離でなければなりません。第三の使命の社会貢献にはいろいろな形態がありますが、知の社会発信、産官学連携、政策提言、附属病院の高度医療など多様な展開をもたらすものです。

このように多様性を特徴とする大学の使命を果たすべく、時流に流されることなく、「凛」とした気概を持ち、学術の府として、その存在を国内外に示し、同時に京都という誇りと文化に満ちた環境下で、社会の各分野において指導的な立場に立ち、重要な働きを担う教養人、国際人、世界的研究者を輩出し続けることができるよう、京都大学は日々発展していきます。

大学院教育において、文部科学省は21世紀国際社会における総合課題の解決を担いうるグローバル・リーダーを養成すべく、「博士課程教育リーディングプログラム」の公募を2011年度より開始し、本学はこれまでにオールラウンド型1件、複合領域型3件（生命健康分野、安全安心分野、情報分野各1件）、オンリーワン型1件が採択され、広く産官学にわたって活躍できるリーダー養成教育を開始しました。

さらに、全学の支援のもと、「生存知の構造化と公共化」を創発することにより、「人類と地球社会の生存」に関わる社会課題を克服し、活力ある社会の構築を先導するグローバル・リーダーの養成拠点として大学院総合生存学館（思修館）を2013年4月1日に設置しました。また、平成26年度には、我が国の高等教育の国際競争力を強化することを目的とする文部科学省の「スーパーグローバル大学創成支援」事業に本学の「京都大学ジャパングートウェイ構想」が採択されました。

京都大学大学院への入学を目指すみなさんには、このような大学において、様々な活動に参加していただくことになります。みなさんにとっても、京都、日本、そして全世界のフィールドを含む地球規模の諸活動が京都大学のキャンパスの一部となることでしょう。そのため、学生としての生活基盤をしっかりと固め、心身を鍛えながら、新たな研究の未来を開拓していただきたいと思えます。

京都1200年の重層文化都市の中に息づく京都大学は、三方を山に囲まれた盆地のうえに主要な3キャンパスが所在しています。美しい四季の変化、豊富な地下水の蓄えは、水の文化とも称せられる古都の文化行事とともに一層の彩りを添えています。このような地に日本全国、世界各国から人々が集まり、新しい文化を育てています。そして、京都大学は、地域との連携のもとにその文化を世界に発信しています。まさに、彩<sup>あや</sup>なす、緩<sup>あや</sup>なす、文<sup>あや</sup>なす学問の府、京都大学と表現することができます。

学部学生約13,600名、大学院生約9,300名、留学生は約1,800名を数え、約2,800名の個性豊かな教員が、みなさんとの新しい出会いを待っています。

学問と研究に大いなる希望をもち、京都大学大学院を目指されるみなさんの入学をお待ちしています。



# 京都大学の 基本理念



京都大学は、創立以来築いてきた自由の学風を継承し、発展させつつ、多様な課題の解決に挑戦し、地球社会の調和ある共存に貢献するため、自由と調和を基礎に、ここに基本理念を定める。

## 研究

1. 京都大学は、研究の自由と自主を基礎に、高い倫理性を備えた研究活動により、世界的に卓越した知の創造を行う。
2. 京都大学は、総合大学として、基礎研究と応用研究、文科系と理科系の研究の多様な発展と統合をはかる。

## 教育

3. 京都大学は、多様かつ調和のとれた教育体系のもと、対話を根幹として自学自習を促し、卓越した知の継承と創造的精神の涵養につとめる。
4. 京都大学は、教養が豊かで人間性が高く責任を重んじ、地球社会の調和ある共存に寄与する、優れた研究者と高度の専門能力をもつ人材を育成する。

## 社会との関係

5. 京都大学は、開かれた大学として、日本および地域の社会との連携を強めるとともに、自由と調和に基づく知を社会に伝える。
6. 京都大学は、世界に開かれた大学として、国際交流を深め、地球社会の調和ある共存に貢献する。

## 運営

7. 京都大学は、学問の自由な発展に資するため、教育研究組織の自治を尊重するとともに、全学的な調和をめざす。
8. 京都大学は、環境に配慮し、人権を尊重した運営を行うとともに、社会的な説明責任に応える。

# 京都大学入学者受入れの方針 (アドミッション・ポリシー)



## 大学院課程

京都大学は、創立以来の「自由の学風」のもと、世界最高水準の研究を推進し、優れた研究者、ならびに高度専門職業人の養成に努めてきました。大学院の各研究科は、このような学風と学術の伝統を踏まえて、さらに努力を重ね、世界に誇る独自の学術研究の推進と、社会の各方面で指導的な役割を果たす人材の養成に取り組むと考えています。そのために、日本国内はもとより世界各地から、優れた資質を有し学問に対する意欲にあふれた人を広く受け入れたいと願っています。

大学院の各研究科では、独自に教育と研究の理念・目的を定めて、それぞれの分野で積極的な活動をおこなっています。その高度で独創的な研究の成果は、わが国だけでなく国際的にも注目されています。そうした研究は共通して、京都大学らしい多様な世界観・自然観・人間観に基づく自由な研究であると同時に、学問の基礎を大切に研究、ないし基礎そのものを極める研究であります。京都大学は、このような大学の学風や伝統を理解し、自ら課題を設定して探求するための十分な基礎学力を備えており、専門分野で積極的な研究をおこなう意欲をもった人の入学を期待しています。

## 専門職大学院課程

京都大学に設置された専門職大学院は、本学独自の学風と伝統を踏まえながらも、専門職大学院が目的とする、高度で専門的な知識・能力を備えた専門職業人の養成を使命として、積極的に教育と研究を進めています。専門職大学院は、それぞれの理念や教育方針のもとで、独自のカリキュラムを整え、理論と実務をつなぐ実践的な教育をおこなっており、その入学者選抜にあたっては、優れた資質を有する人を幅広く受け入れたいと願っています。学士課程の卒業生だけでなく、すでに専門職を経験しさらに高い専門的能力を得たいと願う社会人も、積極的に受け入れたいと考えています。

## Index

総長メッセージ

- P01 ▶ 基本理念、アドミッション・ポリシー
- P02 ▶ 沿革・組織等
- P05 ▶ 京都大学発トピックス
- P06 ▶ 世界をリードする教育研究拠点へ

## 支援について

- P16 ▶ 教育研究支援
- P18 ▶ 経済生活支援
- P22 ▶ 国際交流支援
- P26 ▶ 就職支援

## 研究科の紹介

- P28 ▶ 理事メッセージ
- P29 ▶ 京都大学大学院の特色
- P30 ▶ 文学研究科
- P32 ▶ 教育学研究科
- P34 ▶ 法学研究科
- P36 ▶ 法科大学院（法曹養成専攻）
- P38 ▶ 経済学研究科
- P40 ▶ 理学研究科
- P44 ▶ 医学研究科
- P48 ▶ 薬学研究科
- P50 ▶ 工学研究科
- P54 ▶ 農学研究科
- P58 ▶ 人間・環境学研究科
- P60 ▶ エネルギー科学研究科
- P62 ▶ アジア・アフリカ地域研究研究科
- P64 ▶ 情報学研究科
- P66 ▶ 生命科学研究科
- P68 ▶ 総合生存学館（思修館）
- P70 ▶ 地球環境学堂・学舎
- P72 ▶ 公共政策大学院
- P74 ▶ 経営管理大学院

## 研究所・教育研究施設

- P76 ▶ 研究所について
- P76 ▶ 化学研究所
- P77 ▶ 人文科学研究所
- P77 ▶ 再生医学研究所
- P78 ▶ エネルギー理工学研究所
- P78 ▶ 生存圏研究所
- P79 ▶ 防災研究所
- P79 ▶ 基礎物理学研究所
- P80 ▶ ウイルス研究所
- P80 ▶ 経済研究所
- P81 ▶ 数理解析研究所
- P81 ▶ 原子炉実験所
- P82 ▶ 霊長類研究所
- P82 ▶ 東南アジア研究所
- P83 ▶ iPS細胞研究所
- P83 ▶ 教育研究施設

## 入学試験情報

- P86 ▶ 入学試験情報
- P92 ▶ キャンパスMAP

# 沿革

## 京都大学は1897年(明治30年)創設

現在 18 研究科、10 学部、14 附置研究所および多くの教育研究施設を有し、  
教員 2,800 名、大学院生 9,200 名、学部学生 13,500 名が学び、研究を行っている総合大学です。

1897年  
[明治30年]

京都帝国大学創設



1947年  
[昭和22年]

京都帝国大学を  
京都大学と改称



1949年  
[昭和22年]

新制京都大学設置

2004年  
[平成16年]

国立大学法人京都大学設立



## 脈々と受け継がれる伝統と英知

写真は京都大学にゆかりのあるノーベル賞受賞者、カッコ内は受賞年



湯川秀樹 博士  
(1949年)



朝永振一郎 博士  
(1965年)



福井謙一 博士  
(1981年)



利根川進 博士  
(1987年)



野依良治 博士  
(2001年)



益川敏英 博士  
(2008年)



小林誠 博士  
(2008年)



山中伸弥 博士  
(2012年)



赤崎勇 博士  
(2014年)

© Nobel Media AB  
Photo: Alexander Mahmoud

京都大学ホームページ

<http://www.kyoto-u.ac.jp/ja>

## フェイスブック

京都大学Facebook

<http://www.facebook.com/Kyoto.Univ>

## 京都大学教育研究活動データベース

京都大学の教員を知るならこちら！  
—京都大学は個性豊かな研究者の宝庫—

京都大学では個性豊かな優れた研究者が数多く教育・研究に携わっています。

「京都大学教育研究活動データベース」は、本学の研究者の専門分野、研究業績など教育研究活動に関する情報を広く社会に公開することを目的とした検索システムです。

<http://kyouindb.iimc.kyoto-u.ac.jp/view/>

## 京都大学学術情報リポジトリ (KURENAI)

「京都大学学術情報リポジトリ」は京都大学内で生産された電子的な知的生産物(学術雑誌掲載論文、学位論文、プレプリント、科学研究費報告書、COE プログラム研究成果、講義資料・教材、学会発表資料などの学術情報)を永続的に蓄積し、誰もが無料で読めるように Web 上で公開するものです。

ノーベル物理学賞を受賞された益川敏英京都大学名誉教授の受賞論文やノーベル生理学・医学賞を受賞された山中伸弥教授の研究グループによる iPS 細胞樹立に関する論文の著者原稿も公開されています。

<http://repository.kulib.kyoto-u.ac.jp/dspace/>



## 公開オンライン講義

### edX

京都大学は、米ハーバード大学とマサチューセッツ工科大学 (MIT) が 2012 年に設立した非営利的教育機関「edX」(本部: マサチューセッツ州ケンブリッジ) に、日本で初めて参入しました。edX は世界トップレベルの大学の講義をインターネットで無料配信するだけでなく、オープンソースの教育プラットフォームの開発と大学間ネットワークの構築を通じて、オンライン授業とキャンパス授業双方において「学生たちがどのように学ぶか」を研究し、教育改善に取り組むことが特徴です。

京都大学が edX を通じて提供する講義シリーズは「KyotoUx」と名付けられ、2014 年から配信を開始しています。

<https://www.edx.org/school/kyotoux>

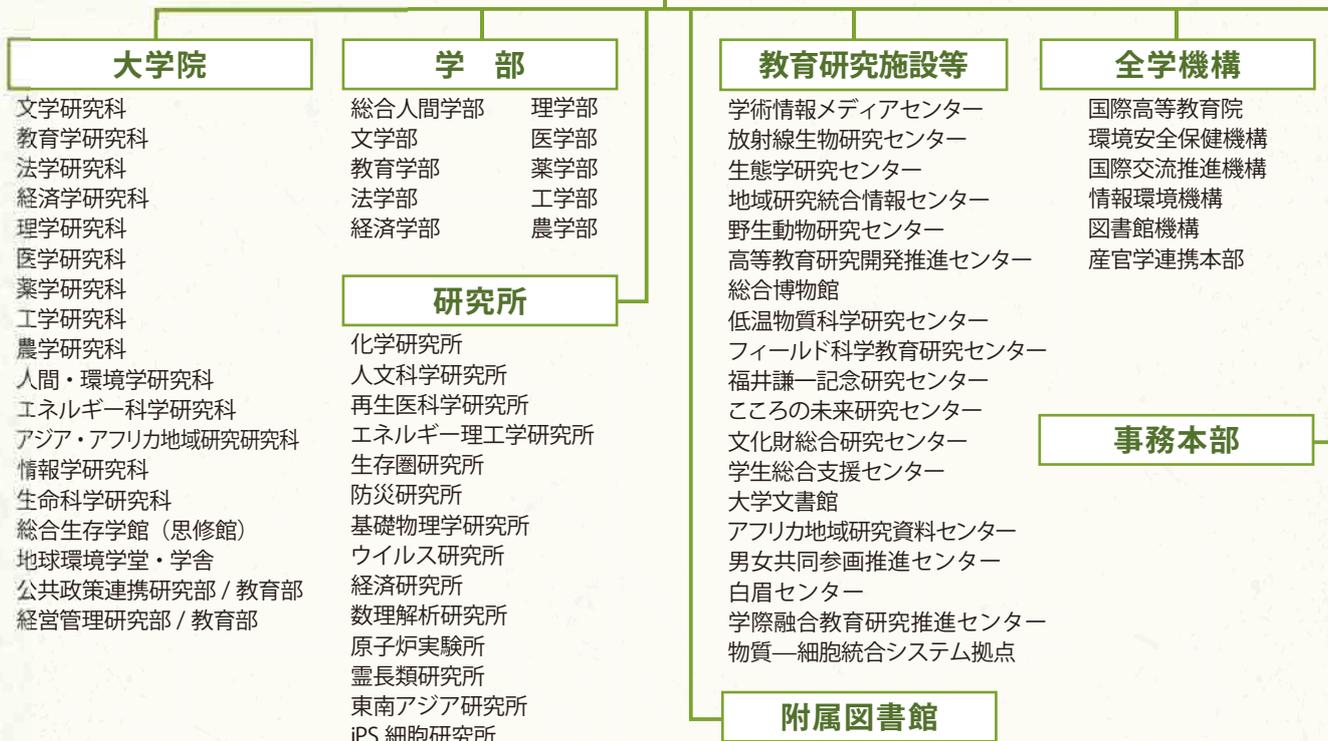
### 京都大学オープンコースウェア (OCW)

京都大学 OCW は、学内で実際に利用している講義教材をインターネットで公開するプロジェクトです。学内の学生、教職員、他大学の学生、関連学会の研究者、京都大学を志願する高校生、さらなる学習を志す社会人など、あらゆる方々に京都大学の講義内容を知っていただき、門戸を広げることを目的としています。また、世界へ向けて、京都大学のビジビリティを高め、日本の文化・伝統を発信するために日本語で積極的にアピールしていきます。

<http://ocw.kyoto-u.ac.jp>

# 組織図

## 京 都 大 学



# キャンパス群

## 世界的な教育・研究総合大学を目指す3つのキャンパス群

京都大学は京都盆地を取り囲むように位置する3つのキャンパス群を中心に教育・研究活動を行っています。

吉田キャンパスは1897（明治30）年に京都帝国大学として創立以来、京都大学の中枢として今日に至り、教育・研究の拠点となっています。

宇治キャンパスは、自然科学・エネルギー系の研究所からなる最先端テクノロジー開発の拠点キャンパスです。

2003（平成15）年に開設された桂キャンパスは、工学・情報学系の大学院および産学官連携を推進する部門等で構成され、基盤科学技術のイノベーションとそれを推進するための中軸キャンパスとして位置づけられています。



吉田キャンパス



桂キャンパス



宇治キャンパス

## 研究所・附属研究施設等位置図

京都大学の学術研究は全国各所に所在する研究所・附属研究施設等によって牽引されています。各施設の所在地については85ページをご参照ください。

## 海外交流拠点

京都大学の国際戦略「2x by 2020」の方針に基づき、世界各地域のハブ拠点として、研究教育活動の支援、本学教職員・学生の国際化の推進および広報、社会連携、ネットワーク形成の推進を目的とする全学的な海外拠点を設置することとしています。2014年には、ドイツ・ハイデルベルクおよびタイ・バンコクにそれぞれ新たに拠点を開設し、引き続き整備を進めています。このほか、各部局が独自に設置する、教育・研究活動等のための海外交流拠点が23カ国47拠点あります。

topics 01

2014年  
10月

## 山極 壽一 理学研究科教授が 第26代総長に就任

2014年10月1日(水)、松本紘総長の任期満了に伴い、  
山極 壽一 理学研究科教授が本学第26代総長に就任しました。



topics 02

2014年  
9月

## 森 和俊 理学研究科教授が アルバート・ラスカー 基礎医学研究賞を受賞



写真提供：ラスカー財団

森和俊 理学研究科教授がアルバート・ラスカー基礎医学研究賞を受賞しました。

ラスカー賞は「アメリカのノーベル賞」とも言われ、世界で最も権威のある科学賞の一つです。日本人の受賞者としては、山中伸弥 iPS細胞研究所長に続き7人目になります。ピーター・ウォルター 米国カルフォルニア大学サンフランシスコ校教授と合わせ2人での共同受賞です。

topics 03

2014年  
10月

## 本学理学部卒業生の 赤崎 勇 先生が ノーベル物理学賞を受賞

本学理学部卒業生の赤崎勇 先生がノーベル物理学賞を受賞しました。

ノーベル賞授賞式はスウェーデン・ストックホルムのコンサートホールにおいて行われ、カール16世グスタフ国王から赤崎先生にメダルと賞状が手渡されました。



© Nobel Media AB Photo: Niklas Elmehed

topics 04

2014年  
9月

## 平成26年度スーパーグローバル大学等事業 「スーパーグローバル大学創成支援」に採択されました。

本学は、平成26年度スーパーグローバル大学等事業「スーパーグローバル大学創成支援」(タイプA:トップ型)に採択されました。この事業は、徹底した国際化と大学改革を断行する大学を重点支援することにより、我が国の高等教育の国際競争力を強化する

ことを目的として平成26年度から実施される文部科学省の事業で、本学が申請した「京都大学ジャパンゲートウェイ構想」はタイプAに採択されました。

本事業についての詳細は10ページで紹介しています。

topics 05

2015年  
1月

## 第5回(平成26年度)日本学術振興会育志賞に 本学から3名が選ばれました。

日本学術振興会育志賞は、将来、我が国の学術研究の発展に寄与することが期待される優秀な大学院博士後期課程学生を顕彰することで、その勉学および研究意欲を高め、若手研究者の養成を図ることを目的として、平成22年度に創設されました。

大学長経験者等の有識者により構成される選考委員会において厳正な審査が行われ、第5回目の受賞者18名が決定され、本学からも3名の博士後期課程学生が選ばれました。

### 《京都大学の受賞者》

久保 雄広 さん(農学研究科生物資源経済学専攻)  
“野生動物との軌線緩和に向けた社会科学的シナリオ分析”

早川 卓志 さん(理学研究科生物科学専攻)  
“霊長類の苦味受容体遺伝子レパートリーの分子進化と生態適応機構の解明”

李 光琴 さん(理学研究科化学専攻)  
“金属ナノ粒子と多孔性金属錯体のハイブリッドによる革新的機能の創出”

# 世界をリードする教育研究拠点へ 新しい国際リーダーの養成をめざして 博士課程教育リーディングプログラム

ここでは京都大学から採択された**5**件のプログラムをご紹介します。

博士課程教育リーディングプログラムは、優秀な学生を俯瞰力と独創力を備え広く産学官にわたリグローバルに活躍するリーダーへと導くため、国内外の第一級の教員・学生を結集し、産・学・官の参画を得つつ、専門分野の枠を超えて博士課程前期・後期一貫した世界に通用する質の保証された学位プログラムを構築・展開する大学院教育の抜本的改革を支援し、最高学府に相応しい大学院の形成を推進する事業で、平成23年度からスタートした文部科学省のプログラムです。

## 厳しいカリキュラムと愛情豊かな指導による5年一貫リーダー育成プログラム

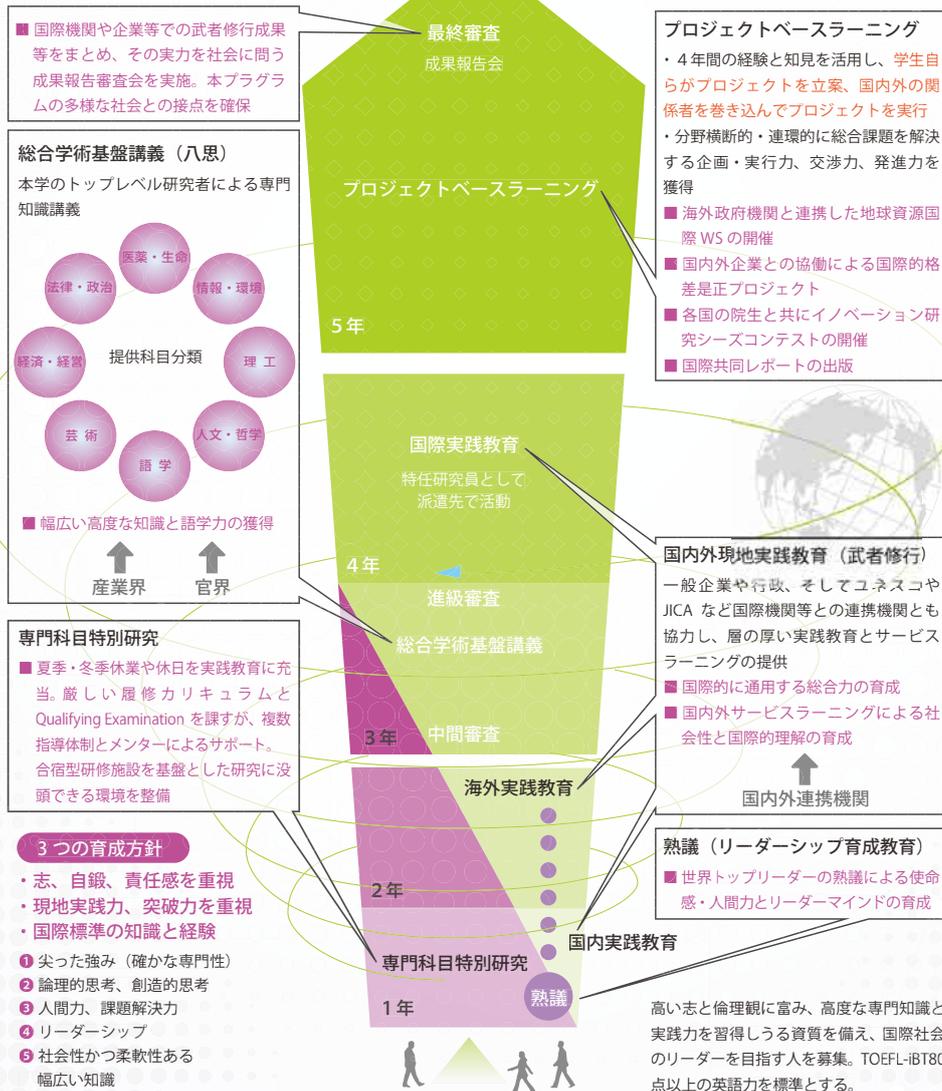
### 京都大学大学院思修館

Graduate School of Advanced Leadership Studies

※「京都大学大学院思修館」プログラムの履修を希望する場合は、平成25年4月に新設された大学院「京都大学大学院総合生存学館（思修館）」（68ページ参照）に入学することが必須となっています。



学位「京都大学博士（総合学術）」を授与、または学位記にプログラムを修了した旨を付記



問い合わせ先 ● 京都大学大学院総合生存学館（思修館） <http://www.gsais.kyoto-u.ac.jp>

従来の専門分野を超え、持続可能かつ生存可能な人類社会、生態系及び地球系の構築に貢献する人材を養成する

# グローバル生存学 大学院連携プログラム



Inter-Graduate School Program for Sustainable Development and Survivable Societies

現代の地球社会では、巨大自然災害、突発的人為災害・事故、環境劣化・感染症などの地域環境変動、食料安全保障、といった危険事象や社会不安がますます拡大しています。本学位プログラムでは、京都大学の9研究科と3研究所が協力することで、「グローバル生存学」という新たな学際領域を開拓し、地球社会・地域社会における安全安心の担保に寄与できるグローバル人材を養成します。

## グローバル生存学 大学院連携ユニット

教育学研究科、経済学研究科  
理学研究科、医学研究科  
工学研究科、農学研究科  
アジア・アフリカ地域研究研究科  
情報学研究科、地球環境学舎  
防災研究所、生存圏研究所  
東南アジア研究所

（極端気象・水災害・地震・火山・津波）  
**巨大自然災害**

（巨大事故・火災・原子力）  
**突発的人為災害・事故**

（感染症・環境汚染劣化・高齢社会）  
**地域環境変動・社会不安**

（自給率・人口問題・農業政策）  
**食料の安全保障**

自然的・社会的現象のメカニズムの理解  
予知・予測に基づく予防科学、復興科学の知識と知恵  
人の適応（医療、心理、ライフスタイル、リハビリ）  
社会の適応（経済、公共政策、地域研究など）

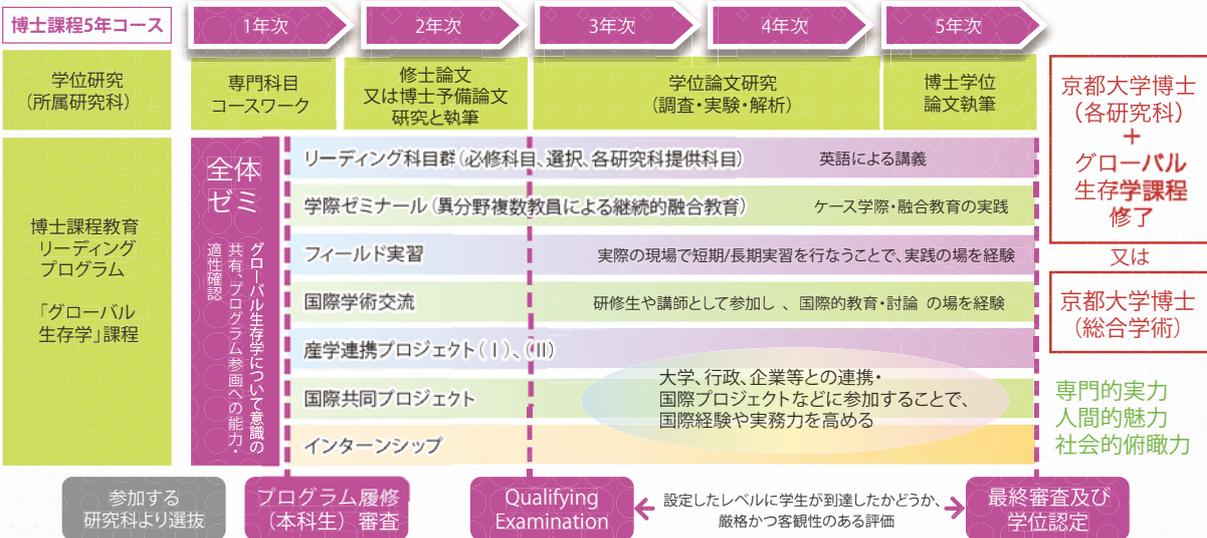
災害・事故や経済危機に的確に対処し、企業経営を安定的・持続的に行える  
**企業リーダー**

世界を股にかけて活躍する  
**国際的な危機管理リーダー**

食料・資源・エネルギー・防災などの安全保障政策の決定に指導力を発揮する  
**国や地域のリーダー**

社会・安全システム科学分野の  
**アカデミック・リーダー**  
(一級の研究者・教育者)

新しい分野を開拓する起業家  
**新ビジネス(ベンチャー)リーダー**



### 平成 26 年度履修者

3年次 20名(教育学1、経済学1、理学1、医学2、工学6、農学1、アジア・アフリカ地域5、情報学1、地球環境2)

2年次 17名(教育学1、理学1、医学2、工学2、農学3、アジア・アフリカ地域6、情報学2)

1年次 14名(教育学1、理学1、医学3、工学2、農学1、アジア・アフリカ地域4、地球環境2)

「グローバル生存学」課程と学位研究に専念するための経済支援

受給資格を満たす優秀な履修者に対して月額20万の奨励金(26年度41名、3年次17、2年次12、1年次12)と独自の新たな研究活動を行うための経費として年額上限150万円の研究活動経費(26年度46名、3年次18、2年次15、1年次13)を支給

### 問い合わせ先

● グローバル生存学大学院連携プログラム <http://www.gss.sals.kyoto-u.ac.jp/>

● 京都大学学際融合教育研究センター グローバル生存学大学院連携ユニット事務室 TEL 075-762-2197

人類未曾有の超高齢社会に対応した総合医療システムを創出する人材を育成する

# 充実した健康長寿社会を築く 総合医療開発リーダー育成プログラム

Training Program of Leaders for Integrated Medical System for Fruitful Healthy-Longevity Society

超高齢社会の諸問題を俯瞰して、医療と福祉の統合により地域の中で個々人の生活を支える『総合医療システム』を構築することを通じて、充実した健康長寿社会の構築に貢献し、更に後続諸外国にそのグローバルモデルを提示することのできる総合医療開発リーダーを養成します。

## プログラムの特色

- 履修者：選抜試験（英語、数学、面接など）により、留学生、社会人、出身大学の区別なく選抜（20名程度/年）。
- 理工学、生物系学部出身者が、医学部卒業生に匹敵する基礎医学と生体知識を習得
- 早期から企業、医療・介護支援など**現場の需要**についての理解を促す体験研修
- 英語によるディベートとネゴシエーション能力の洗練
- 産業、医療支援臨床など各界講師による、現場の状況に対応できる実践的能力の涵養
- 社会における医療ルールの理解（医療政策、医療経済、医療倫理、知財管理など）
- 企業・国内外研究機関による実践的学修とインターンシップ
- 教育・研究開発と、検証・評価・橋渡し研究の間を循環して体験することによる、多分野を俯瞰し統合する能力の涵養
- 京都大学と協力企業・組織の連携によるインキュベーションセンターで新産業と人材の育成を支援

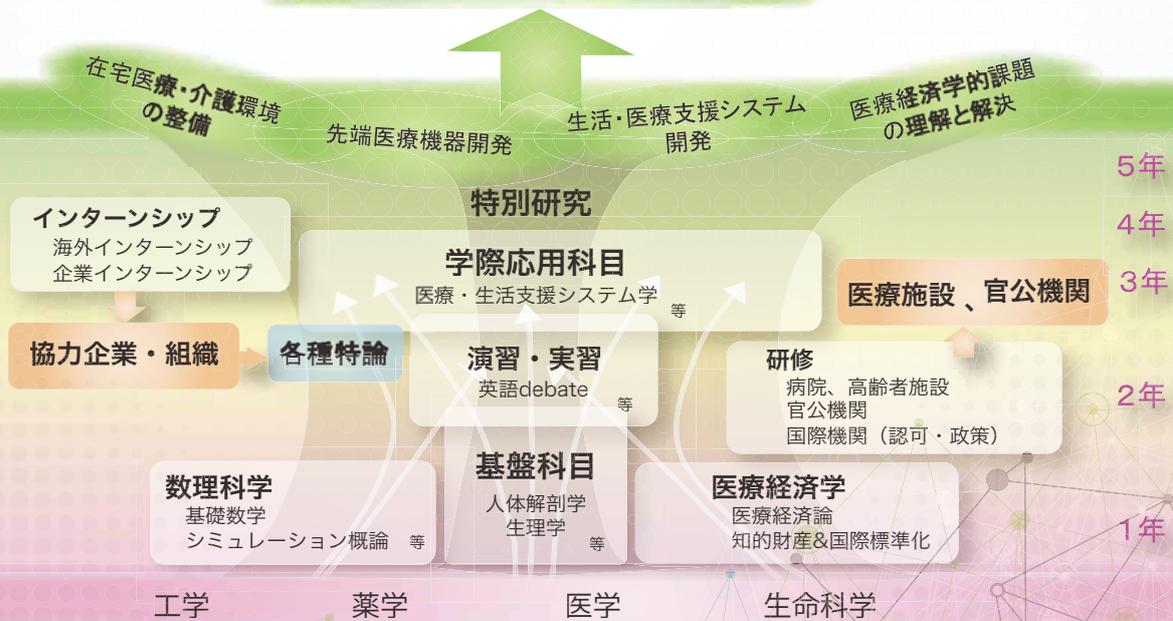
## 「総合医療開発リーダー育成」プログラム履修とその出口

学 位：博士(医学・医科学・人間健康科学・工学・薬科学)＋「充実した健康長寿社会を築く総合医療開発リーダー育成プログラム」修了を証す。

活躍の場：次世代医療機器・支援システムの研究、高齢者に優しい医療機器の開発、健康長寿社会のための施策・立案、医療支援システムの国際標準化と日本モデルの普及

### 豊かな健康長寿社会の実現

### 総合医療開発リーダー



受給資格を満たす履修者には履修開始の4月から奨励金を支給する。

#### 問い合わせ先

- 充実した健康長寿社会を築く総合医療開発リーダー育成プログラム <http://www.lims.kyoto-u.ac.jp/>
- 健康長寿社会の総合医療開発ユニット事務局 Eメール：[info@lims.kyoto-u.ac.jp](mailto:info@lims.kyoto-u.ac.jp)

産学官連携、国際連携、大学間連携による新しいリーダー育成の枠組み

# 京都大学デザイン学 大学院連携プログラム

Collaborative Graduate Program in Design

本プログラムでは、異なる領域の専門家の共通言語としての「デザイン学」を教育します。俯瞰力と独創性を備え、専門領域を超えて協働し、社会のシステムやアーキテクチャを変革できる突出した専門家（十字型人才：+ Shaped People）を養成します。

## + Shaped People

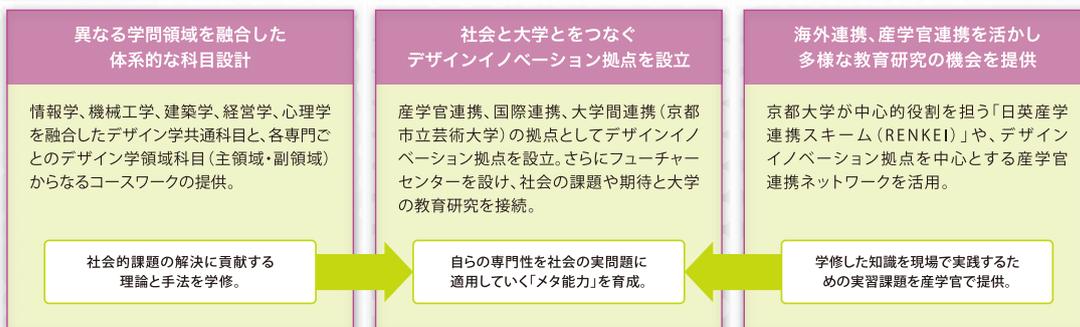
デザイン学を基礎に専門領域を超えて協働できる突出した専門家を育成



「現場の教育力」を活用する  
インターンシップを実施します。



産学官が連携したリーディング  
プロジェクトで社会的課題を  
解決し、博士論文をまとめます。



問い合わせ先

- 京都大学デザイン学大学院連携プログラム <http://www.design.kyoto-u.ac.jp>  
Eメール： [contact@design.kyoto-u.ac.jp](mailto:contact@design.kyoto-u.ac.jp)

霊長類学の蓄積を活かし、学問と実践をつなぐグローバルリーダーを育成する

# 霊長類学・ワイルドライフサイエンス・リーディング大学院



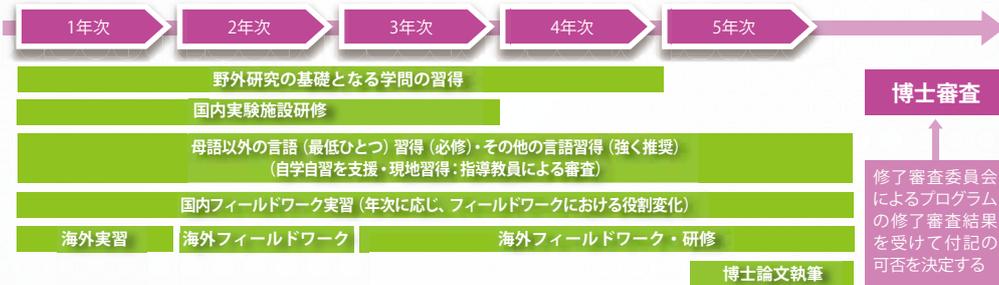
Leading Graduate Program in Primatology and Wildlife Science

京都大学の基本目標である地球社会の調和ある発展に向け、現場力、世界を相手に地球社会の未来をデザインする能力、ならびに我が国の海外展開に欠かせない俯瞰力と国際性に富むリーダーを養成します。

## 霊長類学・ワイルドライフサイエンス (PWS)・リーディング大学院



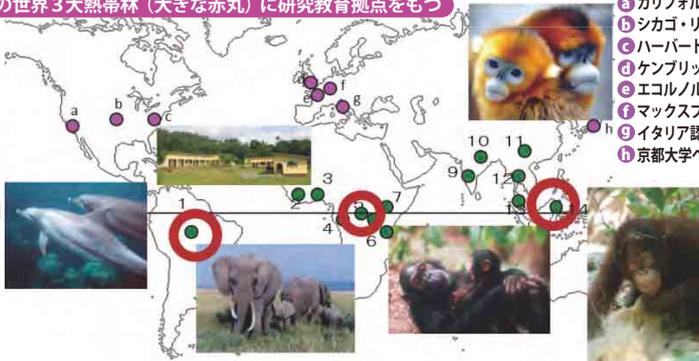
### カリキュラムの年次ごとのフロー



### 本プログラムの基盤となる海外フィールドワーク拠点と連携協定の締結先

アマゾン・コンゴ・ボルネオの世界3大熱帯林 (大きな赤丸) に研究教育拠点をもち

- ① ブラジル・国立アマゾン研究所
- ② ギニア・ボッセウ環境研究所
- ③ ガーナ・国立大学
- ④ ガボン・ムカラバ国立公園
- ⑤ コンゴ・ルオー保護区
- ⑥ コンゴ・カフジビエガ国立公園
- ⑦ ウガンダ・カリンズ森林
- ⑧ タンザニア・マハレ・ウガラ国立公園
- ⑨ インド科学大学
- ⑩ ブータン・ブータン王立大学
- ⑪ 中国・雲南省昆明動物研究所
- ⑫ タイ・チラロンコン大学
- ⑬ マレーシア科学大学
- ⑭ マレーシアサバ大学



- a カリフォルニア大学サンディエゴ校
- b シカゴ・リンカーンパーク動物園
- c ハーバード大学
- d ケンブリッジ大学
- e エコルノルマルシュペリエール
- f マックスプランク進化人類学研究所
- g イタリア認知科学工学研究所
- h 京都大学ヘッドクォーター

### 問い合わせ先

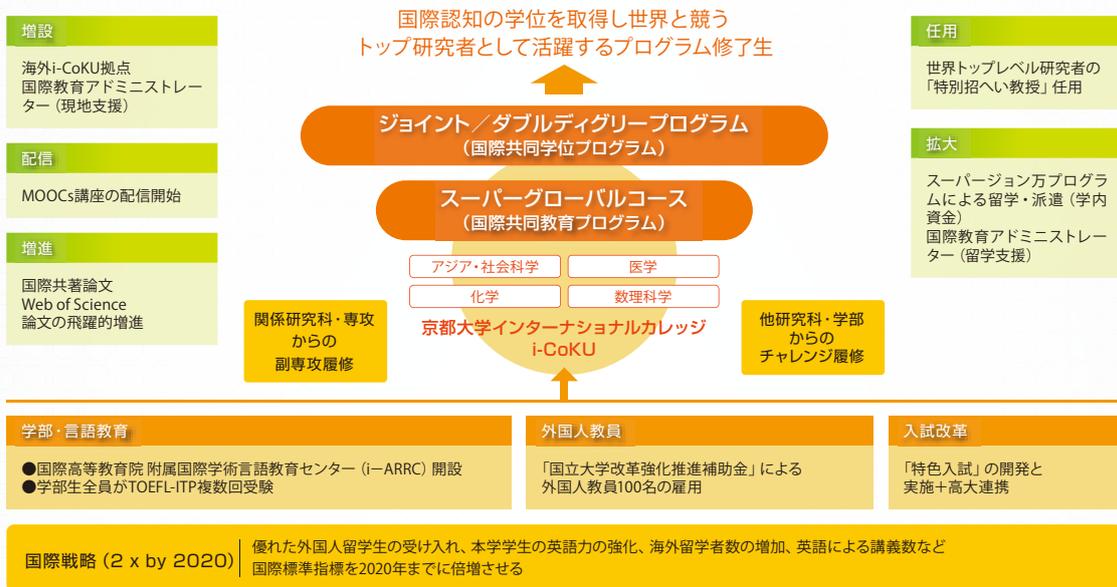
- 霊長類学・ワイルドライフサイエンス・リーディング大学院 ホームページ <http://www.wildlife-science.org/>  
Eメール [info@wildlife-science.org](mailto:info@wildlife-science.org)  
フェイスブック <https://www.facebook.com/KU.PWS>

# スーパーグローバル大学創成支援事業 Top Global University Project

「スーパーグローバル大学創成支援事業」は、徹底した国際化と大学改革を断行する大学を重点支援することにより、我が国の高等教育の国際競争力を強化することを目的として平成26年度から実施された文部科学省の事業です。京都大学からは「京都大学ジャパンゲートウェイ構想」が採択されました。

## 京都大学ジャパンゲートウェイ構想

一 研究情報と研究人材が日常的に行き交うワールドプレミアム高等教育ネットワークの構築 —  
京都大学ジャパンゲートウェイ構想は「京大グローバルアカデミー」の理念のもと、戦略的・創造的・継続的な国際教育プログラムを実施します。徹底的な国際化で、研究情報と研究人材が日常的に行き交う**ワールドプレミアム高等教育ネットワークのハブ**となることを目指します。



## 国際競争力を有する4分野を中心とする大学院の教育改革と国際化により、さらなる教育・研究力の強化へ

### ■ 数理科学分野

フィールズ賞受賞者等の世界トップレベル大学に所属する国際的評価の高い研究者を特別招へい教授として雇用し、本学の教員と共同で学生の研究指導を行うと共に、特別講義などの形で、広い範囲の学生の教育に従事する。プログラム登録学生は、本学教員と特別招へい教授の指導の下、本学と当該大学の両方で学位論文に取り組む。これにより、高い数学の研究能力に加え、十分な語学力と国際的研究ネットワークを身につけ、学位論文の成果が直接国際的に周知されることで、学位取得後直ちに国際舞台で活躍できる機会が得られる。また、国際的な研究環境の中で切磋琢磨することにより、若手研究者の中から国際的な受賞などの大きな研究成果も期待できる。学部生対象の講義やセミナーなどのプログラムも用意されており、数学に意欲のある学生は、早い段階から高いレベルの数学の学修・研究に取り組める。

### ■ 医学分野

「日本再興戦略」（平成25年6月14日閣議決定）でも重視されている個別化医療開発を推進するため、ゲノム医学領域を中心とする共同教育・学位プログラム実施を通じて、海外の機関の教員及び学生との交流を活性化させ、世界最先端の研究と切磋琢磨できる環境を構築することにより、我が国発の優れた革新的医療技術の核となる医薬品・医療機器・再生医療製品の開発を担う国際競争力ある人材を育成し、国際的ネットワーク構築モデルを示して、本学の国際的評価を高める。

### ■ 化学分野

海外連携大学教員による集中講義形式の科目を含め、講義の多くを英語で開講（博士後期課程については全て）する教育プログラムを設置して、国際スタンダードの教育を確立し、本学大学院学生の俯瞰力の強化と国際化を図ると共に、質の良い留学生数の増加を目指す。また、海外連携大学教員と学位論文を共同指導することにより、学生の国際化のみならず、本学教員の研究・教育力の更なる向上と国際共著論文数の増加を図るほか、海外提携大学における研究型インターンシップを実施することにより大学院生の研究力・情報発信力の向上を図る。さらに、国際ワークショップや学生が企画運営する国際学生ワークショップを開催し、京大の研究情報の国内外の研究機関、企業への発信と学生・研究者の国際化能力の更なる向上を目指す。

### ■ アジア・社会科学分野

グローバル・サステイナビリティ研究アジア拠点（AGSS）では、グローバルな視野をもってアジアと世界の持続的発展に貢献しうる人材を育成するため、プログラム内に6つのモジュールを設け、連携大学等から世界トップレベル研究者を招へいして教材を開発するとともに、共同実施科目を設定して既存科目と合わせた単位互換を拡充するなど、体系的教育を実施することで連携大学との共同学位プログラムを構築する。さらに、アジア研究教育ユニット（KUASU）で取り組んでいる系統講義「京都で学ぶ日本とアジア」科目群を活用しながら、留学生に向けた多様な履修機会の確保、学内履修者の視野の拡大、分野横断的な次世代研究の基盤とする。また、学部教育の国際化のため、経済学部では英語科目でコース修了を認定する「グローバルコース」を設置し、文学部では「日本語・日本文化」の英語による科目を開講する。

# 英語による学位取得コース

<http://www.opir.kyoto-u.ac.jp/kuprofile/>

2009年、京都大学は文部科学省により、13の国際化拠点大学の一つとして採択されました（国際化拠点整備事業 グローバル30）。本学では採択にあたり、「京都大学次世代地球社会リーダー育成プログラム (Kyoto University Programs for Future International Leaders K.U.PROFILE: ケーユープロファイル)」を立ち上げ、英語による学位取得コースを設置しました。

以下の表は、英語のみで学位が取得できるコースの一覧です。各学部・研究科等の出願資格、選抜方法、学位の授与等の詳細については、入学を志望する学部・研究科等事務室へ直接問い合わせてください。

アスタリスク(\*)で示したコースはK.U.PROFILEにより、設置されたコースです。これらのコース、及びK.U.PROFILEの詳細については京都大学国際交流推進機構(OPIR) <http://www.opir.kyoto-u.ac.jp/kuprofile/> を参照してください。



農学研究科  
農学特別コースでの授業風景



地球環境学舎 インターン研修の様子

## 開設コース一覧 (2014年度)

学部	研究科	コース名
大学院	工学部	地球工学科国際コース*
	経済学研究科	東アジア持続的経済発展研究コース (修士・博士)
		環境基盤マネジメント国際コース (修士)*
	工学研究科	都市地域開発国際コース (修士)*
		融合工学コース人間安全保障工学分野 (修士・博士)
	農学研究科	農学特別コース (修士・博士)*
	エネルギー科学研究科	国際エネルギー科学コース (修士・博士)*
	情報学研究科	知能情報学専攻国際コース (修士・博士)*
		社会情報学専攻国際コース (修士・博士)*
		通信情報システム専攻国際コース (修士・博士)*
	生命科学研究科・医学研究科	Global Frontier in Life Science (修士・博士)*
	地球環境学舎	国際環境マネジメントプログラム (修士・博士)*
	理学研究科 (霊長類研究所)	国際霊長類学・野生動物コース (修士・博士)*
経営管理大学院	国際プロジェクトマネジメントコース (専門職)*	

## 京都大学 - ベトナム国家大学ハノイ共同事務所



ダナン大学で行われた本学主催の留学説明会の様子

京都大学 - ベトナム国家大学ハノイ共同事務所 (Vietnam National University, Hanoi-Kyoto University Collaboration Office (VKCO)) は、グローバル30の一環として、平成22年9月にベトナム・ハノイ市に開設されました。

同事務所では、ベトナムと日本の教育事情等に関する情報の収集・発信を行ったり、ベトナムからの日本留学を促進するため、ベトナム国内での日本留学説明会やセミナーの開催、また国内の高校・大学への訪問などの活動を行っています。また他にも、日本の大学およびベトナムの教育事業等に関する支援や、日本とベトナムの学術交流推進のための活動も行っています。

# 大学の 世界展開力強化事業

Re-inventing japan project

大学の世界展開力強化事業は、国際的に活躍できるグローバル人材の育成と大学教育のグローバル展開力の強化を目指し、高等教育の質の保証を図りながら、日本人学生の海外留学と外国人学生の戦略的受入を行うアジア・米国・欧州等の大学との国際教育連携の取組を支援することを目的として、文部科学省において平成23年度から開始された事業です。京都大学から以下3件のプログラムが採択されました。



## 強靱な国づくりを担う国際人育成のための中核拠点の形成 —災害復興の経験を踏まえて—

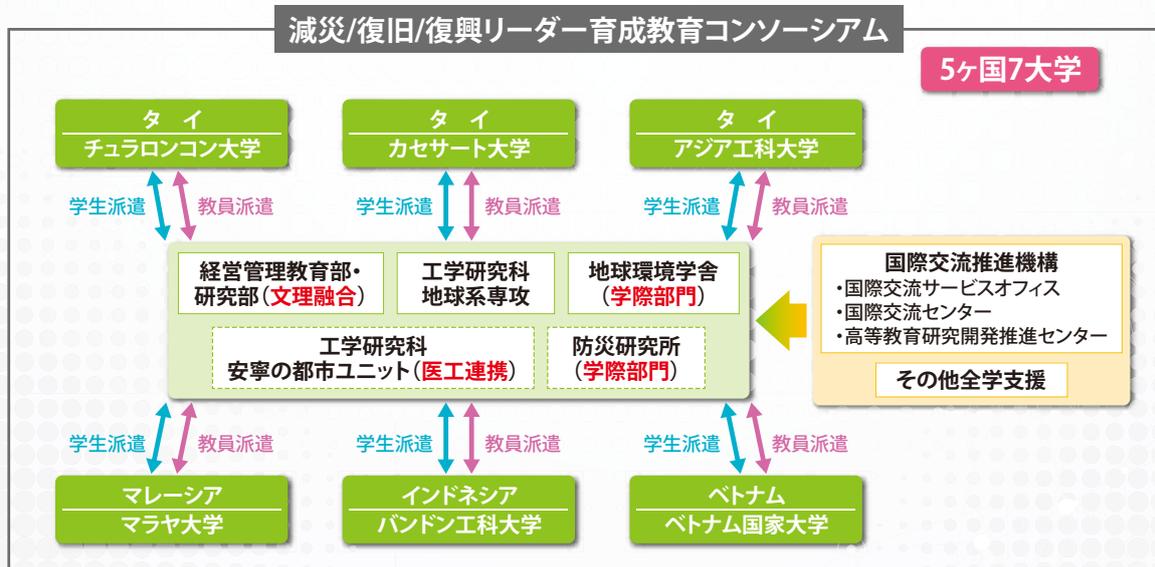
構想の目的・概要及び参画組織

### ◆ 学生交流プログラム

- ・コンソーシアムを形成する ASEAN 連携大学 (大学間・部局間学術交流協定締結校) との、**減災、災害復旧学、災害復興学、災害リスクマネジメント学**に関する協働教育プログラムの開発
- ・協働教育プログラムの実施による大学院生 (原則修士課程学生) の相互交流と留学体験の推進

### ◆ 教員交流プログラム

- ・日本および ASEAN 連携大学の若手研究者の相互派遣により、**それぞれ海外で教育研究を行える環境の整備**



## 「人間の安全保障」開発を目指した 日アセアン双方向人材育成プログラムの構築

### 構想の目的・概要及び参画組織

#### I. 目的、構成、取組

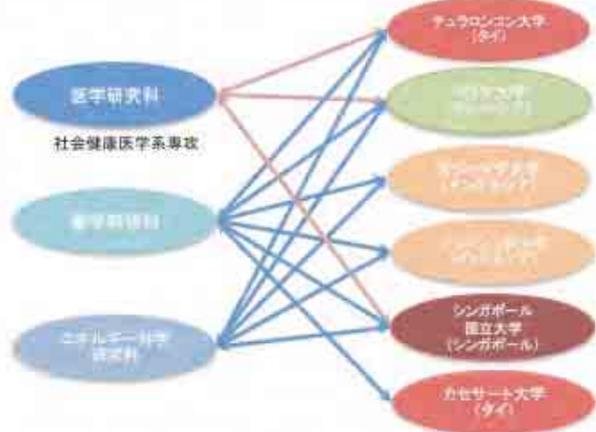


挑み・共鳴し・創造する国際人材

AUN：ASEAN University Network、10カ国26大学が加盟。  
人間の安全保障開発連携教育ユニット：医学研究科（社会健康医学系専攻）、農学研究科、エネルギー科学研究科、アジア・アフリカ地域研究研究科（東南アジア地域研究専攻）、エネルギー理工学研究所、東南アジア研究所、国際交流推進機構が連携し、「人間の安全保障」開発に関する教育を実施するために形成されたユニット。

ホームページ：<http://www.hsd.cpi.kyoto-u.ac.jp/ja/index.html>

#### II. ダブルディグリープログラム



2年課程ダブルディグリープログラム  
本学で1年間、AUN加盟大学で1年間、修学することにより、2つの修士学位が取得可能。  
対象研究領域：「パブリックヘルス」

3年課程ダブルメジャー型ダブルディグリープログラム  
本学で2年間、AUN加盟大学で1年間、修学することにより、異なる2つの修士学位が取得可能。  
対象研究領域：「食糧・水資源」「環境・エネルギー」

## 「開かれたASEAN+6」による日本再発見 — SEND を核とした国際連携人材育成

### 構想の目的・概要及び参画組織

グローバルとローカルの複眼的知性と現地感覚を備え、新たな視角から「日本とアジアを再発見」して、その課題解決への提案と実践できる能力を有したリーダーを養成する。

#### ◆ 段階的包括的国際連携モデル

- ・ **多文化理解交流教育および短期 SEND**：学部段階ではきっかけ、気づき、発見を主たる目的とした複言語教育、多文化理解交流教育と短期 SEND プログラムを実施
- ・ **国際連携専門教育および短期・長期 SEND とその準備教育**：学部3・4回生から修士課程を主な対象として、学生・教員のエクステンジ、招聘教員による授業と単位認定などにより、グローバル水準の専門能力を身につけるコースワークを提供。長期 SEND のトレーニングとして日本語教育法、「京都で学ぶアジアと日本」科目を履修。
- ・ **国際連携研究指導および長期 SEND**：大学院では博士論文の国際共同指導を実施すると共に、日本語指導補助、日本・アジア研究教育等を行う長期 SEND を実施。修士生は、グローバルな視野と現地感覚を備えたアジアのリーダーとして育成される。



ホームページ：<http://www.kuas.u.cpi.kyoto-u.ac.jp/>

# 研究最前線

京都大学では、各学問分野の第一線で活躍する多くの研究者が、日々、独創的・先端的な研究に打ち込んでいます。ここでは、本学の若手研究者、大学院生による研究の一端をご紹介します。

## 「演奏会」から音楽文化の成立を解明する



白眉センター

小石 かつら 助教

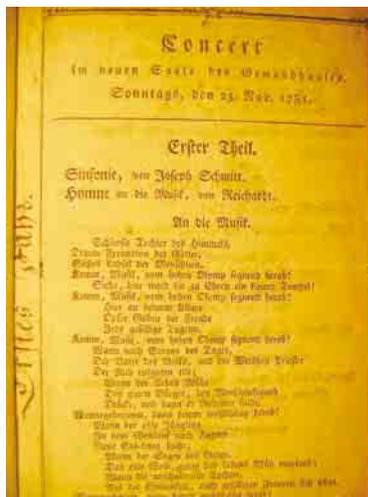
「音楽」は私たちの生活にとってとても身近なものです。日々、何気なく耳にする音楽、ひいては音楽文化は、どのように成立して私たちの生活に組み込まれていったのでしょうか？これまでの「音楽」研究は、バッハやベートーヴェンといった作曲家と彼らの作品を対象としてきました。しかし音楽は、文学や美術と異なり、作曲家と聴衆の間に「演奏者」を必要とします。演奏されることがなければ、音楽は音として存在しないからです。

私はこの「音楽が鳴り響く場」に注目し、とりわけフランス革命以降、市民社会のなかで「演奏会」が成立していくプロセスについて研究をすすめてきました。具体的には、世界最古の民間オーケストラである、ドイツのライプツィヒ・ゲヴァントハウス管弦楽団の1781年の第1回演奏会以来の全演奏会記録を調査しています。交通の要所であるライプツィヒは12世紀から見本市が開かれた商業都市で、オーケストラ演奏会は、見本市の開催に合わせておこなわれた催しでした。商人を中心とした観客には外国人も多かったと想像されます。

残された史料を丹念に調べると、初期の演奏会は、オペラの模倣（縮小版）であったことが明らかになりました。これまで音楽学では、オペラ公演とオーケストラ演奏会は別のもので認識されてきたので、両者が初期段階に密接にリンクしていた事実は驚くべき発見でした。19世紀になると、作曲家や演奏家の移動も盛んになりました。ところが欧州各都市の演奏会は、それぞれ全く違う独自のスタイルを作り出し、しかもそれぞれの固有のスタイルをととても大切にしていたことが、欧州各地に残るプログラム記録や新聞記事からわかりつつあります。

19世紀のヨーロッパ世界に目配せしつつ、「音楽」を「享受する側」から捉える私の研究は、美学・芸術学に軸足を置くものですが、歴史学、社会学等の観点も組み合わせ、複合的に音楽文化を追求する総合大学ならではのものだと思っています。

ライプツィヒ・ゲヴァントハウス管弦楽団第1回演奏会(1781年11月25日)のプログラム表紙、ライプツィヒ市資料館蔵



## 「右」と「左」の謎を解き明かす



白眉センター

細 将貴 助教

私たちヒトを含め、生き物の世界は本当に多様にできています。この多様な世界はどのように生まれ、維持されているのか。私の専門にしている進化生物学や生態学は、これらの問いに答えるための学問です。この学問領域の数ある命題のなかで、私はダーウィンを始祖とする進化生物学の根幹的課題「種の起源」の解明に、生き物の「左右」という変わった切り口から取り組んでいます。

カタツムリの殻は、右か左のどちらかに巻いています。巻き方向はカタツムリの種ごとに決まっています。種内に両方がいる場合はほぼありません。なぜなら逆巻き同士では交尾ができないからです。仮に両方いたとしても、交尾できる相手の少ない側は徐々に数を減らしていくはずなので、最終的には元から多数派だった側に統一されてしまうのです。ですから、両方の種がいるという現実も、少数派として生まれた突然変異の変わり者が未知のトリックを使ってこの繁殖上の不利を乗り越えて進化してきたと考えないと、説明できません。

逆転が進化しにくいこともあり、大昔から右巻きの種のほうが多数派です。私は、右巻きのカタツムリを捕食するのに適応進化した動物がいるのではないかと、そしてそのせいで左巻きになることが有利になり、左巻きの種が何度も進化できたのではないかと考えました。注目したのはカタツムリばかりを食べるというセダカヘビ科のヘビたち。長年の研究で、ヘビの歯の数が左右でまったく違うことと襲われても左巻きのカタツムリが生き延びられること、両者の



世界的な分布が見事に重なっていることなどが判明し、この「右利きのヘビ」仮説はほぼ実証されました。

これらの成果は、論文発表のたびに新聞等のメディアによって多くの人の耳目に届けられました。学術への関心を高め、生物多様性のもつ可能性を世間に敷衍できたことを誇りに思っています。しかし、生物の自然史に隠された謎は枚挙に暇がありません。その中からひとつ、あなたも謎を解き明かしてみませんか。

## 心の働きが成り立つ道すじを 解き明かす —「発達科学」という学問



教育学研究科  
教育科学専攻 博士後期課程  
田中 友香理 さん

私は、環境と一緒に教育という営みが人間の心の発達にどのような影響をもたらすのかという点に関心を持ち、教育学部に入学しました。そして今、人間は生まれてから他者とのような関係を築き何を学んでいくのか、それは脳機能の発達にどのように影響するのかを明らかにする研究に取り組んでいます。心の発達の科学的解明に向け、私たちがとくに重視している点があります。それは、個体内に起こる変化のみならず、発達を支える側、つまり養育者との相互作用という枠組みにおいて心の発達を捉えることが必須である、という見方です。

最近、興味深い知見を得ました。養育者は日常的なやりとりの中で、乳児の身体に触れながら語り掛けるという特殊なはたらきかけを行います。こうした経験が、養育する側の脳のはたらきにどのような影響をもたらすのかを調べてみました。母親と養育経験のない女性に、「触覚刺激（やわらかい布等）」に触れてもらい、続いて「触覚語（ふわふわ等）」を聞いてもらいました。触覚語には、2通りの条件を設けました。ひとつは、「赤ちゃん向けことば（乳児向けの特別な抑揚を含んだ音声語）」かどうか、もうひとつは触覚刺激の手触り感覚と触覚語が合っているかどうかです。触覚語を聞いたときの脳活動を調べたところ、母親では、最初に触れた刺激とそれを表現する触覚語が一致していたかどうかに関心があること、それは赤ちゃん向けことばで表現された場合に顕著であることがわかりました。さらに、日常的に子どもに触覚語をよく使うと回答した母親ほど脳活動が明瞭であったことから、養育経験が成人の脳のはたらきに影響することが明らかとなりました。

私たちは、基礎研究の知見を蓄積し、科学的証拠に基づく養育行動の正しい理解を社会に伝える努力を続けています。養育者の心身にとって真に適切な支援システムの開発も視野に入れ、今後も発達科学の進展に貢献していきたいと思っています。



乳児の視線計測の様子



成人脳波計測の様子

## 燃料電池の 白金使用量大幅低減へ



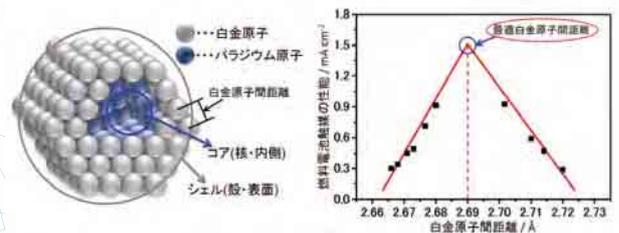
人間・環境学研究科  
相関環境学専攻 修士課程  
石原 潤一 さん

燃料電池は水素と空気中の酸素を反応させ電気エネルギーを取り出す発電装置です。排ガスに水しか含まれずクリーンであり、発電効率が高いため自動車用動力などとして用いられます。燃料電池には反応触媒として高性能な白金ナノ粒子が使われます。しかし白金は値段が高く、世界での埋蔵量も限られているので、今後燃料電池を普及していくために触媒の白金使用量を現在の1/10まで減らさなければなりません。

そこで、次に挙げる2つのことを達成する必要があります。1つ目は触媒に使われる白金を最大限有効利用すること、2つ目は触媒の活性を最大限高めることです。それら2つを達成するため、私はパラジウムナノ粒子の表面に白金原子を1原子層析出させた、コアシェル触媒に着目しました。反応が起こる部分は触媒の表面のみであるので、表面にだけ白金を使うコアシェル触媒は白金を100%有効利用することができる触媒と言えます。そこでそのコアシェル触媒の活性を最大限高めることが必要になります。しかし、コアシェル触媒について活性を支配する因子が解明されておらず、最大活性を示すコアシェル触媒の設計指針を構築することができないという問題がありました。

その問題を受け、私はコアシェル触媒の活性を支配する因子の解明に取り組みました。様々な条件でコアシェル触媒を作製し、活性、白金原子間距離をそれぞれ測定した結果、コアシェル触媒の活性が白金原子間距離に規則性をもって依存することがわかり、コアシェル触媒の活性を支配する因子が白金原子間距離であると解明することに成功しました。その結果、最大活性を示す白金原子間距離の存在が示唆され、最大活性を示すコアシェル触媒の設計指針を構築することにも成功しました。現在、その最適白金原子間距離をもった、白金使用量低減1/20が可能となる新規コアシェル触媒の開発を目指して研究を進めています。

私は京都大学大学院で自分でも信じられないほど多くのことを学び、自身が大きく成長できたと感じています。



コアシェル触媒と最適白金原子間距離

# Supporting 教育研究支援

教育・研究を  
支える様々な取組み

## 附属図書館に24時間学習室を開設。子育て支援や教育支援プログラムの活用。

### 教育・研究活動を支える図書館機構

京都大学には附属図書館をはじめとして各部局等にも図書館・図書室があり、合わせて約680万冊の蔵書を誇ります。それぞれの図書館・図書室が分野に合わせた図書や雑誌を収集・整理し、貸出や文献調査などのサービスを提供するほか、京都大学学術情報リポジトリ(KURENAI)において、博士学位論文の全文データのほか、学内で日々創造される研究・教育成果をインターネット上に公開して、広く社会にアピールしています。

また、現代の学術研究には欠かすことのできない電子ジャーナル

や電子ブック、様々な分野のデータベースを揃え、大学内のどこからでもアクセスできるようになっており、各図書館・図書室や研究室の端末からもこれら最新ツールが利用できます。

各種データベースの使い方や論文・レポートの書き方など、学習・研究に必要な学術情報リテラシーを高めるための講習会等も全学体制で行い、また各図書館・室にて、学習に快適な環境も整備しています。

### 附属図書館



附属図書館は1899(明治32)年に創立され、約91万冊の図書をはじめとして、多くの学術雑誌やデータベースを備え、京都大学の学生や研究者の学習・研究活動を支援しています。

館内には、約1300の閲覧席、共同学習の場ラーニング・コモンズ、研究個室、共同研究室、24時間利用可能な学習室24、DVDやCDを備えたメディア・コモンズ、情報端末エリアなどを備えており、多様な利用にえています。

開館時間は、平日は8時～22時、土・日、祝日も開館しており、一

日に平均3,500人が訪れます。

また、教育・研究活動の成果である学術論文、貴重資料画像、蔵書検索システムをインターネットで広く社会に公開し、京都大学からの学術情報の発信にも力を入れています。



### 大学院教育における4大学間(京都大学、東京大学、慶応大学、早稲田大学)の学生交流に関する協定

学問の発展やグローバル化の進展に伴い、1大学ですべての学問分野を完全にカバーすることは困難になっています。大学院生が教育を受けることについても自大学内だけに留まらず、他の大学に興味のある分野があればそこで教育の一部を受けられるようにすることで、こうした困難を克服することが可能となります。大学院生に多様な教育・研究指導を受ける機会を提供し、もって学術の発展と有為な人材の育成に寄与することを目的として、4大学は大学

院教育における大学間学生交流協定を締結しています。

この協定では、受け入れた学生を研究指導した教員は、当該学生の所属大学大学院研究科の承諾のもと、博士学位論文審査に加わることも可能とするなど、大学院教育における交流をより一層推進しています。

なお、派遣先の大学の授業料等は不要とすることにしています。

### 研究科横断型教育プログラム



学術研究は、近年高度専門化するだけでなく、ますます複雑化、学際化しつつあり、旧来の専門領域の区分に収まらない総合的なアプローチを必要とする課題も急増しています。このような状況の中で、大学院生が広い視野を持ち、新しい学問領域を創造できるよう能力を備えるためには、各研究科が実施している専門教育に加えて、研究科を横断して実施する教育プログラムが必要と考えられます。この必要性に鑑み、本学では平成21年度から、幅広い専門知の涵養と国際的な視野の形成、世界的リーダーの養成を目指し、世界最高水準の研究をおこなう教員、研究者が、大学院生のための文理横断的、分野横断的な教育プログラムを提供しています。

<http://www.kyoto-u.ac.jp/ja/education-campus/cross/>

## 男女共同参画推進センター

育児支援・介護支援事業を通して、家庭生活との両立支援を行っています。また、高・大連携、地域連携による次世代育成支援事業を実施し、京都大学の男女共同参画を推進しています。

### 保育園入園待機乳児のための保育室

学生、研究等に携わる教職員の勉学・研究・教育と育児の両立を支援することを目的とし、男女共同参画推進センター内に、毎年度後半より保育室を開室しています。この保育室は、年度途中の出産や転勤の場合、子どもを保育園に入園させることが難しいことが多いので、そのような人たちが支障なく勉学・研究・教育を続けることができるように設置されました。

### 病児保育室

京都大学に所属する教職員及び学生を対象に、子どもが病中・病後のため保育園や学校へ登園・登校できない時、親が仕事や研究を休むことなく、子どもの保育ができる環境を提供する施設です。病児保育室は附属病院の中にあり、感染隔離室も設置しています。小児科医、看護師、保育士が常駐する安心できる環境で病児の保育を行います。

### 女子高生・車座フォーラム

より多くの女子高校生が京都大学で学ぼうと思えるよう、志望する分野の教員・研究者・学生等と話をすることにより学生生活や研究生活を身近なものとし、理解し感じてもらえるようにする催しを行っています。



<http://www.cwr.kyoto-u.ac.jp/>

## 京都大学優秀女性研究者賞（たちばな賞）

本制度は、人文・社会科学又は自然科学の分野において、優れた研究成果を挙げた若手の女性研究者を顕彰することにより、当該若手女性研究者自身及びこれに続く多くの若手女性研究者の励みとし、ステップアップに繋がるよう研究意欲を高め、もって本学、さらには我が国の学術研究の将来を担う優れた女性研究者の育成等に資

することを目的として、平成 20 年度に創設されました。

学生部門と研究者部門を設けており、さらに平成 25 年度からは各部門に京都大学優秀女性研究者奨励賞を設定して、顕彰しています。



# Supporting 経済生活支援

安心して学問・研究に  
取り組んでいただくために

## 授業料免除では出願した大学院生の75%以上が免除許可を受けています。

本学では既存の入学料・授業料免除制度に加えて、大学独自の授業料免除枠を設けるとともに、ティーチング・アシスタント (TA)、リサーチ・アシスタント (RA) 制度の充実を図る等、様々な支援策を工夫しています。

### 授業料・入学料免除等

#### I. 入学料免除・徴収猶予

経済的理由によって入学料の納付が困難であり、かつ、学業優秀と認められる場合及び入学前1年以内において、出願者の学資を主として負担する方(以下「学資負担者」という。)が死亡し、又は出願者若しくは学資負担者が風水害等の災害を受け、入学料の納付が著しく困難であると認められる場合は、選考の上、入学料の半額免除及び徴収猶予を受けることができます。

#### 平成26年度入学料免除状況

□修士課程

	出願者	半額免除者数	許可率
4月入学	686	221	32%
10月入学	16	2	13%

□博士課程

	出願者	半額免除者数	許可率
4月入学	81	40	49%
10月入学	17	4	24%

#### II. 授業料免除

経済的理由によって授業料の納付が困難であり、かつ、学業優秀と認められる場合及び授業料の納付期限前6月以内(入学した日の属する期分の授業料免除の場合は、入学前1年以内)において、学

資負担者が死亡し、又は出願者若しくは学資負担者が風水害等の災害を受け、授業料の納付が著しく困難であると認められる場合は、選考の上、授業料の全額又は半額免除を受けることができます。

#### 平成26年度授業料免除状況

□修士課程

	出願者	全額免除者数	半額免除者数	許可率
前期	1546	593	570	75%
後期	1618	840	406	77%

□博士課程

	出願者	全額免除者数	半額免除者数	許可率
前期	1227	691	371	87%
後期	1230	802	287	89%

#### 平成26年度入学時に要する納付金

入学料	授業料
282,000円	(半期) 267,900円 (年額) 535,800円
	※法科大学院は(年額) 804,000円

### 奨学金制度

学業成績が優れかつ経済的な理由により就学が困難である場合に奨学金を申請することができます。

#### III -1. 日本学生支援機構奨学金

無利子貸与の第一種奨学金と有利子貸与の第二種奨学金があります。

貸与月額等は次のとおりです。

#### 奨学金貸与金額

課程	種別	貸与月額
修士課程 専門職学位課程	第一種奨学金	5・8.8万円から選択
	第二種奨学金	5・8・10・13・15万円から選択
博士後期課程 4年制博士課程	第一種奨学金	8・12.2万円から選択
	第二種奨学金	5・8・10・13・15万円から選択

※法科大学院の第二種奨学金に限り、さらに19・22万円から選択できます。

※大学院第一種学生で、在学中に特に優れた業績を挙げた者として認定された場合は、奨学金返還の全額又は一部が免除される制度があります。

#### III -2. 地方公共団体奨学金及び民間団体奨学金

日本学生支援機構奨学金以外に地方公共団体奨学金及び財団法人等の出資による民間団体奨学金などの奨学金制度があります。募集の条件は団体により異なりますが、募集時期はほとんどが4月～5月に集中しています。

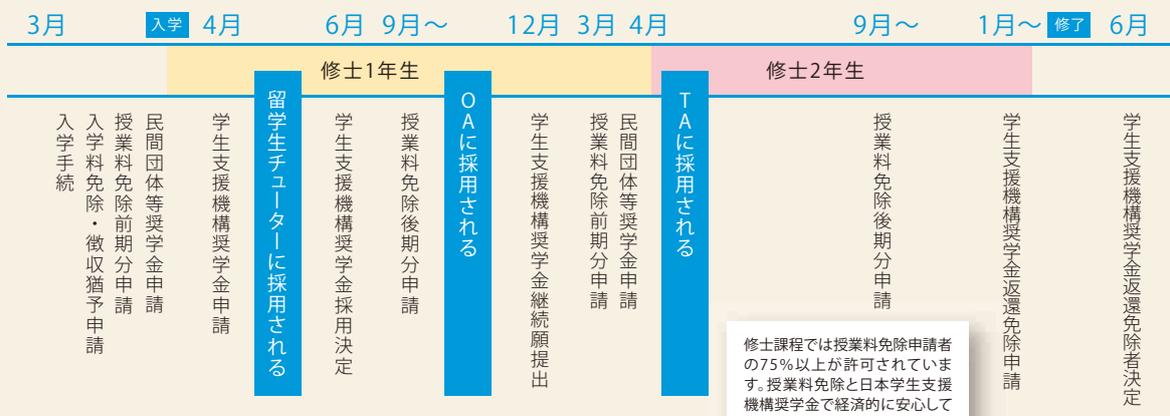
なお本学では、主として学務部で取り扱っていますが、それらのうち大学推薦によるものは事前に一括して申込を受け付けます。詳細は本学ホームページを参照してください。

### TA・RA 関係

教育・研究補助業務を行った大学院生(ティーチングアシスタント(TA)及びリサーチアシスタント(RA))への支給総額は7億円を超えています。(平成25年度実績)

また、オープンキャンパスや進学ガイダンスの開催に係る業務補助等(オフィスアシスタント(OA))に対し、本学在学学生を採用し、謝金を支払っています。

### 修士学生の年間スケジュール(一例)



## 京大 学生生活 白書

(平成25年度より)

### □平均収支金額

1か月の平均収入金額

(単位:千円)

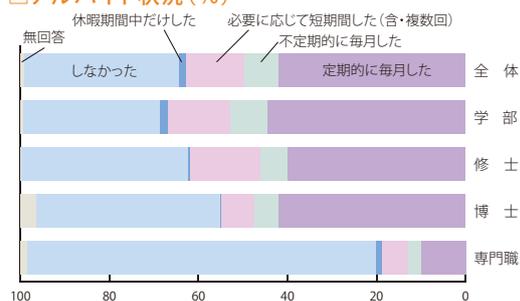
	家族から (除・授業料等の大学納付金分)	奨学金・研究奨励金	アルバイト	その他	収入合計
全体	53.97	32.54	33.58	4.55	124.64
学部	59.68	17.52	21.03	1.27	99.50
修士	58.33	39.29	21.07	1.73	120.42
博士	16.95	91.97	116.03	24.39	249.35
専門職	65.82	39.72	23.28	6.22	135.04

1か月の平均支出金額

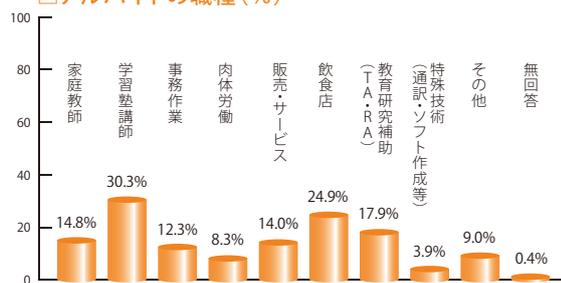
(単位:千円)

	食費 (含・自宅滞学者の外食費等)	住居費 (家賃・水道料・電気料)	衣服・嗜好品・ 日用雑貨	学費 (部費・検定料・教材費)	課外活動・ 教養娯楽費	情報・通信費	医療費 (含・健康保険の場合)	その他	剰余金・預貯金	支出合計
全体	28.05	40.49	10.78	8.90	8.60	4.37	2.11	2.29	19.06	124.64
学部	24.51	35.53	9.26	6.96	7.74	3.37	0.87	0.56	10.70	99.50
修士	28.76	42.32	9.94	8.63	7.50	4.29	1.44	1.04	16.52	120.42
博士	42.44	59.88	19.87	18.24	15.09	9.09	9.22	12.40	63.12	249.35
専門職	34.00	46.70	8.73	10.58	5.89	5.21	1.55	3.12	19.25	135.04

### □アルバイト状況(%)



### □アルバイトの職種(%)



## 保険制度

### 学生教育研究災害傷害保険(学研災)・学研災付帯賠償責任保険(付帯賠償)

学研災は、正課や学校行事中、課外活動中、これらに伴う通学中等の事故により、学生が被った傷害に対して適用される保険であり、学生生活を送るうえで重要な役割を果たします。また、学研災の付帯保険として、上記活動中(一部除く)に学生が法律上の損害賠償責任を負うことで被る、対人・対物の損害を対象とした付帯賠償があります。

なお、本学では入学の際、原則として学研災・付帯賠償に全員が加入することとなっています。保険内容の詳細については、本学ホームページを参照してください。

URL: <http://www.kyoto-u.ac.jp/ja/education-campus/campus/health/saigai.html>

# Supporting 経済生活支援

安心して学問・研究に  
取り組んでいただくために

## 福利厚生

### 京大大学生協同組合

学内のキャンパスには、京大大学生協同組合が運営する食堂、ショップ、カフェレストランなどがあり、京都大学での教育・研究生活を幅広くサポートしています。生協食堂では安全で安心な食材を使用し、栄養バランスのとれた豊富なメニューで、朝食から夕食時間帯までの食生活のサポートを行うとともに、ショップでは専門書、雑誌から文具類、パソコンまで、大学での研究に必要な商品を取り揃え、サービスを提供しています。

特に書籍・雑誌、CD/DVDは生協組合員の特典として定価の10%引で提供するとともに、食堂の利用や、食品・飲料の購入に応じたポイントサービスによる利用還元を行っています。

なお、利用時には生協への加入を行ってください。

加入出資金 20,000円(50口) 脱退時に返還されます

ショップ内組合員センターカウンターで受付けています。  
加入すると大学ICカード(学生証)を使用して、電子マネー・ポイント機能を付加することができます。

学生生活で万一の事故・病気に備えた「学生総合共済」制度があります。学生総合共済は、事故や病気が24時間保障されること、また、一部の例外を除いてあらゆる事故や病気も保障されることなど、学生生活にフィットした保障内容となっています。詳細はホームページ(S-COOP) <http://www.s-coop.net/> を参照してください。



### ■各施設の営業時間(2014年4月現在)

#### 吉田キャンパス

店舗名	主な営業内容	営業時間
時計台生協ショップ	文具、食品、日用品、映画等のチケット 京大オリジナルグッズの販売	10:00～20:00(平日) 11:00～15:00(土曜)
時計台旅行センター	国内・海外旅行、JRチケット、航空券 レンタカー、教習所、引越手配等	10:00～19:00(平日)
※ショップルネ	生協共済加入、給付申請、 書籍、パソコン、ソフトウェア、 住まい紹介、家具、家電、教習所、 レンタカー、クリーニング、スーツ等	10:00～19:00(平日) 11:00～15:00(土曜)
中央食堂	朝・昼・夕食の提供	8:00～21:00(平日)
カンフォーラ	昼・夕食の提供 昼食時間帯の弁当販売	11:00～21:30(平日) 11:00～15:00(土日祝日)
カフェテリアルネ	昼・夕食、ハラルル食、 デザート提供	11:00～22:00(平日) 11:00～19:30(土曜) 11:00～14:00(日曜) (祝日閉店)

これら以外にも吉田南、北部、南部構内にそれぞれ食堂とショップがあります。  
※住まい紹介は、平日11:00～17:00(土日祝閉店)、クリーニングは、平日11:00～18:00(土日祝閉店)です。

#### 宇治キャンパス

店舗名	主な営業内容	営業時間
宇治購買	文具、食品、日用品、パソコン、 書籍、雑誌の販売	10:30～18:00(平日)
宇治食堂	昼・夕食の提供	11:30～14:30(平日) 17:30～20:00(土曜) 11:30～14:00(日曜)

これら以外にも「宇治おはくプラザ」にレストランやコンビニがあります。

#### 桂キャンパス

店舗名	主な営業内容	営業時間
生協ショップ (Bクラスター)	文具、食品、日用品、パソコン、 書籍、雑誌の販売	10:00～18:00(平日)
クラスターAショップ	食品、日用品の販売	10:00～20:00(平日)
カフェテリアセレネ	朝・昼・夕食、ドリンクの提供	11:00～21:00(平日) 11:00～14:00(土曜)

これら以外にもカフェ、カフェレストラン(平日のみ)やペーカリーショップ(土日祝対応)があります。  
大学の長期休暇中は短縮営業となります。詳しくは京大大学生協機関誌「らいふすてーじ」や店頭ポスター等でお知らせします。

## 学生総合支援センター

### カウンセリングルーム

京都大学には、学生生活を送る上で出会う様々な悩みや問題を相談できる学内相談機関として、学生総合支援センターカウンセリングルームが設置されています。研究室での人間関係の悩み、研究上のあせりやストレスの悩み、進路の悩み、恋愛にまつわる悩み、家族にまつわる悩み、ハラスメントに関する悩みなど、大学院生として学生生活を送る中でさまざまな悩みに出会うことがあるでしょう。中には自分だけでは抱えきれないような問題もあるかもしれません。友人や家族にさえ話しにくいと思う内容の場合もあるでしょう。カウンセリングルームでは、心理学(臨床心理学・相談心理学・青年心理学など)を専門とするスタッフが個別に面接し、相談に応じています。  
(カウンセリングルームの詳細については、ホームページをご覧ください。)

<http://www.gssc.kyoto-u.ac.jp/counsel/>

### キャリアサポートルームは26ページに掲載

### 障害学生支援ルーム

京都大学では、障害や慢性的な疾病などによる修学上の様々な相談に応じるため、学生総合支援センター障害学生支援ルームを設置しています。支援の内容としては、修学・研究上で必要となる支援(情報保障、移動介助等)、また、支援物品の貸し出し、施設・設備の整備などです。

また、支援ルーム内の交流スペースは学生に開放しており、開室時間内で利用することができます。  
(月～金曜日※祝日除く  
9:00～17:00)



### フリーアクセスマップ

京都大学フリーアクセスマップは、主に車椅子利用者などの移動困難者の目線で作成した新しい形のバリアフリーマップです。ご利用の方は障害学生支援ルームまでご連絡ください。

## 在学生の学び方

文学研究科 文献文化学専攻  
博士後期課程 1年

## 鎌田 智恵さん

私は文学研究科で国文学を専攻しています。ここでは私自身の生活から、大学院で学ぶことについて思うことを書かせていただきます。

大学院では、学生の主体性がとても重んじられます。私がこのことを実感するポイントは二つあります。まず一つ目は、時間の使い方です。大学院に入ると、授業などで拘束される時間が少なくなり、自分の時間が増えます。よって、その時間をいかに有意義に使えるかが、研究生活を送る上で重要になります。また二つ目は、研究のテーマと方法です。私が所属する研究室では、教員は「最低限」の指導しか行わないことになっています。これはもちろん指導を行わないという意味ではなく、学生が求めれば必要な指導を受けることはできます。但しそれは研究の成果や過程を見ていただく機会であって、白紙の状態からお膳立てしてもらえということではありません。研究テーマを見つけ、それに取り組んでいく過程で、私たち自身が主体的であることが求められています。

資料の豊富な図書館や質の高い教授陣など、良い研究ができる環境は整っています。このように恵まれた環境の中で、私たちの研究生活が実りあるものとなるよう、お互いに頑張りましょう。



## Student 01

## 在学生の学び方

## Student 02

生命科学研究科 統合生命科学専攻  
修士課程 1年

## 渡辺 佳織さん



私は現在、ショウジョウバエ近縁種を用いた食性の比較ゲノミクスをテーマに研究に取り組んでいます。大学院では研究室における活動が中心で、研究テーマに沿ってどのような実験を行うのか、自分で計画し着実に遂行していくことが必要とされます。自主性を求められることは時に厳しく感じられますが、積極的に実験したいという意欲を反映できる、とても大事なステップだと思います。また、進捗状況について研究室内で議論や発表する機会もあり、研究方針や実験計画について先生や先輩方から意見を頂けるので心強いです。

研究室での充実した生活に加え、生命科学研究科には理・農・薬など様々なバックグラウンドを持つ方々が集まっているという特色があります。そのため、他研究室との交流も盛んで、特に研究科全体でのセミナーやシンポジウムでは、多様な視点から見た熱い議論が交わされていて、非常に勉強になります。

こういった研究科内での行事や学会などで、自分の研究成果を発表できることを一つの大きな目標として、日々の研究に励んでいます。興味を持ったテーマについて、とことん追求しつつ、絶えず新しい刺激を与えてくれる仲間と一人でも多く巡り会いたいです。

# Supporting 国際交流支援

京都大学から  
世界のキャンパスへ

## 国際交流への取り組み

国際社会において、リーダーとして世界を牽引する異文化理解力、英語での交渉力、専門活用力を併せ持つ国際力豊かな人材を育成し輩出していく責任があり、世界水準の教育を提供する必要があります。この実現のため、新たな国際戦略を平成25年度に制定しました。

この国際戦略を基に、海外大学との学術・学生交流協定、国際的なネットワーク等の活動を通じた教育連携を進め質の保証を行いつつ、学生の海外派遣制度充実、留学生の受け入れ体制強化、留学生と日本人学生がともに学べる英語による講義の増加等の多様なプログラムを組成することにより、国際的なリーダーに必要な「国際性・課題解決力」を涵養します。

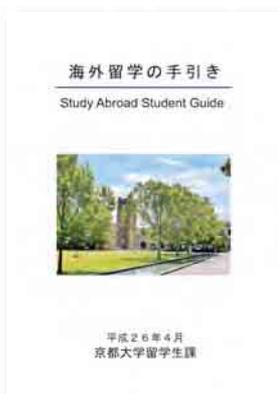
## 海外留学支援

### 派遣留学(交換留学)制度

本学の国際交流を促進するために、海外の大学と締結している学生交流協定に基づいて、互いに学生を留学させあうシステムのことで、京都大学に在籍しつつ、1年以内の1学期又は複数学期のあいだ、学位取得を目的としない留学をし、協定校での教育を受けて単位修得し、又は研究指導を受けるものです。この制度では、留学中も京都大学の授業料を納める必要がありますが、派遣先での授業料は免除されます。留学先での在学期間も京都大学における修業年限に通算されるので、所定修業年限内で卒業・修了できる場合もあります。また、協定校で修得した単位が京都大学での修得単位と認められる単位認定制度もあります。

学生交流協定には、大学同士で締結される大学間学生交流協定のほか、部局同士で締結される部局間学生交流協定があります。

『海外留学の手引き』



[http://www.kyoto-u.ac.jp/ja/about/public/issue/ryugaku\\_tebiki/](http://www.kyoto-u.ac.jp/ja/about/public/issue/ryugaku_tebiki/)

### 派遣留学(交換留学)するための奨学金

大学間学生交流協定校への派遣留学生を対象とした奨学金として、次の奨学金・助成金制度があり、書類審査を経て支給されます。

- ①独立行政法人 日本学生支援機構(JASSO)の海外留学支援制度(短期派遣)  
奨学金 月額 60,000円～100,000円(派遣先による)
- ②京都大学教育研究振興財団からの助成を受けて、京都大学が実施する京都大学「留学派遣」渡航費の一部助成  
上記以外にもJASSOが毎年発行する「海外留学奨学金パンフレット」に様々な奨学金が紹介されています。

また、京都大学のホームページでも大学に情報が届く日本人等の学生向け奨学金を掲載しています。

### 留学部門担当教員による個別相談

国際交流推進機構では「留学のススメ」をひとつのきっかけとして、更に具体的な留学先大学や手段に関する疑問等にきめ細やかなアドバイスをし、海外留学の実現に向けたステップアップのためのサポートを行っています。

### 世界へ羽ばたく「ジョン万プログラム」学生派遣事業

京都大学の国際化に資する目標の一環として、大学が主体となって次世代のグローバル人材を積極的に養成する全学的プログラム「ジョン万プログラム」を展開しています。

学生派遣に関しては、2013年度より始動し、主に大学院生を海外の世界トップ大学に派遣することにより、グローバルに活躍することができる若手リーダーの育成を目指しています。これらの学生派遣プログラムにかかる授業料・渡航費・滞在費については、派遣プログラムの区分内容に応じて大学から奨学支援を行っています。

大学院学生の派遣には、数か月間の「短期研究型」および1年間の「学位取得型」のプログラムがあり、2014年度は、昨年度の英国ケンブリッジ大学及びオックスフォード大学への派遣に加え、米国ハーバード大学への大学院生の派遣も行いました。今後さらに世界トップ大学へ規模を拡大し、より多くの大学院生にグローバル派遣への機会を提供する予定です。



### 「留学のススメ」の開催

海外留学に関心をもつ本学学生を対象に、4月の新入生説明会、5～7月のInternational Week(交換留学、大学院留学等)、アジア留学及び海外渡航安全説明会、また協定校紹介など、年間を通して、より具体的なイメージや計画を持てる機会として留学説明会「留学のススメ」を開催しています。



留学のススメ「大学院留学」講演の様子

### 長期海外留学支援の実施(日本学生支援機構への申請)

独立行政法人日本学生支援機構の「海外留学支援制度(大学院学位取得型)」に申請を行い、海外留学に必要な授業料や奨学金を確保することによって、本学の学生の外国の大学院での学位取得の一層の推進を目指しています。

これにより、国際社会への貢献等に資する人材の養成及び大学の国際競争力の強化等の一層の促進が期待されます。

## 授業料等を不徴収とする 大学間学生交流協定校一覧

( )内数字は本学から1年間に派遣可能な学生数(平成26年3月31日現在)

### 欧州(NIS 諸国を含む)

- 英国  
United Kingdom of Great Britain and Northern Ireland  
シェフィールド大学(2)  
バーミンガム大学(2)  
ニューキャッスル大学(2)  
エジンバラ大学(2)  
マンチェスター大学(3)  
ブリストル大学(2)  
サウサンプトン大学(2)
- オーストリア共和国  
Republic of Austria  
ウィーン大学(2)
- オランダ王国  
Kingdom of the Netherlands  
ライデン大学(2)  
ユトレヒト大学(3)
- スイス連邦  
Swiss Confederation  
ローザンヌ大学(2)
- スウェーデン王国  
Kingdom of Sweden  
ウプサラ大学(2)  
ストックホルム大学(2)  
ストックホルム王立工科大学(2)
- ドイツ連邦共和国  
Federal Republic of Germany  
ベルリン自由大学(2)  
ミュンヘン大学(2)  
ボン大学(3)  
ハイデルベルク大学(5)  
フンボルト大学(2)  
ミュンヘン工科大学(3)  
ゲッティンゲン大学(2)  
カールスルーエ工科大学(3)
- フィンランド共和国  
Republic of Finland  
ヘルシンキ大学(2)
- フランス共和国  
French Republic  
ストラスブール大学(5)  
グルノーブル大学連合(5)  
パリ政治学院(2)  
エコール・ノルマル・シュペリウール(1)
- ベルギー王国  
Kingdom of Belgium  
ルーバン・カトリック大学(2)

### アジア

- シンガポール共和国 Republic of Singapore  
シンガポール国立大学(2)
- タイ王国 Kingdom of Thailand  
カセサート大学(2)  
タマサート大学(2)  
チュラロンコン大学(2)
- 大韓民国 Republic of Korea  
慶北大学校(3)  
ソウル大学校(3)  
延世大学校(2)  
高麗大学校(2)  
浦項工科大学(2)
- 台湾 Taiwan  
国立台湾大学(4)  
国立清華大学(2)
- 中華人民共和国 People's Republic of China  
武漢大学(2)  
北京大学(5)  
清華大学(2)  
復旦大学(2)  
浙江大學(2)  
上海交通大学(2)  
西安交通大学(2)  
中国科学技術大学(2)  
香港科技大学(2)  
南京大学(2)  
香港中文大学(2)  
香港大学(2)
- ベトナム社会主義共和国 Socialist Republic of Viet Nam  
ベトナム国家大学ハノイ校(5)

### 北米

- アメリカ合衆国 United States of America  
ジョージワシントン大学(2)  
ハワイ大学(2)  
ペンシルベニア大学(2)  
ワシントン大学(2)  
ウィスコンシン大学マディソン(2)
- カナダ Canada  
トロント大学(3)  
ケベック州大学学長協議会(5)  
ウオーターラー大学(6)

### 大洋州

- オーストラリア連邦 Commonwealth of Australia  
メルボルン大学(3)  
ニューサウスウェールズ大学(2)  
シドニー大学(2)  
オーストラリア国立大学(2)  
クイーンズランド大学(2)
- ニュージーランド New Zealand  
オークランド大学(2)

### 中南米

- ブラジル連邦共和国 Federative Republic of Brazil  
サンパウロ大学(2)
- メキシコ合衆国 United Mexican States  
グアダハララ大学(2)

### 中東

- イスラエル国 State of Israel  
テルアビブ大学(2)
- トルコ共和国 Republic of Turkey  
コッチ大学(2)

### 「きずな」にて(留学関係資料提供、国際交流等)

留学生ラウンジ「きずな」では、海外留学のための情報資料を常備して提供しつつ、定期的に様々な交流イベントを開催して、日本人学生と外国人留学生の交流の機会を設けています。

これにより、双方の国の文化や生活様式などの紹介、友人作り、語学力の研鑽など、学生自身が主体的に利用できる場となっています。



留学生ラウンジ「きずな」外観

### 危機管理体制等

本学における国際交流の進展による海外留学や研究渡航、国際シンポジウム参加などの機会が増加することに伴い、本学国際交流推進機構が全学的に部局と連携しながら、その国の安全情報入手に努め、治安情勢を勘案した指針等により対応しています。

学生の海外渡航が増加する夏季休業期間前には、海外渡航安全説明会を開催しています。

その他、「国際交流安全ガイド(渡航編)」を発刊して、渡航前の準備段階から海外滞在中、帰国までの間に想定されるトラブルへの心構えや対処法等を提供するなど、未然に事故や病気、不測のトラブル等を回避できるように努めています。



## KCJS、SJC

### KCJS / SJC 英語講義の受講

KCJS/SJC 英語講義の受講制度は、米国の高等教育機関が京都で提供する英語講義を、米国大学生と共に受講する制度です。毎学期、募集・選考が行われ、各クラスに2〜3名の京都大学生が講義に参加します。京都大学受講生にも米国の学生と同様の課題が課せら

れ、英文レポートや英語での討論が求められます。本講義には京都大学から単位が付与される場合があります。京都に居ながら、米国のトップスクールへ留学したのと同じような環境を経験できる制度です。

### KCJS (Kyoto Consortium for Japanese Studies、京都アメリカ大学コンソーシアム)

KCJSは1989年に京都市内に設立され、日本研究を志す米国の大学生が毎年約40〜50名来日して、日本に関する講義を受けています。参加大学は、ボストン大学、ブラウン大学、コロンビア大学、コーネル大学、シカゴ大学、エモリー大学、ハーバード大学、ミシガ

ン大学、ペンシルベニア大学、プリンストン大学、スタンフォード大学、ワシントン大学(セントルイス校)、イエール大学、バージニア大学です。KCJSプログラムの参加学生は2年以上の日本語学習経験があり、日本語や日本文化に深い関心を持っています。

### SJC (Stanford Japan Center、スタンフォード日本センター)

SJCは米国スタンフォード大学が運営する機関として1990年に誕生しました。日本との関わりを持つ上で必要となる知識・資質を身につけたアメリカの若い世代の育成を目的とした日本留学プログラムを提供しています。参加学生の専攻は工学、自然科学、経済学、政治

学、国際関係学等多岐にわたっていますが、技術系専攻の学生が多いのが特徴です。日本語教育にも力を入れており、来日前にはスタンフォード大学本校において日本語授業の履修が義務づけられている他、来日後は毎週6時間の日本語の授業が必修科目となっています。

# Supporting 国際交流支援

京都大学から  
世界のキャンパスへ

## 国際交流への取り組み

### 留学生支援

平成26年5月1日現在、本学では97の国・地域から、1700名を超える留学生を受け入れています。健康で快適な留學生生活を送れるように、来日後のオリエンテーションやガイダンスに始まり、各種奨学金等への申請・交付支援、宿舍紹介(国際交流サービスオフィス)、就職活動支援(キャリアサポートルーム)など、日々留學生を支援しています。

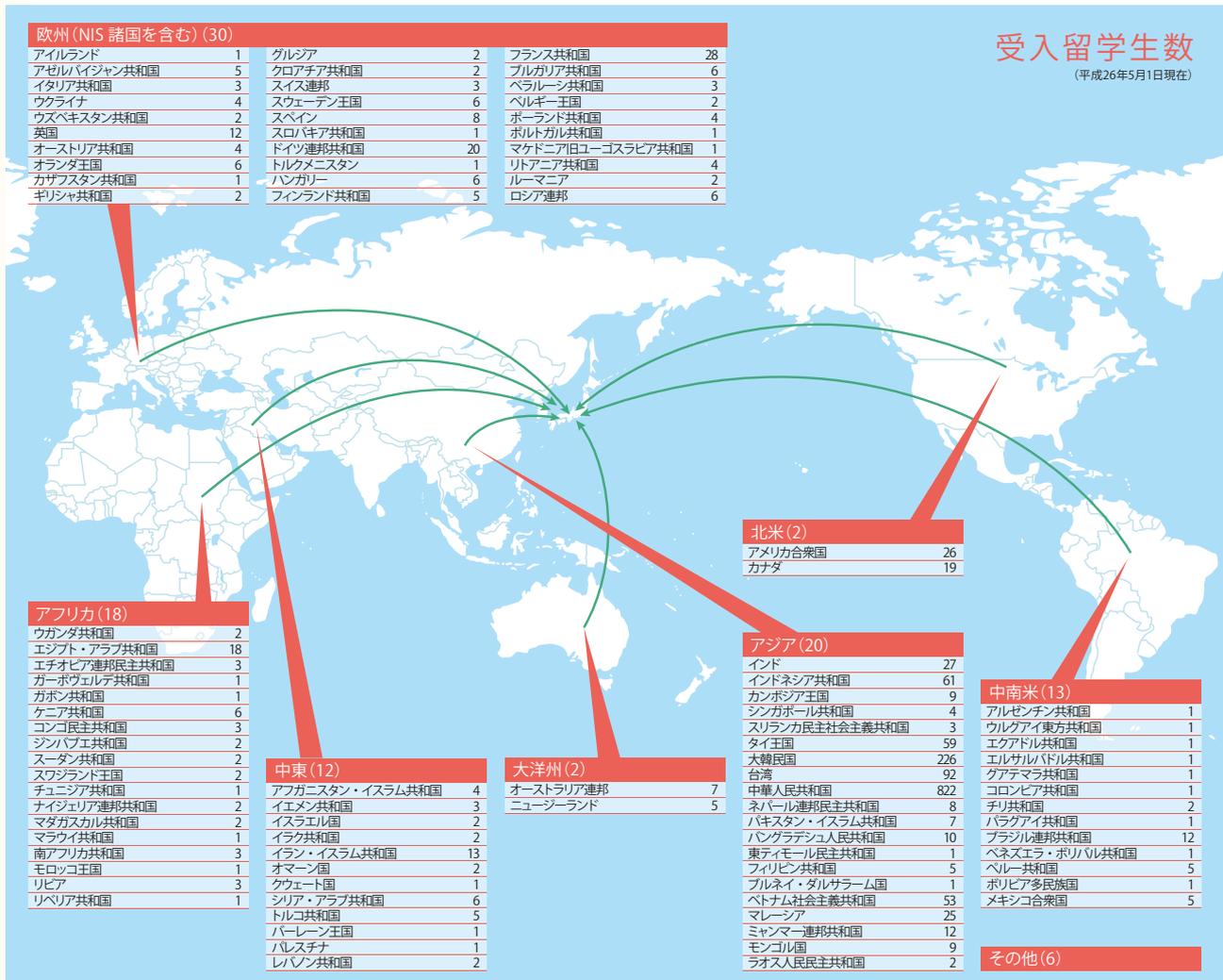
加えて、国際交流センター・留學生ラウンジ「きずな」では、留學生や外国人研究者の相談窓口の役割を果たすほか、日本語授業の提供、日本語教材やDVD等の貸出、文化交流イベント等を行っています。

また、従来から受け入れていた学位取得を目指す留學生、学生交流協定に基づく交換留學制度による6ヵ月・1年の留學生だけでなく、短期留學交流の促進を目的として平成22年度に新設された、「短期交流留學生制度」により、3ヵ月以内の短期留學生も受け入れています。これら諸策により、海外から優秀な留學生を積極的に受け入れると同時に、日本人学生の国際化を図っています。



#### 関係リンク

- 京都大学に在籍する留學生の方へ  
<http://www.kyoto-u.ac.jp/ja/international/students2/>
- 国際交流センター  
<http://www.ryugaku.kyoto-u.ac.jp/>
- 国際交流サービスオフィス  
<http://www.opir.kyoto-u.ac.jp/kuiso/>
- キャリアサポートルーム  
<http://www.gssc.kyoto-u.ac.jp/career/>



(注1) 総数1,779名中、留學ビザ留學生は1,732名  
(注2) 「その他」6名は日本国籍保持者

## 留学経験者の声

農学研究科農学専攻雑草学分野

## 尾崎 由布子さん

留学期間：2013年9月から2014年7月まで

留学先：ワシントン大学（アメリカ合衆国）

私は、深くかかわりあいながらも対立することが多い農業、人、自然環境の関係性に関心を持っており、農業的観点だけでなく、環境からのアプローチについてもっと知りたいという考えから、ワシントン大学の環境園芸コースを留学先として選びました。環境園芸は、植生の利用、管理を通じて損傷した生態系を回復させることを目的としています。私はコースワークを中心に、公園などで植生のデザインおよび施工をする環境復元プロジェクトなどの実習を履修しました。いくつものグループワークをこなす中で、さまざまな専門分野、国籍、年齢の人々が協働してひとつのものを作り上げる面白さと難しさを知り、情報共有、役割分担の明確化が不可欠であることを学びました。シアトルで先進的な環境復元の現場に触れたことで、この分野により深く関わってみたいと思うようになりました。残念ながら、時間的制約のために実施後のメンテナンスや経過観察はできませんでしたが、またプロジェクト地を訪れて、その後を見たいと考えています。

一年間という期間は長いようであつという間でしたが、まったく新しい環境や人間関係の中で過ごすという体験は、自分を見つめなおし、今後何をしたいのかを考えるよい機会になりました。最初の一学期間は勝手がわからず、相談する人も少なかったので辛いときもありましたし、プロジェクトが思い通りに進まないといった問題もありましたが、それらを乗り越えたことで、少し自分に対して自信が持てるように

## Voice 01



右が筆者

になりました。

留学は新しいことに挑戦するチャンスでもあります。例えば、もともと私はあまり運動が得意ではないのですが、アメリカではスポーツが盛んだつたので、気づけばサッカーやヨガに参加したり、サイクリングで何時間も走ったりするようになりました。スポーツに限らず、アウトドア、映画、ボードゲーム、料理などの趣味も、言語に頼らないコミュニケーション手段として、交友関係を広げ、文化を理解する良いきっかけになるでしょう。

## 留学経験者の声

経営管理教育部経営管理専攻

## 井手迫 亮太さん

留学期間：2013年9月から2014年6月まで

留学先：コッチ大学（トルコ共和国）

私はあまり計画的に、高い志を持って留学に望んだわけでは無かったので、偉そうな事をいうことは出来ませんが何かしらの手助けになればと思い、留学した理由と思ったことを書ければと思います。

私の留学した理由は、「外国人になる」経験をしておいた方が、少しは柔軟な人間になれるかなと思ったからです。留学中にも色々和直面した問題だったのですが、色々和少数派は大変です。それを経験できたというだけでも留学は成功だったのかなと思います。

地理的に欧州・中東の学生が大半をしめ、その他地域からの学生は少数です。人間はコミュニティを作るのが好きなので、少数派だと何でも自分で切り開いていかないといかないと、意外とそれは大変です。それでも、そういう状況下で自分がどう反応するかを観察するのは自分のことを理解するのに役に立ちます。何かかんだとうまくいっていた日本での生活で誤魔化せてた部分が通用しなくなります。自分が弱いところも見つかるし、まあそんなもんかと思ったり、結構重要な発見だったりもします。

少しネガティブな事を書いてしまいましたが、大変なこともあるよという事を理解してしまえば概して留学は楽しいです。留学生というものは性質上、優しく、面白い人が多く、一緒に飲んで騒げば楽しいです。お酒の値段に文句を言ったり、酔った時の失敗の笑い話をしたり、やっていることは一緒です。それでも出身・文化・言語が違えば価値観も違う

## Voice 02



し、誰でも自分の知らない世界を知っています。

英語に関していうと、喋れたほうがいいですが、いいヤツ・面白いやつであることのほうが重要です。ただリスニング力はある程度向上させていたほうがいいでしょう。疲れます。

何にしても、誰に何と言われようと思いたいなら行けばいいし、行かないでいいかと思えば行かないでいいと思います。少なくとも私自身は留学の機会を下さった方々にとても感謝しています。

# Supporting 就職支援

社会での活躍をめざして

## 学生の希望に沿ったキャリアデザインを支援

大学と社会との関わりが深化・多様化する中で、高度な専門性を有する人材が、大学等の研究機関以外の多様な方向へ進み、その能力を活用することが期待されています。

### 学生総合支援センターキャリアサポートルームの活動について ▶

キャリアサポートルームは、学生の就職活動・キャリア形成を支援することを目的として、就職活動に役立つ各種資料・情報を提供するとともに、キャリア教育としての各種セミナーや講座、インターンシップや就職活動のためのガイダンス、合同企業説明会、公務員志望者のためのガイダンスや説明会などを開催しています。また、就職活動に関わる様々な問題や悩み事に窓口で対応するとともに、個別相談のための就職相談室を開設しています。

- キャリアサポートルームのホームページ  
<http://www.gssc.kyoto-u.ac.jp/career/>
- 求人票の検索システム  
<http://career.gakusei.kyoto-u.ac.jp/>

#### [場所・利用時間(平日のみ)]

- 吉田キャンパス 旧石油化学教室本館 1 階(平日の月～金)  
午前 9 時～午後 5 時
- 桂サテライト 船井交流センター 3 階(平日の月～金)  
午前 11 時～午後 1 時、午後 1 時 45 分～午後 5 時
- 宇治サテライト 生協会館 2 階(平日の月・水・木のみ開室)  
午前 11 時～午後 1 時、午後 1 時 45 分～午後 5 時

※ ただし、ガイダンス実施等のため臨時に休室することがあります。

#### キャリアサポートルームの主催行事と参加者数

平成 25 年度実施イベント	人数
就職ガイダンス(全 5 回)	855
業界研究セミナー(全 4 回)	744
キャリアデザイン講座(全 5 回)	388
合同企業説明会(全 7 回)	2,548
公務員関係ガイダンス等(全 14 回)	549
就職セミナー(全 21 回)	2,161
ホームカミングディ(OB・OG 交流会)	107
インターンシップガイダンス	350
内定者による相談会(全 6 回)	43
SPI 模擬テスト等(全 4 回)	369
就職相談室(225 回)	1,329
世界に飛躍する京大生のためのキャリア形成(全 3 回)	167
博士・ポスドク対象セミナー(全 3 回)	187
合計	9,797

### 大学院生に対するキャリア支援について ▶

京都大学では修士修了で就職をする方が学部卒で就職をする方の約 1.6 倍になります。特に近年は、専門性の高い大学院教育を受けた方への注目が強くなってきていますが、同時に社会性やコミュニケーション能力も必要とされているため、広い視野と豊かな人間力を身につけることが求められています。

このためキャリアサポートルームでは、大学院生を対象に、就職活動支援のみならず、より豊かな人間力を養成するためにさまざまなセミナーを開催しています。平成 26 年度は、「大学院生のための就職ガイダンス」などのプログラムを実施し、大学院生ならではの強みを認識し、将来にわたって人生の設計が図れるようにサポートをしています。

### 博士・ポスドクの就職活動支援について ▶

京都大学では、研究者を目指して博士課程に進学する方が多数います。博士課程で高度な専門性を身に付けた研究人材は、大学や研究機関だけでなく、社会の様々な場面で求められています。京都大学キャリアサポートルームでは博士課程の学生やポスドクを対象に企業とのマッチングや個別カウンセリング、合同企業説明会を開催し、若手研究人材の多様なキャリア選択を支援しています。

- 京都大学若手研究者キャリアパス多様化促進事業(KUCP)  
<https://kucp.gakusei.kyoto-u.ac.jp/kucp/about>

### 学びコーディネーターについて ▶

本学では、高大連携事業の一環として「学びコーディネーター事業」を実施しています。これは、本学の大学院生等を高等学校に派遣する「出前授業」、または本学を訪れる高校生に対する「オープン授業」という形で、高校生の学習内容に対する関心と理解を高め、主体的学びと志を涵養することを目指しています。



大学院生は、自らの研究内容を高校生にとってわかりやすく、かつ高校生が興味を持てるような教材にまとめ、授業をします。この教育現場での体験は、自身の研究内容をわかりやすく伝える貴重な教育経験の機会となっています。大学院生にとっては、直接授業に対する反応が返ってくる面白さと難しさを味わい、キャリア形成に役立つものとなっています。

### 大学院生のための教育実践講座「大学でどう教えるか」▶

将来、大学教育に携わることを希望している本学の大学院生(PD、研修員などを含む)を対象とした「大学院生のための教育実践講座—大学でどう教えるか—」は、ファカルティ(大学教員)へと自己形成していくきっかけとなる場を提供するもので、Basic(初参加者向)とAdvanced(本講座または大学授業の経験者向)の2つの講座を設けています。毎回、受講生からは「大学教育を考える視点が広がった」「院生同士のネットワークができた」と好評を得ており、実践講座の各プログラムの全てに参加した院生には、総長の修了証が授与され、就職に向けての1ステップになります。



先輩の声 01



工学研究科 機械理工学専攻  
二村 有哉さん  
東海旅客鉄道株式会社 (JR 東海)

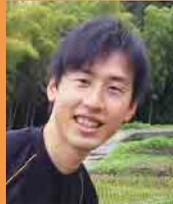
私は、2006年に工学研究科の機械理工学専攻に入学し、材料強度に関する研究を2年間行いました。研究室では、実験の適切な進め方、実験結果に対する論理的な考察の書き方、説得力のある発表資料の作り方など、研究の一連のプロセスを先生にご教示いただきました。ときには、研究室の先輩や同期達と議論することで、新たな実験手法を考案したこともあります。何事にもチャレンジできる自由な雰囲気恵まれ、多くの失敗も経験しましたが、多くの成功も経験できました。研究室で過ごした2年間で工学の面白さに触れ、将来は技術的な仕事に就いて、社会に貢献したいという気持ちが一層強くなりました。



卒業後、私は東海旅客鉄道株式会社(JR 東海)に入社し、鉄道車両技術に関する業務に携わっています。当社では現在、2027年に予定している東京-名古屋間の中央新幹線の開業に向けて、超電導ニアシステムの技術のブラッシュアップを進めています。

思い返せば、大学での基礎研究を進めるプロセスと、民間企業での技術的業務を進めるプロセスには共通点がいくつもあり、研究室での経験が非常に役立っていることを実感しています。皆様も、京都大学で学び、その経験が糧となって、ご自身の思い描く将来の夢を実現されることを願っております。

先輩の声 02



経済学研究科 経済動態分析専攻  
池島 祥文さん  
横浜国立大学大学院国際社会科学研究院准教授

私は2001年に京都大学経済学部に入学生ののち、大学院経済学研究科に進学し、2011年4月から横浜国立大学に着任しました。京都大学は「自由な学風」が特徴とされていますが、特に大学院では「自由」「自立/自律」と表裏一体です。

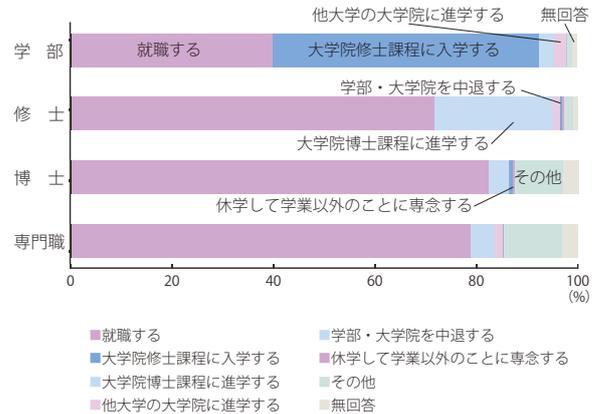
研究面では、研究テーマの設定やその進め方などが自由であればあるほど、それらを自分自身でマネジメントする必要があります。とはいえ、まだ大学院生の時に全てを自分でできるわけがありません。そこで指導教員をはじめとした先生方や大学院・研究室の仲間、さらには、職員の方々との「コミュニケーション」が重要になるわけです。研究は自分ひとりではできず、まわりのサポートがあってこそなのです。

自立した姿勢は研究者にとって決定的に不可欠ですが、こうした姿勢を培うには京大のように「自由な研究教育環境」が醸成されていないと難しいでしょう。与えられた研究環境や研究課題をただ受け入れて研究を進めるだけでは、独創的な研究成果はあげられません。その点、京都大学大学院では、自らに必要な研究環境を生み出していく能力も身につけることができます。独創的な研究課題、さらには、それらを支える研究環境をつくりだせる自立した研究者を目指して、ぜひ、京大に飛び込んでみてください！

京都大学学生生活白書

(平成25年度より)

京大生の進路希望



先輩の声 03



薬学研究科 創薬科学専攻  
佐藤 康彦さん  
塩野義製薬株式会社  
フロンティア医薬研究所 研究員

私は2008年3月に薬学研究科大学院博士後期課程を修了し、同年4月より塩野義製薬株式会社の研究員として創薬シーズの探索を行っております。大学院では5年間タンパク質のX線結晶構造解析一筋に研究に没頭する日々を過ごしました。成果が挙がらず苦しい日々が続くこともありましたが、このような日々の支えになったものは、高いハードルに共に取り組んだ同僚、諸先輩方、そして粘り強い指導を賜った先生方の存在でした。京都大学には全国から優れた研究者あるいは学生が集まり、素晴らしい人材の宝庫を形成しています。多くのことを吸収できる年齢において多彩な才能の中で切磋琢磨できることは他を知り自己を高めるために最適な機会であると言えます。とりわけ、超一流と呼ばれる研究者や、飛び抜けた才能を有する学生との交流はかけがえの無い体験になると思います。

大学院は一般的に修士2年、博士3年と時間が限定されています。研究は時間を要するものと申しつつも、この決められた時間のなかで自分自身の達成すべき目標を設定し、計画を立てて遂行できる能力は社会生活を送る上でも必須の力です。卒業後の自分のあるべき姿を描き、そのために必要なことを自ら求めて行動し、教えを乞う、こういったことに京都大学は確実に応える環境を整えていると思います。皆さんも京都大学を最大限に活用し、大きく社会に羽ばたいていくきっかけにして頂ければと思います。

# 京都大学大学院の魅力

教育担当理事として京都大学の舵取りに当たられている北野正雄理事に  
京都大学大学院の魅力と進学を希望される方々へのメッセージをいただきました。



## 大学院で学ぶということ

**Q** 学部（学士課程）と大学院（修士課程・博士課程）では、どのような点に違いがあるのでしょうか。また、大学院で学ぶことの意義についてお聞かせください。

**A** 大学院では、学部での専門的な学修を土台として、さらに高度な知識・スキルを身につけるとともに、新たな知の創造に向けて研究に取り組むこととなります。研究活動には幅広い体系的な知識の理解とそれを展開する力、創造性と柔軟な思考、これらの総合力としての問題解決能力が求められます。同時に、自ら問題を見出して課題を設定し解決する能力が求められます。このような課題設定・問題解決能力は、大学等の研究者に限らず企業や国・自治体等の中核をなす人材にも強く求められています。

「京都大学大学院案内 2016」には、在学生はもちろん、大学や企業等様々な分野で活躍する卒業生からのメッセージを掲載していますので、目を通してみてください。

## 京都大学大学院の魅力

**Q** 国内外の数多ある大学院の中で、京都大学大学院の強みとはどのような点にあるのでしょうか。

**A** 第一の強みは世界最高水準の研究者が集う教育・研究機関であり、約 3,900 名以上の教員、研究員が在籍し、世界各国から外国人研究者を多数受け入れていることです。世界トップレベルの研究者も多数来学し、教員や大学院生と熱心な議論を交わしています。

このような環境にあって、本学の大学院生は国内外の研究者が集う最先端の研究現場で学び、研究チームの一員として成長していきます。2009 年度からは、大学院生が広い視野を持って新しい領域を開拓・創造できるよう、研究科横断型大学院教育を開始しました。大学院生同士の意見交換を通じて研究科を超えた情報交換や連携に繋がることを期待しています。

第2に、本学には様々な分野における国内最大規模の教育研究施設が存在します。大学の附置研究所やセンターは、関連する研究科の協力講座として大学院教育を行っています。また、各研究科の附属研究施設や海外交流拠点が国内外に設置されており、京都大学における多彩な研究活動を支えています。

3 点目は財政面の体力です。高等教育への財政支出が削減される昨今にあって、文部科学省の「スーパーグローバル大学創成支援」、「博士課程教育リーディングプログラム」をはじめ数多くの事業に採択され、充実した教育・研究サービスを行っています。大学院生に対する経済的支援としては、TA・RA への採用や京都大学独自の授業料免除枠拡大による経済生活支援はもちろん、各研究科・専攻等においては学会発表旅費等の研究経費の支援が行われています。

## 京都大学の将来展望

**Q** 近年の高等教育への公的資金投入の縮小や博士課程への進学率の低下などの厳しい事態が生じるなか、京都大学が今後も魅力を保ち続けるための戦略、将来展望についてお聞かせください。

**A** 京都大学は、自由の学風のもと「対話を根幹とした自学・自習」の精神を掲げ、常に研究・教育の自主性・自発性を重んじてきました。各分野の独創的な研究により、ノーベル賞やフィールズ賞受賞者をはじめとした世界に誇る研究者を多数輩出してきていますが、その礎は学部、大学院における教育にあります。

本学では、さらなる飛躍を遂げられるよう、新たな教育支援、学生支援、国際交流支援の充実に努めています。とりわけ国際化については、国際的に活躍できる高度な人材、真の国際人の養成を目指して、本学学生を国際社会へ送り出す環境整備、例えば「留学のスズメ」と題した説明会による情報提供や各種交流プログラムの実施などの様々な取組を進めています。また、「スーパーグローバル大学創成支援」の支援を受けて、世界のトップ大学との国際共同教育プログラムを開発し、交流を強化しています。

京都大学大学院では、このように充実した学修・研究環境を整えて皆さんをお待ちしています。

# 京都大学 大学院

京都大学大学院の学生は次世代を担う研究者・研究職あるいは高度な知識と技能を持った実務者を養成する課程で、学部教育よりもさらに専門的な知識を身につけ、自分自身で研究を行う能力や専門的な実務能力を日々養っています。入学してくる学生は、学部と関連した大学院へ進学することが一般的ですが、異なる分野の大学院へ入学する学生も少なくありません。

例えば本学の学部を卒業した学生がそのまま上位の研究科に進学する場合もあれば、研究分野によって独立研究科や実務家を目指して専門職大学院を選ぶ場合もあります。また大学院には他大学からの学生や社会人、留学生等様々な教育経験を持つ学生も数多く入学してきます。京都大学ではこのような多種多様な経験・経歴を持つ学生を受け入れることのできる充実した大学院教育を提供しています。

## 学部を持つ大学院

京都大学には10の学士課程（学部）があり、それぞれが大学院を備えています。

大学院重点化が行われた現在は、大学院が主たる組織であり、学部教育も提供しています。学部とつながる大学院は、総合人間学部と統合した人間・環境学研究科、文学研究科、教育学研究科、法学研究科、経済学研究科、理学研究科、医学研究科、薬学研究科、工学研究科、農学研究科です。

それぞれが、学士課程（学部）の教育を発展させた、高度な研究と教育をおこなっています。

## 独立研究科

京都大学には学部を持たない大学院課程、すなわち独立研究科が6つあります。エネルギー科学研究科、アジア・アフリカ地域研究研究科、情報学研究科、生命科学研究科、総合生存学館、地球環境学舎がそれにあたります。いずれの研究科等においても多様な学部の卒業生を受け入れ、複合的学域の創出・深化に携わる研究者や実務家の養成を主眼にした大学院教育の体系化をめざしています。

## 専門職大学院

研究者・研究職養成に主眼をおいていた従来の修士課程とは異なり、高度で専門的な職業能力をもった実務家を養成するための、新しい形の大学院です。現場で活躍する各分野のスペシャリスト等も専任教員として招き、現場の複雑な問題を解決するための知識と技能の獲得をめざした教育をおこなっています。

京都大学では、医学研究科で平成12（2000）年に専門職大学院として開設された社会健康医学系専攻が、平成15（2003）年専門職大学院となりました。また法学研究科では法曹養成専攻（法科大学院）を平成16（2004）年に開設しました。さらに、平成18（2006）年には公共政策教育部（公共政策大学院）および経営管理教育部（経営管理大学院）の2つの専門職大学院が開設されました。

学部	大学院	
文学部	■ 文学研究科	30
教育学部	■ 教育学研究科	32
法学部	■ 法学研究科	34
	■ 法科大学院（法曹養成専攻）	36
経済学部	■ 経済学研究科	38
理学部	■ 理学研究科	40
医学部	■ 医学研究科	44
	■ 社会健康医学系専攻	44
薬学部	■ 薬学研究科	48
工学部	■ 工学研究科	50
農学部	■ 農学研究科	54
総合人間学部	■ 人間・環境学研究科	58
	■ エネルギー科学研究科	60
	■ アジア・アフリカ地域研究研究科	62
	■ 情報学研究科	64
	■ 生命科学研究科	66
	■ 総合生存学館（思修館）	68
	■ 地球環境学舎・学舎	70
	■ 公共政策大学院	72
	■ 経営管理大学院	74

## 大学院のカリキュラム

各研究科の標準修業年限は5年であり、博士前期課程（前期2年の課程、本学では修士課程と呼んでいます）と博士後期課程（後期3年の課程）に区分しています。ただし、医学研究科医学専攻、薬学研究科薬学専攻は4年の博士課程、アジア・アフリカ地域研究研究科、総合生存学館は5年一貫制の博士課程、地球環境学舎地球環境学専攻は修士課程修了者を対象として後期3年の課程だけの博士課程です。

教育課程については、定められた単位（修士課程および医学研究科博士課程では30単位、博士後期課程では各研究科で規定）を修得し、かつ、必要な研究指導を受けて、研究論文の審査と最終試験に合格すると修士もしくは博士の学位が授与されます。

専門職大学院の標準修業年限は各専門職学位課程によって異なり、法学研究科法曹養成専攻は3年、それ以外の課程は2年となっています。

教育課程については定められた単位及び定められた履修方法により修了し、修士（専門職）や法務博士（専門職）の学位が授与されます。

なお、5年一貫制の博士課程教育リーディングプログラムの修了者には、博士（総合学術）または、当該プログラムを修めたことを証する学位記が授与されます。

# 文学研究科

Graduate School of Letters

- 東洋文献文化学
- 西洋文献文化学
- 思想文化学
- 歴史文化学
- 行動文化学
- 現代文化学

文学研究科は、1906年以來、日本のみならず世界的な研究拠点として、人文科学・社会科学の発展に大きく貢献してきました。本研究科が育成した人材は、学界及び社会の様々な分野で、現在も重要な役割を担っています。このような豊かな学問の蓄積と、創造性に富んだ研究環境のもと、本研究科では、これからも国際的な研究者・教育者、さらに社会に活躍する有能な人材を育ててゆくことを目標としています。

▶▶ <http://www.bun.kyoto-u.ac.jp/>

## 人材養成に関する目的

京都大学大学院文学研究科は、京都大学創立以来の自由の学風を継承し、人文学の各分野の伝統を発展させつつ、他の学問分野との調和や融合をはかりながら、人文学における世界最高水準の研究と教育を推進し、その成果を通じて人類の調和ある共存に貢献することを目的として、以下の目標を定めます。

- 一、京都大学大学院文学研究科は、人間の諸活動の原理的な解明と、絶えず変化する環境の中でのそれらのもつ価値の問い直しを通じて、思想、言語、文学、歴史、行動、さらに現代文化に関わる学術を教授・研究します。
- 一、京都大学大学院文学研究科は、人類の文化の継承と調和ある共存に寄与し、真に新しい文化を創造する卓越した学識と応用能力を有する、学術研究者および高度専門職業人を育成します。
- 一、京都大学大学院文学研究科は、地域密着的な視点と地球規模の広角的視点の両面から、京都・日本・アジアに固有の知的遺産の維持・継承・発展に寄与すると同時に、人類の文化全般についての多角的・総合的探求を推進します。
- 一、京都大学大学院文学研究科は、地域連携と国際交流の強化を通じて、教育と研究の成果を地域社会ならびに国際社会にひろく還元します。
- 一、京都大学大学院文学研究科は、人権を尊重し、環境に配慮した運営を行うとともに、社会的な説明責任に応えます。

## 文学研究科の特色

文学研究科には、文献文化学（東洋文献文化学、西洋文献文化学）、思想文化学、歴史文化学、行動文化学、現代文化学の5つの専攻があります。各専攻が対象とする範囲が広いので、ほぼ、人間や人間の営みに関する全てのことが研究対象となります。

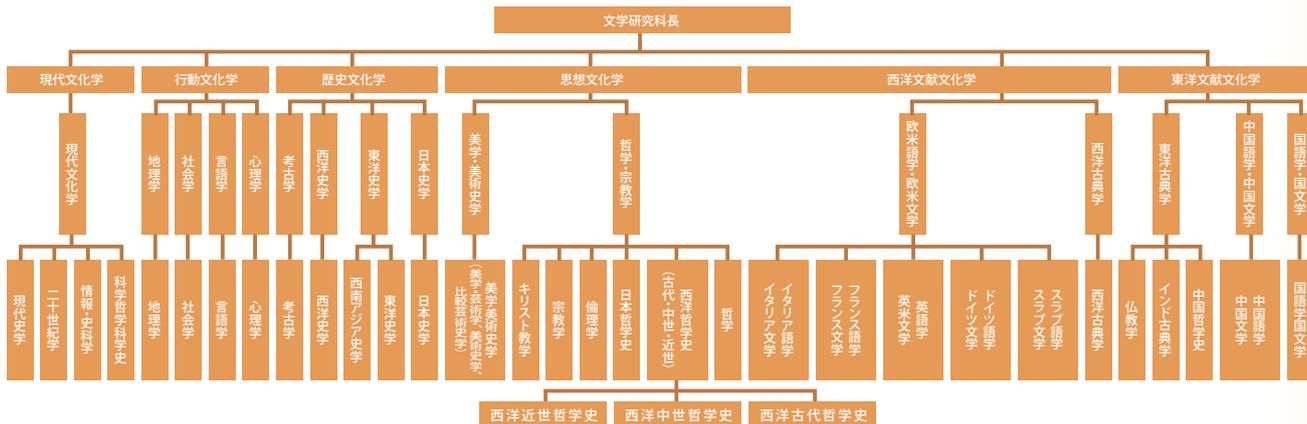
本研究科に共通している研究態度は、空論に陥ることなく、実証的に、且つ、幅広い視点で、人間を理解しようとする姿勢です。広く、深く、しかも正しく理解するのは、難しいことですが、偏見をもたずに、着実な調査と合理的な分析を行えば、必ず正しい理解に到達します。そのとき学生・院生が才能や能力を最大限に発揮できるように、教員は解答を与えることなく、共に議論し、共に考えて、新たな方向が、自分自身でつかみ取ることができるよう指導してゆくのも、本研究科の特徴となっています。このような研究態度は、地味なものとなります。目立たないけれども、研究の発展のためには、その基礎を確立し、広くしておかなければなりません。このような使命感も、本研究科の共有する意識です。

本研究科では、学生・院生が、これまで本研究科で研究されたことのない分野を研究することも、指導教員の専門とはまったく異なった分野を研究することも歓迎しています。もちろん指導教員の専門に近い研究をすることもできます。どちらかといえば指導教員と違った分野を研究する方を評価します。また、本研究科では、後から来る者は、先に行く者の誤りを訂正し、先行の者を追い越してゆくのが当然であると考えています。

ぼんやりと指導教員に従うことは評価しません。こういったことも本研究科の特色と言ってよいでしょう。



概略図



研究紹介

インド・チベット仏教 仏教学専修 宮崎 泉准教授

仏教学専修では、インドとチベットを対象地域とし、文献資料を使って思想を中心に仏教を研究しています。私の専門は、中でも最後のインド大乘仏教です。インドに後期密教文献が現れる8世紀頃より、インド本土から仏教が姿を消す13世紀までの大乘仏教は、日本には表だってその影響を残していませんが、チベットに伝わったのはちょうどその頃のインド仏教です。そのため、最後のインド大乘仏教の研究は、インド仏教の最終段階を解明することであると同時に、現代のチベット仏教の源流を明らかにすることでもあるのです。しかし、ブッダの滅後1000年以上経った最後期には、初期の仏教と異なる点も目立ってきます。その時、後の仏教は何を受け継ぎ、何が変わったのでしょうか。どういう理由でどう変わったのでしょうか。仏教思想史の中でひとつの思想を解明しようとするれば、それはどれも自ずと仏教の本質を明らかにすることに繋がっていきます。そして、それがどのように展開したかを解き明かそうとしています。

Topics  
プレFD

プレFDとは、これから大学教員(ファカルティ)になろうとする大学院生やOD(オーバードクター)・ポスドクのための職能開発の活動のことです。文学研究科プレFDプロジェクトは、文学研究科とFD研究検討委員会が共同で主催する文学研究科のオーバードクター(OD)によるリレー講義形式のゼミナールであり、事前研修会、公開授業とその検討会、そして年度末の研修会によって構成されています。具体的には、すべての授業を公開とし、毎回の授業終了後20分程度の授業検討会を行います。一人の講師は2回から5回授業を行い、自分の授業が無い時には他の授業の講師を参観、検討会への参加という形でゼミナールに参加します。全ての授業が終了した段階で研修会を行い、自分自身の教育活動を振り返る作業を行います。なお、このプロジェクトの企画・運営は、高等教育研究開発推進センターの協力のもと行われています。

情報の倫理学 倫理学専修 水谷 雅彦教授

私の研究対象はコミュニケーション理論を中心とした倫理学の基礎理論ですが、それ以外に応用倫理学という新しい研究領域にも取り組んでいます。応用倫理学は、前世紀の後半に、科学技術の発達速度があまりに速いために、それが引き起こした倫理問題に倫理や法といった社会規範が対応しきれていないという問題意識から議論されるようになったものです。有名なものとしては脳死と臓器移植や安楽死などの問題などで知られる生命倫理学や、地球規模での環境破壊に際して資源の配分や将来世代の権利を論じる環境倫理学があります。その双方にも少しは関わっているのですが、私が主に研究しているのは情報倫理学という高度情報化社会特有の倫理問題を扱う分野です。コンピュータやインターネットなどの情報技術は、プライバシーや知的財産、危害情報といった古くある問題を大きく変質させると同時に、クラッキングや電子民主主義といった新しい論点を生み出しています。こうした問題群のなかには既存の倫理学理論そのものの変容をせまるものもあり、基礎理論と具体的問題の間の往復運動が重要であるといえるでしょう。

Topics  
アジア研究教育ユニット

2012年12月、文学部・文学研究科、経済学部・経済学研究科、経営管理大学院、アジア・アフリカ地域研究研究科、教育学部・教育学研究科、農学部・農学研究科、東南アジア研究所、人文科学研究科、国際交流センターが協力、50以上にのぼる海外の大学・研究機関と連携した、京都大学アジア研究教育ユニットが設置されました。その目的は、大きくまとめれば、(1)国際的学際的協働による世界最高峰のアジア研究拠点の形成、(2)国際連携大学院プログラムによるグローバル人材育成、(3)相互理解と問題解決のための現代アジア研究の国際共通基盤構築、の3点に要約されます。本ユニットには文化、社会、経済、環境の4部門が置かれ、従来の学部・研究科の境界を超え、アジアにおける日本/日本におけるアジアという視点からの研究教育をすすめます。さらには、アジア以外の地域がアジア/日本がどう理解しているか、アジア/日本は非アジアをどう把握するか、という視角も期待されます。こうした目標を達成するために、参加部局の協力による系統講義「京都で学ぶアジアと日本」を開設し、学部段階の〈知る(多文化理解交流教育)〉、修士課程および学部3・4年次段階の〈学ぶ(国際連携専門教育)〉、博士後期課程段階の〈創る(国際連携研究指導)〉という段階的な教育を経て、語学力にすぐれ、現地感覚をそなえたリーダーの養成をめざします。

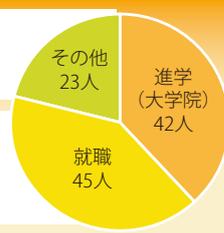
進路状況 (平成26年5月)

修士課程修了者の進路状況

〈主な就職先〉 数研出版、国際交流基金、京都府立高等学校、国立国会図書館、毎日放送、大阪法務局、島津製作所、京都市、三菱化成、都市再生機構

博士後期課程修了者の進路状況

〈主な就職先〉 甲南女子大学人間科学部 講師、同志社大学社会学部 助教、NTTコミュニケーション科学基礎研究所、宮内庁、国際ナショナルスクールオブビジネス、社会科学院歴史研究科(中国) 講師、応用社会心理学研究所、京都大学文学研究科 教務補佐員、滋賀県



円グラフ：修士課程修了者の進路状況

# 教育学研究科

Graduate School of Education

■ 教育学  
■ 臨床教育学

昭和 28 年 4 月、教育学及び教育方法学の 2 専攻をもって発足した大学院教育学研究科は、その後も社会の変化と学問の展開を見据えながら改革を重ねてきました。平成 10 年には大学院重点化を実現し、21 世紀の社会に貢献しうる人材の育成と理論的、実践的研究の高度化を図り、新たな発展を続けています。

》》 <http://www.educ.kyoto-u.ac.jp/>

## 人材養成の目的

### 教育学研究科

本研究科は、教育と人間にかかわる多様な事象を対象とした諸科学を考究することで、理論と実践とを結びつけた心・人間・社会についての専門的に高度な識見ならびに卓越した研究能力を養成し、さらに、広い視野と異質なものへの理解、多面的・総合的な思考力と批判的判断力を形成し、人間らしさを擁護し促進する態度を啓培することで、地球社会の調和ある共存に貢献できる高度な専門能力を持つ人材の育成を目的とする。

上記の目的を達成するため、多様かつ調和のとれた教育体系のもと、学生の自発的な研究活動を支援し、理論と実践とを融合し、学際的・国際的なフィールド経験を重視した教育を実現する。

### 教育科学専攻

教育科学専攻は、教育の原理や歴史、人間の生涯発達・学習の過程、それらを促進するための教育方法・学習環境のあり方、時間的および空間的な広がりや視野に入れた教育体系などについて、諸科学からアプローチすることで、理論と実践とを融合し現代教育の諸問題を学際的・国際的に研究することのできる専門的に高度な識見と研究能力を養成し、教育の改革・改善に寄与することのできる人材の育成を目的とする。

### 臨床教育学専攻

臨床教育学専攻は、心と人間の課題にかかわる諸科学を学び、人間存在や人間関係についての専門的に高度な識見と研究能力を養成することで、教育の個性性を重視し、個人が生き、悩む臨床の場の中で問題の解決に当たり、そこから教育の再構築を図ることができ、さらに心理臨床や教育実践に理論的かつ実践的に寄与することのできる人材の育成を目的とする。

## 教育学研究科の特色

### ■ 教育科学専攻の目的

人間の発達・学習の過程や、それらを促進するための教育方法・技術のあり方、空間的な広がりや時間的な深まりを押さえた教育計画などについて、諸科学からアプローチするものであり、また現代教育の諸問題を総合的・学際的に研究するものであって、理論と実践の結合を目指した教育を目的としている。

教育科学専攻には、研究者養成コース(修士課程、博士後期課程)のほか、下記の専修コースが設置されている。

#### 専修コース(教育科学専攻・修士課程)

各専門分野が相互に協力・連携して、人間の生成と教育に関する広範で複雑な諸現象に、総合的、学際的にアプローチし、今日及び今後の教育の理論的、実践的課題の解決に取り組むことにより、高度な専門性と独創性を備えた教育科学研究者を養成するとともに、幅広い知識と柔軟な視野、確かな実践的能力を有する教育関係専門家を養成することを目的としている。

### ■ 臨床教育学専攻の目的

教育の個性性を重視し、個人が生き、悩む臨床の場の中で、問題の解決に当たり、そこからの教育の再構築を図るもので、こころと人間の問題を中心にして、人間形成に関わる人間関係や環境の分析を行い、心理療法の開発や教育実践に寄与することを目的としている。

臨床教育学専攻には、研究者養成コース(修士課程、博士後期課程)のほか、下記の第 2 種ならびに臨床実践指導者養成コースが設置されている。

#### 第 2 種(臨床教育学専攻・修士課程)

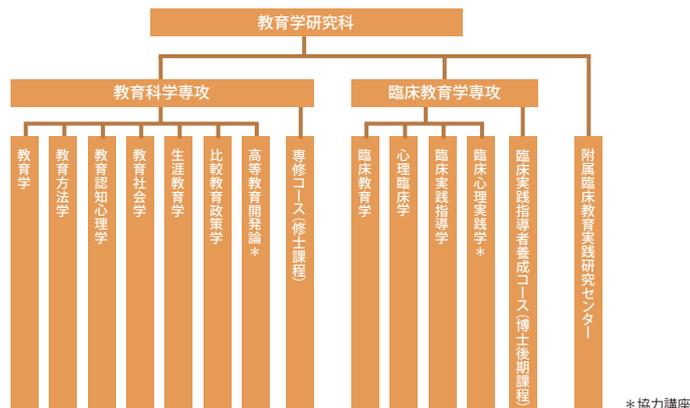
臨床心理学と教育学を統合したより包括的・実践的な青少年の人格研究と、教育理論の発展を目的とし、あわせて高度な教育相談の専門家の養成と現職教員の再教育を行おうとするものである。

そのため、学校教育、心理臨床、医療・福祉等の分野において専門的知見を有する在職の社会人で、さらに高度の専門的能力を養おうとする者を募集する。

#### 臨床実践指導者養成コース(臨床教育学専攻・博士後期課程)

臨床心理士の有資格者であり、多様な臨床経験を有する者で、臨床心理士の臨床実践と臨床実践指導体験を基礎にした少人数教育のなかで体験にもとづく討議とその討議をふまえた理論化を行うことを目的とする。このような教育体制を通して研究・実践の両面にわたって、臨床心理士にさらに高度の専門的能力を涵養しようとするものである。





Topics

トピックスや最先端の研究紹介

□最先端の研究成果

2007～2011年度の5年間、本研究科を拠点とするグローバルCOE「心が生きる教育のための国際的拠点」を実施しました。心理学と教育学が連携し、イギリス、ドイツ、中国の大学等と連携する国際シンポジウムを実施してきました（国内および相手国で開催）。各種の学術専門誌に論文を掲載したほか、『幸福感を紡ぐ人間関係と教育』（ナカニシヤ出版、2012年）を刊行しました。これまでの研究活動の成果は、ホームページ（<http://www.educ.kyoto-u.ac.jp/gcoe/>）に公表しています。

□大学院生に対する研究科独自の研究支援

平成24年度より、本部局の学生を対象とした表彰制度「京都大学大学院教育学研究科長賞・教育学部長賞」が設けられました。この表彰制度は、学業・課外活動・各種社会活動において、本部局の名誉を高めた個人を対象としています。

1. 学業において、国際的又は全国的規模の学会等により優れた評価を受けたもの
2. 課外活動において、国際的又は全国的規模の各種スポーツ、競技、演奏、展示、発表等で優秀な成績を収めたもの
3. 環境保全、社会福祉、青少年育成、国際交流等の教育活動、ボランティア活動、災害救援、人命救助、海外援助協力等の各種社会活動において、活動実績が認められ、他の学生の範となった、もしくは社会的に評価を受けたもの

□国際化の取り組み

本研究科は積極的な国際交流の推進を重点項目の1つとして掲げ、研究交流と教育交流を連携させる形で実質的かつ長期的な展望に立った交流活動を展開しています。これらの諸活動を通じてアジア、欧米の諸大学・部局との交流協定が締結され、国際共同拠点の形成につながっています。東アジア地域では、北京師範大学教育学部および中国教育科学院、およびソウル大学校師範大学教育学科と交流協定を締結し、授業実施のための教員の相互派遣、大学院生の研究発表を含む交流活動の実施、国際シンポジウムの開催や共同研究の実施など多彩な交流活動に取り組んでいます。中国教育科学研究院との共同研究の成果は日中両国で刊行されています。欧米地域では、ロンドン大学教育研究所やランカスター大学心理学部、ベルリン自由大学を中心に、教員や大学院生の交流が活発に進められています。また、教育学研究科で開講されている「国際教育研究フロンティア」の授業は、外国人教員と日本人教員が共同で日本および外国で行う英語の授業で、学生の国際的場面での研究活動や留学支援の取り組みとなっています。OCWを取り入れた授業の国際化も企画されています。

□教育実践コラボレーション・センター

これまで進めてきた教育学研究科の共同プロジェクト「子どもの有能性と生命性を育てる教育・研究推進事業」をさらに継承発展すべく現在も積極的な活動をおこなっています。センターでは現場から持ち込まれた具体的な問題に対応して、異分野融合研究チームなどを組織して、教育学研究科としての組織的な対応をコーディネートしています。具体的には「学校教育改善ユニット」「新しい教育関係ユニット」「教育空間創造ユニット」「E.FORUM」の各分野で、京都周辺の学校や地域などと協働する活動を推進し、大学院生も研究開発コアキアムなどを通じて、教員と共にフィールドに関わりながら、理論的・実践的な教育・研究活動に参加しています。

□附属臨床教育実践研究センター

現代社会の様々なところの問題に対処すべく、本センターは1997年に設置されました。一般市民を対象に長年臨床実践活動を行ってきた心理教育相談室における個別的な臨床活動が本センターの中心となっています（年間面接4,500時間以上実施）。また、現職教員などを対象としたスーパーヴィジョンやリカレント教育講座、さらに、豊富な臨床経験と学識を備えた外国人研究員を招へいし、市民向けの公開講座を毎年実施しているのも特徴です。近年では、東日本大震災の支援を目的とした「こころの支援室」をセンター内に立ち上げました。臨床実践のみならず、その研究と教育を不可分のものとして実施し、社会への還元を目指しているのが本センターの特徴です。

□他部局との連携や協力講座について

1998年4月に大学院重点化の実現にあわせて、本研究科は、附属臨床教育実践研究センターと高等教育教授システム開発センター（現・高等教育研究開発推進センター）の協力を得て、基幹講座8・協力講座2に再編されました。また、2007年4月発足のこころの未来研究センターおよび人文科学研究所の教員も、協力教員として研究科の教育に参加しています。

本研究科が参照する博士課程教育リーディングプログラムとして、「グローバル生存学大学院連携プログラム」では、経済学研究科、理学研究科、医学研究科、工学研究科、農学研究科、アジア・アフリカ地域研究研究科、情報学研究科、地球環境学舎・学舎、防災研究所、生存圏研究所、東南アジア研究所と連携して、安全安心分野の先進的・学際的な大学院教育を展開し、グローバル社会のリーダーたるべき人材の育成を推進しており、「デザイン学大学院連携プログラム」では、情報学研究科、工学研究科、経営管理大学院と連携して、「社会のシステムやアーキテクチャ」をデザインできる博士人材の育成を推進しています。

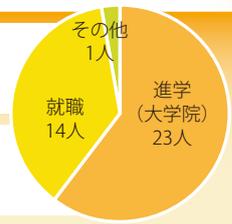
進路状況 (平成26年5月)

修士課程修了者の進路状況

〈主な就職先〉 京都市立高校、大阪成蹊大学、サンイーストブレース、総務省、大成建設、日本学術振興会、日本学生支援機構、日本YWCA、ピースマインド・イーブ、表現

博士後期課程修了者の進路状況

〈主な就職先〉 京都大学、日本学術振興会、大阪大学、聖泉大学、佛教大学、藍野大学、岩手県庁、大阪樟蔭大学、大阪少年鑑別所、関西心理センター



円グラフ：修士課程修了者の進路状況

# 法学研究科

Graduate School of Law

■ 法政理論

■ 法曹養成 (法科大学院) ※

※法科大学院については、P 36～37に詳細を記載しています。

法学研究科法政理論専攻では、広い視野に立って精深な学識を修め、法学政治学の分野における研究能力を養うことを目的として、原理的問題と現代社会への関心を共に備えた研究者としての修養を積む教育が行われています。それぞれの研究テーマに関する論文指導が重視され、密度の濃い研究報告と討議を通して、優れた研究者に求められる能力が研磨されていくことになります。法政理論専攻の修了者には、内外の研究・教育機関で研究者として活躍する途が開かれています。

》》 <http://law.kyoto-u.ac.jp/>

## 教育理念・目標 (人材養成に関する目的)

法政理論専攻修士課程は、法学政治学の分野について、広い視野に立った学識を修めるとともに、みずから課題を定めて研究を行い、その研究成果を論文にまとめる能力を培うことを主な目的としています。

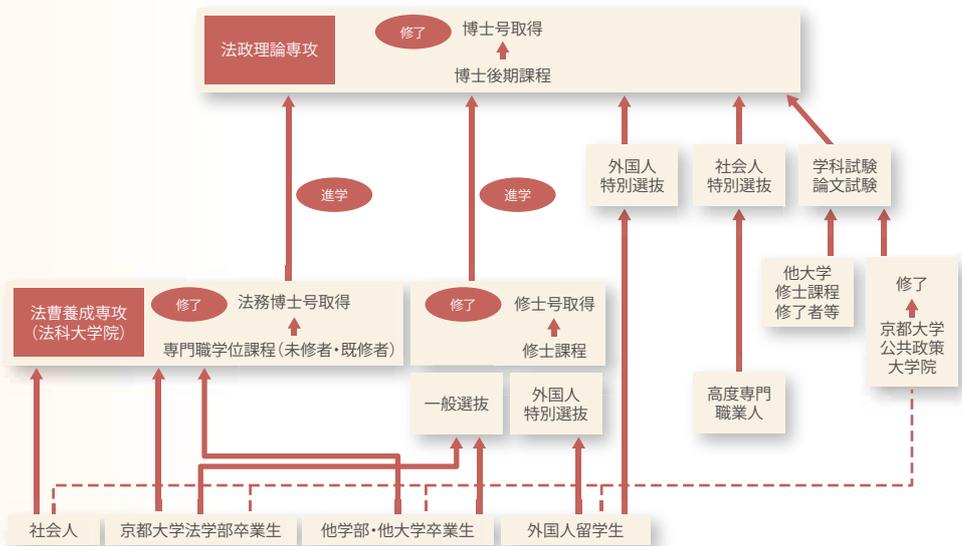
法政理論専攻博士後期課程は、法学政治学の分野について、みずからの研究計画に基づいて博士論文を完成させるとともに、原理的問題と現代社会への関心を兼ね備えた国際的発信力のある人材となるための高度な研究能力を涵養することを主な目的としています。

## アドミッション・ポリシー

法政理論専攻修士課程は、上記の教育理念・目標をふまえ、法学政治学に関する総合的な見識のほか、研究者・教育者となるべき豊かな素養と能力を備えた人材を受け入れることを、基本方針としています。

法政理論専攻博士後期課程は、上記の教育理念・目標をふまえ、法学政治学に関して高度の研究を遂行するにふさわしい豊かな素養と能力を備えた人材を受け入れることを、基本方針としています。

## 法学研究科の教育課程



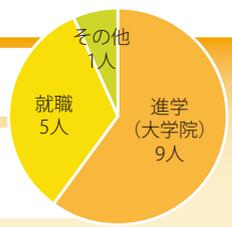
## 進路状況 (平成 26 年 5 月)

### 修士課程修了者の進路状況

〈主な就職先〉 日本生命保険、南京農業大学科究処、金杜法律事務所

### 博士後期課程修了者の進路状況

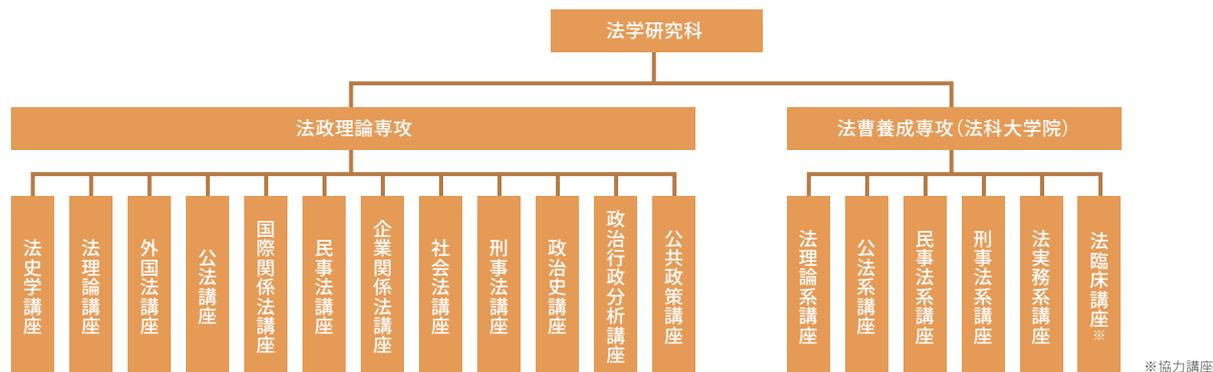
〈主な就職先〉 京都大学法学研究科 准教授、金沢大学法学類・法学部 准教授、輔仁大学法学部 助教授、司法修習



円グラフ：修士課程修了者の進路状況



## 概略図



## カリキュラム・ポリシー

本研究科には、基礎法学、公法、民刑事法、政治学の4つの専門研究分野がおかれています。法政理論専攻の院生はいずれかの専門研究分野に所属し、指導教員の指導のもと、大学院でのスクーリング(外国専門文献の講読・資料調査分析等が行われる)での指導、論文執筆指導等を受けながら、みずからの研究計画を具体化し、研究成果を論文へとまとめることにより、独立した研究者としての修養を重ねていくことになります。法政理論専攻のカリキュラムでは、自由選択制を基本とし、院生の自主的研究を尊重する姿勢をとっています。

修士課程(修業年限は2年)は募集人員を15名とし、その入学試験には、学科試験、論文試験および京都大学法学部学生のみを対象とする書類選考の3種類があります。また、外国人留学生に対しては特別の入学制度が用意されています。そして、修士論文を提出し、所定の試験に合格した者には、修士(法学)の学位が授与されます。

博士後期課程(修業年限は3年)の学生定員は30人で、法政理論専攻修士課程修了者のみならず、法曹養成専攻の修了者からの進学者も受け入れる制度となっています。また、他大学で修士課程(もしくは博士前期課程)または専門職学位課程を終えた者や高度専門職の実務経験を有する者に対して編入を認める制度もあり、毎年度2~3名程度の合格者がいます。さらに、平成20年度入試から外国人留学生に対する特別選抜も開始しました。

博士後期課程では、博士論文を仕上げた学位を申請し、所定の試験に合格すると、博士(法学)の学位が授与されます。博士学位の取得を促進・支援するものとして、年度ごとに院生に当該年度における学習状況及び博士論文作成に向けた進捗状況を記載した文書を作成させ、これをもとにして個々の院生の研究進捗状況を把握するほか、年に2回、予備審査を経て博士論文審査を受ける機会を設けています。この制度は平成18年度より実施し、申請数・学位付与数のいずれの面でも飛躍的な改善の成果を挙げています(なお、博士(法学)の学位は、学術論文を本研究科に提出して学位を申請し、論文審査および所定の口述試験・語学試験・専門科目試験に合格することにより授与されることもあります〔いわゆる論文博士〕)。博士後期課程を終えた者は、大学の教職その他の研究職に進路を求めているのが通例です。本研究科は、旧制大学院以来、今日に至るまで、優秀な人材を輩出し、博士後期課程修了者は、国内外において質量両面ですぐれた研究実績を重ね、重要な社会的貢献を行っています。

## Topics

### 学生紹介

北村 理依子さん 法政理論専攻・修士課程2年(公法分野)

私は京都大学法学部から修士課程に進学しました。現在は、豊富な蔵書を誇る図書館を利用しながら仲間と共に研究室に腰を据えて勉強する充実した日々を送っています。本研究科では、自身の研究も含めた様々な分野について他の研究者と直接議論する機会が十分に与えられています。これまでのところ、毎週末京大構内で開催される国内外の研究者を会員として擁する研究会や学会に加え、他大学との非公式の国際セミナーに参加する機会がありました。勉強熱心な教授や院生との真剣な議論はもとより、彼らとの日常の会話からも、自身の研究のヒントを得ることも多くあります。ここには、視野を広げながら研究に没頭するのに最適な環境が整っているのです。



## Topics

### 学生紹介

安永 祐司さん 法政理論専攻・博士課程1年(民刑事法分野)

私は、京都大学法学部、同法科大学院を卒業し、博士後期課程に進学しました。自分一人で机に向かって本を読み、考え、まとめることが研究のほとんどを占めますが、法学研究科の素晴らしい研究設備(図書館、研究室等)、充実した経済的支援(法科大学院卒業生向けの「特定研究学生」制度)のおかげで、集中して取り組むことができている。また、指導担当の先生方にはもちろんのこと、他分野の先生にご指導をいただく機会にも大変恵まれていますし、研究科の院生同士で先輩・後輩関係なく普段から切磋琢磨し合い、刺激を得ています。今後も、多くの方(とりわけ法科大学院修了者)が進学されることを心より願っています。



## Topics

### 学生への学修支援

法政理論専攻の学生には、LAN環境が整備された複数の共同研究室が用意され、各研究室には個人の机が確保されています。共同研究室を利用する時間帯についても、特別の制限は設けていません。図書室及び配架図書の利用面でも、研究に必要な便宜を十分に図っています。

法学研究科は、教育支援体制としてTA制度を導入しています。また、学術研究の一層の推進に資する研究支援体制を充実・強化し、若手研究員の養成・確保を促進することを目的に、RA制度を設けています。これらの補助的業務に携わることで、経済的な支援が得られるだけでなく、教育能力の訓練等の機会が与えられ、共同研究に携わる機会を与えることで研究能力の向上と本人自身の研究の進展に大きく役立っています。

法科大学院から博士後期課程への進学を促進するために、博士後期課程の学生のうち、法務博士の学位取得者で、特に優れた資質があり、優れた研究成果を挙げることが期待できる者を特定研究学生として採用して、経済的支援を与える(RAとして採用し、奨学金のほか、自発的な研究活動や語学研修について実費を支援する等)こととしています。

留学生支援に関しては、留学生担当教員として専任講師を配置し、教育面に限らず、生活面も含めて、幅広く指導を行っています。随時、スクーリングで発表する日本語原稿や専門分野の用語の指導、チューターとのコミュニケーション、奨学金、住宅、書類の記入方法等について助言と指導を行い、さらに安定した生活環境の維持のため、できる限り学生との接触を保ち、生活状況の把握に努めています。

京都大学法学部・法学研究科は、これまで、わが国において指導的役割を果たす実務法曹を数多く生み出してきました。この伝統を踏まえて、本法科大学院は、優れた理論的能力と高い責任感を兼ね備えた創造的な力を持つ法曹を養成することを目標としています。入学者の選抜に当たっては、公平性、開放性、多様性の確保に重点を置き、大学での学修分野を問わず、かつ、社会的経験を有する者も含めて、優れた素質を有する人材を広く受け入れます。

▶▶ <http://lawschool.law.kyoto-u.ac.jp/>

## 基本理念・教育目標（人材育成に関する目的）▶

### —自由で公正な社会の実現を担う創造力のある法曹の育成を目指して—

本法科大学院は、自主・独立の精神と批判的討議を重んずる本学の伝統を継承し、多くの優れた研究者・実務家教員を擁する自由闊達な教育環境の中で、法制度に関する原理的・体系的理解、緻密な論理的思考能力、法曹としての高い責任感を涵養し、社会の抱える構造的な課題や最先端の法的問題に取り組むことのできる総合的な法的能力の育成を図ります。そして理論と実務を架橋するこのような高度な教育を通じて、法の精神が息づく自由で公正な社会の実現のため、幅広い分野において指導的な役割を果たす創造力ある法曹を輩出します。

## 教育方法▶

上記教育目標を実現するため、本法科大学院では、次に掲げる点を重視した教育を行います。

### 1 討議を重視した少人数教育

法制度を多角的に分析し、批判的思考能力や法的な対話能力を高めるために、討議を重視した少人数教育を行います。また、討議形式による授業の充実を図るために、高度な理論水準を備えるとともに問題探究型の思考を育成しうる教材を用います。

### 2 法制度に関する原理的・体系的理解と論理的思考能力の涵養

実務への確実な架橋は、堅固な理論的基礎の上のみ可能です。そのため、本法科大学院は、法制度に関する原理的・体系的理解の習得を図り、論理的思考能力を十分に養成するため、研究者教員による基礎科目や基幹科目教育の充実に努めています。

また、理論と実務の緊密な関連を図るために、基幹科目においては、理論的な科目と実務的な科目を有機的に編成するよう配慮しています。

### 3 多様な専門性と総合的な能力の向上

最先端の法的問題に取り組む能力や、法的諸問題を社会構造や歴史軸の中にも的確に位置付ける広い視野を育成するために、選択科目Ⅰ及び選択科目Ⅱにおいて、多様な基礎法学・隣接科目及び展開・先端的科目を開設し、各人の目標に従って必要な科目が体系的に履修できるカリキュラム編成を行っています。

### 4 創造的な知的探究心の涵養と実務への架橋

創造的な能力は、自らが創造的な活動に携わることなくして涵養されることはありません。このような認識に立って、本法科大学院は、密度の高い議論が可能な演習形式の授業の履修とリサーチペーパーの作成を推奨しています。また、エクスターンシップや民事弁護実務演習、模擬裁判などを実施し、最先端で活躍する実務家による直接的な指導が受けられる体制を整備しています。

## 学生の募集

本法科大学院は、法学の基礎的学識を既に有している者（法学既修者）だけではなく、法学未修者も広く受け入れます。募集人員（平成27年度）は160名（法学未修者枠35名程度、法学既修者枠125名程度）です。

例年6月に募集要項の配付を開始しています。

## 修了要件と学位

本法科大学院を修了するには、3年間在籍し、所定の成績要件を満たして96単位以上を修得することが必要です。法学既修者として入学した者は、1年間在籍し、すべての基礎科目を履修したものと扱われますので、2年間在籍し、所定の成績要件を満たして68単位以上を修得すれば、課程を修了することができます。

課程修了者には、法務博士（専門職）の学位が授与されます。



## カリキュラム

### カリキュラム・ポリシー

1. 自主・独立の精神と批判的討議を重んずる本学の伝統を継承し、自由闊達な教育環境の中で、新たな時代を担う優れた法曹を養成する。
2. 法制度に関する原理的・体系的な理解、緻密な論理的思考能力、法曹としての高い責任感を涵養する。
3. 社会の抱える構造的な課題や最先端の法問題に取り組むことのできる総合的な法的能力の育成を図る。
4. 理論と実践を架橋する高度な教育を通じて、法の精神が息づく自由で公正な社会の実現のため、幅広い分野において指導的な役割を果たす創造力ある法曹を養成する。

本法科大学院では、多様な科目を段階的に配当します。理論的部分について、まず基礎的・体系的知識を固めたうえで、応用・実践能力、さらには先端的問題の解決能力を養成し、これと並行する形で実務の基礎教育も行うことによって、法曹として活動するために必要な能力の涵養をめざします。

#### □基礎科目 【全科目必修】1年次配当

基本的な法分野について、その理論構造や基礎概念を理解し、法的思考の基本的枠組みを習得するための科目。法学既修者は履修が免除されます。

#### □基幹科目 【全科目必修】2・3年次配当

基礎的・体系的な法知識を具体的な事例に適用するために必要となる法的分析・処理能力を習得するとともに、法曹に要求される基礎的な実務的技能及び倫理感を身につけるための科目。

#### □実務選択科目 【2単位以上の選択必修】2・3年次又は3年次配当

法律事務所での研修やシミュレーション等の実習を通じて、法律知識の実践的意義を理解し、実務への移行をよりスムーズなものとするための科目。

#### □選択科目Ⅰ 【4単位以上の選択必修】2・3年次配当（一部1年次にも配当）

政治学などの隣接領域や基礎法学など、広い視野から法や法実務、さらには法曹の意義や役割を分析することで、人間や社会、法律問題に対する洞察力を深めるための科目。

#### □選択科目Ⅱ 【12単位以上の選択必修】2・3年次又は3年次配当

実務上重要である多様な法分野に関する基礎的理解を得るとともに、最先端の、あるいは複合的な法律問題を分析することで、法曹としてのより高度な実践的能力を得るための科目。

## 施設・設備

法科大学院棟の1階及び2階には、合計座席数486の自習室があります。1階の自習室の地下には開架式の書架があり、基本的な書物や雑誌を1階の自習室で読むことができます。また、自習室には無線LANが設置されていますので、無線LANに対応したノート型パソコンを持参すれば、インターネットに接続して各種の情報を

検索することができます。とりわけ、学生各人に法科大学院教育支援システムのサービスを受けるためのユーザIDが貸与されますので、自習室以外でもインターネットに接続できる環境があれば、同サービスを利用して法律情報の検索をすることができます。また、法科大学院棟には個人用ロッカーを設置しています。

## 修了者数・司法試験合格者

修了者数

年度	修了者数
平成21年度	192名
平成22年度	202名
平成23年度	164名
平成24年度	160名
平成25年度	153名

司法試験合格者

	出願者	受験者			合格者		
		合計	未修者	既修者	合計	未修者	既修者
平成22年	337	277	84	193	135	16	119
平成23年	371	315	100	215	172	37	135
平成24年	319	280	90	190	152	30	122
平成25年	282	246	77	169	129	24	105
平成26年	270	245	66	179	130	11	119

## 教員数(平成26年度)

専任教員		35名
	専任	30名(うち、実務家教員5名)
	みなし専任	5名
	兼任教員	19名
	兼任教員	60名

# 経済学研究科

Graduate School of Economics

■ 経済学

京都大学大学院経済学研究科は、自由と自主を尊重する気風とアカデミックで独創的な研究を大切にする伝統を誇っています。この雰囲気の中で、大学院生は豊かな教養と学識を身につけるとともに、創造性と高度な専門能力を有する研究者として、また先端的な専門知識と基礎的分析能力を備えた専門的職業人として、育ってきました。

▶▶ <http://www.econ.kyoto-u.ac.jp/>

## 教育方針と教育理念（人材養成に関する目的）

修士課程では、研究者を目指す人に対して、授業および修士論文作成を中心にした個人指導により、経済学と関連領域の蓄積を継承させ、研究に必須の基礎学力および分析能力を身に付けさせることを目標としています。博士後期課程では、自由と自主を尊重する学風のもと、修士学位を取得したのちに博士学位（経済学）の取得を目指す人に研究の場と指導を提供し、経済学の先端的課題や経済社会の諸問題に果敢に挑戦し、社会の期待に応えられる研究者を養成することを目的としています。平和かつ豊かで調和ある地球社会とその輝かしい未来の構築に寄与するという、わが国の学術の崇高な理念に照らして、経済学という学問の知恵、知識、技術を通じて現代社会の様々な課題に貢献することのできる創造的能力をもった専門的人材を育成することが研究科の教育の基本理念です。

この理念を実現するために、わが研究科では多様で高度な専門能力をもつ教員を擁し、経済哲学から理論、歴史、政策、応用経済学、経営・会計学等の諸分野にわたる幅広い教育をおこなっています。多元的な研究方法と多様性に富む研究課題も尊重されています。研究科では、多数の演習とワークショップを設け、諸外国や学外からも多数の研究者を招き、様々なプロジェクトをおこなっていますが、大学院生は個人指導を受けるほかにそれらにも積極的に参加して研究能力を高めています。こうした経験を通じて、広範な知識と、専門家としての論理的かつ独創的な分析力を備え、国際的な視野をもち、今日の社会の複雑で多様な要請に応える創造的・開拓的な研究者へと成長することが望まれます。また、研究科を修了する多くの人は、将来、教育・学術・その他の分野において指導的役割を果たすことが期待されているので、公正で寛容、かつ人間愛豊かな人格を磨くことも目標の一つです。

## 経済学研究科の特色

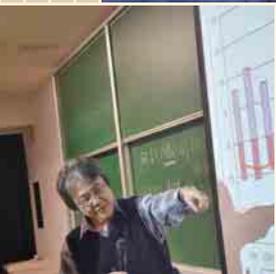
本大学院教育の中軸は研究者養成を中心とするコースで、これを博士コースと呼びます。このコースでは、これまで修士課程を博士前期課程、博士課程を博士後期課程と称し、原則として5年一貫の教育研究を行ってきました。今後もこの研究者養成を主眼とした5年一貫の博士コースの教育研究をいっそう充実したものにします。

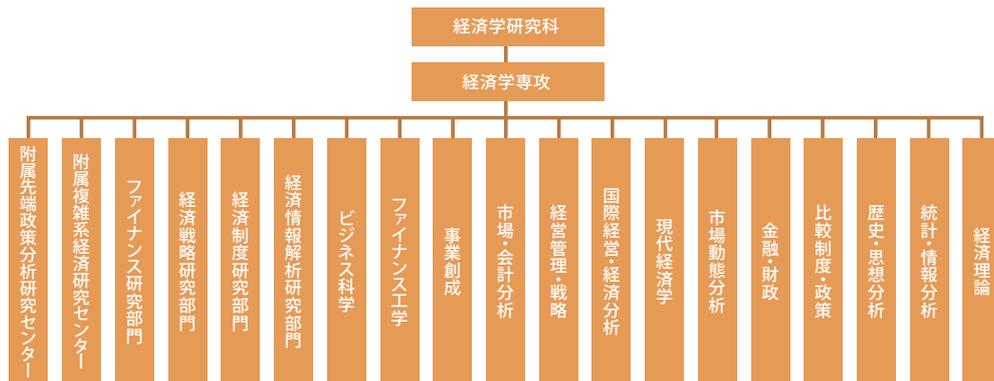
本大学院の特徴は、社会人、留学生のみならず、本学以外の他大学出身者をも多数受け入れるなど、オープンな教育システムを採っていることです。また、平成24年度から博士後期課程編入学を拡大し、社会人経験者の特別選抜などによって、多様なバック・グラウンドをもった優秀な人材に門戸を開くこととしました。

いま一つの特徴は指導教員による個別指導を重視していることです。指導教員は、一定の水準に達した大学院生の研究について、論文指導をいっつつ、『経済論叢』、『調査と研究』、『The Kyoto Economic Review』をはじめとする学術誌に公表するよう奨励しています。

本大学院で修士学位を授与された者は、新制の大学院になってからの累計で平成26年3月現在1650名に達しており、その多くが研究者となって研究職に就き、内外の経済学界で活躍しています。修士学位を持つ専門職業人として、企業、官庁などで能力を発揮する方々も着実に増加してきました。

本研究科はこれまで多くの博士学位を出してきています。最近の特徴は大学院博士課程での研究を学位請求論文として提出し博士課程を修了するいわゆる課程博士が増加していることです。平成26年3月現在で累計492名の課程博士の取得があり、そのうちには留学生も含まれています。また、大学院での課程と結びつかない論文を提出して学位を得るいわゆる論文博士（新制）の累計は同379名に達しています。





Topics

研究と教育のトピックス

□行動経済学研究：タバコ税の試算にも活用

依田高典教授の研究室では、行動経済学という新しい人間行動の解明研究に取り組み、その成果は経済学や医学の国際学術雑誌を通じて発表され、新聞・雑誌・テレビでも注目されています。例えば、タバコを吸う人の経済心理学的特性を明らかにし、それらの知見を踏まえた禁煙政策を提言し、日本政府のタバコ税の試算などにも一役買っています。

□10月入学の東アジア持続的経済発展研究コース

2009年度より海外からの応募者を直接受け付けて10月に入学させる留学生コース（修士+博士後期）を設置しました。このコースでは国際的な授業を行うとともに学生と一緒にフィールドリサーチを重視します。なお、応募者の内数名の成績優秀者を国費留学生優先配置に推薦します。2014年9月には11名が修士課程を修了し、修了者のうち4名が博士後期課程へ進学しました。

□環境経済研究

諸富徹教授の研究室では、財政学と環境経済学の研究を通じて、「持続可能な発展」とそれを実現する政策のあり方を探求しています。社会経済構造が大きく変動する中で、持続可能な財政構造と政策手段（環境税や排出量取引制度）の必要性は高まる一方です。経済分析に基づいて具体的な政策提言や税制改革の提案を行うなど、理論と現実を架橋する研究に取り組んでいます。

□プロジェクトセンターと金融研究教育センター

研究科附属プロジェクトセンターは、学内外の研究員やリサーチ・フェローをメンバーに加え、国際協力機構（JICA）や三菱総合研究所との共同研究をはじめとして、開かれた産官学連携活動を推進しています。また三井住友銀行金融研究教育センターには、金融・経済分析のための大規模データベースを配備し、世界の様々な経済データにアクセスすることが可能となっています。

Topics

国際的な協働と発信

□アジア自動車シンポジウム

経済学研究科では、積極的に国際交流を進めています。毎年、多数の外国人学者が訪れ、セミナーやワークショップを開催しています。特にアジアの自動車産業をテーマとする大規模なシンポジウムを毎年、京都と東京で開催しています。

□東アジア経済研究センター

経済学研究科では2002年に上海センターを設置し、中国を中心とした東アジア経済の研究と交流を推進してきましたが、2010年には東アジア経済研究センターと改称し、研究交流範囲を東南アジアにまで拡大しました。東アジア経済研究センター協会の支援を得て、国際会議、講演会、研究会などを開催するとともに、毎週東アジアセンター・ニューズレターを発行して、現地情報を提供しています。また、研究者年報も刊行しています。

□国際英文誌 The Kyoto Economic Review

経済学の領域で日本最初の英文学術雑誌であったThe Kyoto University Economic Reviewは、2004年度から誌名をThe Kyoto Economic Reviewに変えて、学外・国外からも投稿を受け付けるレフェリー誌として再出発しました。

□学部生・大学院生の海外派遣

経済学研究科では、京都エラスムス計画などを通じて大学院生の海外派遣も盛んに行っています。2012年度からは、「世界展開力の強化事業」が始まり、多くの学部生・大学院生をアジア諸国へ派遣しています。

□日中韓交流協定

かねてから交流のあった中国人民大学経済学院に「連合経済研究中心」が設立されたのが2009年9月でしたが、2010年秋には韓国の慶北大学経済学研究科も加えて三研究科の交流と学生の交換協定を結びました。これによって東アジアの将来を見据えた協働プログラムが開始されました。

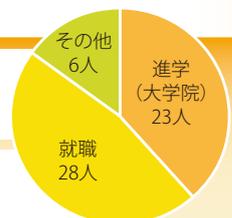
進路状況 (平成26年5月)

修士課程修了者の進路状況

〈主な就職先〉 DMG 森精機、日本電気、SPA、京都商工会議所、グリーン、サイバーエージェント、財務省、JFE スチール、資生堂、ソフトバンク

博士後期課程修了者の進路状況

〈主な就職先〉 新生銀行、開智学園高校、成蹊大学、ダイドーリミテッド、帝塚山大学、福島大学、桃山学院大学



円グラフ：修士課程修了者の進路状況

# 理学研究科

Graduate School of Science

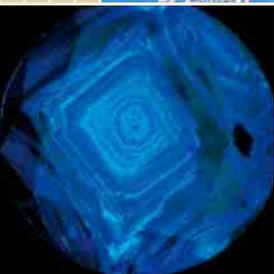
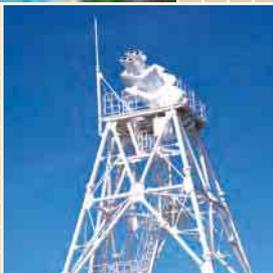
■ 数学・数理解析

■ 物理学・宇宙物理学

■ 地球惑星科学

■ 化学

■ 生物科学



理学研究科は、学問的創造を何よりも大切にする自由な学風のもとに、これまで数学、物理学・宇宙物理学、地球惑星科学、化学、生物科学の各分野において独創的な研究成果を数多くあげ、また霊長類研究などの新しい学問分野を開拓し、ノーベル賞やフィールズ賞受賞者をはじめとして国際的舞台上で活躍する多くの優れた研究者を輩出してきました。

▶▶ <http://www.sci.kyoto-u.ac.jp/>

## 研究科の特色 ▶

### 科学知の創生と発展

理学研究科・理学部は、京都大学の中でも最も長い歴史を有しています。自由の学風のもと、自然界の普遍的な原理や法則の探求を通じて、さまざまな分野において現在まで連なる学問の系譜を創りあげ、多数の独創的研究者を輩出してきました。その成果は、6名のノーベル賞受賞者、2名のフィールズ賞受賞者、日本人唯一のガウス賞受賞者、3名のガードナー国際賞受賞者などの形で世界的に高く評価され、常に我が国の理学分野の先頭に立って、その発展を主導してきました。

理学研究科には、宇宙物理学、数理生物学、霊長類学など新しい研究分野をいくつも開拓してきた伝統が、今でも脈々と息づいています。こうした学問の創造や開拓は、研究や教育に対する自由な雰囲気の中で生まれ育つものであり、一朝一夕につくられるものではありません。このような環境のもと、個々の教員や学生との対話を根幹とした教育活動、研究プロジェクトが進められています。

## 人材養成の目的 ▶

本研究科は、理学の深く幅広い理解に基づく豊かな創造性、柔軟な思考力と優れた問題解決能力を有する人材の育成を通じて、人類の知的資産形成への寄与など人類社会への福祉に貢献することを目標とする。特に、自ら問題を見つけ、理学における新たな知の地平を切り開くことのできる優れた研究者の養成を目指す。

## アドミッション・ポリシー

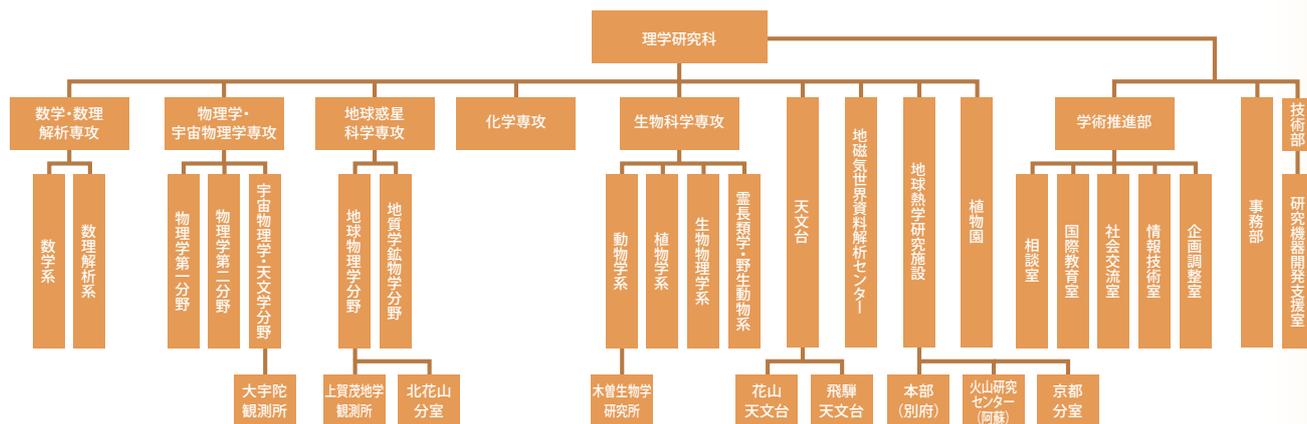
理学は自然現象を支配する原理や法則を探究する学問であり、その活動を通じて人類の知的財産としての文化の深く大きな発展に資するとともに、人類全体の生活向上と福祉に貢献する知的営為である。

京都大学大学院理学研究科は、設立以来自由な学風のもとに、数学、物理学・宇宙物理学、地球惑星科学、化学、生物科学の各分野において独創的な研究成果を数多くあげ、国際的舞台上で活躍する多くの優れた研究者を輩出してきた。理学研究科の教育活動の目標は、大学院生一人一人が、自然科学の基礎体系を深く習得したうえで、それを独創的に展開する能力や、個々の知識を総合化して新たな知的価値を創出する能力を身につけ、優れた研究者や責任ある職業人として自立できるようにすることにある。このような目標に鑑みて、理学研究科は優れた理学の基礎的能力と粘り強く研究をすすめる姿勢を持つ学生を求めており、修士課程、博士後期課程とも、以下のような学生の入学を期待している。

### 理学研究科が望む学生像

- 優れた科学的素養・論理的合理的思考力と語学能力を有し、粘り強く問題解決を試みる人。
- 自由を尊重し、既成の権威や概念を無批判に受け入れず、自ら考え、新しい知を吸収し創造する姿勢を持つ人。
- 自然科学の進歩を担う研究者、およびその普及・社会的還元に関わることを目指す人。

## 概略図



## カリキュラム・ポリシー

理学は自然現象を支配する原理・法則を探究する学問である。本研究科では理学への深く幅広い理解に基づく豊かな創造性と柔軟な思考力と優れた問題解決能力を有する人材の育成をめざしている。京都大学の特徴として、「自由の学風」が挙げられ、学生の自学自習を促すことが提唱されている。理学研究科はこの精神を重視し、大学院生が能動的、積極的に学問に取り組み、自ら問題を発掘してその解決に向け柔軟かつ粘り強く立ち向かう研究者等として成長することを期待している。修士課程では理学研究を遂行するのに必要な基礎知識・研究手法・問題解決能力を身につけ、博士後期課程では自ら課題を設定して研究を企画、遂行して博士学位論文としてまとめあげる能力を身につけることを教育目標としている。

修士課程では、大学院生が学部での基礎的科学的体系の修得に基づき理学研究に従事するための先端的知識、研究手法、語学力等を身につけ、さらに問題発見・解決能力を大きく伸ばしていくことを目標

としている。その実現に向け各専攻は分野の特徴に合わせて、特殊研究を中心に講義、ゼミナール、演習、実験などからなるカリキュラムを用意している。さらに、広い視野を持つ人材を育てるという観点から、所属する専攻や系分野以外の科目を履修することを奨励している。

博士後期課程では、修士課程までに培った能力を土台として、基礎科学の本質的前進に寄与する研究を行うことが求められる。学生自身が企画段階から研究を実施して、成果をまとめて論文発表するまでの一連の作業を遂行することにより、自立した研究者としての第一歩を踏み出すことを期待している。そのため特殊研究とゼミナールを中心に研究指導を行い、その研修の成果を基に、研究指導を受けたことの認定を行う。また博士後期課程においても専門領域に閉じこもらず、幅広い学問的関心を維持することを推奨している。博士後期課程では、研究成果を集大成した博士学位論文の作成と学位取得を大学院生の最終目標に設定している。

## ディプロマ・ポリシー

### < 修士課程 >

1. 修士課程にあつては、入学後2年以上在学して研究指導を受け、専攻科目について所定の単位数を修得し、かつ、本研究科が行う修士論文の審査および試験に合格した者に、修士の学位を与える。
2. 修士課程修了にあつては、以下の点に到達していることを目標とする。
  - (1) 理学に関する高度な専門知識を習得し、世界水準の理学研究を理解することができる。
  - (2) 理学における個々の知識を総合化し、既成の権威や概念に囚われることなく、それぞれの専門領域において創造性の高い研究を行う素地ができています。
  - (3) 科学・技術的な課題について理学の知識を用いた解決策を提示でき、また、人類が現在直面している課題や将来直面する可能性のある課題についても、それを把握・予測し、広く深い科学的根拠に基づき解決方法を構想できる。
  - (4) 理学の意義と重要性を理解し、高い倫理性をもって、その発展に寄与することを目指した行動ができる。
  - (5) 理学に関して、物事を俯瞰する幅広い視野と教養を身につけ、異なる文化・分野の人々とも円滑にコミュニケーションできる。

### < 博士後期課程 >

1. 博士後期課程にあつては、3年以上在学して研究指導を受け、本研究科が行う博士論文の審査および試験に合格した者に、博士の学位を与える。  
ただし、特に優れた研究業績を挙げた者については、所属専攻の同意の下で、修士課程と通算して3年以上の在学をもって足りるものとする。
2. 博士後期課程修了にあつては、以下の点に到達していることを目標とする。
  - (1) 物事を俯瞰する幅広い視野と教養、高度な数理能力、理学の体系的・先端的知識を備え、それらを柔軟に応用する能力を身につけている。
  - (2) 理学に関する深い学識に基づき、既存の見方にとらわれない自由な発想力を発揮して、それらを創造的に展開して新たな知的価値を創出することができる。
  - (3) 科学・技術および広汎な社会的課題について理学の知識を総合して複数の解決策を提示でき、また、人類が現在直面している課題や将来直面する可能性のある課題についても、それを把握・予測し、広く深い科学的根拠に基づいて、柔軟かつ的確に対応できる高度な解決力を有している。
  - (4) 理学の意義と重要性を理解し、高い倫理性をもって、その発展に寄与することを目指した行動を通して、人や自然との調和ある共存に貢献できる。
  - (5) 理学に関して、物事を俯瞰する幅広い視野と教養を身につけ、その研究成果を世界に向けて発信できる高い能力を有している。

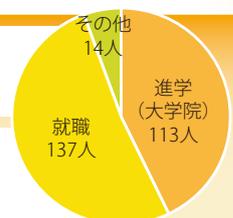
## 進路状況 (平成26年5月)

### 修士課程修了者の進路状況

〈主な就職先〉 富士通、東芝、三菱UFJ銀行、キヤノン、住友化学、ディー・エヌ・エー、日産自動車、野村総合研究所、パナソニック、富士フイルム

### 博士後期課程修了者の進路状況

〈主な就職先〉 京都大学、東京大学、理化学研究所、大阪大学、岡山大学、東京工業大学、東北大学、新潟大学、秋田大学、岩手大学



円グラフ：修士課程修了者の進路状況

## 専攻(系・分野) 基幹講座の概要

## 数学・数理解析専攻

数学は、数、図形、数量の変化などの背後にある法則を明らかにすることを旨とする学問である。その長い歴史のなかで確固とした体系を築いて来たが、現在でも多くの新しい問題が、その内部から、また物理学、生物学、経済学など他の科学からの影響の元生まれ、それらを解決するために新たな理論が次々に創出されている。また数学は、その普遍的な性質により、自然科学は勿論のこと、情報科学、経済学など多くの分野とのつながりを持つようになっている。

大学院教育においては研究における実績をもとに世界をリードする次世代研究者の育成を目指して大きな成果を上げている。一方数学の研究者以外にも社会で活躍している多くの卒業生がいる。特に大学院重点化以降は保険数学の連携併任講座を設置するなどの取り組みを通じてアクチュアリーを始め「数学についての高度な専門知識を持って社会で活躍する人材」の育成にも努めている。さらに優秀な中高教員育成にも努力している。

## 物理学・宇宙物理学専攻

物理学・宇宙物理学専攻は三つの教室から構成されている。

物理学第一教室は物性物理学、統計物理学、非線形物理学を中心とした分野を、物理学第二教室は素粒子物理・原子核物理・宇宙物理学を中心に、自然界の普遍的な基本法則を解明することを目指している。宇宙物理学教室は宇宙における諸現象を天文学及び天体物理学の手法に基づいて解明することを目的としている。

物理学・宇宙物理学専攻では、理論的および実験・観測的研究の双方がおこなわれ、幅広くそれぞれの分野の重要課題に取り組んでいる。常に特徴のある研究を行い、世界トップレベルの研究水準を維持すること、そのなかで次代を担う優秀な研究者を養成することを目標としている。

## Topics

## 学生紹介

野津 湧太さん

物理学・宇宙物理学専攻  
(宇宙物理学・天文学分野) 修士課程 1年

## 「太陽型星でのスーパーフレア」

太陽表面では、「フレア」という爆発現象が見られます。2012年、京都大学の研究グループでは、系外惑星探査衛星ケプラーのデータを解析することにより、太陽型星におけるスーパーフレア(最大級の太陽フレアの10倍~1万倍のエネルギーを持つフレア)を多数発見しました。もし、スーパーフレアが我々の太陽でも起こったら、宇宙飛行士の船外活動、人工衛星、電力や通信など、その被害は甚大です。そこで私は、すばる望遠鏡等を用いた「分光観測」により、スーパーフレアを起こす星の性質について詳しく調べ、「スーパーフレアが、我々の太陽でもおこるのか?」という謎に迫っています(写真は、すばる望遠鏡で観測中の筆者)。



## Topics

## 教員紹介

浅岡 正幸准教授

数学・数理解析専攻(数学系)

2013年度日本数学会賞春季賞  
双曲力学系および関連する幾何学の研究

浅岡准教授は力学系の研究を行っています。それは数学のみならず理学・工学などの様々な分野で、常微分方程式や写像の反復合成として現れ、決定論的法則に従って時間発展するシステムを数学的に定式化したものです。力学系の研究は、Smaleとその後継者たちによる双曲力学系理論の確立と、それをういた $C^1$ 構造安定性予想の解決を足場として、1980年代後半から様々な方向に発展しています。その主要な方向の1つに、双曲力学系理論のアイデアや手法を用いた幾何学への展開があるが、浅岡准教授はそのような研究の流れの中でも特に、射影的Anosov力学系の研究とLie群の作用の幾何学の研究において、顕著な成果を挙げています。

## Topics

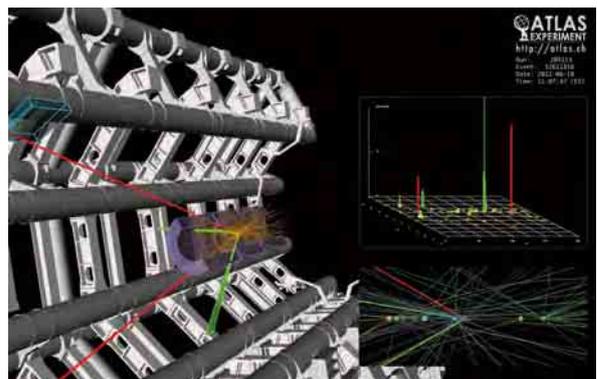
## □新しい超伝導状態をつくり出す

物質中の電子や液体ヘリウムは宇宙に存在する最も単純な粒子の集合体です。これらを絶対零度(マイナス273度)近くまで冷却すると、室温の世界では見えない量子力学的効果が顕著になり、超伝導や超流動といった劇的な物理現象が観測されます。これらは電子や原子が永久に流れ続けるという研究者を魅了してやまない分野であり、まだに謎が多いです。最近、電気を伝える電子の有効質量が自由電子の千倍近く重くなった「重い電子」を、人工的に2次元空間に閉じこめ、さらに超伝導状態にすることに成功しました。その超伝導状態はこれまで発見されている物質の超伝導状態とはかなり異なっていることがわかってきました。

## Topics

□ヒッグス粒子の発見からはじまる、  
素粒子物理の新たな10年

2012年7月4日、物理学第二分野素粒子物理学グループは素粒子の標準「モデル」における最後の粒子、ヒッグス粒子を発見しました。(P.ヒッグス・F.アンブレール両氏が、2013年ノーベル物理学賞を受賞)素粒子物理学の究極の目的は4つの力を統一的に理解することにあります。今回の発見は重力をふくむ統一的な描像を得るための記念すべき第1歩だが、お楽しみはこれからです。今後10年、ヒッグス粒子とフェルミオン・ゲージボソンの結合定数の精密測定、より高エネルギーでの新粒子探索の結果、どこまで人類が究極の素粒子描像にせまれるか、緊張感のあるエキサイティングな季節がやってきました。



物理学第二分野素粒子物理学グループの製作した  
 $\mu$ トリガーがつかまえた、ヒッグス粒子崩壊イベント

## 地球惑星科学専攻

地球惑星科学専攻は、地球物理学分野と地質学鉱物学分野が協力して地球惑星科学の高度な教育と先端的な研究を行っている。

近年の地球惑星科学の進展はめざましい。46億年にわたる地球の歴史と進化のプロセス、地球温暖化と環境変動、地殻変動と災害科学、惑星観測と惑星探査等、ミクロからマクロまで時空の長大なダイナミックレンジにわたって探求すべき現象は多岐にわたります。ますます多様な展開を遂げつつある。地球内外の複雑な諸現象を解明し、新しい研究分野を開拓し創造的に発展させるためには、個々の専門的な技能を修得するだけでなく、幅広い知識と異分野との交流を持つことが大切である。このような観点から、地球惑星科学専攻ではそれぞれの学問分野独自の研究対象と手法を継続、発展させるとともに、地球環境変動といった分野横断的な学際研究・教育にも力を入れている。

## 化学専攻

化学は、「物質の科学」の中核的学問体系であり、物質の性質を支配する原理・法則の系統的理解と新しい有用物質の創出とを両輪として、現代社会を支える物質科学の発展に中心的な役割を果たしてきた。化学の研究対象は、気体・液体・固体状態にあるすべての物質であり、簡単な無機・有機化合物や金属単体から複雑な生体分子までと極めて多様である。

本専攻での研究・教育の分野は、化学の有する多様性・重層性を広くカバーし、主として、理論・物理化学、無機・物性化学、有機化学、生物化学の4領域に分類されている。上記4領域の研究を統合することによって、化学反応の完全な記述や、任意の分子を思い通りに合成する方法論などの基礎的領域における革新を進めるとともに、生命現象など高度に複雑な系への化学的基礎概念の拡張を図ることが本専攻の研究目的であり、そのような研究を遂行できる大学院生を育て研究者を輩出するための教育を行っている。

### Topics

#### 学生紹介

丹羽 智美さん 化学専攻 修士課程2年

私たちの研究室では、X線結晶構造解析という手法を用いて、タンパク質の研究を行っています。この方法では、顕微鏡などでは知ることができない、原子レベルでの構造決定が可能となります。私が研究しているのは、LH1-RCと呼ばれる、光合成の初期過程で働くタンパク質複合体です。このタンパク質は、光エネルギーを化学エネルギーに変換し、伝達するという、光合成反応の核となる役割を担っています。実際に解析してみると、タンパク質中の光合成色素が周囲のアミノ酸たちから制御され、美しく並んでいる様子や、高エネルギー電子の輸送を担う分子などを観察することができました。また、このタンパク質のかたちから、エネルギー伝達などの機能に関する議論も可能となります。こうした構造を解析し、その機能を想像することで、生命活動を支える化学反応を読み解ければ、と思います。



コンピュータグラフィックスを使って構造解析中の筆者

### Topics

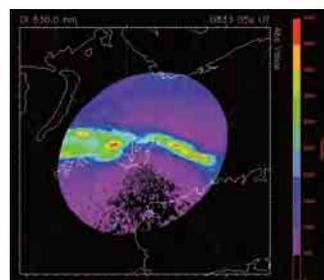
#### 教員紹介

田口 聡教授

地球惑星科学専攻(地球物理学分野)

## 「オーロラ観測から探る太陽風と地球磁気圏の結合過程」

遠くまで広がる地球の磁場は、太陽からのプラズマ流である太陽風との相互作用により太陽方向に高度約7万キロの宇宙空間で「磁場の壁」を形成しています。現在私は、この壁で生じる物理プロセスを、極域の高度300 kmに光るオーロラの振る舞いを通して明らかにしようとしています。距離は離れていますが、ある種のリモートセンシングが可能です。未だベールに包まれている3次元構造の時間発展に関心をもっています。このような研究は、オーロラのデータ解析と理論的考察を通して進めるのがオーソドックスなやり方ですが、現象が多面的であるため、人工衛星観測、レーダー観測、モデリングやシミュレーション、あるいはフィールド観測をベースに研究を進めることもできます。こういった多様なアプローチが可能であることを活かして、課題をどのように設定して、どのように解いていくのかを学生諸君と楽しみたいと思っています。



北極域の定常観測システムから送られてくるオーロラ(波長630 nmの光)のデータの例。座標変換を行い地球の上からオーロラを眺める形で表示しています。

## 生物科学専攻

生物科学専攻は、動物学系、植物学系、生物物理学系、霊長類学・野生動物学系の4系からなり、本学にある動物学教室、植物学教室、生物物理学教室の3教室と、生態学研究センター、霊長類研究所、野生動物研究センター、いくつかの協力講座によって構成されており、「霊長類学・ワイルドライフサイエンス・リーディング大学院」にも参画している。京都大学の伝統である生態学、行動学、系統分類学、人類学を中心とした野外研究に重点をおいたマクロ的研究と、細胞の構造や機能、遺伝子の発現、発生、神経伝達、蛋白質の分子構造などを明らかにしようとするミクロ研究を統合し、地球上の多様な生物が織りなす様々な生命現象を対象とした教育と研究を推進している。このように教育・研究に多様性があるのが本専攻の特色となっている。

### Topics

屋久島フィールドワーク実習とそれに続くゲノム科学実習では、フィールドワーク実習で集めたサルなどの糞からDNAを精製し、次世代シーケンサーを使ってホストのゲノムのみならず、エサや腸内細菌のゲノムから食性、健康状態などを判定することでゲノムからフィールドワークまでできる次世代生物学者の育成を行っています。また、これらの実習を海外からの参加者と一緒に英語で行うことで、グローバル時代に通用する生物学者の育成にも力を注いでいます(リーディング大学院の履修単位としても認定)。



屋久島実習でアマゾンやボルネオからの参加者と一緒に議論する学生たち

# 医学研究科

Graduate School of Medicine

■ 医学  
■ 医科学  
■ 社会健康医学系  
■ 人間健康科学系

京都大学大学院医学研究科には、医学専攻、医科学専攻、社会健康医学系専攻、人間健康科学系専攻の4専攻が設置され、100を超える個性あふれる研究分野において、基礎医学、臨床医学、社会医学、医療技術学などの公汎な生命医学の研究が、分子レベルから個体レベルまで幅広く展開されています。それぞれの研究分野の研究室には、独創性あふれる研究を志向する研究者・院生が集い、研究室間の壁をできる限り取り払った形での先端的研究を目指しています。

▶▶ <http://www.med.kyoto-u.ac.jp/>

## 教育理念・目標（人材養成に関する目的）▶

京都大学大学院医学研究科は、医学を、生命科学と理工学を基盤とし、個および集団としての人の健康と疾病を取り扱う統合的な学問と位置づけ、生命現象の根本原理、病気の成因、病態の機構を解明し、その成果を先進的医療と疾病予防に発展させる国際的研究拠点を形成します。これにより、専門領域での深い学識に加え基礎生物学から臨床医学・社会医学までを見通す広い視野を備えた医学研究者の養成を行います。

## 研究科の特色 ▶

### □ 医学専攻（博士課程・4年）

博士課程では、学生が希望する研究領域の研究室における徹底した個人指導によって、医学研究や臨床研究の基盤的な専門知識と技能、研究を企画・遂行できる能力を修得します。これと同時に学生は、臨床医学、基礎医学、社会医学を横断する「大学院教育コース」に所属します。同コースでは、医学研究遂行に必須な基礎的知識や倫理的素養を培うとともに、他の研究領域の教員および学生と向上的に議論する場を提供することによって、広い興味と視野、個別的な知識を統合しようとする視点、他分野の研究者と協力しつつ新たな分野を切り開く能力を養います。この徹底した専門教育と幅広い基盤教育をおのおの縦糸と横糸として結ぶ総合的な大学院教育によって、将来の我が国の医学研究・教育の中核を担う国際的研究者や高度な先端医療を開発しうる臨床家などの指導的人材を養成します。

### □ 医科学専攻（修士課程・2年） （博士後期課程・3年）

修士課程は、医学部以外の学部教育を受けた学生に、医科学分野における基礎知識習得と研究トレーニングの場を提供し、幅広い視野を持つ優れた医科学研究者を養成します。生物関連科目を履修しなかった学生を対象に2年間で医学・生物学の概要および基本的技能が習得できるようカリキュラムが組まれています。最初の4ヶ月間の医科学全般に関する集中講義と実習の後、学生は各々の希望と適性に合った専門領域を、110以上の研究領域から選択することができます。他学部で学んだ専門知識や技術を基礎に、医科学領域での専門的素養と知識・技術を身につけ、新しい時代の医科学研究の推進役となりうる指導的人材を養成し各界に広く輩出しています。

博士後期課程では、入学時から学生が希望する

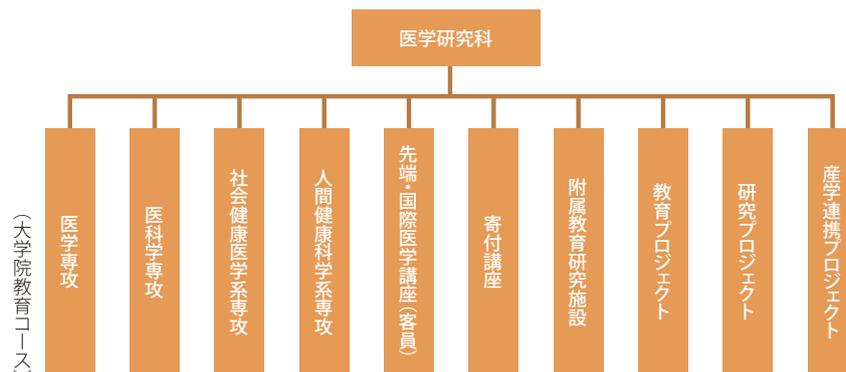
研究領域の研究室における徹底した個人指導によって、医科学研究を自ら企画・遂行できる能力を修得させます。同時に学生は、臨床医学、基礎医学、社会医学を横断する「大学院教育コース」にも所属し、他の関連研究領域の教員および学生との恒常的議論を介して、広い興味と視野、個別的な知識を統合しようとする視点、他分野の研究者と協力しつつ新たな分野を切り開く能力を培います。この徹底した専門教育と幅広い基盤教育をおのおの縦糸と横糸として結ぶ総合的な大学院教育によって、我が国の医科学領域の研究・教育の中核を担う新しい指導的人材を養成します。

### □ 社会健康医学系専攻（専門職課程・2年/1年） （博士後期課程・3年）

専門職学位課程は、「社会における人間」の健康に関わる問題を探知・評価・分析・解決するために必要な知識、技術、態度を備えた、保健・医療・福祉分野における専門職につく多様な人材を養成することを目的として、基礎、応用、実践からなる系統的な教育を行います。具体的には、「基礎教育」では、社会健康医学分野のあらゆる専門家に必要な、コア領域（疫学、医療統計学、環境科学、行政・管理、社会科学）の教育を行い、非医療系出身者には、加えて、医学の基本知識を養うために、基礎医学、臨床医学の概論的教育を行います。これらの基礎教育以外に、さらに「応用教育」として、先端医科学から人文社会科学にわたる多様な選択科目を用意し、応用性、学際性の高い教育を提供することにより、高い素養を備えた専門家を養成します。「実践教育」では、課題研究を全員に課し、研究の企画・倫理審査・実施・発表を経験する中で、知識を統合的に理解させるとともに、専門家に必要な企画力、プレゼンテーション能力、倫理性を涵養します。

こうした系統的な教育を行う一方で、社会健康医学分野において、特に専門性の高い分野の専門家





を養成するために、以下の特別コースを開設し、その養成に努めます。

◇知的財産経営学コース

先端医学の研究成果を知的財産として管理・活用する上で必要な、知的財産経営、技術経営学に関する高度な専門性を有する人材を養成するためのコースです。この目的達成のために、生物学、医学、技術経営学、法学(知的財産法、特許法)の専門知識を受けると同時に、インターンシップによって研究成果の権利化と活用、発明の抽出、周辺特許調査、明細書作成、ビジネスプラン作成、契約書作成などに関する実務教育を行います。

◇臨床研究者養成コース (Master of Clinical Research : MCR)

医師・歯科医師を対象とし、臨床疫学的研究の専門家を養成するための1年制のコースです。学生自身の臨床上の疑問に基づいた臨床研究を計画し、研究プロトコルの作成、研究の実施・マネジメント、得られたデータの基本的な解析処理、結果の解釈、論文作成までを、独力で遂行できる人材を養成します。

◇遺伝カウンセラー・臨床コーディネータユニット

遺伝カウンセラーと臨床研究コーディネータを養成する2つの

コースから構成されます。両コース共に、先端医療に対応できる高度な専門的知識とコミュニケーション能力を持ち、患者・家族・被験者の立場を理解して、新医療とのインターフェースとなりうる人材を総合的に養成します。基礎的教育と実地教育により、それぞれ、「認定遺伝カウンセラー」資格認定試験、日本臨床薬理学会による臨床コーディネータ認定試験に合格できる実力を養成します。

博士後期課程は、「社会における人間」の健康に関わる問題を探知・評価・分析・解決するために必要な知識、技術、態度を備え、保健・医療・福祉分野での高度な学術研究を実施できる人材を養成します。本学専門職学位課程を卒業した学生には、同課程で修得した知識・技術を基盤に、それぞれの目指す専門分野に必要とされる、より高度な知識・技術を教育し、国際的に通用する研究者を育成します。本学専門職学位課程卒業ではない学生に対しては、専門職学位課程のコア領域(疫学、医療統計学、環境科学、行政・管理、社会科学)の修学を課し、また、非医療系出身者には、さらに、基礎医学、臨床医学の概論的教育を課すことにより、格差のない人材育成を図ります。

□人間健康科学系専攻(修士課程・2年)  
(博士後期課程・3年)

修士課程では、高度先進医療を推し進め、更にこれからの我が国にふさわしい保健・医療・福祉を構築するとともに、新しい「人間健康科学」を確立するために、目標とする健康を理論的に体系化し、これを実現するための方法の確立と実践を目指します。このような理念をもとに本課程は看護科学、検査技術科学、リハビリテーション科学のコースを設け、望ましい医療を確実に提供できる高い臨床能力と豊かな人間性を備えた医療専門職を養成し、基礎と臨床の融合と異なる領域との連携を通して京都大学の知財を活用して新たな「人間健康科学」の展開を担う教育者と研究者を育成します。

博士後期課程では、真の健康を創生するための学、人間健康科学の理論を確立し、実践へ展開することを目指します。人間健康科学の分野において主導的な役割を果たすためには専門分野はもちろんのこと他領域にわたる包括的な管理・運営能力が求められます。そこで、本課程は専門分野別のコースに加え近未来型人間健康科学融合ユニットを設け、医・工・薬・理並びに人文系学問との融合により心身の健康の診断、治療、健康増進の理論を構築し、これを実践する方法と技術を確立する、健康の創生に向けた新しい視点に立ち健康科学の発展とこれを担う人材を養成します。

Topics

大学院生紹介

西野 共達さん 医学専攻博士課程 循環器内科学

私は、京都大学医学部を卒業後、市中病院で5年間初期研修医、循環器内科医として勤務した後、循環器内科の研究室で基礎研究を行っています。心血管疾患の克服は悪性新生物とともに、急激に進む高齢化社会の日本において重要な課題の一つです。ヒトの生理的メカニズム、病態生理のメカニズム解明は、新たな診断方法、予防・治療法の開発につながるかと考えています。現在私は、血清 HDL コレステロール(HDL-C)値を左右するノンコーディング RNA である microRNA-33 について遺伝子改変動物を用いて研究しています。多くの疫学研究から HDL-C は動脈硬化、心疾患に対して保護的に作用することが示唆され、HDL-C を上昇させる治療薬の開発が期待されており、microRNA-33 を新規治療ターゲットとして研究開発を行っています。京都大学は、素晴らしい研究環境を備えており、何より素晴らしい人材に恵まれています。世界で活躍する先生から指導をうけ、才能豊かな仲間たちとともに、同じ大志を持って研究に打ち込める得難い経験をしています。また、他分野の研究グループと、それぞれの長所を活かした共同研究も行きやすく、新たな発見への可能性を感じています。皆さんも我々の仲間になってみませんか！



専攻・研究分野

医学専攻(博士課程4年制)・医科学専攻  
(修士課程・博士後期課程)

■基礎医学系・臨床医学系

生体情報科学 形態形成機構学 機能微細形態学  
細胞機能制御学 遺伝薬理学 腫瘍生物学 病態生物医学  
病理診断学 微生物感染症学 免疫細胞生物学 法医学  
医化学 分子細胞情報学 分子腫瘍学 分子遺伝学  
放射線遺伝学 高次脳形態学 認知行動脳科学  
神経生物学 神経・細胞薬理学 公衆衛生学 実験動物学  
先天異常学 疾患ゲノム疫学 ゲノム情報科学 統計遺伝学  
医学教育学 免疫ゲノム医学 法精神医学  
血液・腫瘍内科学 循環器内科学  
消化器内科学 呼吸器内科学 臨床免疫学  
糖尿病・内分泌・栄養内科学 初期診療・救急医学 腎臓内科学  
腫瘍薬物治療学 皮膚科学 発達小児科学  
放射線腫瘍学・画像応用治療学 画像診断学・核医学  
臨床病態検査学 消化管外科学 肝胆膵・移植外科学  
乳腺外科学 麻酔科学 婦人科学・産科学 泌尿器科学  
心臓血管外科学 呼吸器外科学 形成外科学 眼科学  
耳鼻咽喉科・頭頸部外科学 整形外科 口腔外科学  
分子病診療学 臨床神経学 脳神経外科学 精神医学  
輸血医学 病理診断学 医療情報学 薬剤学  
探索医療開発学 医学統計生物情報学 臨床創成医学  
臨床脳生理学 脳機能イメージング

■社会健康医学系

医療疫学 薬剤疫学 医療経済学  
医療倫理学 健康情報学  
環境衛生学 健康増進・行動学 社会疫学

■放射線生物研究センター

ゲノム維持機構研究 クロマチン制御ネットワーク(第一分野)  
DNA損傷シグナル研究 ゲノム動態研究

■化学研究所

ケミカルバイオロジー

■再生医学研究所

細胞機能調節学 生体微細構造学 生体機能調節学  
生体システム制御学 生体分子設計学 発生分化研究  
再生増殖制御学 再生免疫学 組織再生応用  
器官形成応用 臓器再建応用 遺伝子改変動物学 ナノバイオプロセス  
バイオメカニクス シミュレーション医工学

■ウイルス研究所

腫瘍ウイルス生物学 発がん分子機構学 腫瘍ウイルス学  
分子腫瘍ウイルス学 免疫細胞学 感染防御生物学  
細胞生物学 感染病態学 ウイルス感染症学 ウイルス病態学

■原子炉実験所

粒子線生物学 粒子線腫瘍学

■東南アジア研究所

病原細菌学 フィールド医学

■iPS細胞研究所

初期化制御学 幹細胞腫瘍学 分化誘導研究  
疾患再現研究 細胞誘導制御学  
理論細胞解析 幹細胞分化制御学 幹細胞医学 臓器形成誘導  
幹細胞応用研究 神経再生研究

■健康科学センター

疫学・予防医療学

■次世代免疫制御を目指す創薬医学融合拠点

AKプロジェクト(免疫制御学)

■中枢神経系制御薬研究ラボ

TKプロジェクト(生活習慣病・精神医学)

■連携大学院

神経機能学(大阪バイオサイエンス研究所)  
生理活性ペプチド学(国立循環器病研究センター研究所)  
再生応用生物学(理化学研究所)  
ヒト化マウス研究(理化学研究所)  
成育政策科学(国立成育医療研究センター研究所)

■先端・国際医学講座

国際精神医学

社会健康医学系専攻(専門職学位課程・博士後期課程)

医療統計学 医療疫学 薬剤疫学  
ゲノム情報疫学 臨床情報疫学(専門職学位課程・MCRコース)  
医療経済学 医療倫理学 健康情報学  
医学コミュニケーション学 知的財産経営学(専門職学位課程)  
環境衛生学 健康増進・行動学  
予防医療学(健康科学センター) 社会疫学  
健康政策・国際保健学 環境生態学(東南アジア研究所)  
人間生態学(東南アジア研究所)  
遺伝カウンセラーコース(専門職学位課程)  
臨床研究管理学(専門職学位課程)

人間健康科学系専攻(修士課程・博士後期課程)

生活環境看護学 生体防衛・病態看護学 生活習慣病看護学  
クリティカルケア看護学 緩和ケア・老年看護学  
精神看護学 母性看護・助産学  
女性生涯看護学 成育看護学 予防看護学  
公衆衛生看護学 在宅医療看護学  
基礎検査展開学 臨床検査展開学 検査応用開発学  
医療画像情報システム学 医療診断機器学  
先進医療機器開発学 運動機能解析学 運動機能開発学  
臨床認知神経科学 脳機能リハビリテーション学  
近未来型人間健康科学融合ユニット(博士後期課程)

教育プロジェクト

大学院教育コース

<http://www.med.kyoto-u.ac.jp/edcourse/>

医学研究科(4年一貫制一博士課程)は、従来、生理系、病理系、内科系、外科系、分子医学系、脳統御医学系の6専攻に分類された研究分野の研究室に学生を配属させ、そこで指導教員によるマンツーマンの個人指導により教育を行ってまいりましたが、平成17年度からは、従来の研究分野における教育に加えて、医学・生命科学分野における科学技術の顕著な進展に伴う医学研究の個別専門領域の境界を越えた集学的研究の拡大に対応するために設定した12の大学院教育コースにおいて、最新の医学に関する幅広い知識を体系的に、集中的に教育する「大学院教育コース」による教育を開始しました。

平成17・18年度は、文部科学省「魅力ある大学院教育」イニシアティブ経費の支援を受け実施しました。

また、平成19年度からは、これまでの「大学院教育コース」の実施過程で必要性が明らかになった共通教育プログラム(共通導入コース、共通発展コース)を新たに追加し、12の大学院教育コースと統合することにより、包括的総合的医学研究知識と技術を習得し、自主性と独自性を備えた医学研究者の育成を目指しております。

がんプロフェッショナル養成基盤推進プラン

<http://ganpro.med.kyoto-u.ac.jp/>

がんは、わが国の死因第一位の疾患であり、国民の生命及び健康にとって重大な問題となっている現状から、高度ながん医療、がん研究等を実践できる優れたがん専門医療人を育成し、わが国のがん医療の向上を推進するため、平成24年度より、文部科学省「がんプロフェッショナル養成基盤推進プラン」が設けられました。京都大学、三重大学、滋賀医科大学、大阪医科大学、京都薬科大学は、「次代を担うがん研究者、医療人養成プラン」を立ち上げ、連携して優秀ながん研究者、医療人を養成することとしました。

京都大学では、新しいがん医療を創成するための先端的がん研究者の養成に重点を置き、次代のがん研究、がん診療のイノベーションを担う人材、新規診断法や治療法、ケア法を開発できる人材を養成することを目的として、「未来のがん医療の発展」に貢献したいと考えています。

採択課題名/「次代を担うがん研究者、医療人養成プラン」

プロジェクト実施期間/平成24年度～平成28年度

充実した健康長寿社会を築くための総合医療開発リーダー育成プログラム

(詳細は、8ページ)

<http://www.lims.kyoto-u.ac.jp/>

医学研究科では、このほど文部科学省が提唱するリーダー育成の博士課程教育学位プログラムの一環として、工学研究科、薬学研究科の関連専攻とともに超高齢化社会の諸問題を俯瞰して、医療と福祉の統合により地域の中で個々の人の生活を支える『総合医療システム』を構築することを通じて、充実した健康長寿社会の構築に貢献し、総合医療開発リーダーを養成することを目的とする博士課程教育リーディングプログラムを開設しました。



## 研究プロジェクト

### National Bio Resource Project

<http://www.anim.med.kyoto-u.ac.jp/NBR/>

本プロジェクトは、文部科学省がライフサイエンス研究の基礎・基盤となるバイオリソース(動物、植物等)について収集・保存・提供を行うと共に、バイオリソースの質の向上を目指した技術開発等を行うことを目的として、実施している「National Bio Resource Project」で、京都大学大学院医学研究科附属動物実験施設は、このプロジェクト「中核的拠点整備プログラム」の中核機関として選ばれ、研究を実施しています。

### エコチル調査京都ユニットセンター

<http://ecochil-kyoto.jp/>

子どもの健康に環境がどのような影響を与えているかを調査する環境省の全国プロジェクトを京滋地区で行っています。京都市北区・左京区、京都府木津川市、滋賀県長浜市を対象地域として、妊娠中から生後13歳になるまでの子どもの健康状態を追跡調査し、妊婦さんの血液・尿・毛髪、母乳、臍帯血、新生児の血液・毛髪、父親の血液などに含まれる種々の化学物質の検査結果と照合して、より良い環境での出産・育児を目指しています。

### 臨床研究総合センター

<http://www.kuhp.kyoto-u.ac.jp/~iact/>

2012年6月、京都大学医学部附属病院は厚生労働省より、基礎研究、開発段階の臨床研究から市販後の臨床研究までの一連の流れと、そこから新たな基礎研究につながるというイノベーションの循環の中で、医薬品、医療機器等の研究開発を推進し、医療の質に向上につなげていくための拠点、「臨床研究中核病院」として選定されました。この選定と社会的要請(難病治療、医療産業の発展、研究分野における競争力強化等)を背景に、治験を含む臨床研究が効率的かつ円滑に進むように、2013年4月、既存の探索医療センターとEBM研究センター、治験管理センター、医療開発管理部を統合し、臨床研究総合センターを創設いたしました。

### 政策のための科学ユニット

<http://stips.jp/>

大阪大学との連携による人材育成プログラムです。科学技術の倫理的・法的・社会的問題(ELSI)に関する研究と教育を行い、学問諸分野間ならびに学問と政策・社会の間をつなぐことを通じて政策形成に寄与できる人材育成を目指すとともに、政策のための科学に関する量的、質的研究の確立と深化を行っていきます。



## 産学連携プロジェクト

### 医学領域産学連携推進機構

<http://www.kumbl.med.kyoto-u.ac.jp/>

本機構は、国立大学法人にとって「教育」「研究」に次ぐ3番目の責務と云える「研究成果の社会還元」を図る施策として平成14年4月に設置され、医学研究科を中心とする「医学領域」から生み出されるシーズと市場におけるニーズを出会い・融合させ、創薬や医療技術の開発などの産学連携を大きく発展させることにより、病気・病態の克服に貢献します。

### 次世代免疫制御を目指す創薬医学融合拠点

<http://www.ak.med.kyoto-u.ac.jp/>

医学研究科は本邦の大手製薬会社であるアステラス製薬株式会社と共働して、大学の諸領域および共働機関の最先端の要素技術を融合することにより、従来の創薬プロセスのボトルネックを克服するためのイノベーションを創出し、革新的な「免疫制御薬剤と技術」の開発を行います。

### メディカルイノベーションセンター

<http://www.mic.med.kyoto-u.ac.jp/>

少子高齢化社会を迎えた21世紀の日本において、ライフ・イノベーションの促進による医療の質の向上と医療産業の強化は、日本の社会においては重要な課題となっています。そこで京都大学医学研究科においては、創薬におけるオープンイノベーション拠点として本センターを設置し、産学連携による新規医薬品開発を加速するための新たな試みに着手しました。本センターの研究開発活動は、疾病分野ごとの企業と1対1の包括的組織連携プロジェクトとして行われます。各プロジェクトは、京都大学にある総合解剖センターやゲノム医学センター、臨床研究総合センター等のリソースを利用して、臨床サンプルの取得、ゲノム解析、探索臨床試験を遂行します。また、本センターのマネジメントは、京都大学「医学領域」産学連携推進機構のメディカルイノベーション推進室によりサポートされます。

本センターでは、下記の4つのプロジェクトが研究開発活動を開始しています。

**TKプロジェクト**：武田薬品工業株式会社との連携プロジェクトである「中枢神経系制御薬の基礎・臨床研究プロジェクト」は、中枢性肥満、統合失調症を対象とした創薬開発研究を行っています。

**DSKプロジェクト**：大日本住友製薬株式会社との連携プロジェクトである「悪性制御研究プロジェクト」は、がんの制御をめざした創薬開発研究を行っています。

**TMKプロジェクト**：田辺三菱製薬株式会社との連携プロジェクトである「慢性腎臓病の革新的治療法を指向する基礎・臨床研究プロジェクト」は、慢性腎臓病とその合併症の克服をめざした開発研究を推進します。

**SKプロジェクト**：塩野義製薬株式会社との連携プロジェクトである「シナプス・神経機構再生に基づく創薬医学研究」は、アルツハイマー症治療薬の開発を目指した研究開発を推進します。

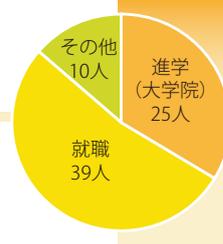
## 進路状況 (平成26年5月)

### 修士課程及び専門職課程修了者の進路状況

〈主な就職先〉 Thai Health Promotion Foundation (タイ)、株式会社イトクロ、株式会社カネボウ化粧品、京都大学、厚生労働省、国立成育医療研究センター、社会医療法人愛仁会法人本部、森ノ宮医療大学、神戸大学、田辺三菱製薬(株) 小林製薬、アシックス、アマゾンジャパン、大津市役所、オムロンヘルスケア

### 博士後期課程修了者の進路状況

〈主な就職先〉 西南大学(中国)、LaJolla Institute(米国)、Pham Ngoc Thach University of Medicine(ベトナム)、The University of Texas(米国)、Toront General Hospital(カナダ)、アスピオファーマ株式会社、プロクターアンドガンブルジャパン、株式会社羊土社、国立循環器病研究センター、国立病院機構京都医療センター、自治医科大学、清住園、聖泉大学、同志社大学、有限責任監査法人トーマツ



円グラフ：修士課程修了者の進路状況

# 薬学研究科

Graduate School of Pharmaceutical Sciences

■薬科学 ■医薬創成情報科学 ■薬学

昭和14年の医学部薬学科の設立、昭和35年の薬学部の設置を経て、平成9年に大学院重点化された薬学研究科は、「諸学問領域の統合と演繹を通じた創造的な薬学の“創”と“療”の拠点の構築」をミッションとして掲げ、薬学の諸学問の最先端研究に挑戦して世界をリードしてきました。

▶▶ <http://www.pharm.kyoto-u.ac.jp/>

## 教育理念と人材養成の方針

薬学は、人体に働き、その機能の調節等を介して疾病の治癒や健康の増進をもたらす「医薬品」の創製、生産、適正な使用を目標とする総合科学であり、多様な基礎科学分野の総合を基盤とする学際融合学問領域と位置づけられる。

薬学研究科は、このような諸学問領域の統合と演繹を通じて世界に例を見ない創造的な薬学の“創”と“療”の拠点を構築し、先端的創薬科学・医療薬学研究を遂行して人類の健康の進展と社会の発展に大きく貢献することを目標とする。

そのため、教育においては、生命倫理を基盤として、薬学の基礎となる自然科学の諸学問と薬学固有の学問に関する知識と技術、および研究者や医療人としての適正な態度を修得し、独創的な創薬研究を遂行する資質・能力を有する薬学研究者、高度な先端医療を担う指導的薬剤師となる人材の育成をめざす。研究においては、薬学の諸学問の最先端研究に挑戦して世界をリードするとともに、創薬科学と医療薬学の統合をはかり、実践的に社会に貢献することをめざす。

このような目標のもと、薬学研究科では、しっかりとした基礎学力と多様な能力、医療人としての適正な倫理性を備え、自己の発想を大切に真理を探究する意欲に富む学生を求めます。

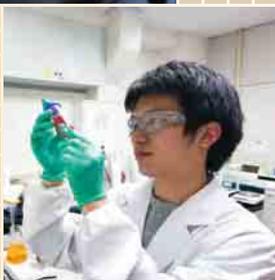
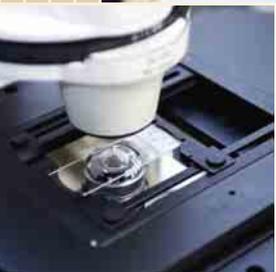
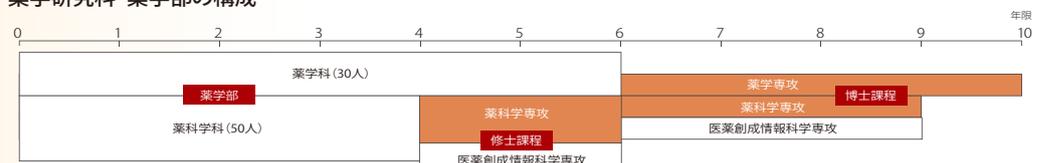
## 薬学研究科の特色

平成18年度からの薬剤師養成のための薬学教育6年制の開始に伴い、薬学部は、高度な医療薬学に対する能力を有する人材の育成を目的とする6年制薬学科と、創薬およびその関連分野に進む人材の育成を目的とする4年制薬科学科の2学科へと改組されました。それに伴って、平成22年度から薬学研究科も、これまでの創薬科学、生命薬科学、医療薬科学の3専攻を、薬学部4年制学科の卒業生を主な対象とする薬科学専攻に改組しました。この改組によって、薬学の基礎となる自然科学の諸学問と薬学固有の学問を分野横断的に研究し、創薬研究者や教育者として求められるレベルの高い総合的な学問的素養と創造性を持った人材の育成をめざします。

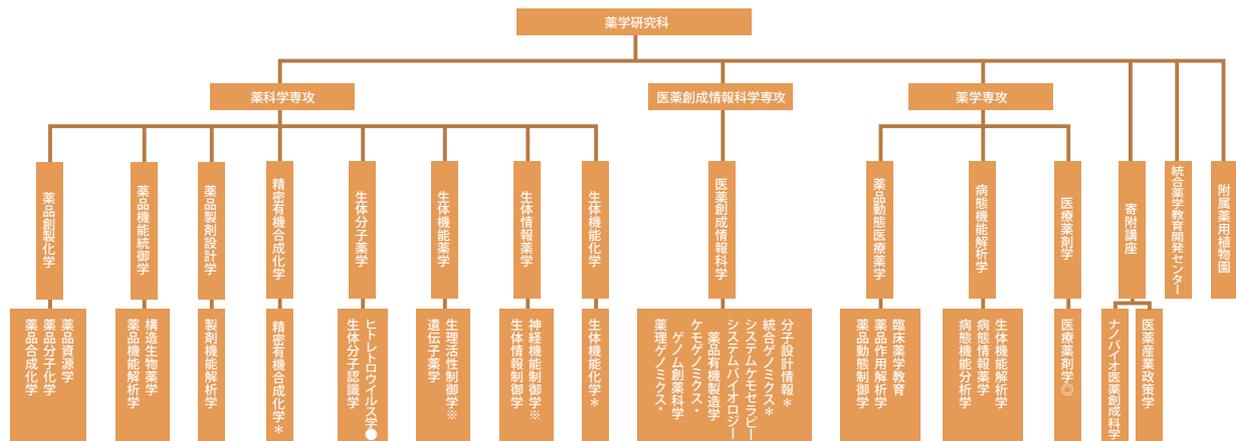
一方、平成19年度に、医薬創成に興味を持つ生命科学系学部および情報科学系学部の卒業生を主な対象として、ポストゲノム時代に対応する次世代の創薬を担う人材の養成を目的とする医薬創成情報科学専攻が新設されました。これによって、薬学の根幹をなす創薬科学と、生物ゲノム情報や生体分子構造などの情報科学の視点を併せ持つ、ポストゲノム時代の次世代創薬を担う人材を育成します。

さらに、平成24年度には、薬科学専攻の博士後期課程に加えて、薬学部6年制学科の卒業生を対象とする4年制博士課程(薬学専攻)を設置しました。これによって、医療薬学を基盤として、薬学の基盤である自然科学各分野と薬学固有の学問に関する研究を実践し、薬剤師職能の基礎となる臨床薬学知識、職業倫理や科学的問題解決能力の涵養を通じて、高度医療の担い手あるいは医療薬学研究者や教育者になる人材の育成をめざします。

## 薬学研究科・薬学部の構成



概略図



専攻等・基幹講座等

薬科学専攻

主として薬学部4年制学科の卒業生および創業に興味を持つ理系学部の卒業生を対象として、薬学の基礎となる自然科学の諸学問(有機化学、物理化学、生物化学など)と薬学固有の学問(薬理学、薬剤学、衛生薬学など)を分野横断的に研究し、創業研究者あるいは教育者として求められるレベルの高い総合的な学問的素養と創造性を持った人材を育成します。

医薬創成情報科学専攻

薬学部をはじめとする生命科学系学部および医薬創成に興味を持つ情報科学系学部の卒業生を対象とし、創業科学と生命情報科学の融合を基盤とし、そのもとで化学遺伝学、生命システム工学、創業情報科学などの先端的薬学について統合的に研究し、ポストゲノム時代に対応する独創的な次世代の医薬品創成を担う力量ある人材を育成します。

薬学専攻

主に薬学部6年制学科の卒業生や医療薬学研究に興味を持つ学生を対象に、薬学関連の基礎科学を基盤として、医療薬学および関連分野の基礎から応用に関する研究を実践し、臨床薬学に対する知的好奇心や科学的問題解決能力の涵養を通じて、高度な先端医療の担い手や医療薬学に携わる教育研究者として求められるレベルの高い知識や技能を身につけた、多様な場で活躍する人材を育成します。



Topics

薬学国際研究交流(平成25年度～)

薬学研究科では、平成25年度より「国際研究交流を中心とした大学院生支援事業」を実施し、大学院生の海外派遣を支援しています。

本プログラムは、薬学研究科に所属する大学院生に3ヶ月間の海外派遣の機会を与えるもので、参加学生には共同研究先の選定から共同研究内容・計画策定のみならず、共同研究契約の締結といった研究交流に必要な実務にも主体的に関与させることで、実践的な国際感覚を有する大学院生・若手研究者を戦略的に養成することを目的としています。

参加学生の滞在先

- Kansas State University (米国)
- University of Massachusetts Medical School (米国)
- University of Pittsburgh (米国)
- University of Toronto (カナダ)
- University of Helsinki (フィンランド)
- Max Planck Institute (ドイツ)

協力講座や他部局との連携について

協力講座として化学研究所、医学部附属病院薬剤部、生命科学研究所、ウイルス研究所などの協力を得て教育・研究を行っています。また、化学研究所バイオインフォマティクスセンターと連携し、医薬創成情報科学専攻の生命情報科学に関して先端的教育を提供しています。さらに、医学部附属病院薬剤部および医学教育推進センターなどと連携し、高度な実践的薬剤師教育を行っています。さらには、医学研究科・工学研究科などと連携し、文部科学省博士課程教育リーディングプログラム「充実した健康長寿社会を築く総合医療開発リーダー育成プログラム」(平成24～30年度)を設置し、高齢化社会の問題点の解決法を創案し、医療・薬学と福祉を統合した総合医療システムの開発を牽引する若手人材の育成を目指しています。一方、農学研究科と連携し、学際融合教育研究推進センターに「生理化学研究ユニット」(平成23年度～27年度)を設置し、食と健康の生理化学の創生を基盤とした先端的研究・人材養成を目指しています。

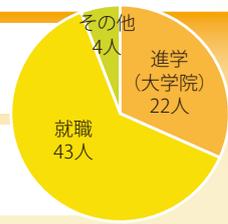
進路状況 (平成26年5月)

修士課程修了者の進路状況

〈主な就職先〉 大正製薬、協和発酵キリン、三洋化学研究所、中外製薬、第一三共、塩野義製薬、アステラス製薬、大塚製薬、持田製薬、田辺三菱製薬

博士後期課程修了者の進路状況

〈主な就職先〉 京都大学(薬学研究科他 助教・研究員)、熊本大学研究員、立命館大学助教、国立循環器病研究センター 研究員、第一薬科大学助教、第一三共、小野薬品工業、大日本住友製薬、ファイザー、大正製薬



円グラフ：修士課程修了者の進路状況

# 工学研究科

Graduate School of Engineering

京都大学大学院工学研究科は17専攻と8センターから成り立っています。数学、物理学、化学、生物学などの技術の基礎となる学理から、工学技術の確立にいたるまで、ノーベル賞受賞者の輩出に代表されるように国内外で高く評価される数多くの研究を行ってきています。現在、桂キャンパスならびに吉田キャンパスを教育・研究の場として活動しています。独創的な研究・開発能力を備えた人材を育成するとともに、産業界との交流も盛んに行い、創造的な先端科学技術により社会に貢献する研究拠点を形成しています。

》》 <http://www.t.kyoto-u.ac.jp/>

## 工学研究科の理念・目的（人材養成に関する目的）

学問の本質は真理の探求です。その中であって、工学は人類の生活に直接・間接に関与する学術分野を担っており、地球社会の持続的な発展と文化の創造に対して大きな責任を負っています。京都大学大学院工学研究科は、この認識のもとで、基礎研究を重視して自然環境と調和のとれた科学技術の発展を先導するとともに、高度の専門能力と創造性、ならびに豊かな教養と高い倫理性を兼ね備えた人材を育成することをめざしています。

修士課程では、広い学識と国際性を修得させ、自ら課題を発見し解決する能力を有する高度技術者、研究者を、博士後期課程では、研究を通じた教育や実践的教育を介して、創造的研究チームを組織し新しい研究分野を国際的に先導することのできる研究者を育成します。この目的を達成するため、工学研究科では、修士課程教育プログラムに加えて、修士課程と博士後期課程を連携する教育プログラムを開設し、豊富な科目を幅広く提供します。

## 工学研究科が望む学生像

工学研究科では、次のような入学者を求めます。

- 工学研究科が掲げる理念と目的に共感し、これを遂行するための基本的能力と意欲を有する人。
- 自ら真理を探求するために必要な基礎学力を有し、既成概念にとらわれない認識力と判断力を有する人。
- 創造的に新しい世界を開拓しようとする意欲と実行力に満ちた人。

## 工学研究科の特色—教育プログラム

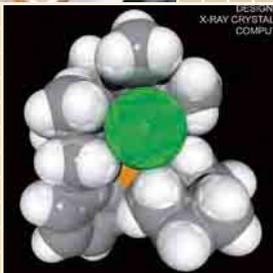
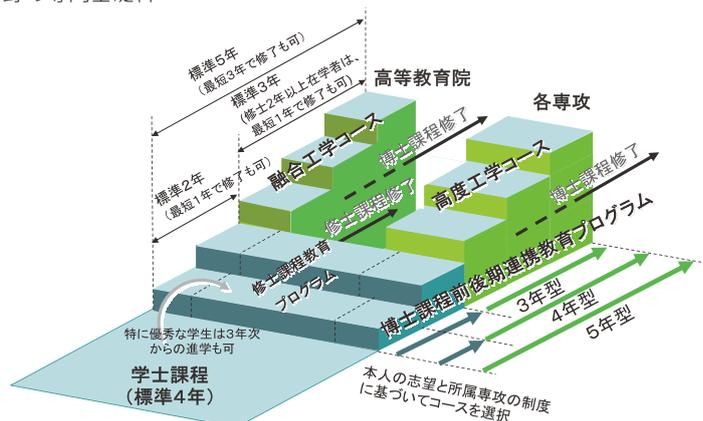
京都大学大学院工学研究科には、修士課程（博士前期課程）と博士後期課程がおかれています。本研究科には、修士課程のみの教育プログラム（修士課程教育プログラム、略称「修士プログラム」）と、修士課程と博士後期課程を連携する教育プログラム（大学院博士課程前後期連携教育プログラム、略称「連携プログラム」）が開設されています。連携プログラムは、博士後期課程まで進学し、将来は研究者として活躍することを旨とする者に対する教育プログラムです。

修士プログラムでは、各専門分野の専門基礎科目の講義を履修すると共に、修士論文研究を通して研究の進め方を学びます。企業、研究機関等の研究者、高度技術者として活躍することを旨とする者に対する教育プログラムです。

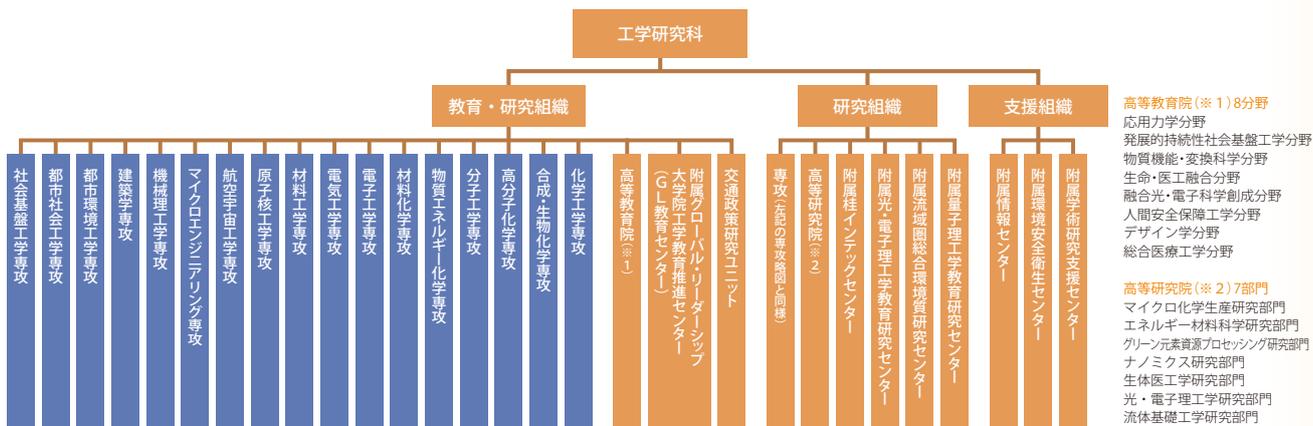
連携プログラムは、系専攻を横断して新設された高等教育院に融合工学コースが、また既存の系専攻に高度工学コースが開設されています。それぞれに在籍期間を修士課程からの入

学年次に応じて3～5年とする3つの型（「5年型」、「4年型」および「3年型」）が開設されています。

連携プログラムの融合工学コースにおいては、主指導教員に加えて原則として2名の副指導教員を定め、履修する学生の目的に応じたカリキュラム構成や進路指導等、綿密な指導を行います。履修生の学籍は、原則として主指導教員が所属する専攻に置かれます。また、学修・研究の進展に応じて、専攻毎に設定される時期に進級審査等が行われま



概略図



教育研究プログラム・人材育成等

大学の世界展開力強化事業



強靱な国づくりを担う国際人育成のための中核拠点

日本と同様に今後大規模災害の発生が想定される ASEAN の大学と連携して中核拠点(世界コンソーシアム)を形成し、東日本大震災からの復興の過程を踏まえながら、強靱な国づくりを担う国際人を育成することを目指します。京都大学と ASEAN の連携大学※の間で、減災/復旧/復興リーダー育成を目指す協働教育プログラム

を開発し、単位相互認定を伴う短期留学による修士・博士後期課程の学生交流及び若手教員の相互派遣を主体とした実践的な教育を行います。

※)タイ:チュラロンコン大学・カセサート大学・アジア工科大学、マレーシア:マラヤ大学、インドネシア:バンドン工科大学、ベトナム:ベトナム国家大学ハノイ

人材育成



<http://www.upl.kyoto-u.ac.jp/>

低炭素社会構築に向けての都市圏政策の立案と実施を担う人材を育成するため社会人を対象とした教育プログラムを平成 21 年度から実施しています。世界の多くの都市圏が低炭素型都市を目指して都市交通政策の大転換を図っているのに対して、わが国の多くの都市圏は、依然として渋滞などの問題を抱え、都市の魅力や風情も失われかねない状況にあります。本プログラムは、従来の需要追従型の都市交通政策の知識から脱却し、世界的なパラダイムシフトを理解したうえで、それぞれの都市圏にふさわしい交通環境を有する低炭素型都市圏の構築に貢献できる官民の都市交通政策技術者を育成することを目的としています。平成 25 年度までに、当初の目標値を大きく上回る 193 名が修了し、そのうち 151 名の社会人の修了者が、京都府管内で活躍しています。この成果が高く評価され、今後、京都府と連携してこの人材育成をさらに発展・継続させ、京都の歴史と文化を保ちながら、京都議定書が採択された地として、環境負荷が小さく、世界に誇ることができるような京都らしい先進的な交通環境を構築することを目的に、京都大学は京都府との連携協定の締結に至っています。また、平成 26 年 5 月 1 日に、「低炭素都市圏政策ユニット」から「交通政策研究ユニット」に改称し、京都府が提示する交通課題に対して調査・分析・検討を行い、国際的な観点から先進的な交通政策の企画・立案を支援するとともに、世界的視野を持った交通政策を担う人材の育成を引き続き行っています。

工学研究科博士後期課程学生支援制度

工学研究科では平成 24 年度より博士後期課程学生支援制度を実施しています。工学研究科基幹講座に在籍する優秀な学生に、少なくとも授業料相当額程度の支援を行うように努めています。博士後期課程への進学に伴う学生の経済負担を少しでも軽減し、勉学に専念できるようにすることにより、社会に貢献できる優れた研究者・技術者を育成します。

工学研究科馬詰研究奨励賞

工学研究科では、博士後期課程へ進学した学生の中で、研究業績・品格ともに優れ、かつ欧米先進国で海外研修等を行おうとする者を、「工学研究科馬詰研究奨励賞」として表彰するとともに、海外研修等に要する渡航旅費、滞在費等相当額を奨学金として給付しています。本馬詰研究奨励賞は、故馬詰彰様のご遺族から工学研究科にご寄附いただいたご遺産を活用し、平成 23 年に設けられた奨学表彰制度です(馬詰彰様は本学工学研究科を卒業後、助手、講師として務められ、その後民間企業でご活躍されました)。平成 23 年度は 14 名、平成 24 年度は 15 名、平成 25 年度は 11 名、平成 26 年度は 14 名、これまでには合計 54 名の学生が採択されました。



## Topics

## 世界をリードする科学技術創造拠点＝桂キャンパス

1997年に創立百年を迎えた京都大学は、21世紀を展望し、大学本部の吉田キャンパス、自然科学系研究所群を配置した宇治キャンパスに続き、工学研究科等の教育研究拠点・科学技術創造拠点となる第三の桂キャンパスを建設中であり、世界をリードするエクセレントユニバーシティとして新たな飛躍を期そうとしています。

2003年10月18日に開校した桂キャンパスは、東西と北を山々に囲まれ、南に向かって開放された京都市にあって、西山の麓、桂川を見下ろす丘陵地に立地し、吉田キャンパスから西南西約11km、宇治キャンパスから北西約13kmの地点にあります。また、近隣の国際日本文化研究センターや京都市立芸術大学との連携により、新時代における学術・芸術文化ゾーンの構築を目指しています。

桂キャンパスは4つのクラスターから成り、Aクラスターには工学研究科の電気系2専攻と化学系6専攻が、Bクラスターには桂インテックセンターと事務管理棟、福利・保健管理棟が、またCクラスターには建築学専攻と地球系3専攻が配置され、2012年には物理系4専攻があらたに配置されました。キャンパスの完成時には約4,000人の学生・教職員を擁し、工学(Technology)と科学(Science)が融合する「テクノサイエンス・ヒル」として、国際水準の卓越した教育研究を推進することになります。

桂キャンパスは、異なる学問分野間の交流や世界各国の大学との国際交流を推進するとともに、産業界や公的研究機関、地域社会との間に垣根のないバリアフリーなキャンパスであることを目標に掲げています。これらの最前線で活動する産官学連携本部(京都大学ローム記念館)と桂インテックセンターを中心に、隣接する桂イノベーションパークの京大桂ベンチャープラザ・京大イノベーションプラザ等との連携を通じて、創造的で提案型の先端科学技術を社会に還元する研究拠点となることが期待されています。



## □桂インテックセンター

工学研究科は、8つの附属センターと附属実験施設、ユニットを保有しています。そのうち桂キャンパスには、桂インテックセンター、情報センター、環境安全衛生センター、光・電子理工学教育研究センター、グローバルリーダーシップ大学院工学教育推進センター及び学術研究支援センターが設置されています。

平成15年に桂テクノサイエンスヒルの中核的なセンターとして開設された桂インテックセンターは、工学研究科を構成する多様な専門分野の研究者が、従来の専攻の枠組みを超えて英知を結集し、工学を基盤とする学際的な応用研究課題に取り組む先端研究拠点として設立されました。センターには5つのオープンラボ及びミーティングルームが設置されており、将来の新研究分野の創造を目指す高等研究院の研究部門や様々な研究プロジェクトが利用しています。桂インテックセンターは、最先端の戦略的研究により新しい技術を創出することを期待されており、世界を視野に入れた対外的な顔として研究交流等も行っています。



## □環境安全衛生センター

京都大学環境憲章にもとづいて、桂キャンパスでは京都大学にふさわしい環境マネジメントシステムの構築を目指しています。そのため、キャンパスの基本設計の段階からエネルギー・マネジメント、化学物質の適正管理、優れた実験環境の確保等に必要の基盤整備に取り組んできました。これらの取り組みは国立大学法人化後の労働安全衛生法への対応にも役立っています。

## □情報センター

桂キャンパスは、京都大学の「自由の学風」に基づく独創的な工学、情報学研究を世界に先駆けて行うため、研究者の要請に応じた自由度の高い先進的情報通信基盤を提供します。吉田・桂・宇治キャンパス間をつなぐ高速ネットワーク(京都大学学術情報ネットワーク)により、それぞれのキャンパスが保有する特徴的な情報資源を、空間に制約されることなく利用することが可能となります。さらに高速、高精細の遠隔会議・講義システムを導入することで、分散型協働研究による新しい分野融合領域の開拓や、マルチメディア教育環境を活用した高度の専門能力を持つ人材育成に貢献しています。

## □グローバルリーダーシップ

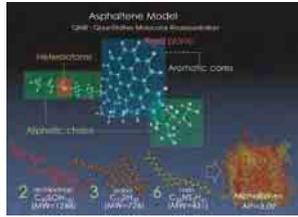
## 大学院工学教育推進センター

工学研究科では、平成20年度から新たな教育プログラム(修士課程と博士後期課程を連携する新教育プログラム:融合工学コース、高度工学コース)を開発し、大学院教育の実質化並びに国際化の推進に向けた取組みを開始しました。さらに工学研究を支える基盤分野での学理の継承・発展と人材の育成をより堅固なものにするべく、工学研究科では教育推進組織として、「工学研究科附属グローバルリーダーシップ大学院工学教育推進センター(略称:GL教育センター)」を平成19年に設立いたしました。

本センターでは、工学部・工学研究科共通教育と国際化対応教育を推進するべく、専門領域・融合領域の研究や教育を担う組織とは全く異なり、科学技術を基盤とする研究者・技術者が修得すべき大学院レベルの教養教育や国際化対応の教育などの「工学部・工学研究科共通科目」を運営・実施し、国際的にリーダーとして活躍するための幅広い素養を有する人材の育成に努めています。

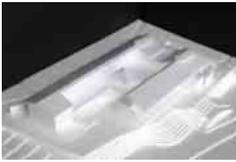
分子シミュレーションを用いて新たな原油増進回収法を探る

発展途上国の経済発展にともない、さらに増加することが予想されている石油・天然ガスの需要増加に因應するため、メタンハイドレートやシェールガス、シェールオイルなどの新規資源の開発に加えて、既存の油ガス田からの石油・天然ガスの取り残しをできるだけ少なくする必要があります。そこで、地下数千メートルの高温高压下にある地層内の油、ガスの特性を調べてコンピュータシミュレーションを実施し、それらの流れを評価するとともに、新たな原油増進回収法を開発するため、図に示すように、油、ガスの分析データに基づいてコンピュータ内にそれらの分子モデルを構築して分子シミュレーションを実施することで、実測が困難な油とガスの特性も評価できるデジタルオイルの研究を進めています。



有機的で多様性に満ちた生活空間の設計理論の構築とデザインの実践

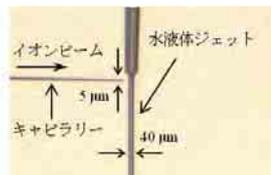
建築設計においては、十分な構造強度や快適な室内環境を物理的に考慮するだけでなく、建物建つその土地ごとの歴史や文化という、目に見えない事柄を検討する必要があります。このため生活空間設計学分野では、社会生活の基盤としての建築をより人間的で意味豊かなものとするために、工学的な技術や知識、さらには芸術や哲学思想をも含んだ幅広い見地から、生活空間が有する意味や成立過程を分析、検証し、有機的で多様性に満ちた生活空間を実現するための設計理論の構築を行っています。また、国内外の設計プロジェクトを通して研究成果の実践的応用を試みることで、理論研究の分析力と、デザインの総合力との相補的融合をめざしています。



設計プロジェクトを通じた実践事例 (模型写真)

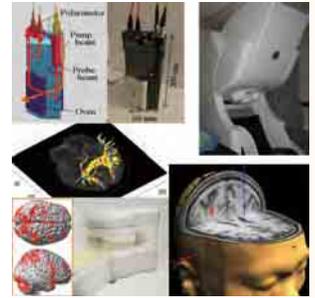
加速器イオンビームによる液体中の生体分子反応ダイナミクス直接観察

人類の生命活動において最も重要な物質は液体の水であり、生体内では液体の水を媒介とした物理化学反応が生じています。原子核工学専攻の量子ビーム科学分野では、加速器から得られる重イオンビームを使って、液体中の原子分子衝突反応を詳細に調べる実験的研究を世界に先駆けて行っています。写真はマイクロイオンビーム液体物質照射装置で、真空中に導入した液体ジェットを高速イオンビームでピンポイントに照射している様子です。この方法により、液体中の生体分子に対してビームからのエネルギー付与により起こる特異な分子損傷ダイナミクスを直接観察することが可能になります。この研究は、放射線によるがん治療、宇宙環境における人体の放射線影響、植物の品種改良などを行う際の物理学的基礎データを提供しています。



非侵襲高次脳機能計測とイメージング

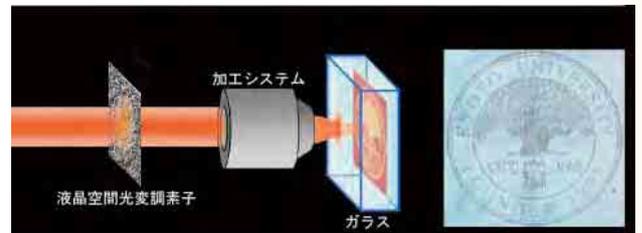
人間の脳が有している高次機能の謎を探り、人類の幸福に役立てて行く技術の開発は今後益々その重要性を増して行くと考えられています。例えば、人間の脳に近い機能をもったロボットなどの知能化機械や、人間に代わって安全に自動運転する乗り物の実現、神経疾患や精神疾患の診断支援、さらに病気や事故で感覚機能や運動機能などに障害をもった人のための機能代行やリハビリテーションといった医療や福祉分野における新技術など、様々な分野で大きな貢献が期待されます。電気系専攻では、この高次脳機能を探るため脳を傷つけずに調べる非侵襲的な計測手法とイメージングに関する最先端の研究を行っています。



写真は、高次脳機能を極微弱な磁場や磁気共鳴画像によって計測する脳磁図とMRI装置、超高感度な光学的磁気センサ、脳機能イメージングの実例を示しています。

レーザーの空間位相分布を制御することによりガラス内部に一括で構造を描画する

平尾研究室では、集光フェムト秒レーザーを用いてガラス内部に三次元構造を作製し、様々な微小光デバイスを開発してきました。従来の方では、構造を1点ずつ描き込むために、時間的・エネルギー的な効率が非常に低かったのですが、フェムト秒レーザーを液晶空間光変調素子に入力することにより、任意の強度の空間分布を持ったレーザーを作り、一回の照射で複雑なパターンを書き込める「一括描画システム」を開発しました。



上の写真は、開発した一括描画システムによってガラス内部に描いた京大のロゴです。従来法に比べて100倍以上の速さで描画できることが示されました。この技術により、効率の面で産業化への壁があったフェムト秒レーザーにブレークスルーをもたらすことができると期待されます。

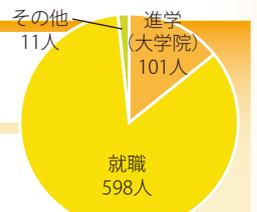
進路状況 (平成26年5月)

修士課程修了者の進路状況

〈主な就職先〉 川崎重工業、西日本旅客鉄道、トヨタ自動車、三菱重工業、IHI、関西電力、三菱電機、大林組、JFEスチール、住友電気工業

博士後期課程修了者の進路状況

〈主な就職先〉 京都大学 (工学研究科他 助教・研究員等)、デンソー、パナソニック、IHI、建設技術研究所、港湾空港技術研究所、住友化学、住友電気工業、竹中工務店、鉄道総合技術研究所



円グラフ：修士課程修了者の進路状況

# 農学研究科

Graduate School of Agriculture

■ 農学

■ 森林科学

■ 応用生命科学

■ 応用生物科学

■ 地域環境科学

■ 生物資源経済学

■ 食品生物科学

農学を広く「生命・食料・環境」に関わる総合科学と位置づけ、分子・細胞レベルから生態系あるいは地域社会に至るあらゆるレベルでの広範な研究活動を行っています。また、これらの研究を通じて得られたバイオテクノロジー等の新技術を活用した生物材料、医薬品、工業原料、エネルギー等の開発や、健康増進に向けての食品機能の強化や安全性などの重要課題にも取り組んでいます。

▶▶ <http://www.kais.kyoto-u.ac.jp/>

## 教育研究の目的 ▶

本研究科は、自由の学風を重んじる本学の基本理念を踏まえながら、世代を超えた生命の持続、安全で高品質な食料の確保、環境劣化の抑制と劣化した環境の修復など、人類が直面している困難な課題の解決に取り組み、本学が目指す地球社会の調和ある共存に貢献することを教育研究の目的としています。

## 人材養成の目的 ▶

教育研究の目的の下、本研究科は、次のような人材を養成します。

学部で養った学識と倫理性をさらに深めることにより、高度な専門知識と研究技術を習得し、かつ、以下のような使命感を持った教育・研究者、企業・公的機関における専門技術者、行政担当・政策立案者

- 1 生命現象の解明、生物の生産と利用、地域から地球規模に至る環境保全等に関する独創性の高い科学を担う。
- 2 農林水産業及び食品・生命科学関連産業の発展に貢献する画期的な技術革新を実現する。
- 3 現代社会の諸問題に様々な角度から取り組み、環境との良好な関係を維持しながら、社会の発展を持続させるためにとるべき施策及び社会のあるべき姿を提起する。

## 農学研究科の特色 ▶

21世紀における地球規模の重要課題として、エネルギー、資源、環境、食料、生命、情報、民族および文化等がありますが、農学はそれら全てに関わっており、その果たすべき役割は、ますます重くなってきております。

これらの課題により一層対処するため、京都大学では、7専攻よりなる農学研究科の改組を平成13年4月に行いました。これによって、大学院は教育と研究が有機的により一体化され、社会の期待に添うことのできる組織となりました。

農学の理念をよく理解し、広い視野でものごとを考える力としっかりとした基礎学力を身につけた農学部卒業生は、その大半が、他学部、他大学の卒業生とともに農学研究科に進学します。

そこでは、高い研究水準を持った熱意のある教員と最新の設備が待ちかまえ、大学院学生の研究意欲を強く刺激します。院生は教員の指導は受けるものの、自由に発想し、自身で考え、計画し、近未来を目指した先端的研究や、遠い将来を見据えた着実ではあるがユニークな研究を行うことができます。

現在、大学院には、中国、韓国、インドネシアをはじめ多くの国々からの外国人留学生約80名が在籍しています。多くの留学生と一緒に勉強することで、知らず知らずの内に国際性が身につくことにもなります。

## アドミッション・ポリシー

教育研究の目的、及び人材養成の目的をふまえ、本研究科は、以下のような人材を求めています。

- 1 幅広い視野と農学の専門分野を学ぶための十分な基礎学力をあわせもち、かつ高い倫理性を身につけた人。
- 2 農学の研究を通じて、社会の発展に貢献するという意識の高い人。
- 3 研究課題を自ら設定する事ができ、その課題に果敢にチャレンジする意欲のある人。
- 4 日本語、外国語を問わず、高いコミュニケーション能力を有する人。

特に、博士後期課程には、農学関連の研究者や高度専門技術者を目指し、それぞれの分野でリーダーシップが発揮できる人材を求めます。



## Topics

## 教員紹介

北島 薫教授

森林科学専攻(熱帯林環境学分野)

## 熱帯林の構造と動態を機能的に理解する

熱帯林が地球上に占める面積はほんの3.6%ですが、地球の生物多様性の約3/4は熱帯林に生息すると推定されます。どのような生態学的メカニズムが熱帯林において多様な生物、特に木本種植物の共存を可能にしているか、は、ダーウィンの時代から現在に至るまで、生物学者が解明したい大きな課題です。様々な熱帯林の樹木種間には光や養分吸収などの生理的なプロセスや、生長や生存に影響する形質の違いがあります。私たちの研究室は、こういった機能形質の違いに注目して、熱帯自然林の様々な植物が、どのように環境要素と相互影響をもちながら次世代へと更新し、全体として生物多様性に富む熱帯林を維持していくか、を調査しています。これらの多様な生物の中には、木材、工業原料、工芸材料、果物などの食料、薬用植物など、人間に有用な資源も多く含まれます。しか

し、木材生産目的の商業的伐採や大規模な農地や植林地への転換などの影響で、熱帯自然林は広大な範囲で失われつつあります。多様な植物種の更新動態を機能的見地から理解することは、残された貴重な自然林の保全を図る上で、また気候変動や人為攪乱によって荒れた熱帯林を修復する効果的な手法を工夫するのにも、役に立つ研究と考えます。所属学生は8名で、うち2名が留学生です。



## Topics

## 研究紹介

阪井 康能教授

応用生命科学専攻(制御発酵学分野)

## 多種多様な微生物機能を人と社会のために活用する!

原始地球に細胞が誕生して以来、微生物はその棲息環境に応じて様々な機能を獲得し進化してきました。この多種多様な微生物から役立つ機能を探して活用することを目指しています。食糧増産に寄与する植物共生微生物、医薬品などの有用タンパク質を高生産する酵母などの有用微生物の開発の他、酵母に特有のセンシング機能を導入したレドックス可視化動物細胞とそれを利用した化合物探索、微生物代謝系を植物細胞に導入しシックハウス症候群の原因物質を吸収する植物の開発など、微

生物機能の高等生物での発現と利用にも成功しています。さらにその礎となるタンパク質代謝など、関連する生化学・分子細胞生物学研究も行っています。このような研究環境の中でスタッフも大学院生も、専門の幅を拡げ、国内外での学会発表、企業との共同研究、留学生との交流など、様々な場を利用しながら、「人としての幅」と「人の輪」を拡げられるよう、日夜努力しています。

## Topics

## 研究プロジェクト

松浦 健二教授

応用生物科学専攻(昆虫生態学分野)

## ロイヤル・エピジェネティクス:社会性昆虫の超長寿化の分子基盤

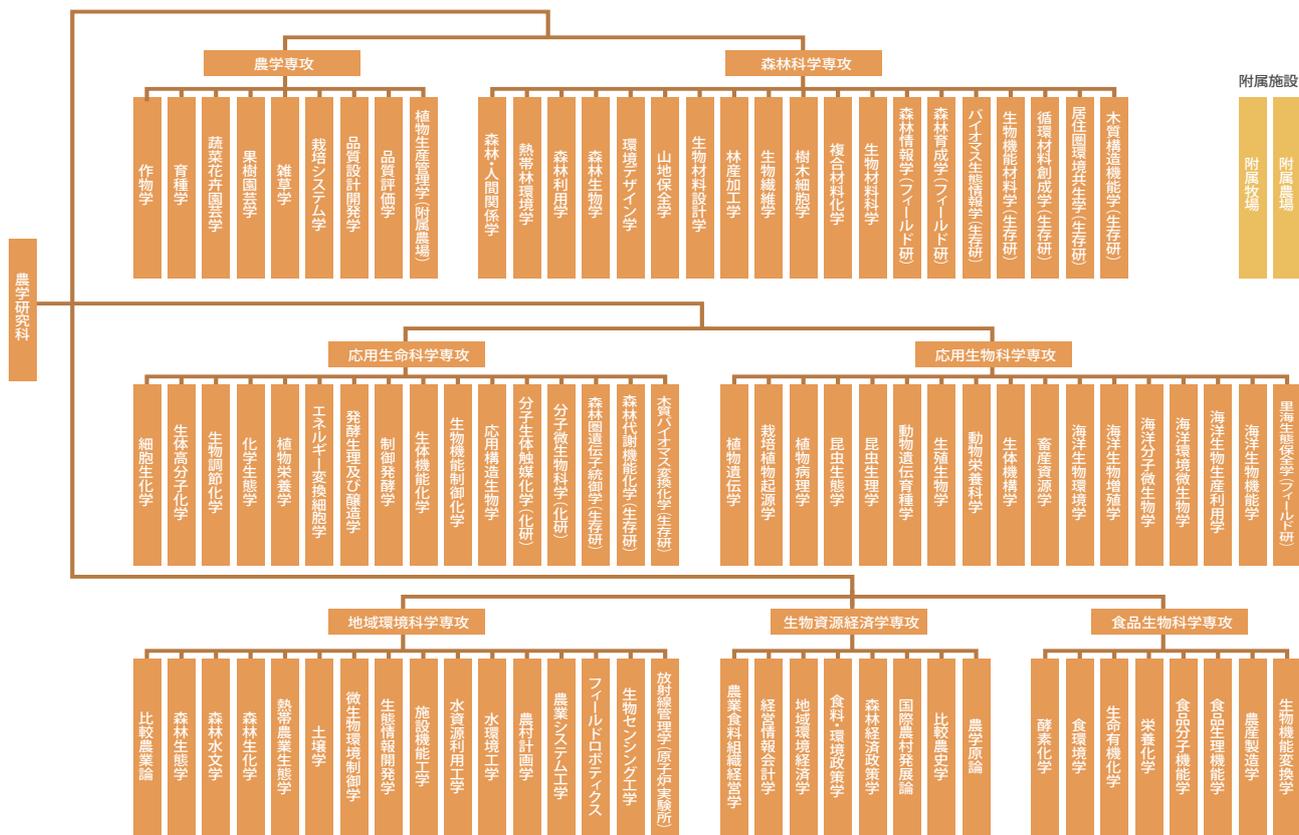
複雑で多様な寿命の仕組みを解き明かすことは、生物学の究極課題の一つです。従来の寿命研究では、線虫やショウジョウバエ、マウスなど各分類群の中でも短命なモデル生物を対象としており、劇的な「長寿」の分子機構については多くが未開拓です。アリ、ハチ、シロアリなどの真社会性昆虫では、女王の寿命が数十年に上る種が稀ではありません。さらに、同じ遺伝子でも社会役割が異なれば遺伝子発現の違いにより、数十倍もの寿命差が生じており、寿命を制御する分子基盤の解明に絶好の材料となります。本プロジェクト(科学研究費助成事業 基盤研究S)では、分子生物学的手法を駆使し昆虫の圧倒的な「長寿」を可能にする分子基盤を解明し、寿命の進化ダイナミズムの統合的理解を目指しています。



## 研究科独自の学生支援について

- 1) 国際交流室を設置し、教職員を配置して、在籍する外国人留学生及び研究者の学習、研究上の支援を行っています。外国人留学生に対する支援としては、日本語教室、プレカウンセリング、研修旅行、ほっこりカフェ等の各種行事を行っています。
- 2) 農学部教育研究基金を設立し、大学院学生等が学術的発表を行うために、海外で開催される国際研究会に参加する経費の一部を助成金として給付しています。

専攻(系・分野) 基幹講座の概要



Topics

在学生紹介

五十嵐 洋子さん 食品生物科学専攻 修士課程 1 回生

研究の面白さを学べる場

私は生命有機化学研究室に所属しており、本研究室では、有機合成を行っている者、細胞を用いて分子生物学的な研究を行っている者、植物中の天然有機化合物の単離・同定を行っている者というように、学生によって異なる研究テーマを持っています。私自身は、有益な生理活性をもつ植物中の天然有機化合物の作用機序について、細胞を用いて研究を進めています。互いに異なる分野についての知識をもつ者同士が集ってセミナーなどを行うため、考えもしなかったような視点からの意見を頂くことができ、とても刺激的で充実した研究生活を送っています。



元々、食品について学び、食品関連の仕事に就きたかったため食品生物科学科に入学しました。食品そのものを扱っている研究室があまり多くないことに驚きましたが、新たな食品を作るために重要な生物・物理・化学的な勉強が出来る場であり、この学科・研究室を選んだ本当によかったと思います。

現在行っている研究は、直ちに世の中の役に立つようなものではありませんし、実験は思い通りに進まないことばかりです。しかし、自分の与えられた研究テーマについて知識を深め、どのような実験を行うべきかを考えて、たとえ思い描いた結果が得られなくても考察やディスカッションをして次に繋げるというプロセスは、今後どんなところに行っても役立つものだと思います。自分で新しい実験手法を見つけてやらせてもらい、見事成功したときなどは最高の気分になります。

Topics

卒業生紹介

北村 祐人さん

和歌山県果樹試験場うめ研究所 研究員

2008年に京都大学農学部を卒業後、農学専攻に進学して果樹園芸学研究室に所属しました。修士課程修了後和歌山県庁に就職し、2012年から現在のうめ研究所で主にウメの育種や開花生理に関する研究を行っています。



在学中と現在の研究はリンクしていることも多く、大学院で得た技術・知識を活かせる職業に就けたことを嬉しく思っています。公設の試験場は主に実際の農業生産現場に活かされる技術を開発するという重要な役割を担っていますが、その技術の元になるのは大学などの先進的な研究により見いだされた知見です。京都大学農学研究科の学生の自律を重んじる風土と最先端の研究環境は、農業を改革するためのシーズを生み出す原動力となっており、そこで学び研究に携わった経験は技術面でも仕事に取り組み姿勢においても、生産者との橋渡しをする上で役立っていると実感しています。

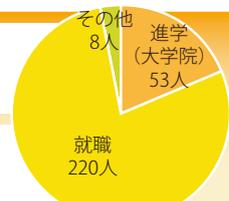
進路状況 (平成 26 年 5 月)

修士課程修了者の進路状況

〈主な就職先〉 サントリーホールディングス、農林水産省、味の素、京都市役所、京都府庁、西日本旅客鉄道、日本たばこ産業、イオンリテール、王子ホールディングス、大塚製薬

博士後期課程修了者の進路状況

〈主な就職先〉 京都大学、味の素製薬、石川県庁、宇都宮大学、大阪体育大学、岡山県農林水産総合センター生物科学研究所、京都府庁、高エネルギー加速器研究機構、甲南女子大学、国立がん研究センター



円グラフ：修士課程修了者の進路状況

## 専攻紹介

## 農学専攻

21世紀の食料生産は世界人口の爆発的な増加に伴って深刻な事態に直面しており、一方で農業を含むさまざまな人間活動が地球環境の悪化や生態系の望ましくない変化を引き起こしつつあります。農学専攻は、農作物および園芸作物の生態系と調和した効率的・安定的な生産と生産物の品質向上の基礎として、作物の生理生態的特性の究明、遺伝変異の探索と遺伝解析、耕地環境の持続的な制御と維持に関わる技術の追求、食料・飼料としての品質の評価・設計などに関する研究・教育を行っています。基幹分野の作物学、育種学、蔬菜花卉園芸学、果樹園芸学、雑草学、栽培システム学、品質設計開発学、品質評価学および協力分野の植物生産管理学の9分野からなり、これらの研究・教育活動を通じて、それぞれの専門分野の高い学識に加えて、総合的に優れかつ国際性豊かな人材育成を目指しています。

## 森林科学専攻

森林は、昔から、人間の生活にとって、必要不可欠な場でした。森林科学専攻(基幹分野：5講座12分野)では、その森林の多面的な機能(生物多様性の保全、地球温暖化の緩和・防止、木質資源の生産、人間の豊かな日常生活の形成など)を学んで、持続可能な社会を構築することを大きな目標としています。

具体的には、「森林生態系の保全と活用」「森林由来の生物資源の活用」「森林と人間の共生」を研究のキーワードとして、さらに詳しく述べれば、「森林生態系の保全と活用」では、森林の構造と動態、森林における物質循環、森林の維持・管理、野生生物の保全・被害防止など、「森林由来の生物資源の活用」では、バイオマスの利活用、木造建築、紙、きのこ生産、木造文化財保護など、「森林と人間の共生」では、森林と文化、里山の保全、自然再生、都市緑化、土砂災害防止などの森林に関するあらゆる課題に対して、幅広い視野に立って、国際的かつ学際的な研究・教育活動を行っており、これらの活動を通して、各方面の分野で幅広く活躍できる人材の育成に努めています。

## 応用生命科学専攻

応用生命科学専攻は、生命がどのような仕組みで生まれ維持されているのかを化学の視点から分子・細胞レベルで理解するとともに、その成果をバイオテクノロジーとして利用し、健康で快適な生活の実現に貢献することを目指しています。

現在私達には、環境劣化を防ぎつつ食糧・エネルギーを確保し、生活の質を向上させて行くことが求められています。このように困難な課題の解決に向け、生物が持つ能力を高度に利用することが今後ますます重要になると考えられます。応用生命科学専攻では微生物、植物、動物を含む広汎な生物を対象とし、物理化学、有機化学、生化学、分子生物学、細胞生理学等を基盤とした研究・教育を通じ、生命現象の深い理解に立脚した独創的な技術を開発し得る研究者・技術者の養成を目指しています。

## 他部局との連携や協力講座について

農学研究科では、協力講座として附属農場に1分野、フィールド科学教育研究センターに3分野、生存圏研究所に8分野、化学研究所に2分野、原子炉実験所に1分野あり、地球環境学舎・学舎とは協働分野として連携体制をとっています。

## 応用生物科学専攻

応用生物科学専攻では、陸地ならびに海洋に生息する微生物から高等動植物にわたる多様な生物を対象に、生物資源の生産・利用・加工の諸側面に含まれる化学的・生物学的原理の探究とその応用に関する様々な分野の教育・研究に携わっています。すなわち、微生物、動物、植物などの幅広い生物を対象として、それ自身について、その生命機能を生物学、化学、生化学、物理学、生理学、分子生物学などを基盤として多面的にそして同時に深く探究・理解する一方(バイオサイエンス)、得られた学術的成果を農、医薬、食品を初めとする生活関連有用物質の高度な生産や利用に適用することを指向しています。この方向性に基づく形で、専攻内の各研究分野では多様な先端的研究が実施されており、その学際的融合も盛んに行われています。当専攻では、このような特色を最大限に生かすかたちでの基礎教育、先端教育、および学生実習を実施しています。

## 地域環境科学専攻

人類は本来それぞれの地域で、その地域における自然環境に適合した生産活動を行い発展してきました。

しかしながら、近代の工業発展・人口増加・物質文明化は、一方において深刻な環境問題をもたらした結果、われわれは今や人類の存亡に関わる危機に直面しています。そこで、地域固有の自然のこころ・多様性を深く理解することにより環境問題が生じてきた基礎原因を見いだしてゆくこと、問題解決に必要な生産活動・生活の在り方を確立することが強く求められているのです。

地域環境科学専攻は、環境問題を診断し治療の対策を立てる重責を果たすため、都市・農村・里山・熱帯地域から地球全体を視野に入れ、微生物・昆虫をも含めた生態系の動態、水循環や土壌保全、農村の生産や生活、農業生産技術などを対象とした多角的な調査・実験・技術開発の研究を展開しています。環境を守りつつ自然のめぐみを持続的に享受できる豊かな社会を次世代に向けて築くことが、我々のめざすところです。

## 生物資源経済学専攻

現代社会が直面する問題のなかで、食料・環境・農業に関連する諸問題は、ますます深刻化し、それを解決するための政策へのニーズが増しつつあります。

生物資源経済学専攻では、このような時代の要請に応えるべく、自然科学的な知識を踏まえた上で、経済学、経営学、社会学、歴史学などの人文・社会科学的研究手法を用いた研究・教育を行っています。

具体的な研究課題としては、農林業、食品産業、消費者を結ぶフードシステムの研究、地域社会・経済活性化政策の研究、地球規模の環境問題、および、地域農林業と環境保全の研究、途上国における資源利用・貧困削減政策の研究、農業・農村問題の比較的研究、食と農の文化・社会・思想的視点からの研究などがあり、人文・社会科学の諸理論を基礎としながら、フィールド・ワークの手法を取り入れた教育に特徴があります。

## 食品生物科学専攻

食品生物科学専攻は、化学、生物学、物理学を基盤とし、ヒトを含む生命体における生命現象の解明を通じて、食品・食料に関わる諸問題の解決を目指しています。

食品生命科学、食品健康科学、食品生産工学の3つの基幹講座(8分野)より構成され、食品、化学、製菓分野などで幅広く活躍できる人材の養成を行っています。

食品生命科学講座では生命現象ならびに食品素材を化学・物理学的な観点から考究し、食品健康科学講座ではヒトと食品のかかわりを栄養・生理学的な観点から解明し、食品生産工学講座では化学工学や遺伝子工学的手法を導入した新たな食品開発の基盤を確立する基礎教育ならびに先端的研究を行っています。

# 人間・環境学研究所

Graduate School of Human and Environmental Studies

■ 共生人間学 ■ 共生文明学 ■ 相関環境学

平成3年4月に京都大学における最初の独立研究科として創設。平成15年4月より、ともに教養部を母体として設立された総合人間学部と一体化し、現在の3専攻14講座制に至りました。約160人の教員のもとで、修士課程164名、博士後期課程68名を受け入れています。

▶▶ <http://www.h.kyoto-u.ac.jp/>

## 教育方針と教育理念（人材養成に関する目的）▶

### 人間・環境学研究科の教育研究上の目的

人間・環境学研究科は、環境、自然、人間、文明、文化を対象とする幅広い学問分野の連携を通じて、人間と環境のあり方についての根源的な理解を深めるとともに、人間と環境のよりよい関係を構築するための新たな文明観、自然観の創出に役立つ学術研究を推進することを目指します。また、こうした研究活動を推進するなかで、人間及び環境の問題に対して広い視野、高度な知識、鋭い先見性をもって取り組むことのできる研究者、指導者、実務者を養成することを目的とします。

## 人間・環境学研究科の特色 ▶

人文、社会、自然科学の広範な学問領域をカバーしているところが最大の特色であって、この特色を生かし、従来の諸学問を新しいパラダイムのもとで再編・統合することを目指しています。設立当初からの理念である「限りある自然と人間の共生」を指向し、「持続的社会的構築」という緊急かつ現実的な課題に応えるために、関連する様々な領域をつらぬいて新領域を切り開く統合知を究明していきます。

専任教員のみならず、学内の他部局（大学院地球環境学堂、人文科学研究所、化学研究所、高等教育研究開発推進センター、ウイルス研究所附属感染症モデル研究センター、環境安全保健機構附属放射性同位元素総合センター、放射線生物研究センター、学術情報メディアセンター、こころの未来研究センター、国際高等教育院）、ならびに学外機関（独立行政法人国立文化財機構京都国立博物館、独立行政法人国立文化財機構奈良文化財研究所、独立行政法人国立特別支援教育総合研究所、独立行政法人情報通信研究機構）の協力を得て、研究・教育体制をより充実したものとしています。

## ▶▶ 専攻等・基幹講座等

### 共生人間学専攻

人間社会論／思想文化論／認知・行動科学／数理科学／言語科学／外国語教育論

「人間相互の共生」という視点に立ち、人間と環境の相関関係において人間の根源を探究しつつ、現代社会の具体的な諸課題に取り組み、社会的要請に柔軟に応えられる研究者、指導者、実務者の養成を目指します。

### 共生文明学専攻

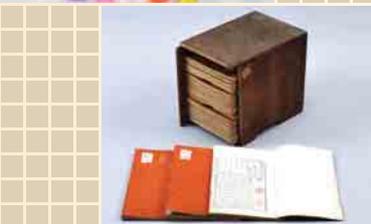
現代文明論／比較文明論／文化・地域環境論／歴史文化社会論

共生・融和の可能性を追求するため、多様な文明の間にもみられる対立・相克の構造を解明するとともに、歴史・社会・文化の諸相にわたって複雑にからみあう文明の諸問題に新たな見地から取り組み、解決の方向性を示すことのできる研究者、指導者、実務者の養成を目指します。

### 相関環境学専攻

共生社会環境論／分子・生命環境論／自然環境動態論／物質相関論

人間と自然環境の関わりを包括的に理解することを目指した基礎研究を展開するとともに、自然と人間の調和を図るために必要な新しい社会システムの確立に、高度な見識と科学的・論理的判断力をもって貢献することのできる研究者、指導者、実務者の養成を目指します。



## 他部局との連携や協力講座について

共生人間学専攻	11. 人間社会論講座	こころの未来研究センター	独立行政法人 国立特別支援教育総合研究所
	12. 思想文化論講座		
	13. 認知・行動科学講座	こころの未来研究センター	国際高等教育院 独立行政法人情報通信研究機構 未来 ICT 研究センター
	14. 数理科学講座		
	15. 言語科学講座	学術情報メディアセンター	独立行政法人情報通信研究機構 知識創造コミュニケーション研究センター
	16. 外国語教育論講座	高等教育研究開発推進センター	
共生文明学専攻	21. 現代文明論講座		
	22. 比較文明論講座		
	23. 文化・地域環境論講座	大学院 地球環境学学舎	人文科学研究所 独立行政法人国立文化財機構 奈良文化財研究所
	24. 歴史文化社会論講座	独立行政法人国立文化財機構 京都国立博物館	
人間環境学専攻	31. 共生社会環境論講座	大学院 地球環境学学舎	
	32. 分子・生命環境論講座	化学研究所	大学院 地球環境学学舎 放射線 生物研究センター 放射性同位元素 総合センター
	33. 自然環境動態論講座	大学院 地球環境学学舎	ウイルス研究所 附属感染症モデル研究センター
	34. 物質環境論講座	放射性同位元素 総合センター	国際高等教育院

(   : 学内他部局   : 学外部局 )

## 学際教育研究部

学際教育研究部は、高度の大学院教養教育と、学内外との共同研究を推進する人間・環境学研究科の部内センターです。大学院教養教育として、現在、1) 模擬授業、2) ディベート式授業、3) 外国語による授業、4) 異分野交流おもしろゼミの4事業を行っています。さらに、院生の知識や感性の涵養に資する講演会などの事業の援助を行っています。

また、2011年11月にはフランス人間科学研究財団(FMSH)と研究交流及び協力の基本協定を締結し、日仏間の交流と協力を図っています。

## 共同研究

### 風雅のまちづくり、メタ自然学、心が生きる教育

人間・環境学研究科は2008年4月に京都市・長浜市と連携交流協定を結び、2009年4月より湖北観光情報茶屋四居家の一角に、教員、院生が地元市民の方々とコミュニケーションを保ちながら、風雅のまちづくりを研究していくための「京都大学風雅のまちづくり長浜研究所」を開設しています。2009年度からは長浜市とともに「庭とコミュニティー」と題したシンポジウムの開催、研究調査活動を行っております。

また、風雅のまちづくりでの調査研究活動をもとにした催し物や、国際シンポジウムも行っています。

## 研究紹介

### 「労働環境法」

人間環境学専攻 共生社会環境論講座 小畑 史子教授

職場で事故の危険が放置されたり、過労死の恐れがあっても改善策がとられなかったり、いじめやハラスメントが蔓延している等、労働環境に問題があれば、人は安心して働くことができません。そのようなことがないよう立法・行政・司法の仕組みはうまく機能しているか、また、今後よりよい労働環境を作っていくためにどのような法整備が必要かを研究することは、過労死・過労自殺やブラック企業、パワハラ等の問題が深刻化している現在、ますます重要になっています。本研究科で、法律学のみならず経済学、公共政策学、教育学、心理学、医学、工学等多様な学問分野の知見を参照しながら、労働環境改善のための法や制度のあり方を研究しています。

### 「情報ハイディング・画像解析・情報視覚化」

共生人間学専攻 数理科学講座 日置 尋久准教授

私の研究室では、主に情報ハイディングの研究に取り組んでいます。情報ハイディングは、画像、映像、音声、テキスト、ソフトウェアなど、さまざまなデジタルコンテンツを対象として、コンテンツの品質、利用可能性を保ちつつ、コンテンツにそれとは不可分な形で別のデータを埋め込むことで、コンテンツの著作権保護、コンテンツを利用した秘密情報の保護、あるいはコンテンツへの価値の付加を実現しようとする技術です。コンテンツの品質を損なうことなくデータをどれだけ埋め込めるか、コンテンツが編集された場合でも埋め込みデータが読み出せるかといったことが主な課題となります。情報ハイディングの他にも、画像・映像の解析に基づく研究、大量の情報を分かりやすく視覚化する研究にも取り組んでいます。

## Topics

### 院生の受賞

人間環境学専攻修士課程 物質環境論講座

佐藤 万純

第6回触媒表面化学研究発表会 優秀研究賞 (平成25年11月1日)

題目: 融剤法により調製したチタン酸ナトリウム光触媒による二酸化炭素還元反応

The Seventh Tokyo Conference on Advanced Catalytic Science and Technology(TOCAT7) The Best Poster Award (平成26年6月1-6日)

題目: Sodium Hexatitanate Photocatalysts Prepared by A Flux Method for Reduction of Carbon Dioxide with Water

第5回触媒科学研究発表会 優秀ポスター賞 (平成26年6月13日)

題目: Preparation of CaTiO<sub>3</sub> photocatalysts by a flux method for reduction of carbon dioxide with water

第12回触媒化学ワークショップ 最優秀ポスター賞 (平成26年8月3-5日)

題目: 二酸化炭素還元のためのチタン酸塩光触媒に対する融剤の影響

共生人間学専攻博士後期課程

認知・行動科学講座

萩生 翔大

第22回日本運動生理学会若手研究者優秀賞 (平成26年7月19日)

題目:「筋シナジーに基づく歩行と走行の相転移の解明」



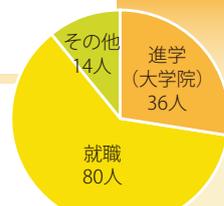
## 進路状況 (平成26年5月)

### 修士課程修了者の進路状況

〈主な就職先〉 中日新聞社、日立製作所、宇宙航空研究開発機構、アステラス製薬、トヨタ自動車、三井化学、三菱UFJモルガン・スタンレー証券、住友商事、新日鉄住金化学、立命館中学校・高等学校教員

### 博士後期課程修了者の進路状況

〈主な就職先〉 シグマキス、京都大学大学院人間・環境学研究科研究員、国立スポーツ科学センター、人間文化研究機構特任助教、早稲田大学グローバルエデュケーションセンター助手、大阪体育大学助手、大阪大学外国語学部助教、東京芸術大学美術学部建築科助教、奈良県立橿原考古学研究所、八王子学園八王子高等学校教員



円グラフ: 修士課程修了者の進路状況

# エネルギー科学研究科

Graduate School of Energy Science

■ エネルギー社会・環境科学

■ エネルギー基礎科学

■ エネルギー変換科学

■ エネルギー応用科学

エネルギー科学研究科では、エネルギー持続型社会形成を目指して、理工系に人文社会系の視点を取り込みつつ、学際領域としてのエネルギー科学の学理の確立をはかり、地球社会の調和ある共存に寄与する、国際的視野と高度の専門能力をもつ人材を育成しています。

▶▶ <http://www.energy.kyoto-u.ac.jp/>

## 教育方針と教育理念（人材養成に関する目的）▶

エネルギーの安定供給ならびに環境の保全是、社会の持続可能な発展にとって重要な課題です。このような持続型社会を実現するためには、エネルギー・環境問題に関する先端的研究を実施しうるだけでなく、同問題への高い意識と解決の方法論・技術を有する人材を育成することが不可欠です。この観点から、次のような人材の育成を目指しています。

- 1 学際的領域であるエネルギー科学について、それに関連する幅広い学術の進展や社会・経済の変化に対する十分な適応力、ならびに広い視野と総合的な判断力を持って、その確立と一層の発展に貢献する先端的研究者
- 2 エネルギー・環境問題の改善を目指して、多様な組織体において高度な技量を持って活躍し、社会に貢献する先端的研究者ならびに高度技術者
- 3 エネルギー・環境問題を広く理解し、教育・広報・政策立案・行政を通じて、国内社会のみならず国際社会にも貢献する先導的教育者ならびに高度実務者

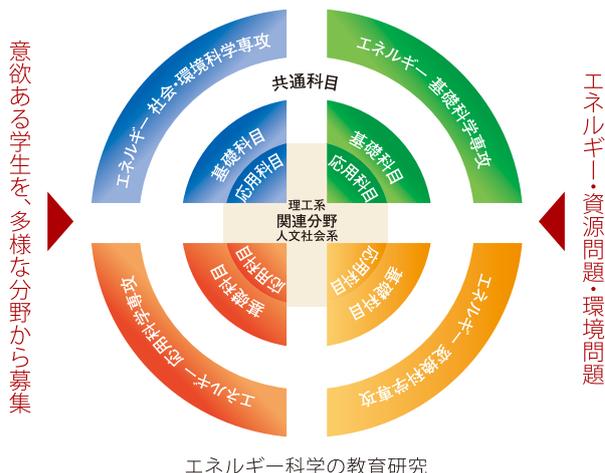
## アドミッションポリシー▶

上記の理念のもとに学部や大学、学生や社会人、国内や国外を問わず、次のような入学者を求めています。

- ・ エネルギー・環境問題の解決に意欲を持つ人
- ・ 既存概念にとらわれず、創造力にあふれる個性豊かな人
- ・ 新しい学問・研究に積極的に挑戦する人

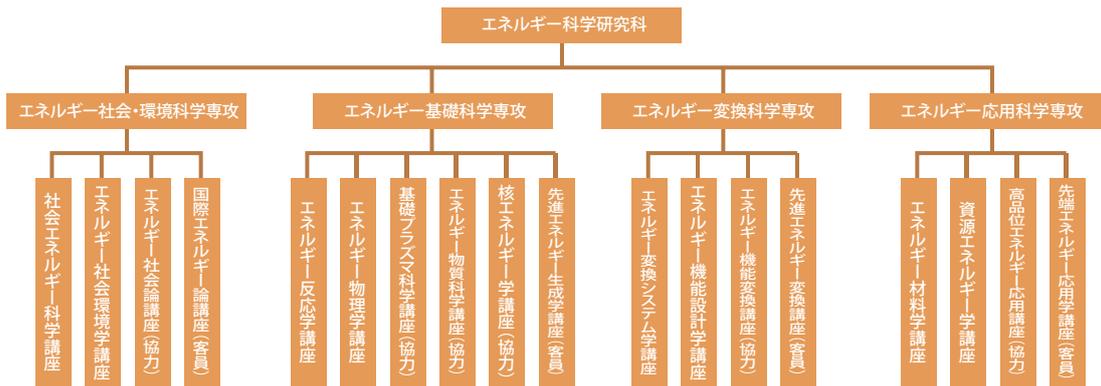
## エネルギー科学研究科の特色▶

国際的な広い視点と多角的な知見のもとにエネルギー・環境問題を解決することができる人材を育成することは、エネルギー科学研究科の重要な使命です。そのためには、大学院の課程で自然科学と社会科学の双方にわたる幅広い学識を身につけ、それらを総合的に活用する能力を養うことが必要です。そこでエネルギー科学研究科では、自然科学のみならず社会科学をも含む多彩な授業科目や、他専攻セミナー、学外研究プロジェクトなどを特徴とする従来にはない新しいカリキュラムを実施しています。また、海外からの留学生を積極的に受け入れるため、海外から応募・受験が可能で、英語による授業科目の履修のみで修了できる国際エネルギー科学コースを提供しています（国際エネルギー科学コースの詳細は次ページ参照）。



エネルギー科学の教育研究

概略図



専攻等・基幹講座等

エネルギー社会・環境科学専攻

～環境と調和するエネルギー、社会システムを求めて～  
 人間社会や地球環境と調和しながら 21 世紀の人類文明の持続的発展を可能にするため、エネルギー社会・環境科学専攻においては、エネルギー問題を社会的、経済的、環境的、技術的側面から総合的に分析・評価し、理想的なエネルギーシステムの構築を目指しています。

エネルギー基礎科学専攻

～エネルギーを探求する新しい基礎科学～  
 量子化学、物理化学、物質化学などの「化学」と、量子力学、電磁気学、統計力学、物性物理学、核物理学などの「物理学」を基盤にして、エネルギー問題解決に貢献するための基礎科学についての教育と研究を行っています。

エネルギー変換科学専攻

～未来のエネルギー変換システムとその機能設計～  
 地球環境と共生できる人間社会の発展に資することを目的とした高効率クリーンエネルギーシステムの構築を目指し、各種エネルギーの発生、変換、制御、利用などに関する学理とその総合化について、理工学的立場から教育・研究を行っています。

エネルギー応用科学専攻

～人類の持続的発展のための地球環境調和型プロセスの展開とそれを支えるエネルギー応用科学の確立をめざして～  
 エネルギーの応用と利用に関する熱科学の基礎と応用およびエネルギーを有効に利用するための新プロセスと機器の開発、その基礎原理の解析、高品位エネルギーと先端エネルギーの応用についての新技術の開発を目指して、これらを支える資源エネルギー安定供給システムの創出、エネルギー材料プロセスおよびエネルギーの開発に付随する諸現象の解明と探求、ならびに関連する基礎科学について教育・研究を行います。

他部局との連携や協力講座について

エネルギー科学研究科は、上記の 4 専攻からなり、エネルギー理工学研究所、原子炉実験所、人間・環境学研究所の協力のもと、基幹講座 22 分野、協力講座 17 分野で構成されています。また、工学部、理学部、農学部を兼担すると共に、英語開講科目を含めて全学共通科目やポケットゼミを 30 科目以上担当しています。

Topics

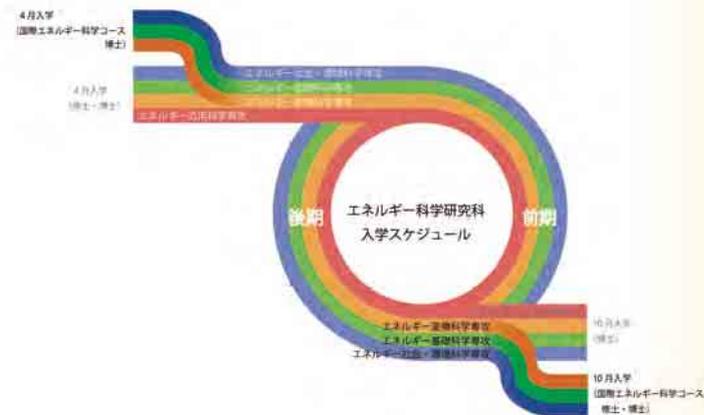
□次世代型ナトリウム二次電池の研究開発

再生可能エネルギーとして太陽光発電や風力発電が期待されていますが、これらを大規模に導入するためには負荷平準化のための大型二次電池が大量に必要になります。溶融塩やイオン液体を電解質に使い、さらにナトリウムを用いることで、高性能で安全性が高く、安価な大型二次電池の実現が期待できます。写真は、そのような電池を開発するために、不活性ガス(アルゴン)雰囲気グローブボックス中で試験電池を組み立てている様子です。手前の充放電試験装置にセットして種々の条件で充放電させて性能を評価します。このような研究により、再生可能エネルギーの普及に貢献することを目指しています。



国際エネルギー科学コース

2009 年度から開始された文部科学省の「国際化拠点整備事業 (グローバル 30)」の拠点大学の一つとして京都大学が採択されました。エネルギー科学研究科では、その事業の一環として、研究科内に国際エネルギー科学コースを開設しました。このコースでは、特に修士課程において英語による授業科目の履修だけで修了できるように、新たな枠組みを設けています。エネルギー科学研究科では、エネルギー社会・環境科学専攻、エネルギー基礎科学専攻、エネルギー変換科学専攻の 3 専攻で国際エネルギー科学コースを運用し、2010 年 10 月から修士課程の学生を受け入れています。また、2012 年 10 月から博士後期課程の学生を受け入れています。本コースは、留学生の受け入れを容易にすると同時に、日本人学生の国際性を養うことも目的としています。これにより、一層国際化した研究・学習の場を提供します。



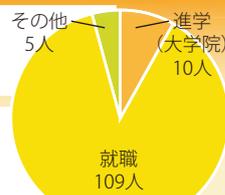
進路状況 (平成 26 年 5 月)

修士課程修了者の進路状況

〈主な就職先〉 トヨタ自動車、関西電力、川崎重工業、日産自動車、三菱電機、三菱重工業、東芝、島津製作所、日立造船、新日鐵住金 など

博士後期課程修了者の進路状況

〈主な就職先〉 京都大学大学院エネルギー科学研究科 (役職: 研究員)、日立製作所、ダイヤモンド社、CD-adapco、理化学研究所、日本原子力研究開発機構、原子力安全システム研究所、自然科学研究機構 核融合科学研究所、Hanoi University (ベトナム 役職: 研究員)、Sliryu University (インドネシア 役職: 研究員) など



円グラフ: 修士課程修了者の進路状況

# アジア・アフリカ地域研究研究科

Graduate School of Asian and African Area Studies

■ 東南アジア地域研究

■ アフリカ地域研究

■ グローバル地域研究

本研究科は、1998年4月、わが国で最初の地域研究に関する研究者や専門家を養成する機関として設立されました。当初は東南アジア地域研究専攻とアフリカ地域研究専攻の2専攻体制で出発し、2009年4月にはイスラーム地域研究と南アジア・インド洋地域研究が中心となりグローバル地域研究専攻を新たに発足させ、3専攻体制となりました。

》》 <http://www.asafas.kyoto-u.ac.jp/>

## 人材養成の目的

21世紀を迎えた現在、地球、地域、人間の共生の重要性がますます広く認識されています。その共生のためには、言語文化領域や民族、国民国家と関連しつつも位相を異にする地域についての総合的で深い理解が必要です。そしてそのためには、生態、社会、文化、歴史の交差する場である地域に関わる文理融合的な知を蓄積することや、フィールドワークをとおして地域の固有性と多様性を十分に把握することが要請されます。また、特定地域のことを深く理解するには、世界的な視野にたつて地域間の比較も考慮に入れたうえで、地域の位置づけを考えておくことも必要です。

本研究科では、アジア・アフリカを対象として、そのような認識の上にたち、また自由と自主性を重んじる本学の学風のもと、地域を総合的に捉えながら問題群を発見し、それに積極的に取り組んでいくことができる先導的な地域研究者および地域実務者の養成を目指しています。

## 研究科の特色

本研究科の標準的修業年限は5年です。この年限内に必要な研究指導を受けたうえ、所定の単位(40単位以上)を修得し博士論文を提出して、その審査および試験に合格した者には、「京都大学博士(地域研究)」の学位を授与します。

### 1. 地域研究の基礎的な問題とアプローチの方法の習得

学生は多様な学部出身者、留学生、社会人から構成されていますので、研究科教員がオムニバス形式で担当する地域研究論とアジア・アフリカ地域研究演習で、アジア・アフリカ地域研究に関する基礎的な問題とそれらに対するアプローチの方法を学びます。

### 2. アジア・アフリカ地域に関する広範な専門的知識の習得

講義は、専攻科目と研究科共通科目から構成され、原則として半期の受講で単位が取得できます。学生は、1・2年次に各指導分野の講義と特殊講義、及び専攻内の関連科目を中心に履修し、3年次以降には、研究科共通科目や他専攻の科目も受講して、広範な専門的知識の習得を目指します。

### 3. 指導教員群制の採用

本研究科では、学生が自らの研究テーマに応じて申告した3名の専門分野を異にする指導教員の1名が主旨指導教員となって、学生の研究指導に当たります。

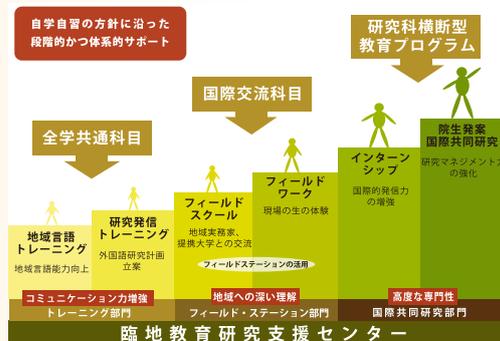
### 4. フィールドワークの重視

指導教員群との相互討論によって自らの問題意識を明確にし、主体的にフィールドワークをおこない、その成果をまとめて研究指導の認定を受けます。このような課題研究を積み上げて、原則2年次までに博士予備論文をまとめ、最終的に博士論文を作成します。

フィールドワークに際しては、これまでの京都大学における地域研究の蓄積をもとに、協力関係にある現地の大学などと連携しながら研究指導に当たっています。

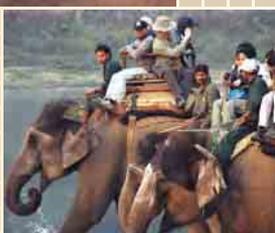
### 5. 研究演習における徹底的な討議

学生は、研究指導分野の全教員が担当する研究演習に参加し、自らの調査・研究結果を練り上げ、独創的な博士論文に仕上げていきます。この演習では、特に学生の創造的発想を促し、自立した研究を進めていけるよう、徹底的な相互討議にもとづく指導をおこなっています。

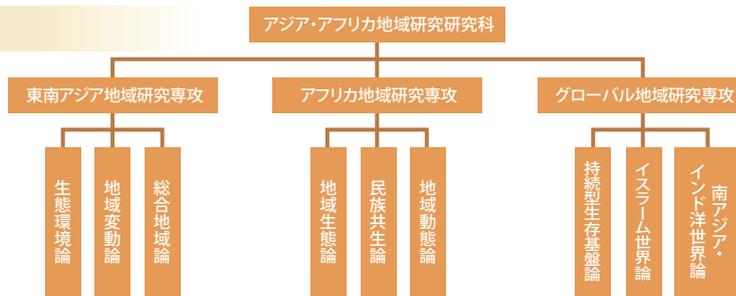


## 東南アジア研究所、地域研究統合情報センター、人文科学研究所との連携

東南アジア地域研究専攻の総合地域論講座や、グローバル地域研究専攻では、東南アジア研究所や地域研究統合情報センター、人文科学研究所の研究者が協力教員として講義や演習、論文指導をおこなっています。



概略図



専攻講座

## 東南アジア地域研究専攻

### ■ 生態環境論

東南アジアの基盤をなす自然と、そこに住む人間の活動との相互作用により形成される生態環境の特質を明らかにするため、自然生態と社会生態に関する教育研究をおこなっています。

### ■ 地域変動論

東南アジアの内発的発展及び変動のエネルギーと方向性に焦点を当てながら、地域発展・地域変動に関する教育研究をおこなっています。

### ■ 総合地域論

多面的な変容を示す生態・社会・文化が相関的に展開する実態に焦点を当て、生態相関・社会相関・地域相関に関する教育研究をおこなっています。

## アフリカ地域研究専攻

### ■ 地域生態論

アフリカにおける生業の総合的な理解とその潜在力の把握を目的とし、生態環境・技術・社会・経済などの関係性を分析するため、生業生態論と生業経済論の教育研究をおこなっています。

### ■ 民族共生論

アフリカの諸民族が共生しうる社会のメカニズムを探り、民族文化の多様性と相互関係を主軸とした解析を進めるために、民族文化論と地域文化論に関する教育研究をおこなっています。

### ■ 地域動態論

自然と人為の相互作用過程として〈地域〉の生態史を把握し、自然と人間とが共生しうる持続可能な発展を探るために、自然史論と社会生態史論に関する教育研究をおこなっています。

## グローバル地域研究専攻

### ■ 持続型生存基盤論

従来の温帯中心的な経済発展モデルとは異なる熱帯域にふさわしい持続型発展パラダイムに立脚して、熱帯域を中心とするアジア・アフリカにおける生存基盤に関する教育研究をおこなっています。

### ■ イスラーム世界論

中東、北アフリカ、中央アジアなどのイスラーム世界の諸地域に固有な諸主題および国際社会におけるイスラーム世界をめぐるさまざまな主題を対象として、総合的な地域研究の教育研究をおこなっています。

### ■ 南アジア・インド洋世界論

南アジア地域に固有な諸主題および南アジアを軸としてインド洋を媒介とする全域あるいは複数地域間にわたるさまざまな主題を対象として、総合的な地域研究の教育研究をおこなっています。

## フィールドワークを支えるプログラムと研究拠点

本研究科が重視しているフィールドワークを支援するために、現在の以下のプログラムを実施しています。学生たちはこれらのプログラムを活用して、フィールドワークや現地語研修、インターンシップなどに取り組んでいます。

・博士課程教育リーディングプログラム「グローバル生存学大学院連携プログラム」(H.23～H.29) ・留学生交流支援制度 ・大学の世界展開力強化事業 ・「ライフとグリーンを基軸とする持続型社会発展研究のアジア展開」など

また、当研究科が2002～2007年に実施した21世紀COEプログラム「世界を先導する総合的地域研究拠点の形成ーフィールドステーションを活用した臨地教育体制の推進」において、アジア・アフリカ各地にフィールドステーションを設置しました。現在は、上記の複数のプログラムによってフィールドステーションを運営・拡充し、現地研究と臨地教育の拠点として活用しています。

### Topics

#### 学生紹介

川口 博子さん

大学院アジア・アフリカ地域研究研究科(アフリカ地域研究専攻) 一貫制博士課程 4年

### 「フィールドで語られる紛争経験と死」

わたしは東アフリカにあるウガンダ共和国で、人の死に対する慣習的な賠償制度や死者への弔いについて研究しています。ウガンダ北部では、過去に厳しい内戦が続きました。そのような紛争を生き抜いた人びとが、どのように死を解釈し、いまを生きているのか、人を死なせてしまった人びとや死者の親族への聞き取りを中心にして明らかにしようとしています。



人の死について面と向かって聞き取りするとき、被調査者がわたしという部外者に語ってくれることは限られています。しかし、調査を意識しないで交わすなにげない世間話のなかで、紛争の経験が語られ、思いもよらなかったことに気づかされるのがたびたびありました。日常の空間で、人びとの複雑な思いと出会うこと、わたしはこれこそが地域研究の醍醐味だと考えています。

このような現地でのフィールドワークの経験を論文としてまとめることは、非常に骨が折れる作業です。そんなとき、毎週水曜日のゼミをはじめ多くの機会に、地域や専門分野が異なる、現地調査の経験が豊富な先生方や先輩方からアドバイスをもらい議論することが助けとなります。かけがえのないフィールドでの経験に向きあい、そこに経験豊富な仲間からの新たな視点を加味して熟成させていくことに、本研究科で学ぶことの大きな意味があると思います。

## 進路状況 (平成 26 年 5 月)

一貫制博士課程修了者の進路状況 (修士号取得退学者および研究指導認定退学者を含む)

〈主な就職先〉 共同通信社、富士通、日本電気株式会社 (NEC)、NTC インターナショナル、Google、ダイキン工業、京都市景観まちづくりセンター、サラヤ、クロスインデックス、早稲田大学アジア太平洋研究センター助手、日本福祉大学助教、Bangladesh Agricultural University Assistant Professor (バングラディシュ)、Martin Chantari Researcher (ネパール)、京都大学研究員、政策研究大学院 大学研究員

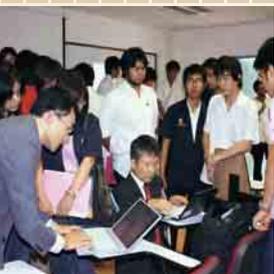


円グラフ：一貫制博士課程修了者の進路状況

# 情報学研究科

Graduate School of Informatics

- 知能情報学
- 社会情報学
- 複雑系科学
- 数理工学
- システム科学
- 通信情報システム



情報に関する学問領域は非常に大きな広がりを持っています。これらの単なる集積ではなく、「情報学」の創生と発展を通じて、総合的な視野から先駆的・独創的な研究を推進し、情報化社会の様々な課題を解決する優れた人材を多数育成することを目指して、大学院独立研究科—情報学研究科—は誕生しました。

▶▶ <http://www.i.kyoto-u.ac.jp/>

## 教育研究上の目的（人材養成に関する目的）▶

情報学研究科は、人間と社会とのインタフェース、数理モデリング、および情報システムを3本柱として創設され、情報学の新たな学問領域を開拓し、総合的な視野から先駆的・独創的な学術研究を推進することで、情報学の国際的研究拠点としての役割を果たすことを目指しています。また、高度な研究能力と豊かな学識を涵養することで、情報学を発展させる研究者、および、質の高い専門的職業人を養成し、知識社会のさまざまな課題を解決するリーダーとなる視野の広い優れた人材を育成することを教育の目的としています。さらに、産官学連携・地域連携や社会への情報発信を通して、健全で調和の取れた知識社会の発展に寄与し、京都大学の基本理念である「地球社会の調和ある共存」に貢献していく事が目標です。

## アドミッション・ポリシー▶

京都大学の情報学という学問領域は、自然および人工システムにおける情報を対象とした「人間・社会と情報とのインタフェース」、「数理モデリング」、「情報システム」という3本柱から構成されています。京都大学情報学研究科は、21世紀の情報学ともいべき新しい学問領域を創生するにとどまらず、情報の本質を理解し、情報技術が社会に与える大きな影響を理解し、情報に関する科学・技術を正しい方向へ進展させることをめざしています。このような教育研究活動を通じて、我々のより人間らしい生き方の実現を図り、地球社会の調和ある共存に貢献していきます。

本研究科は、情報学の新たな学問領域を開拓しようという意欲を持った学生を受け入れたいと考えます。これまで、理系文系という枠組みにとらわれず、多様なバックグラウンドを持つ学生を日本全国・世界各国から受け入れております。さらに、社会人にも広く門戸を開いています。そのために、入学試験では多様な専門分野から選択形式で出題されております。また、一部の専攻では推薦選抜も導入しています。

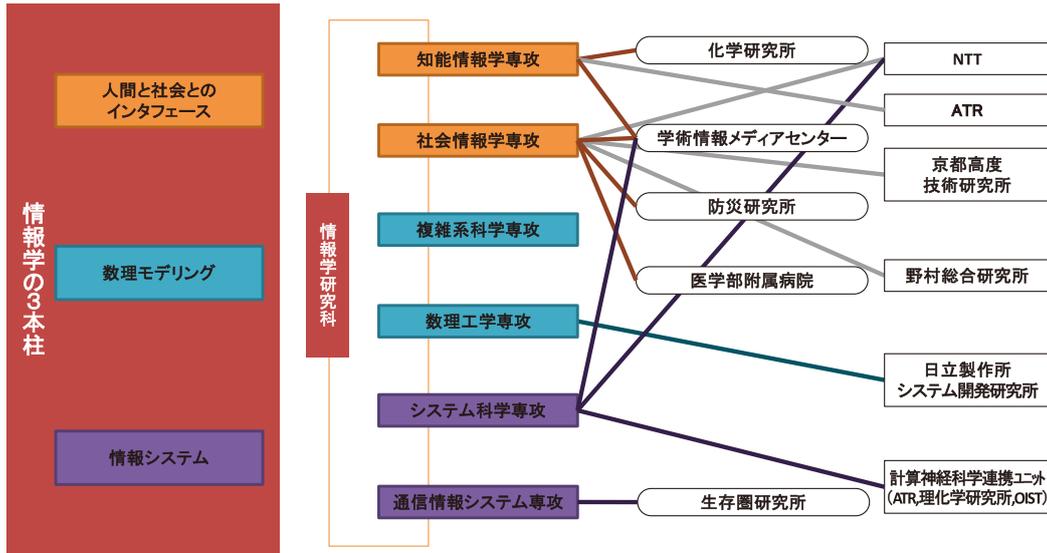
本研究科の教育は、高度な研究能力と豊かな学識を涵養することで、研究者および知識基盤社会に貢献する質の高い技術者の養成を目的としています。具体的には、個々の分野の専門知識だけでなく、専門分野を超えた幅広い視野をもたせることをめざします。各専攻で行う専門教育を縦系とすれば、「情報学展望」など研究科横断的な教育を横系とする緻密な教育体系を組んでいます。情報系以外の出身者の教育にも十分に配慮しています。

本研究科では、上記のような教育を通じて、国際的な場で活躍できるコミュニケーション能力とアクティブな研究者としての素養を持ち、産業界で要請される独創的な発想力に優れ、学際的な分野で活躍できる広範囲な基礎技術を習得し応用力に秀でた人材の育成を行い、研究者としても技術者としてもリーダーシップのとれる魅力的な人材を輩出していきます。

## 情報学研究科の特色▶

「情報学」の建設には、既存の学問体系の枠を越えて、広い視野から人々の英知を集める必要があります。例えば、対象とするシステムにおける情報の役割を研究するシステム科学、人間個々の情報処理の本質を探究する知能・生命情報学、さらには社会システムにおける情報を研究する人文・社会科学やフィールド科学、産業構造や社会構造の変化を見据えて情報理工学の新しい研究分野を開拓する数理モデリングや情報通信工学などです。この考えに基づいて、1998年4月、5つの部局（工学研究科、理学研究科、農学研究科、文学研究科、総合人間学部）にあった「情報」に関する分野を改組・統合して右の6専攻が設けられました。

組織概略図、および他部局・他機関との教育連携（協力講座と連携ユニットの設置状況）



専攻等・基幹講座等

知能情報学専攻

生体・認知情報学／知能情報ソフトウェア／知能メディア／生命情報学  
 知能情報学は、生体、とりわけ人間の情報処理機構を解明し、これを高次情報処理の分野に展開することを目的とした学際的な学問領域です。

社会情報学専攻

社会情報モデル／社会情報ネットワーク／生物圏情報学  
 地球規模のネットワーク、大規模データベース技術をもとに、情報システムの構築など、グローバル化する人間の社会活動を支える研究を行っています。

複雑系科学専攻

応用解析学／複雑系力学／応用数理学  
 強い非線形性や大自由度・大規模、あるいは誤差への敏感さなどの特徴を持つシステムに注目し、数学・数値解析・非線形物理学・制御理論及び計算力学の立場から理学と工学の視点の融合を目指します。

博士課程教育リーディングプログラム

情報学研究科は、博士課程教育リーディングプログラムとして「グローバル生存学大学院連携プログラム」と「デザイン学大学院連携プログラム」に参画しています。博士課程教育リーディングプログラムとは、博士課程前期・後期を一貫したプログラムを提供することにより、優秀な学生が俯瞰力と独創力を備え、広く産学官にわたリグローバルに活躍する新しい国際リーダーへと導くことをめざしたプログラムです。

数理工学専攻

応用数学／システム数理／数理物理学  
 最先端の数理工学の研究を通して、大規模システムの数理構造の解明と問題解決手法の開発を行い、知識社会の基盤を支える科学技術の深化に貢献します。

システム科学専攻

人間機械共生系／システム構成論／システム情報論  
 人間・機械・環境の関わり、システムのモデル化と構成法、情報通信、知識情報処理、医用工学など、大規模・複雑なシステム構築の方法論を探求しています。

通信情報システム専攻

コンピュータ工学／通信システム工学／集積システム工学  
 今日のユビキタス情報環境を支える基盤技術の研究を行い、情報処理装置とデジタル情報通信の分野で未来技術の発展を支える研究を進めています。

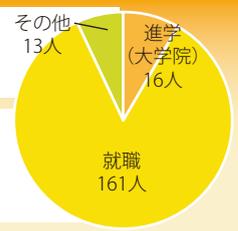
進路状況 (平成 26 年 5 月)

修士課程修了者の進路状況

〈主な就職先〉 西日本電信電話、富士通、三菱電機、パナソニック、KDDI、NTT データ、日立製作所、任天堂、日本電信電話、東芝

博士後期課程修了者の進路状況

〈主な就職先〉 パナソニック、日本電信電話、日本電信電話 NTT メディアインテリジェンス研究所、日本電信電話 コミュニケーション科学基礎研究所、NTT データ数理システム、東芝、東芝 セミコンダクター & ストレージ社、大日本スクリーン製造、日立製作所中央研究所、ウェザーニューズ



円グラフ：修士課程修了者の進路状況

# 生命科学研究所

Graduate School of Biostudies

■ 統合生命科学 ■ 高次生命科学

今日、生命科学は、人類の未来を切り開く先端科学として大きく変貌・発展しつつあります。本研究科は、このような状況を予見し、我が国初の生命科学研究科として1999年に発足しました。本研究科では、世界最高水準の研究拠点の形成と次世代の生命科学をリードする人材育成を目的とし、研究・教育活動を通じて、21世紀の人類の福祉と幸福に貢献できるよう弛まぬ努力を続けています。

▶▶ <http://www.lif.kyoto-u.ac.jp/>

## 教育理念・人材養成に関する目的

生命科学研究科では、大学院学生に最先端の研究活動を経験させ、世界をリードする研究成果をあげさせることが、本人の自信につながり、最大の教育効果をもたらすものと考えています。さらに、得られた研究成果を国内外に広く発信できる能力を育成することも重要だと考えています。一方、新しい生命科学技術の成果が日常生活に浸透しつつある現在、自然や環境との調和を考えた深い洞察力をもつことも大切です。そのためには、自らの専門分野に留まることなく、生命科学の多面的な進歩を理解し、人間社会を取り巻く環境の重要性を認識すると同時に、社会との関係を見極めかつ広い視野に立って考察する資質を持つ人材の育成も重要だと考えています。

以上のような理念のもと、生命科学研究科では、以下のような人材の育成を目指しています。

- 1 生命の基本原理を追求・発見し、世界最高水準の新しい生命科学を推進する研究者。
- 2 地球環境保全と人類の健康・福祉・幸福を目指し、多様な研究機関で社会に貢献する研究者・高度技術者。
- 3 多彩な生命現象全般を広く理解し、教育や産業・報道・行政を通じて社会に貢献する教育指導者・高度実務者。

## 生命科学研究科の特色

### 世界最高レベルの研究と高い研究能力をもつ人材の育成

20世紀の生命科学研究は、生命の基本ユニットを構成する「遺伝子、分子、細胞」を共通の言語として、生命現象の基本原理の解明を目指した研究が展開されてきました。現在、生命科学研究科では、最先端の解析技術を駆使して、より高次の生命現象の解明に取り組んでいます。

また研究により得られる情報や知識を人類の資産として生かすことにより、精神的にも物質的にも豊かで安全な社会を築くことに貢献したいと考えています。

一方、大学院学生の教育では、世界最高レベルの研究環境と教育スタッフのもと、生命科学の広い知識と高度な研究能力を有する人材を育成しています。学生の論理的思考能力と実験能力の著しい向上をはかるため、個々の学生の個性に応じた個別な指導を行っています。さらに、学生が将来、広範かつ多様な分野で活躍することを前提に、柔軟な思考力と開拓者精神をあわせ持てるよう指導しています。

### 生命科学研究科のポイント

本研究科は、統合生命科学専攻と高次生命科学専攻の2専攻からなり、統合生命科学専攻は、細胞構築、細胞増殖、細胞内情報、細胞周期を対象とする分野ならびに細胞の全能性、細胞・生物・環境間の情報伝達機構の解明を目指す分野から構成されています。高次生命科学専攻は、脳や免疫などの高次機能の調節機構の解明を目指す分野やヒトの疾患発症メカニズムの解明や治療法の開発を目指す分野から構成されています。

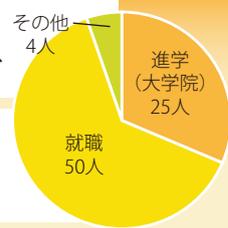
## 進路状況 (平成26年5月)

### 修士課程修了者の進路状況

〈主な就職先〉 小野薬品工業、サントリーホールディングス、Mizkan J plus Holdings、山田養蜂場、アークレイ、朝日新聞社、味の素、アジレント・テクノロジー、天藤製薬、大塚製薬

### 博士後期課程修了者の進路状況

〈主な就職先〉 京都大学、小野薬品工業、第一三共、大日本住友製薬、アステラス製薬、アスピオファーマ、医薬基盤研究所、医薬品医療機器総合機構、自然科学研究機構、日本マクドナルド



円グラフ：修士課程修了者の進路状況

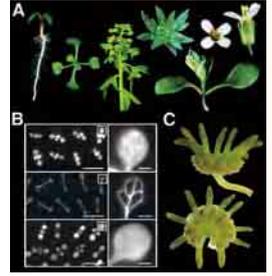
Topics

研究室紹介

統合生命科学専攻 分子代謝制御学分野 荒木 崇教授

固着生活を営み移動することができない植物は、外部の環境に... 固着生活を営み移動することができない植物は、外部の環境に...

む被子植物のモデル系シロイヌナズナを用いた研究に加え、陸上植物... む被子植物のモデル系シロイヌナズナを用いた研究に加え、陸上植物...



A: 花成の研究に用いるシロイヌナズナの野生型... B: 概日時計の組織特異的な役割を研究するために開発した系... C: ゼニゴケの雌株配偶体上に形成された胞子体。

Topics

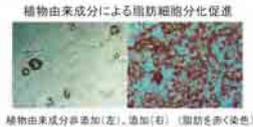
研究紹介

統合生命科学専攻 生体情報応答学分野 永尾 雅哉教授

「天然物からの有用な生理活性を持つ物質の探索と亜鉛のバイオロジー」

植物には、生存には必須ではないですが、外敵や光、乾燥、温度などの... 植物には、生存には必須ではないですが、外敵や光、乾燥、温度などの...

ています。亜鉛不足になると、味覚異常や、生育阻害、生殖能力の低下等... ています。亜鉛不足になると、味覚異常や、生育阻害、生殖能力の低下等...



植物由来成分による脂肪細胞分化促進

一方、神戸准教授を中心に、必須微量元素の亜鉛に関する研究を進め

Topics

先輩紹介

辻 徳治さん

統合生命科学専攻 生体情報応答学分野 博士後期課程

私は生体情報応答学分野に所属し、神戸大... 私は生体情報応答学分野に所属し、神戸大...



私の所属する研究グループでは、亜鉛や亜鉛トランスポーターに着目... 私の所属する研究グループでは、亜鉛や亜鉛トランスポーターに着目...

Topics

修了生からのメッセージ

丹羽 優喜さん

京都大学 生命科学研究所 博士研究員 2013年度博士後期課程修了 統合生命科学専攻 分子代謝制御学分野

私は修士、博士後期課程を分子代謝制御学... 私は修士、博士後期課程を分子代謝制御学...



# 総合生存学館 (思修館)

Graduate School of Advanced Integrated Studies in Human Survivability

私たちが生きる地球社会は、今、数々の複合的・構造的な諸問題に直面しています。これらは、文化・産業・経済・国家などの複雑で巨大なシステムに関わる、種々多様でグローバルな課題であり、解決のためには持続可能で創発力のある社会システムが不可欠です。そして、この新たな社会システム構築に向けてリーダーシップを発揮できる人材、ゼロから1を生み出し、実践・持続させていける力を持つ人材の育成が、今、強く求められています。「総合生存学館」(通称: 思修館)は、こうした社会の要請に応え、未来のリーダー育成を目的として設置した新たなタイプの大学院です。

\*総合生存学館(思修館)は、平成23年度から平成29年度まで文部科学省博士課程教育リーディングプログラム(オールラウンド型)に採択されている「京都大学大学院思修館」プログラムを実践する大学院です。

》》<http://www.gsais.kyoto-u.ac.jp>

## 教育理念・目標

人類社会の生存と未来開拓を担うリーダーを養成し  
京都大学の基本理念を今日的な形で体現していきます

総合生存学館(思修館)では、幅広い領域にわたる「総合生存学」を確立し、それを修得したグローバル人材を養成することを目的としています。この点が、特定分野の研究者育成・専門職人材育成を第一の目的とする、既存の研究科との大きな違いでもあります。

人類社会の生存と未来開拓を担う各界の世界的リーダーには、多様な価値観、広い世界観と見識、確かな哲学と高い志、それらに基づく柔軟な思考が求められます。総合生存学館(思修館)では、こうした素養を養うために、専門的知識に加え、総合的な文理融合能力および俯瞰力を培い、複合的社会課題の解決方法を研究し実践する能力を育成します。さらに、こうした人材を輩出することで、京都大学の基本理念である「教養が豊かで人間性が高く責任を重んじ、地球社会の調和ある共存に寄与する人材を育成する」を体現していきます。

また、総合生存学館(思修館)では、異なる分野出身の学生が24時間起居を共にして互いに啓発、切磋琢磨できる環境が重要であるとの考えから、合宿型研修施設を用意しています。このことも、日本では全く新しい試みとして大いに注目されています。

## 総合生存学館(思修館)の概要

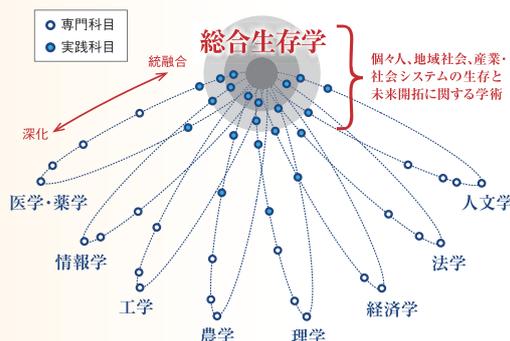
総合生存学館(思修館)における教育・研究の基盤となるのは、「総合生存学」という学問です。私たちが直面している課題はいずれも、個人々、地域社会、産業システム、社会システム、さらには国家や世界全体が共存するために、そして持続可能な未来を創り出すために、必ず乗り越えなければならない重要かつ複合的な社会課題です。従って、こうした課題を克服するための思想・政策や方法を幅広く探求する学問が必要となります。「総合生存学」とは、「人類と地球社会の生存」を軸に、関係する諸々の学問体系の「知」を結び付け、編み直し、駆使して、複合的な社会課題の発掘・分析と定式化・構造化を行い、社会実装までの解決を探求する学術の総体であり、「生存知の構造化と公共化」を対象とする総合学術なのです。

多様な「知」を結集し、実践に応用するためには、いかに智慧を発揮できるかが鍵となります。日本の伝統的な考え方によれば、智慧は、多くの知識や情報を集める「聞」と、様々な知見に基づく創造的「思」をもとに、これらを有効に使い、実践することによって身につく「修」から構成されています。

総合生存学館(思修館)は、その思修館の名前の由来ともなった、この「聞思修」の考え方にもとづき、生存学を基礎に総合力を結集し、文理融合・異分野融合による知識と、それらを実践的に社会実装できる思考力と実践力を養成していきます。具体的には、国家および世界と人類を脅かす環境・エネルギー問題、食料・人口

問題およびパンデミックなどの地球規模課題や、将来の生命・環境・社会・産業・国家・文明などの生存に関する諸課題の解決を先導できる、柔軟かつ論理的な思考力と堅固な意志力に富んだ人材の輩出をめざします。

さらに、課題解決の方法論、およびその教育方法を確立することにより、山積する諸課題を抱える21世紀地球社会の多面的な調和と新たな発展に向けて挑戦を続けていきます。



養成する人材像

総合生存学館(思修館)では、生存学における課題解決情報を、机上ではなくその問題が起きている現場に即して創出し、的確に判断・行動できる高度な専門的能力を身につけた人材の育成をめざしています。そのために、大学学部などで身につけた学術に関する知識をベースに、文理にわたる幅広い専門的学識を積み重ねることで、多様な専門分野を俯瞰する力を培います。また、複数教員の指導と助言のもとで研究基礎力を養い、さらに国内外の社会実践で得られた経験知をモデル化して修得していきます。また、顕在化している個々の問題解決にあたるだけでなく、人類や社会システム、地球社会などにおける今日的な問題の本質を理解して、生存学に関わる一体的な世界観・人間力・社会力をもとに自ら課題を設定し、その解決への営みを通じて、グローバルリーダーとなる人材を育成します。

カリキュラムの特徴

特徴 1. テーラーメイド型カリキュラム

受け入れる学生の学問背景や基礎的な専門研究分野が異なり、さらに特別研究における研究課題の専門性が学生間で異なることから、学生一人一人に応じたカリキュラム設計を行います。経験豊

かな複数の教授陣の助言を受けながら、5年間の学修計画および必要な履修科目について、系統的かつ経時的に検討を行います。他研究科が開講する専門科目も履修できるよう配慮します。

特徴 2. 研修施設の利用による対話とディベートによる教育カリキュラムの整備

教員と学生間、学生同士による専門的な課題に関する討論や設定された多様な課題解決に関する討論の場を設け、教員のみならず産官の学外講師(特任教員)を加えたディベートなどによる多様な思考と実践力を育成するためのカリキュラム(産官連携科目

「産官連携特別セミナー(熟議)」を提供します。そのために、講義室/自習室に加えて、合宿可能な研修施設(合宿型研修施設)を整備し提供します。

特徴 3. 複数指導教員制度・メンター制

様々な分野の基礎を習得し、より広い視野から課題解決の方法論を研究することができるように、専任教員の中から、メンター/教育指導教員や研究指導教員を指名し、複数の指導教員体制を構築することで、学生の教育研究を支えます。

カリキュラム構成

国際標準の知識と経験に基づく実践力と志を育む、5年間の総合一貫プログラム

特別研究Ⅰ(含国内インターンシップ)

大学学部などで身につけた学術に関する知識を「聞」の段階とすれば、特別研究Ⅰでは「思」の段階の初歩として、自ら選んだ専攻分野における特別研究課題とその周辺の学術について、複数教員の指導と助言のもとで、専門書や研究論文の講読などを通じて幅広くかつ深い学識を体系的に獲得させるとともに、ディスカッションなどによって自ら考え、それを表現する力をつけさせることで研究基礎力を授けます。また、一定期間のインターンシップを通じて総合生存学にかかわる世界観の醸成と人間力を身につけさせます。

特別研究Ⅱ(含海外インターンシップ)

特別研究Ⅱでは「思」の段階の完成をめざし、多様な研究技法と最新の研究に習熟させるとともに、特別研究課題に関する複数指導教員とのディベートなどによる指導と助言を通じて、研究の評価や批評の方法を学ばせ、コミュニケーション力、研究・開発の洞察力、計画力、推進力、さらに、文章力、プレゼンテーション能力、討論力、課題発見能力など博士論文研究を開始するための十分な基礎力を会得させ、特別研究課題についてのテクニカルレポート(学術論文草稿)作成・提出へと指導・助言します。なお、グローバル人材としての国際性確保のために、夏季休業期間中にインターンシップとして海外機関において一定期間のサービラーニング型現地実践教育を実施します。さらに、産官連携特別セミナーを通じて人類や社会システム、地球社会などにおける今日的な課題の所在を理解させて、「生存学」にかかわる自らの課題設定へと導き、さらには、その解決への営みを通じてグローバルリーダーとしての素養を身につけさせます。



特殊研究Ⅰ

特殊研究Ⅰでは個々の専門軸に関する知識の社会実装ともいべき「修」の段階に入ります。すなわち、特別研究Ⅰ、Ⅱで身につけた研究基礎力や学識などをベースに自らが選んだ専攻分野における研究能力を増進させるとともに、第2次博士論文研究基礎力審査 QE2において要求されている専門科目群に関する知識と多様な専門分野を俯瞰する力を身につけさせます。

特殊研究Ⅱ

特殊研究Ⅱでは、「総合生存学」に関する知見をさらに広め、学生自らに課題設定とその解決の道筋について十分な検討をさせた上で、課題解決や意思決定に取り組みます。さらに、研究状況や研究成果について報告させ、博士学位論文の準備に向けて適切な助言を与えます。また、フィールドワークなどの実務面での学修の機会を学生に提供し、グローバルな視野をもって創造的に課題解決にあたるために必要な能力を獲得させます。

特殊研究Ⅲ

博士学位論文の作成に向けて、各自の主体的な研究計画に沿った研究状況の発表や研究成果の定期的な報告に対して複数の教員が多角的な視点から助言を与えるとともに、発展型の Project Based Learning (PBL) ともいえる Project Based Research (PBR) などの実践的な学修の機会を含む対外発表、論文発表などを経験させ、そのフィードバックを経て、博士学位論文の作成と提出へと導きます。

# 地球環境学堂・学舎

Graduate School of Global Environmental Studies

地球環境学堂  
地球環境学舎  
■ 地球益学廊  
■ 環境マネジメント専攻  
■ 地球親和技術学廊  
■ 資源循環学廊

本大学院は、複雑多岐にわたる地球環境問題を解決するために平成14年4月に設立された新しい大学院です。そのために従来の大学院にはない、様々な分野の教員が参画している学際大学院の形態を採っています。現在、研究組織である「地球環境学堂」には約50名の教員が、また、教育組織である「地球環境学舎」には修士課程・博士課程合わせて約160名の学生が所属し、研究教育支援組織である「三才学林」及び他の学部・研究科、研究所との協働体制である「協働分野」のサポートの下、大きな成果を挙げています。

▶▶ <http://www2.ges.kyoto-u.ac.jp/>

## 人材養成に関する目的 ▶

京都大学通則に基づき、京都大学大学院地球環境学舎における人材養成・教育研究に関する必要な事項を定めることを目的としています。

地球環境問題は、科学の対象としての真理探究の側面と問題を解決すべき実践的側面を持ち合わせており、地球環境の保全や持続的発展のためには、広域にわたって整合性のある複合施策の発案・実施ができる人材が不可欠です。以上の観点から、次の各号に掲げる人材の養成を行います。

- 1 地球環境を持続可能な形態で改善維持経営する能力を有し、地球レベルと地域レベルの具体的問題を解決しうる高度な実務者
- 2 地球環境問題の複雑性と広がりや従来基礎科学の上に立って展望し、学問としての先見性と深淵性を持った新しい「地球環境学」を開拓しうる高度な研究者
- 3 国際的対応能力を持った高度な実務者及び高度な研究者

従来の文系、理系の教育体系を継承しながら、地球環境の広範囲の学問領域を理解し、それらの本質的理概念を地球環境学に発展させる新たな学問の教授及び国内外実践場での応用体験を組織的にを行い、実践的技法を教授する教育・研究システムの具現化を目指しています。

## 地球環境学堂・学舎の特色 ▶

### 研究組織、教育組織、及び教育・研究支援組織の分立

地球環境学は生成期にあり、研究面では、そのダイナミックな展開のために、戦略的な先見性と学際性、柔軟性が必須です。一方、教育面では、関連する学問分野にわたる着実かつ重厚な教科内容と、先端性、社会性をもった安定的研究指導が必要です。このような研究面と教育面における異なった要求を満たすため、京都大学大学院地球環境学舎は研究組織「地球環境学堂」と教育組織「地球環境学舎」とを分立した独自の構成をとり、さらに、教育・研究支援組織「三才学林」を置くことにより、学舎・学舎における活動が専門領域のみに偏ることなく広い視野を持って調和的に展開する体制を採っています。

### 学内協働分野との連携体制

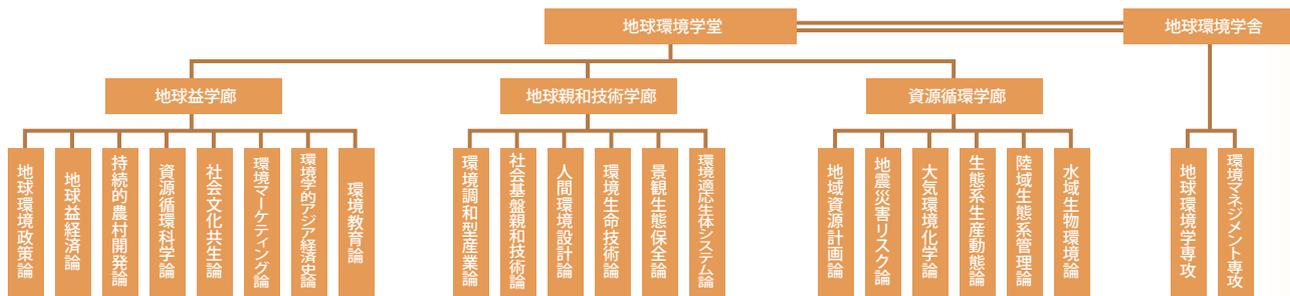
学際的研究が不可欠な地球環境学の研究・教育を行う本大学院は、学内のほとんど全ての専門部局との連携が必要です。そのために、既存専門基盤と地球環境学の双方をつなぐ橋渡しとして、「協働分野」という仕組みを工夫しました。「協働分野」の教員は、既存の研究科・研究所・センターに属しながら、大学院地球環境学舎の学生に講義科目を提供するとともに、学生の希望する専門性に沿って修士、博士論文指導も行います。さらに、客員制度の充実による学外の国立研究所をはじめとする、国内外の諸機関との連携・交流の活発化を目指します。またさらに、地球環境学では単に学内での専門教育だけではなく、NPO活動や国際協力活動など多様な内容での、多様なセクターとの連携を通じて、現実の問題を体験的に習得する体制も整えます。

### 全学的なプロジェクトの遂行

これまでの既存研究科・研究所等におけるそれぞれの分野に関連した環境学の研究教育経験を活かした両任教員を主体とする地球環境学堂においては、関連する他研究科・研究所の教員と共に、全学的な研究プロジェクトの実施がきわめて容易であり、融合型学問研究を実現できます。



概略図



専攻等・基幹講座等

地球環境学専攻

■博士後期課程(3年)

大学院修士(博士前期)課程で専門教育を受けた学生を対象として、地球益、地球親和技术、資源循環の3学廊及び三才学林と密接な関係をもちつつ、地球環境問題の広範な課題から専門的な個別課題を選び、既修学問分野の特色を生かしつつ、人文社会科学系と理・農・工学系の双方にまたがる新しい融合的教育を行います。修了生は、大学や環境関連の国立・民間研究機関で活躍しています。

環境マネジメント専攻

■修士課程(2年)

高度な実務者を養成するため、インターン研修を必修として、学外における実地経験とその内容に基づく、新しいタイプの修士論文を提出させ、実務能力を獲得させます。修了生は、さらに高度な実務者を目標として博士後期課程に進むほか、政府・自治体の関係機関や国際機関、企業の環境管理部門や環境関連企業、環境NGO、NPOなどで活躍しています。

■博士後期課程(3年)

地球環境問題に関して、さらに高度な知識と問題解決能力を持ち、国際的な舞台での活躍が期待される人材を、国内外でのインターン研修や博士論文の作成を通じて養成します。修了生は、政府・自治体の関係機関や国際機関、企業の環境管理部門や環境関連企業、環境NGOのほか、大学や環境関連の国立・民間研究機関で活躍しています。

他部局との連携や協力講座について

先鋭化と進展の著しい個別学問領域と地球環境学という新領域を融合的に深化させるために、「ダブルアポイントメント(両任)制」というシステムを採用し、また、約80分野にわたる学内の「協働分野」と連携し、研究・教育を行っています。

トピックスや最先端の研究紹介

インターン研修

環境マネジメント専攻では、実践性重視の立場からインターンシップ制度を必修科目として導入し、国内外の企業や研究機関等で(3ヶ月(修士)、5ヶ月(博士))程度、学外における実習に基づいた個別教育によって地球環境課題に対応する能力の獲得を目指しています。



野外実習

野外科学としての環境学の基礎的研究手法を学ぶ実習で、夏季休業中に丹後半島等の研修施設に約1週間宿泊し、沿岸域、里山、森林での生物多様性並びに野外調査法の基礎を修得します。



研究科独自の学生支援について

- ・修士課程学生には入学時にチューター教員を1名配置し、学生生活全般において相談できる体制を整えています。
- ・全学生に指導教員1名、副指導教員を1名以上配置し、論文指導の一助としています。
- ・当学舎出身のOBを招き、就職ガイダンスを実施しています。

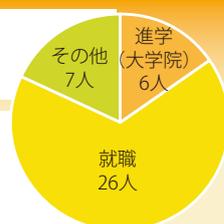
進路状況 (平成26年5月)

修士課程修了者の進路状況

〈主な就職先〉 日本貿易振興機構、NTC インターナショナル、大林組、科学技術振興機構、京都大学、コカ・コーラウエスト、国際協力銀行、国際交流基金、JX 日鉱日石金属、新エネルギー・産業技術総合開発機構

博士後期課程修了者の進路状況

〈主な就職先〉 京都大学、名古屋市役所、九州大学、国立環境研究所、Universiti Sains Malaysia (マレーシア)、Hanoi University of Science and Technology (ベトナム)、Institut Teknologi BANDUNG (インドネシア)、Soochow University (台湾)



円グラフ：修士課程修了者の進路状況

# 公共政策大学院

School of Government

(専門職大学院)

数少ない専門職大学院の一つとして、中央・地方レベルにおける国内行政および立法機関、国際機関、NPO/NGO、シンクタンク等の職業に従事する者のほか、一般企業において公共的な業務に携わる者など、公共政策分野の高度専門職業人、すなわち、優れた教養と公共政策の立案・遂行・評価に必要な専門的知識を有し、高い倫理的責任感を備えた人材を育成することを教育目標とし、この教育目標を実現するために、公共政策分野における理論的知見と実務的素養を架橋し、さらに実務における総合的能力と専門的能力との結合を旨とするカリキュラムを提供します。

▶▶ <http://www.sg.kyoto-u.ac.jp/>

## 教育理念と教育目標 (人材養成に関する目的) ▶

わが国のみならず世界的な規模で国家や公共団体その他の公共部門を大きく揺るがせている近年の激しい社会的変動を前にして、それらの公共部門が直面している諸課題に適切に対応しうる確かな判断力と柔軟な思考力をそなえた、また、公共的な役割をになう強い倫理感をもった高度専門職業人を養成することを目的としています。

京都大学の長い知的伝統を踏まえた専門職大学院として、広い視野と深い洞察力を養うとともに現実の政策課題に適切に対処しうる実践的な知見を教授することを目標とし、高度専門職業人に求められる専門的能力、すなわち、社会的変化を歴史的視野で原理的に考察する知的能力、多元的価値の中で真の公共的利益を判断する洞察力、その公共的利益を実現する仕組みを提示する制度設計能力、策定された政策・制度を効果的に運用する実践能力、そして政策・制度を冷静に分析する評価能力などを、適切な教育課程を通して十分に涵養することを、教育上の理念としています。

そのような能力を効果的に涵養しうる教育課程を確保するため、多様な人的資源を擁する指導的な公共政策大学院として、法学・政治学・経済学・経営学を有機的に結合した科目、実務経験者による具体的事例を素材とした科目、公共的世界を原理的・歴史的視点から展望する科目などを提供するだけでなく、一般的知識を習得する基本科目から公共政策専門家としての基礎知識を共有する専門基礎科目を経てスペシャリストとしての能力を育成するクラスター科目にいたる体系的な履修システムを整備するとともに、学生ひとり一人に履修及び進路に関する指導教員を配置して履修・進路決定上の相談に応ずる個別指導体制を設けるなど、きめ細かな学修上の対応に努めています。

## 公共政策大学院の特色 ▶

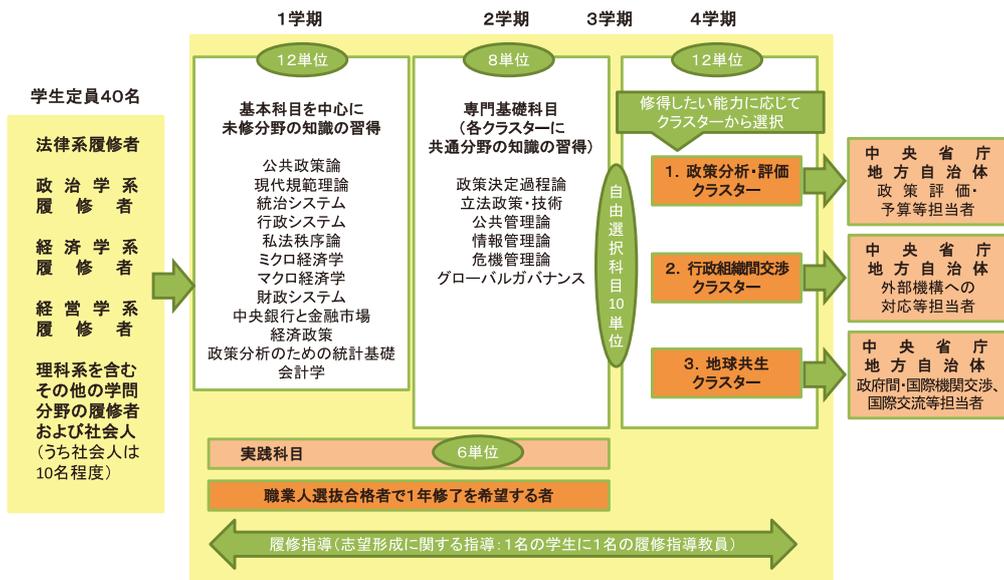
公共的職務に従事するものに共通に求められるゼネラリスト能力の養成を基盤に、1. 政策分析・評価、2. 行政組織間交渉、3. 地球共生の3種のスペシャリスト能力の発展的育成を目指しており、これをクラスター制履修モデルに編成し、カリキュラムを構成しています。

基本科目	公共政策の専門家として基礎となる基本知識を習得する科目群 (12 単位)
専門基礎科目	政策形成・実施・評価に携わる者にとって 共通に必要な素養と展開科目群の学習内容の基盤になる統括的な理論と知識を学ぶ科目群 (8 単位)
実践科目	公共部門に必要な情報の処理・活用・発信等のツールを学ぶ科目群 (6 単位)
展開科目	公共政策に関わる領域を俯瞰し、具体的課題について深い理解と分析を可能とする能力を習得する科目群
事例研究	少人数クラスで、具体的政策を素材とする事例を取り扱いながら 精密な分析と討論を行う科目群 (チーム・ペーパーやインターンシップを含む)

クラスター制履修モデルは、4種類の科目群からそれぞれ必要単位数を修得することによって、それにふさわしい能力を身につけることができるよう構成されています。



## 修学概念図



## クラスター制履修モデル

### 1 政策分析・評価クラスター

公共的政策をもつセクターでは、責任や権限の如何を問わず、自らのおかれた状況を相対化して、政策を客観的に分析・評価することは不可欠であり、その上に新しい政策の形成と効果的執行が可能になります。

### 2 行政組織間交渉クラスター

単一の組織や政府レベルでは解決し得ない問題の増大に伴い、組織間で価値の相違を認識・承認しあいつつ、さらに多様な利害関係に関する情報ギャップを埋めて、相互理解に基づく紛争の予防と解決、そしてより実効的な政策運営を行う能力が必要です。

### 3 地球共生クラスター

グローバル化により従来の閉鎖系統治システムは開放系に移行しました。これに伴い、さまざまな分野の問題が国家を主体とする枠組みを超えて展開しており、国家、自治体、NPO、国際機構といったさまざまなレベルでの対応が緊要です。

## 他部局との連携や協力講座について

法学・政治学・経済学・経営学を有機的に結合した科目や、実務経験者による具体的な事例に則した実践的な知識を涵養する科目、幅広い視野と教養を身につけるために原理的・歴史的知識を教授する科目を提供するために、法学研究科、経済学研究科、それ以外の研究科、そして実務家を加えた多くの教員が授業を担当しています。

## 研究科独自の支援について

### ■きめ細かい指導体制

学生毎に研究者教員と実務家教員がチームで個別に指導します。

### ■リサーチ・ペーパー

より深く調査研究する機会も選択できます。

### ■1年履修特例

既に大学院の経験ある職業人は1年で修了できます。

### ■教育訓練給付制度

一定の条件を満たす、雇用保険の一般被保険者又は一般被保険者であった方が本大学院を修了した場合、教育訓練経費の一定割合に相当する額(上限あり)が、ハローワーク(公共職業安定所)から支給されます。

## トピックの紹介

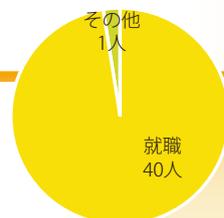
正規のカリキュラムとは別に、学生同士が多くの勉強会を組織しており、教員も積極的に支援しています。また、本大学院の学生がイニシアティブをとって、公共政策系大学院を横断する形で毎年「公共政策大学院インゼミ」を開催しており、盛り上がりを見せています。平成23年度は、院生の被災地ボランティア参加を発端に院生組織「東日本大震災復興政策研究会」が発足しました。



## 進路状況 (平成26年5月)

### 専門職学位課程修了者の進路状況

(主な就職先) 総務省、財務省、文部科学省、厚生労働省、経済産業省、国土交通省、東京都庁、NEDO、朝日新聞社、みずほ証券



京都大学経営管理大学院は研究者養成に主眼をおいた大学院とは異なり、高度職業人の育成を目的とする専門職大学院です。欧米でビジネススクールと呼ばれているものと同様で、大学における研究や知識の蓄積を活用して、企業やNPOなど多様な分野における高度な職業的知識を有するリーダーを育成する所に眼目があります。

》》 <http://www.gsm.kyoto-u.ac.jp/>

## 人材養成に関する目的

### —理念—

本大学院は、先端的なマネジメント研究と高度に専門的な実務との架け橋となる教育体系を開発し、幅広い分野で指導的な役割を果たす個性ある人材を養成することで、地球社会の多様かつ調和の取れた発展に貢献することを理念とする。

### —基本方針—

この理念を実現するため、以下の3つを基本方針とする。

- 1 自主・独立の精神と批判的討議を重んずる本学の伝統を継承しつつ、産官との協力関係を基盤とした研究・教育環境を整備することで、先端的な研究を推進し、高度な専門性を備えた実務についての教育体系を開発する。
- 2 多様なバックグラウンドの人材を受け入れ、開発された教育体系を用いて、様々な分野における高度専門職業人を輩出する。
- 3 世界に開かれた大学として、個性ある研究・教育拠点としての役割を果たす。

## 経営管理大学院の特徴

### カリキュラムの特徴

学生のバックグラウンドに応じた3コースの提供

経営管理大学院では、多種多様なバックグラウンドを持つ人材に対応するために、標準的な「2年コース」の他に、ファイナンス・会計分野のエキスパートを対象とした「1年半コース」、英語による授業のみで構成される「国際プロジェクトマネジメントコース」という3つのコースを用意しております。

多様化に応える様々な受講スタイル

月曜日から土曜日まで昼間開講(8:45~18:00)するフルタイム専門職大学院です。さらに、入学者の多様化するニーズに応え、様々な受講スタイルを用意しています。

本大学院に入学することを前提に、社会人としての職業経験を有し、現在のマネジメントの課題について明確な問題意識を持つ方を対象とした科目等履修生制度や、本学大学院に在籍する学生を対象に、当該大学院在籍中に履修し付与した単位を本大学院において既修単位として認定し、1年での修了を目指すジョイントディグリー制度などがあります。また、他の大学院で修得した単位に関しても、審査を経た上で既修単位として認定された場合には、条件を満たせば1年で修了することも可能です。

### グローバルキャリアを目指す人へ

経営管理大学院では、将来、グローバル企業や国際機関等でグローバルビジネスの展開に貢献できるリーダー的人材の育成を目指し、国際コース等における英語教育や英語によるディベート能力の強化、国際ビジネス/プロジェクトのケーススタディー教材の開発等に積極的に取り組んでいます。

また、グローバル企業や世界銀行、アジア開発銀行、JICA等が提供する国際インターンシップや海外の大学や研究機関で実施される海外セミナーの情報を提供し、学生が積極的に参加できる支援体制を整えています。その他、国際交流を促進するために学生交流協定に基づき、1学期間、互いに学生を留学させあい単位取得をする派遣留学(交換留学)制度を導入しています。現在、国立台湾大学・国立政治大学(台湾)・コッチ大学・イズミール経済大学(トルコ)・ハノイ交通通信大学(ベトナム)・IIMカルカッタ・IIMアーメダバード(インド)・梨花女子大学・釜山国立大学(韓国)ライオンソン大学(カナダ)・ミュンヘン工科大学(ドイツ)・ブカレスト経済大学(ルーマニア)と学生交流協定を締結しています。

### スーパーバイザーの設置

多種多様なバックグラウンドを持つ人材を受け入れ、多様なキャリア・アチーブメントを実現するために、スーパーバイザーを設置して、履修指導をはじめ、学修全般に関するサポートを行い、きめ細やかな教育体制を実現しています。スーパーバイザーのサポートにより、学生が自身の学修状況、学修目的や将来の進路志望などについて考え、それを実現するために適切な履修内容および学修計画の提供など、学生のコミットメントを実現するために、積極的な支援を行います。

### 段階的な履修を実現する科目構成

科学的な理論に基づいた専門的な知識と実践的な問題解決能力を修得するために、多様な授業科目を提供します。そして、主に1年生前期に基礎科目、1年生後期から2年生前期に専門科目、そして2年生前期からは実務科目と発展科目という体系的な履修を実現する科目構成をとっています。

導入科目: 学部での未履修者や社会人を対象に、未履修分野の基礎知識の獲得を目的とした科目

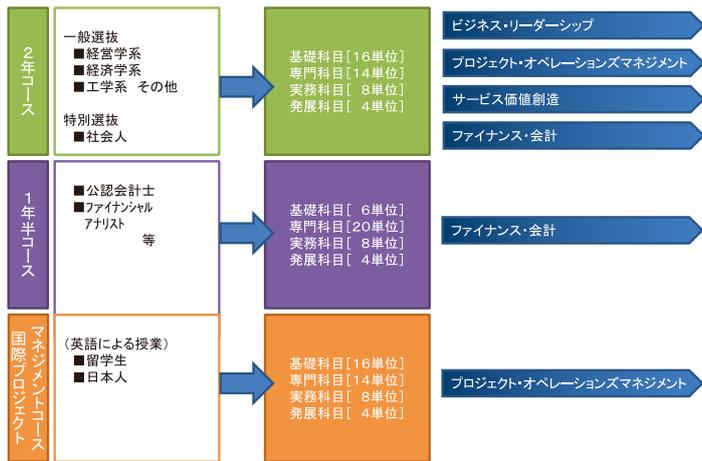
基礎科目: 経営管理に関する基本的な理解と分析能力の獲得を目的とした科目

専門科目: 実践的な経営課題を解決するために必要となる専門的な知識を学ぶための科目

実務科目: 各分野で先端的な実務に携わっている実務家教員が実際の現場における現象や課題、知識、手法などを提供する科目

発展科目: 基礎、専門科目で獲得した知識や理論と、実務科目で学んだ実務の現状を融合させ、さらに発展させるための科目

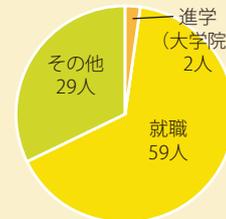




進路状況 (平成26年5月)

専門職学位課程修了者の進路状況

〈主な就職先〉  
 リクルートキャリア、上海復星高科技集团有限公司(中国)、  
 新日本有限責任監査法人、日本電気、  
 アメリカンファミリー生命保険会社、  
 イオンクレジットサービス、伊藤忠商事、  
 ASUS JAPAN、大阪府会、関西計画技術研究所



プログラム概要

ビジネス・リーダーシップ

「組織内における個人」「市場内における企業」の戦略的優位性をいかに実現するかについて、ケース・スタディやディスカッションを中心に理論と実践の融合を目指すプログラム。

プロジェクト・オペレーションズマネジメント

国際的な大規模なプロジェクト、新技術開発、情報システム開発などにおいて、特定の目的を達成するために臨時的連携組織(事業チーム)であるプロジェクトに対応するプログラム。

サービス価値創造

生産性の向上をイノベーションによって引き起こし、より高い価値を提供する高度サービス社会を牽引する人材育成を目指したプログラム。

ファイナンス・会計

金融工学・ファイナンス関係の知識と会計の知識をあわせ持つ専門家を養成するプログラム。

国際プロジェクトマネジメント

国際的プロジェクト、および、国際契約マネジメントを実施できる高度専門職業人の養成を図っていくコースです。

国際プロジェクトマネジメントコースの概要

- ◎標準修業年限は2年、修了に必要な単位数は42単位です。
- ◎入学時期は4月です。
- ◎英語による授業のみで修了可能なように設計されていますが、日本語による授業も受講可能です。

アドミッション・ポリシー

本大学院で学ぶ学生は、種々の学部を卒業した学生、社会人としての勤務経験を有する学生や現役社会人、留学生など多様である。こうした多様な受験生を受け入れるため、募集の方法を一般選抜と特別選抜に分けている。さらに、公認会計士などの特別な資格を有する社会人が1年半で修了できるコースの10月入学生の便宜を図るため、2期に分けて入試を行っている。

志願者の入学審査については、一般選抜では、勉学に対する意志の強さを小論文により評価し、本課程の教育を受けるに望ましい学生像に合致する学生を選ぶことができるよう工夫をしている。さらに、多様なバックグラウンドの学生を入学させるために、多数の科目から1つの科目を選定して解答させる方式を採用している。社会人経験者に対しては特別選抜を行っている。そこでは、社会人としての職務経験を重視するため、小論文(エントリーシート)と面接を主として入学者の選抜にあたっている。この際、評価側の主観による偏った判断とならないよう、志願者の希望教育プログラムの複数の教員が小論文の評価ならびに面接にあたり、本課程の教育を受けるに望ましい学生像に合致した学生を選ぶように工夫している。

なお、入試審査に当たっては、本学出身者も他大学出身者と全く同等に扱っており、出身大学も様々である。

他部局との連携

「京都大学デザイン学大学院連携プログラム」

国際社会は今、温暖化、災害、エネルギー、食糧、人口など複合的な問題の解決を求めています。そこで本プログラムでは、異なる分野の専門家との協働によって「社会のシステムやアーキテクチャ」をデザインできる博士人材の育成を提案します。専門家の共通言語としてデザイン学を教育し、社会を変革する専門家を育成します。こうした人材を、ジェネラリストを意味する「T字型人材(T-shaped people)」と対比させ、専門領域を超えて協働できる突出した専門家という意味を込めて「十字型人材(+shaped people)」と呼び、本プログラムにより養成すべき人材像とします。

こうした人材を育てるために、5つの専門領域(情報学、機械工学、建築学、経営学、心理学)の協力によってデザイン学の学位プログラムを構成します。経営管理大学院はこの専門領域を担当する一部局となっています。

『通ってみたいビジネススクール調査』で経営管理大学院が3年連続西日本トップに選出されました

本大学院が、日本経済新聞社と日経HRが共同で実施した本年度「ビジネススクール調査」において、3年連続西日本のトップに選出されました。

Topics

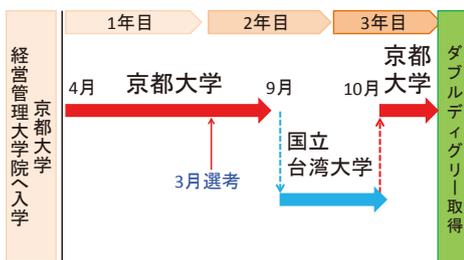
ダブルディグリーについて

国立台湾大学は、1928年に設立され、優秀な研究・教育実績を有し、世界的に人材を輩出してきている伝統ある大学です。京都大学経営管理大学院は、国立台湾大学管理大学院(会計プログラム、グローバルMBAプログラム)と2014年9月にダブルディグリー制度を締結しました。

3年間のプログラムで京都大学経営管理大学院と国立台湾大学管理大学院の2つの学位(MBA)を取得することが可能となります。

京都大学へ入学して1年間学んだ後、選考が行われます。年間2名の学生が入学から1年半後に、国立台湾大学へ1年間留学します。更に国立台湾大学から京都大学へ帰国後、6か月間京都大学での学びを続けて、2つの学位取得を目指すこととなります。(以下イメージ図)

国立台湾大学管理大学院(会計プログラム、グローバルMBAプログラム)とのダブルディグリー



# Research Institutes 研究所・教育研究施設

## 研究所が大学院教育に 果たす役割

76	化学研究所
77	人文科学研究所 / 再生医科学研究所
78	エネルギー理工学研究所 / 生存圏研究所
79	防災研究所 / 基礎物理学研究所
80	ウイルス研究所 / 経済研究所
81	数理解析研究所 / 原子炉実験所
82	霊長類研究所 / 東南アジア研究所
83	i P S細胞研究所 / 教育研究施設
84	教育研究施設 / 協力講座一覧

京都大学には、我が国の学術研究の中核的研究拠点として各学術分野を牽引する14の附置研究所が設置されています。これらの研究所は、基本的には研究面の活動を主体としていますが、大学院研究科との協力の下、最先端の研究環境を活かして優れた若手研究者の養成に取り組んでいます(協力講座)。

各研究所において大学院学生として教育を受けることを希望される場合は、それぞれの協力講座を開講している大学院研究科に問い合わせ、受入状況をご確認ください。

## 化学研究所



化学研究所(以下、化研)は、化学を物質研究の広い領域として捉え、物質に関する真理を究明するとともに、時代が求める諸課題の解決にも資する研究を行っています。このような立場で2010年度から、「化学関連分野の深化・連携を軸とする先端・学際研究拠点」として他大学・研究機関と多彩な共同利用・共同研究を推進し、一方、国内3大学と「統合物質創製化学推進事業」による研究連携を密にしています。また、これまでに採択された化学系、物理系の3件のグローバルCOEプログラムや「世界トップレベル国際研究拠点形成促進プログラム・iCeMS」にも、中核部局の一つとして積極的に関わっています。



化研の高い研究活性は、物理学、生命科学、情報科学に跨る広い化学関連分野をカバーする31の研究室(研究領域)が進めてきた先鋭的基礎研究、研究室相互や他部局・他研究機関と推進してきた学際・融合研究を反映しています。また、化研では海外研究機関との部局間交流協定(現在64件)などに基づく人的交流も盛んで、世界でも化学関連分野の先端研究の一つの核となっています。



化研の31の研究室は、理学、工学、農学、薬学、医学、情報学、人間・環境学の7研究科12専攻にわたる「協力講座」となっていて、約200名の大学院生(うち外国人留学生約20名)のきめ細かい指導に当たり、広い視野を持つ世界トッ

## Institute for Chemical Research

▶▶ [http://www.kuicr.kyoto-u.ac.jp/index\\_J.html](http://www.kuicr.kyoto-u.ac.jp/index_J.html)

プレベルの研究者の育成に努めています。その一環として、研究室や研究室をまたぐセミナーなどに加え、化研の大学院生が分野を越えて互いの研究内容を認識・参照する場としての大学院生研究発表会、化研全体の年次報告に当たる研究発表会を毎年開き、また、招へい外国人研究者との意見交換・交流の場であるセミナーやシンポジウムも多数(2013年度は45回)開催しています。さらに、やはり化研を挙げての事業として、大学院生に対して、国際会議での研究発表のための短期海外渡航を奨励するとともに、研究滞在を目的とする中長期海外派遣も力強く支援しています(2013年度は、それぞれ28件、11件)。

### 菅 大介 准教授

(附属元素科学国際研究センター無機先端機能化学研究領域)

遷移金属と酸素から成る酸化物は、高温超伝導や強誘電性などの多くの有用な機能を示します。酸素を介した遷移金属間の結合を基礎とした3次元格子が、酸化物の格子骨格となり、機能性を決定する電子状態の発現の舞台となります。私は、格子骨格の最小構成要素である、遷移金属を中心とした酸素八面体や四面体(その大きさは0.4ナノメートル程度)を積み木のように自在に積層し、原子レベルで酸化物を設計・構築することで新しい機能性の探求を行っています。



化学研究所には研究領域を跨いだ研究が実施可能な環境が備わっています。実際、最先端の走査型透過電子顕微鏡を利用して、自身で設計・構築した酸化物中の原子配列の観察を行っています。最近では、遷移金属をつなぐ酸素原子の直接観察にも成功しています。このような研究領域の垣根を越えて最先端の研究を行える環境は、実は非常に稀なものです。あなたも化学研究所で有意義な研究生生活を送ってみませんか？

## 人文科学研究所

## Institute for Research in Humanities

▶▶ <http://www.zinbun.kyoto-u.ac.jp/>



人文科学研究所は、人文社会系の大学附属研究所としては国内最大規模のもので、現在は文化研究創成、文化生成、文化連関、文化表象、文化構成の五研究部門と、東アジア人文情報学研究センター、現代中国研究センターの二附属研究施設から構成されています。人文科学研究所は人文科学分野において学際的共同研究の手法をいち早く取り入れました。現在も28の共同研究班において、「複雑化・多様化しつつある現代社会において、人文科学が果たす役割は何か」という問題を多様な角度から探究しています。2010年度からは文部科学省の認定による共同利用・共同研究拠点「人文学諸領域の複合的共同研究国際拠点」として、課題を公募する共同研究などの活動を推進しています。



人文科学研究所は、次世代の研究者を育成する教育活動にさまざまなかたちで力を注いでいます。

- 全研究部門および附属研究施設から27名の教員が、文学研究科の協力講座において大学院教育にあたっています。また、協力講座に準ずるかたちで教育学研究科人間・環境学研究科(共生文明学専攻文化人類学)、アジア・アフリカ地域研究研究科において講義と学生指導を担当しています。
- 地球環境学堂・学舎においては、「両任制」流動教員(1名)を務めています。

- これら以外にも、文学研究科や経済学研究科において、大学院授業担当のかたちで多数の教員が教育にあたっています。
- さらに特筆すべきは、学内外の博士後期課程以上の学生を共同研究班員として受け入れ、実践的研究活動に参加する機会を提供していることです。領域を異にする多数の専門研究者が参加する共同研究の場を通じて、精緻な文献研究、フィールドワークなど、多様な研究方法と学際的視野をもつ若手研究者を養成することに努めています。また、ポスドク研究者を研修員などとして受け入れ、活躍の機会を提供しています。

川本 直美 さん

博士後期課程2年  
(人間・環境学研究科・共生文明学専攻)

私の専門分野は文化人類学です。人類学の主な手法は調査地に長期滞在し、人々とともに暮らすことを通じて、彼らの生の営みを観察するフィールドワークです。私はメキシコ西部村落で行われているカトリックの祭礼を中心とした、人びとの宗教実践について研究しています。博士課程進学後は、人文科学研究所主催の共同研究にも参加してきました。共同研究は文化人類学だけでなく、社会学・心理学・歴史学・地理学・精神分析学など専門の異なる研究者によって学際的に行われており、そこに参加することで地域や専門分野の垣根を越えた研究者の方々と交流することもできます。また、人文科学研究所は研究者だけでなく広く一般市民に向けたシンポジウムも頻りに開催しています。これらの機会は、フィールドワークで得た知見や問題意識を多角的な視点から考えていく場として、そして自らの成果を社会に還元していく場としても最適な環境といえます。



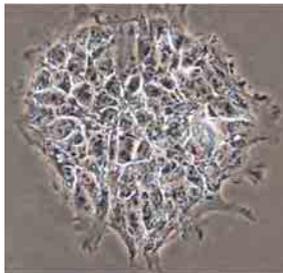
## 再生医科学研究所

## Institute for Frontier Medical Sciences

▶▶ <http://www.frontier.kyoto-u.ac.jp/>



再生医科学研究所は、我が国初の「再生医科学」を冠した研究所として設立され、現在、5研究部門、2附属施設からなる27研究室で構成されています。現在、研究所で行われている研究には、大きく分けて①ヒトES細胞、iPS細胞、体性幹細胞等を使用した幹細胞研究②神経・筋・骨・血液など再生医学の主な標的となる組織の発生・再生機構に関する医科学基盤研究③自己組織再生の「場」を形成するため、数々の生体組織代替材料、免疫隔離膜、人工細胞外基質、成長因子徐放システムの開発などの組織工学研究④自家間葉系幹細胞を用いた骨再生治療などの臨床応用研究があります。



本研究所の特色は、基礎医学・基礎生物学の知見を踏まえ、工学—再生医療、幹細胞医科学—再生医療の明確なベクトルを持った研究を展開し、基礎研究から再生医療の実現への医学・工学・理学出身者による学際的、融合的な研究を進めていることです。

2008年10月に文部科学大臣より共同利用・共同研究拠点「再生医学・再生医療の先端融合的共同研究拠点」に認定され、本研究所に集約された再生医学の知識・技術を基に、多様な先端的共同研究を推進するとともに、再生医学研究・再生医療を積極的、意欲的に担う研究者の教育・育成に努めています。



教育面では、再生医学、再生医工学の高度な研究を通じて教育により、再生医学の研究者、医療従事者、また新たな医療産業の担い手となる人材の育成を行うことを理念としています。

前述のように本研究所では、医学・工学・理学出身者による学際的、融合的研究を進めていることに関連して、大学院医学研究科、工学研究科、理学研究科及び生命科学研究科の協力講座として大学院生の教育を行っており、医学・工学・理学・生命科学の内の1つに高い専門性を持ち、且つ、それら4つの領域を全般的に理解し、広い視野で研究・開発を遂行できる研究者・技術者を養成することを教育目標に掲げています。

金 永輝 さん

研究員  
(再生医学応用研究部門組織再生応用分野)

私が所属する組織再生応用分野研究室では、体を支えたり、動かしたりする機能を担っている骨、軟骨、神経、筋肉の病気の基礎研究を行っています。外傷、老化、遺伝子疾患、癌などによって起きた疾患の中で、今の治療法では機能を戻すことができない困難な病態に対して、私たちは再生医学の知識、技術を応用して新たな治療法を開発することを目指しています。私は骨細胞、軟骨細胞、脂肪細胞など様々な細胞に分化できる間葉系幹細胞の細胞生物学的研究に取り組んで来ました。研究を経て表面マーカーや培養条件が同定できれば、iPS細胞から性質がとても良い、安全な間葉系幹細胞を無限に得ることが出来ます。当研究室には、肉腫の起源細胞の解明や発生にどのような遺伝子異常が関与しているかを解析しているメンバーや、難治性骨軟骨疾患をiPS細胞で再現し、分子機構の解明に挑戦しているメンバーもいます。分野を超えたディスカッションや議論ができます。



## エネルギー理工学研究所

## Institute of Advanced Energy

▶▶ <http://www.iae.kyoto-u.ac.jp/>

### 研究

エネルギー理工学研究所は、エネルギーの生成、変換および利用の高度化に関する研究を行うとともに、全国の大学その他の研究機関研究者の共同利用に供することを目的とし、現代社会における最大の課題のひとつであるエネルギー問題の解決を目指した研究を行っています。在籍する教員・研究者の学術基盤は、理学や工学の多岐の分野にわたっています。これら多様な分野の有機的な連携・融合を通して、環境調和性に優れ、社会的受容性の高い新規エネルギー源およびエネルギー有効利用システムの実現を目指す新たなエネルギー理工学の研究領域の開拓を進めています。現在は、核融合や太陽光によるエネルギーなどを目標に、重点複合領域研究として「先進プラズマ・量子エネルギー」と「光・エネルギーナノサイエンス」を推進しています。また、2011年度から、文部科学省から認定を受けた「ゼロエミッションエネルギー研究拠点」として国内外の研究者の共同利用・共同研究を進めており、国内外の多くの共同研究者に、本研究の特徴ある大型実験装置をはじめ、様々な先端的な研究設備や装置群が活用されています。また、2013年度からは特別経費プロジェクト「革新的高効率太陽光利用技術の開発」を開始しています。



### 羽田 和慶さん

博士後期課程 3年  
(エネルギー科学研究科・エネルギー変換科学専攻)

核融合炉発電では、水素ガスをプラズマの状態にし、磁場を用いてドーナツ状の真空容器内に閉じ込め、加熱することで核融合を起こし、アルファ粒子と中性子を用いて発電を行います。私は、プラズマを作るのにどのような運転条件が有効であるのかを明らかにするため、数値解析モデルを用いた研究を行っています。フランスのサン・ポール・レ・デュランスという場所に国際熱核融合実験炉 (ITER) という超大型の装置が国際協力によって建設中であるなど、核融合発電は最もホットな研究分野の一つです。京都大学にも、ヘリオトロン」という中型の装置があり、さまざまな加熱装置・測定機器を用いて、プラズマの特性が調べられています。中型といっても、大学生・大学院生が扱うものの中では非常に大きな装置です。毎週、月曜日には、前週に得られたデータに関する議論や今週の運転方針に関する打ち合わせなど、エキサイティングな研究生生活を送っています。



### 教育

本研究の全ての研究分野は、エネルギー科学研究科の協力講座として大学院教育に参画しており、毎年 70-100 名の学生が本研究所で指導を受けています。特に、多くの博士後期課程学生を擁し、中でも外国人学生の割合が高く、国際的に開かれた研究所となっています。これまで、グローバル COE プログラム「地球温暖化時代のエネルギー科学拠点」で行って

## 生存圏研究所

## Research Institute for Sustainable Humanosphere

▶▶ <http://www.rish.kyoto-u.ac.jp/>

### 研究

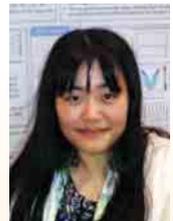
生存圏研究所は 2004 年 4 月に設立された研究所です。その目的は人間生活圏、森林圏、大気圏、宇宙空間圏を人類の「生存圏」として組織的・包括的に捉え、それらの診断・解析を行うと同時に開拓・創成する先進的技術開発を促進し、総合科学としての「生存圏科学」を確立することにあります。これを効率よく遂行するため、「環境計測・地球再生」「太陽エネルギー変換・利用」「宇宙環境・利用」「循環型資源・材料開発」という 4 つのミッションを定めて、分野横断的な研究を推進しています。また萌芽的研究の発掘にも力を入れています。当研究所は、2010 年度からは「生存圏科学の共同利用・共同研究拠点」としての活動を開始しました。研究施設・設備の全国・国際共同利用や、生存圏科学のデータベース構築とデータ配布、それらを活用した国際共同研究を推進しています。



### 久保田 結子さん

修士課程 2年  
(工学研究科・電気工学専攻)

私は現在宇宙空間の中でも人類がロケットや衛星等の宇宙機で到達できる範囲の高エネルギープラズマ環境を、研究所が運用しているスーパーコンピュータを駆使してシミュレーションにより検証しています。生存圏研究所は多方面の研究から成り立っており、セミナーや発表会を合同で行っています。そのため人類が抱える様々な現状の問題点やそれに対する取り組みを知ることができ、『人類が持続的に存在、活動してゆくために何が必要か?』といった研究者として社会に貢献するために考えなくてはならない根本的な問題を視野広く意識できます。また第 11 回アジア・大洋州地球科学会 (AOGS) のポスターセッションでは Best Student Poster Award を頂けました。それは生存圏研究所では国際共同研究が盛んであり、世界で行われている最新の研究内容を海外からの来訪者から学べ、日常的に英語で討論する機会に恵まれたからだと思っています。



### 教育

生存圏研究所は、農学、工学、情報学、理学と広範な研究分野の背景を持った教員による分野横断的な学際教育を通して、持続的社会的構築に深く関わる生存圏の科学を担う多彩な人材育成に取り組みます。また全国・国際共同利用に供される最先端の研究設備・データベースを利用した研究に接することを通して、総合的な知識と俯瞰的かつ国際的な視野をもって生存圏の科学の発展に寄与する研究・教育者を育成します。協力講座として参加す

## 防災研究所

## Disaster Prevention Research Institute

▶▶ <http://www.dpri.kyoto-u.ac.jp/>

**研究** 防災研究所は、自然科学から人文・社会科学にわたる災害学理の追求と、防災学の構築に関する総合的な研究に取り組んでいます。災害と防災に関わる多種多様な課題に対して、災害学理の追求を目指した基礎研究を展開するとともに、現実社会における問題解決を指向した実践的な研究を実施し、安全・安心な社会の構築に貢献すべく、約 100 名の研究者と 200 名の学生が日々研究に取り組んでいます。研究対象は地震津波、火山噴火、地盤災害、洪水・渇水などあらゆる自然災害であり、学問領域は自然科学、人文・社会科学、工学、情報学などの領域にわたり、防災研究を標榜する大学附置の研究所としては、世界屈指の規模と研究の水準を誇っています。また、防災研究所は、自然災害に関する総合防災学の共同利用・共同研究拠点として認定されており、重点研究課題として、(1)南海トラフ地震など巨大地震・津波、火山噴火対策研究、(2) 気候変動・極端気象に関する適応策研究、(3) 国際防災実践研究を掲げ、国内外の研究機関との共同研究も積極的に進めています。



**教育** 防災研究所は理学研究科、工学研究科、および情報学研究科の協力講座として、大学院教育を担っており、3 研究科あわせて約 200 名の大学院生が学んでいます。先端的かつ学際的な防災研究に結びついたセミナーや、最先端の実験装置

を用いた実験や解析、現地調査・フィールドワークなど、防災研究所ならではの学びができます。外国人客員教授や、国内外の第一線研究者達による特別講義も大きな魅力です。さらに 2011 年度からは、博士課程教育リーディングプログラム「グローバル生存学大学院連携プログラム」、大学の世界展開力強化事業「強靱な国づくりを担う国際人育成のための中核拠点の形成」にも参画しています。世界の英知に触れながら、研鑽をつむことができるプログラムとなっています。防災研究所はこのような活動を通じて、次世代を担う人材の育成に務めています。

**中居 楓子 さん** 博士後期課程 1 年 (情報学研究科・社会情報学専攻)

私の所属している研究室では、災害による経済的・人的被害をできる限り小さくする「減災」に主眼をおき、主に経済学的・情報学的な視点から、理論、実証、実践に基づいた研究をおこなっています。

私は、津波災害から命を守るための方策のひとつである、避難に関する研究をしています。2012 年に内閣府から発表された南海トラフ巨大地震の想定では、一部の沿岸地域に、地震発生後から数分で 30m を超える巨大津波が到達する可能性が示されました。私の研究は、「巨大災害に対し我々は絶望するしかないのだろうか?」という問いにはじまり、それに「No」という答えを出すための手法を探るものです。現在は、コンピュータを用いた津波避難シミュレーションと現場での実験を通じて、地域の地形、人工構造物、人の行動を組み合わせ、命を守る可能性を作り出す方法を住民と共に模索しています。

研究所では、国内外の先端を行く研究者と出会う機会や、同じ分野の学生との自主ゼミがあり、とても刺激的ですが、私にとっては、現場で出会う多くの人や現象もまた師であり、研究の原動力となっています。



## 基礎物理学研究所

## Yukawa Institute for Theoretical Physics

▶▶ <http://www.yukawa.kyoto-u.ac.jp/>

**研究** 素粒子論では、自然界の最も基本的な粒子やその間に働く 4 つの力を研究しています。強い力、弱い力、電磁気力を統一するゲージ理論が確立されつつあります。重力の量子論としては、素粒子を一次元的な紐とみなす超弦理論による研究が盛んです。原子核理論では、強い力を担うハドロンとその集まりである核子や原子核の構造・性質を研究しています。統計・固体物理学では、巨視的物質の持つ様々な興味ある性質(超伝導、超流動など)を基本的な力と、多数の粒子の効果から説明することが目的です。非平衡開放系での物質の運動状態や相構造の解明も重要な課題です。宇宙・天体物理学では、銀河や宇宙スケールの現象を、一般相対論と素粒子論に基づいて解明することを目指します。宇宙の創成、ブラックホールの物理なども大きな課題です。



本研究所では、非常勤研究員等を積極的に受け入れています。また、多くの外国人研究者が長期・短期に訪れ、年間 100 を超える研究所セミナーの約半数は外国人研究者によるもので、国際的センターの役割を果たしています。

**教育** 基礎物理学研究所は、大学院理学研究科物理学・宇宙物理学専攻の協力講座として、大学院教育を担っており、理論物理学の四つの基礎的諸分野である素粒子論、原子

核理論、統計・固体物理学、宇宙・天体物理学の大学院生(修士・博士後期課程)を毎年十数名受入れています。この四つの学問分野は、扱う対象の特徴的な大きさの尺度に対応しており、極微の世界(素粒子論)、原子の中心にある原子核程度のもの(原子核理論)、日常生活で遭遇する様々な物質(統計・固体物理学)、銀河や銀河団から宇宙そのもの(宇宙・天体物理学)です。23 人の教師陣が基礎的な講義から最先端の話題を含めた演習まで幅広いメニューを用意しています。外国人客員教授や、国内外の第一線研究者達による集中講義も大きな魅力です。

**兵藤 哲雄 助教** (物質構造研究部門)

基礎物理学研究所では、理論物理学の全ての分野の研究者が集まり、様々な自然現象を解明するためにセミナーや国際研究会で活発な議論を行っています。私の専門分野である原子核理論は、自然界の 4 つの力のうち強い力による物理現象を研究対象としています。強い力は量子色力学という理論を基礎としていると考えられていますが、現実世界を全て量子色力学から理解するには至っておらず、現在でも様々な手法で研究が行われています。特に、クォークの閉じ込めと呼ばれる現象は、解決に 100 万ドルの賞金がかけられるほど難しい問題として知られています。

原子核物理を研究対象としても、実際の研究で他の理論物理学分野と関係した議論が必要になる場合があります。例えば、私自身の最近の研究で、湯川秀樹が提唱したパイ中間子を 3 つ集めて起こる現象について、物性物理学の冷却原子気体の研究で使われている手法を用いて解析を行いました。基礎物理学研究所では異なる分野の研究者とも日常的な議論ができるので、幅広い視野で研究を行うのに理想的な環境です。



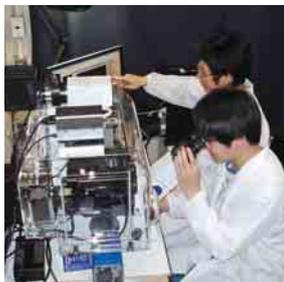
# ウイルス研究所

## Institute for Virus Research

》 <http://www.virus.kyoto-u.ac.jp/>

### 研究

ウイルス研究所は1956年に設立されて以来、病気の原因としてのウイルスの研究とともに、ウイルス研究の基盤として、生命の謎を解き明かす研究に携わってきました。その過程で、我が国の分子生物学研究に中心的な役割を果たし、また新たなウイルスを発見するなど、基礎から応用研究に至るさまざまな貢献をしてきました。



本研究所は「ウイルスなどの感染症による脅威を取り除き、安心した社会の構築に寄与する」「ウイルスの研究をさらに深く細胞および個体レベルの生命現象を理解する」「免疫・神経系などの高次生命現象を理解し、ウイルス疾患を明らかにし、かつ予防する」等を目的とした研究を行っています。

### 教育

ウイルス研究所は、基礎生物学から医学にわたる多様な分野の研究者が在籍して研究・交流をしており、大学院教育においても5つの研究科(医学研究科、生命科学研究科、理学研究科、薬学研究科、人間・環境学研究科)を通じて多数の学生を受入れています。当研究所に所属する大学院生は学術交流会(所内行事)や国際学生セミナー(生命科学研究科との共催)などの行事を通して様々な異分野の研究に接する機会があります。

さらに、平成22年度からは、「ウイルス感染症・生命科学先端融合

的共同研究拠点」として共同利用・共同研究拠点となりました。当研究所はこのような非常にユニークな研究環境を生かして次代を担う世界トップレベルの研究者を育ててきました。今後とも、異分野交流を活発に進めることによって、研究・教育に大きな貢献をしていきたいと考えています。

### 渡邊 直希 さん

博士課程4年  
(医学研究科・医学専攻)

ウイルス研究所ではウイルス及びウイルス疾患の研究をはじめ、幅広い視点から生命科学領域の融合的な研究を行っています。私の所属する増殖制御学研究分野では、マウスを用いて神経発生、体節形成、短周期の生物時計及び成体脳のニューロン新生に関する基礎研究を進めています。その中で私は大脳皮質形成期における神経幹細胞の分化制御機構を研究しています。ウイルス研究所には異なる5研究科に所属する大学院生が在籍していることもあり、研究科や研究室の異なる学生であつても交流があり、互いに切磋琢磨しています。また、所内行事も盛んで、春には新入所者歓迎会及びソフトボール大会、年末には学術交流会及び忘年会が行われ、研究所内の様々な研究領域の方々と交流を深めています。さらに国内外の研究者を招待して、学術講演会やセミナーが定期的に開催されており、幅広い分野の最先端の研究成果に触れることができます。



# 経済研究所

## Institute of Economic Research

》 <http://www.kier.kyoto-u.ac.jp/>

### 研究

経済研究所は、1962年創立以来、理論経済学および応用・実証研究の両面において、先端的な経済学研究に携わってきました。当研究所は、2010年度から「複雑系経済学」と「経済戦略と組織」という中心テーマをかかげて、基礎研究に力点を置く国際的共同研究拠点活動を展開しています。



研究テーマの柱の一つをなす「複雑系」という考え方は1960年代から自然科学や工学で発展し、物の見方を一新させた分析手法です。当研究所は、この手法を世界に先駆けて取り入れ、経済学研究を先導してきました。

もう一つのキーワード「経済戦略」は、多くの日本人が戦略的思考を苦手とし、我が国の発展を阻んでいるという問題意識の上に成り立っています。日本人が本当の意味での戦略的思考法を身につけ、組織設計を行える社会を形成しなくてはなりません。当研究所は、このための基礎づくりを目指したものです。現在、当研究所はこうした研究方法から経済危機や災害復興の経済分析に挑戦しています。

基礎研究は現実の経済とは大きな隔たりがあると感じる方もいるかもしれませんが、欧米では、最先端の経済学研究が実生活にどんどん取り入れられています。私たちは基礎研究こそが、経済社会を根本から変革していく近道と考えています。

### 教育

経済研究所は大学院生・若手研究者などの教育にも積極的に関わり、多くの一流研究者を育ててきました。当研究所は大学院経済学研究科の「協力講座」となっていて、先

端的な研究を基礎にして多くのコア科目を担当するとともに、60名ほどの大学院生にきめの細かい研究指導を行い、国際的に通用する研究者の育成に努めています。また、日本学術振興会特別研究員、非常勤研究員、招へい外国人学者・外国人共同研究者等として、内外の若手研究者も広く受け入れ、その多くは研鑽を経て主要大学の教員として巣立っており、研究者の養成機関としても当研究所は高い評価を受けています。大学院生、若手研究者には、当研究所の研究資源、多くのセミナー、ディスカッション・ペーパーを開放するとともに、外国の教育機関との交流や外国人客員教員などで国際的な教育機会も提供しています。

### 山脇 大さん

博士後期課程1年 / 経済研究所 RA  
(経済学研究科・経済学専攻)

私の専門分野は比較経済学です。比較経済学は、社会主義経済システム崩壊後の市場経済システムへの移行過程の多面的分析を通じ、世界経済における経済システムの多様性及びその国際比較に関わる分析手法・視座を提供しています。私は研究室において、天然資源のガバナンス構造に関わるアクターや制度の国際比較を研究テーマとして設定しており、その中でもグローバル化と経済統合の流れの中で独自の市場を形成しつつある、資源リッチな移行経済諸国のロシアや中東欧に分析焦点を当て、研究を進めています。



経済研究所では、国内外問わず第一線で活躍される先生方の下、最先端の経済学研究を学ぶ機会が多くあります。非常に密な研究指導は勿論のこと、講演会や研究会に大学院生も参加が可能であり、そこで世界トップレベルの研究者の発表・議論に触れることができ、また交流を通じて将来に向けた人的ネットワークを形成することもできます。加えて、経済研究所 RAとして研究補助に携わることで、最先端の研究手法や研究への真摯な姿勢もまた実践を通じて修得できる等、非常に理想的な環境です。

## 数理解析研究所

## Research Institute for Mathematical Sciences

▶▶ <http://www.kurims.kyoto-u.ac.jp/>

### 研究

数学・数理解析の基礎的研究を推進することが本研究所の目的です。このため、所員による自由な発想と思考に基づく研究活動を活発に推進することは勿論ですが、全国の数学・数理解析研究者のための共同利用・共同研究拠点の事業を実施するとともに、国際研究拠点として国際共同研究を推進しています。毎年 80 件以上の研究集会等を開催し、300 人以上の海外研究者が来訪しています。平成 22 年度からは数学・数理解析の先端的共同利用・共同研究拠点として新たな事業を展開しており、平成 26 年度からは量子幾何学研究センターの活動も本格的になっています。このように、本研究所は国内的にも国際的にも卓越した研究拠点として中心的な役割を果たしています。



本研究所の取り組む研究分野は、純粋数学から応用数学、数理解析、そしてコンピュータ・サイエンスに及んでおり、基礎から応用まで幅広く、相互に有機的な関連をもち、その相互作用により新しい研究領域ならびに研究成果が生み出されています。

### 教育

本研究所は、大学院理学研究科、数学・数理解析専攻、数理解析系として、学生入学定員修士課程 10 名、博士後期課程 10 名を対象に、数学・数理解析の進歩を担う独自の研究者の養成を目的とした教育を行っています。担当教員が、その研究分野に関して開講する授業（講義及びセミナー研究）によって、少人数指導で教育を行うのが、本研究所の教育の特徴です。

また、学生が研究所で開催される研究集会に参加し、来訪研究者と交流を持ち、最先端の研究に接することができることも、大きな利点

なっています。平成 26 年度にスーパーグローバル大学等事業に採択され、数学・数理解析専攻では現在スーパーグローバルコースの設置準備を進めています。また、フィールズ賞受賞者等の世界トップレベルの研究者を特別招へい教授として任用し、英語による講義等を実施しています。

その他に、国内外の若手研究者（博士の学位を取得した者）を、研究員や日本学術振興会の特別研究員として受け入れています。

これらの若手研究者は、所員や来訪研究者との研究交流を行ったのち、各大学の教員として巣立っており、本研究所は研究者養成機関としての役割を担っています。

### 望月 拓郎 教授

（基礎数理解析部門）

私は調和バンドルやツイスター D 加群と呼ばれる対象を調べることで、ある種の代数的な線形偏微分方程式が持つ興味深い性質を研究してきました。

代数解析学や大域解析学といった独立に発展していた分野が、調和バンドルの特異性の研究を通じてうまくつながったところに、不思議な面白さを感じます。

最近では、これまでの研究で得られた知見を、インスタントンやモノポール、量子 D 加群といった数理解析学的な対象に応用することを試んでいます。

それほど大したことをしているわけではなくても、自分にとって新しい世界が目の前に現れると喜びを感じますし、そこに乗り出していく時にはワクワクします。実際には長くて困難な道のりが待っている、とわかってはいるのですが。

学生の皆さんにも、自分自身で研究を企て、推し進めていく愉悅を味わってほしいと思っています。そして、そのための力を養っていかれることを願っています。



## 原子炉実験所

## Research for Reactor Institute

▶▶ <http://www.rri.kyoto-u.ac.jp/>

### 研究

原子炉実験所は、昭和 38 年の設立以来、全国大学等の共同利用研究者に対して、大学の持つ原子力施設としては国内最大の共同利用原子炉(KUR)を中心に、臨界集合体実験装置(KUCA)やコバルト 60 ガンマ線照射装置などを提供（平成 22 年度からは、共同利用・共同研究拠点として事業を開始）



しています。年間延べ数千人の研究者や学生などが来所しており、理学、工学、農学、医学などの多方面にわたる研究が行われています。

また今日、原子力利用の各分野において大学の果たす役割への期待が益々高まっており、本実験所が培ってきた共同利用研究の実績の評価に基づき、極めて大きな期待が寄せられています。

本実験所では、このような期待に応えるべく、KUR などの諸施設を有効に利用した核エネルギー、放射線・粒子線を用いた特徴的研究を展開しております。さらに、本実験所では固定磁場強集束型 (FFAG) 加速器を KUCA と結合させた加速器駆動未臨界システムの基礎研究を世界に先駆けて開始するとともに、世界を牽引するべく、ホウ素中性子捕捉療法 (BNCT) によるがん治療の基礎・応用研究を進展させております。

### 教育

原子炉実験所の教員は、研究分野として工学研究科、理学研究科、農学研究科、医学研究科、エネルギー科学研究科の協力講座を担当して、大学院の講義や研究指導を

行っております。また、全学共通科目を開講して京都大学の学部学生の教育にも貢献しております。この他、KUCA を用いて全国 12 大学の原子力工学系大学院生（京都大学学部学生を含む）を対象に 1 週間の実験教育コースを毎年数回行っており、かつ平成 15 年から韓国 6 大学、平成 18 年からスウェーデン 1 大学の学生にも実施しております。原子力人材育成が世界的にも重要視されている今日、本実験所はその一翼を担っており、国内外の原子力分野の人材育成に大きく寄与しています。

### 鈴木 実 教授

（粒子線腫瘍学研究センター・粒子線腫瘍学研究分野）

私の研究室は、ホウ素中性子捕捉療法 (Boron neutron capture therapy, 以下 BNCT) という研究用原子炉からの中性子を使用する放射線治療の基礎・臨床研究を行っています。新規治療法の開発研究は、医学研究者の使命です。BNCT は、ホウ素化学、中性子工学、加速器工学など多彩な研究分野が結集することにより前進可能な治療法です。原子炉実験所には、原子炉物理学、中性子工学、加速器工学、放射線生物学、医学物理学の研究室があり、設備的にも、中性子照射、γ線照射、陽子線照射実験が可能です。本実験所におけるこのソフト、ハードの面で充実した研究体制が、BNCT 研究を着実に進めていく原動力になっています。BNCT 研究のみならず、自然科学研究は、多分野の共同研究が必要です。京都大学原子炉実験所は、全国共同利用研究施設として設置された経緯から、各研究分野において、国内外に広がる研究ネットワークが構築されています。創造的かつ他分野と関連する有機的な研究に取り組みたいという学生諸君の参加を期待しています。



# 霊長類研究所

# Primate Research Institute

》》 <http://www.pri.kyoto-u.ac.jp/>

## 研究

霊長類研究所は、ヒトを含む霊長類に関する総合的研究をおこなうことを目的に、全国の研究者の共同利用研究所として京都大学に附置され、1967年に愛知県犬山市に設立されました。現在、4つの研究部門（10分野）、および2つの附属研究施設があります。人間の本性とその進化的基盤を明らかにするため、霊長類の多様な種を対象に、ゲノムから生態まで幅広い視点から学際的研究をおこなっています。京都大学の伝統であるフィールドワークだけでなく、実験室での研究もおこなわれていて、共同利用・共同研究拠点として国内外の研究者が利用できる研究体制を整えています。



## 教育

霊長類研究所は、京都大学大学院理学研究科生物科学専攻の「霊長類学・野生動物系」として、大学院教育をおこなっており、大学院を有する国内唯一の霊長類学専門の研究教育機関です。ヒトを含む霊長類に関する総合的研究を継続的に推進・発展させるためには優れた若手研究者の養成が不可欠ですが、その教育目標は以下のような特色をもっています。

1. 修士課程から博士後期課程まで、広い視野に立った教育を志している。良好な研究環境を保ち、長期的な展望に立った研究の遂行を可能にする。多様な若い人材を受け入れることは研究所の活性化にもなり、留学生や有職者を含む多様な人材の博士編入にも門戸を開いている。

2. 講義や実習を充実して、文系・理系を問わず霊長類学全般に関する基礎知識を深め、体系的な学識を身につけてもらう。
3. セミナーや研究会あるいは学際的な共同研究を通じて、異なる専門領域の研究に接する機会を数多く提供し、専攻した学問領域だけに偏らない広い視野を育成する。
4. 2009年に国際共同先端研究センター（CICASP）が発足し、国際共同研究と英語による教育の充実を推進している。2013年から、霊長類学ワイルドライフサイエンスというリーディング大学院を、野生動物研究センターと協力して開始した。フィールドワークを基盤とした博士課程教育プログラムである。

## 黒澤 圭貴 さん

修士課程1年  
（理学研究科・生物科学専攻）

霊長類研究所でおこなわれている研究は多岐に渡り、霊長類という1本の柱を軸に、フィールドからゲノムまで、多様な興味関心を持った研究者や大学院生が在籍しています。そのため、在籍者のバックグラウンドも幅広く、理系学部出身者はもちろん、文系学部の出身者も、自分の関心を生かした研究をおこなえる環境です。私自身も経済学部の出身であり、現在はチンパンジーの「こころ」の研究、特に「チンパンジーのリスク下の意思決定」をテーマにして、研究活動に励んでいます。また、外国人留学生が多く在籍していることも、霊長類研究所の特徴です。研究活動において、もはや英語は必要不可欠です。その中で、日常的に英語が飛び交う、国際色豊かな研究所の環境は、研究をおこなう上で恵まれた環境だと言えるでしょう。このように、日頃から学問領域や文化を越えた交流があり、多様な視点で物事を考えながら勉学に励むことができるのが、霊長類研究所です。



# 東南アジア研究所

# Center for Southeast Asian Studies

》》 <http://www.cseas.kyoto-u.ac.jp/>

## 研究

東南アジア研究所には、21人の専任教員がおります。その専門は文理の8分野（法、経、文、工、農、理、医）にまたがります。スタッフの多様性と、各々の分野を超えて進めている共同研究の学際性が、研究所の特色であり強みとなっています。一例を紹介すれば、グローバルCOEプログラム「生存基盤持続型の発展を目指す地域研究拠点」（杉原薫代表）があります。



このプログラムは、アジア・アフリカ地域の持続的発展に関する学際的研究を、グローバルで長期的な視野から多面的に行うために、2007年度から2011年度まで行いました。生存圏研究所などが進める「サステナビリティ学」の専門家とともに、先端の科学技術や知識を、伝統的な地域研究を支えてきた生態学、政治学、経済学、社会学、人類学、歴史学、医学などの知識と融合させることによって、革新的で実践的な地域研究を推進し、同時にその専門家や科学者の養成を行い、成果を全6巻の『講座・生存基盤論』（京都大学出版会2012）として刊行しました。この成果は、2011年度からスタートした東南アジア研究所特別経費プロジェクト「ライフとグリーンを基軸とする持続型社会発展研究のアジア展開—東アジア共同体構想を支える理念と人的ネットワークの強化—」にも引き継がれています。

また、毎年、半期に6名ずつの外国人研究員をお招きし、共同研究を進めることを通して、東南アジア研究の国際共同研究拠点として大きな役割を果たしています。

## 教育

東南アジア地域研究専攻の総合地域論講座を、研究所の8人のスタッフで担当しています。各自の専門は以下のように多彩です。清水（文化人類学）、水野（経済発展論）、

小泉（歴史学）、石川（社会人類学）、甲山（水文・気象学）、三重野（経済学）、小林（文化人類学）、中西（政治学）。そのほか、速水（社会人類学）と岡本（政治学）が地域変動論講座、西沢（病原細菌学）と安藤（熱帯農学）が生態環境論講座、松林（フィールド医学、老年医学）・河野（自然資源管理）・藤田（農業経済学）が持続型生存基盤論講座の一員です。また、松林と西沢が、医学部・医学研究科においても学部生・大学院生の指導をしています。研究所スタッフの多様な研究関心と方法論が、院生へのさまざまな刺激と示唆、助言と指導に役立っています。

## 後藤 直子 さん

博士課程1年  
（アジア・アフリカ地域研究研究科・東南アジア地域研究専攻）

経済、技術、政治、教育などあらゆる側面で問題を抱えるインドネシア農村において、農民の農業生産活動の母体となる農民組織が、いかに自立し、自ら農業・農村を発展させていくかということが極めて重要な課題となっています。私は、この農民組織の実態を調査するべく、2014年8月から2015年9月まで、インドネシアでフィールドワークを行います。現在は、インドネシアのボゴール農科大学の農業・農村開発センターにて、インドネシア人研究者との議論や、研究に関連するインドネシア語の文献の収集、ボゴール近辺の農村に赴くことによって自分のインドネシア農村に関する知識を深めています。また、調査で用いるインドネシア語、ジャワ語の勉強もしています。先日は、ボゴール農科大学が開催した国際学会にて発表しました。今後は、このボゴール農科大学で深められた農村のイメージを持って、実際に中部ジャワの農村で調査し、博士予備論文を執筆する予定です。



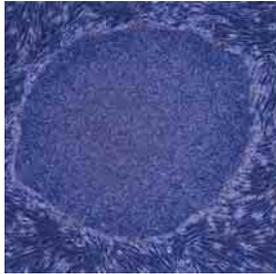
## iPS 細胞研究所

Center for iPS Cell Research and Application

▶▶ <http://www.cira.kyoto-u.ac.jp/j/>



iPS細胞研究所(CIRA=サイラ)は、2010年4月に設立され、初代所長には、世界で初めてiPS細胞を樹立することに成功し、2012年にノーベル生理学・医学賞を受賞した山中伸弥教授が就任しています。前身は、2008年1月に物質-細胞統合システム拠点(iCeMS)内に組織されたiPS細胞研究センターです。iPS細胞研究所の主任研究者は初期化機構研究部門、増殖分化機構研究部門、臨床応用研究部門、基盤技術研究部門、上廣倫理研究部門に分かれて研究活動を行っています。主任研究者の3分の1は30代で、若い研究者の豊かで自由な発想を重視しています。



2010年2月に竣工した研究棟(地上5階、地下1階)には、動物実験施設や細胞調製施設(FiT: Facility for iPS Cell Therapy)を有しており、iPS細胞の基礎研究から医療応用を目指した前臨床および臨床研究までシームレスに実施できる体制となっています。また、研究エリアではオープンラボ形式を採用しており、研究者間のスムーズな情報・意見交換が期待できます。さらに、研究者が研究に専念できるように、独自に知的財産や契約などを管理するサポートチームも組織しています。

iPS細胞研究に特化した世界でも先駆的な研究機関として、iPS細胞研究所は難病や外傷で苦しんでいる世界中の大勢の人々に役立つ新しい治療法を開発するために、iPS細胞作製技術を用いて創薬や

再生医療を実現することを目標としています。



iPS細胞研究所では、医学研究科の一部として、初期化機構研究部門初期化制御学分野、増殖分化機構研究部門分化誘導研究分野、臨床応用研究部門疾患再現研究分野等の11分野で大学院教育を実施しています。また、iPS細胞研究基金等の外部資金を活用して若手研究者を受け入れています。再生医科学研究所、iCeMS、医学研究科、医学部附属病院と密接に連携しながら、共同研究の奨励と若手研究者の交流と育成に努めています。

島本 廉さん

特定研究員  
(初期化機構研究部門)

マウスiPS細胞の樹立が2006年に報告されて以来、様々な改良が進められています。そして現在では、一部の疾患について臨床研究も始まっています。このような目覚ましい発展の一方で、まだまだ多くの課題が残されています。私が所属する初期化機構研究部門では、主にiPS細胞の誘導機構について研究を行っています。その中でも私は、DNAのメチル化制御に着目しています。体細胞からiPS細胞が出来てくる際に、DNAのメチル化やヒストン修飾といったエピジェネティックな修飾が書き換えられます。この現象はリプログラミングの本質であるにも関わらず、その機構はよく分かっていません。私はこの機構を明らかにすることで、高品質なiPS細胞を効率良く作ることを目指しています。CIRAはオープンラボであり、人の交流が盛んです。また、海外の研究者が多く、とても国際的です。このような素晴らしい環境の中で貴方も一緒に研究してみませんか？



研究所・教育研究施設

## 教育研究施設

### ■全国共同利用施設

施設名	設置目的
学術情報メディアセンター (昭和44年4月開設)	情報基盤及び情報メディアの高度利用に関する研究開発を行い、教育研究等の高度化を支援するとともに、全国の大学その他の研究機関の研究者等の共同利用に供する。また、情報環境機構の行う業務を支援する。
放射線生物研究センター (昭和51年5月開設)	放射線の生物への影響に関する基礎的研究を行うとともに、全国の大学その他の研究機関の研究者の共同利用に供する。
生態学・生物多様性科学センター (平成3年4月開設)	生態学・生物多様性科学に関する研究を行うとともに、全国の大学その他の研究機関の研究者の共同利用に供する。
地域研究統合情報センター (平成18年4月開設)	地域研究に関する情報資源を統合し相関型地域研究を行うとともに、全国の大学その他の研究機関の研究者の共同利用に供する。
野生動物研究センター (平成20年4月開設)	野生動物に関する教育研究を行い、地球社会の調和ある共存に貢献するとともに、全国の大学その他の研究機関の研究者の共同利用に供する。

### ■学内共同教育研究施設

施設名	設置目的
高等教育研究開発推進センター (平成15年4月開設)	高等教育における教授法、教育課程、教育評価等、教授システムに関する実践的研究、ならびに本学の教育活動の改善について、専門的立場から助言および協力を行うとともに、その研究成果に基づき高等教育研究開発推進機構の行う業務を支援する。また、研究成果に基づいて有する教育内容および方法の改善に係る機能について、他の大学の利用に供する。
総合博物館 (平成9年4月開設)	学術標本資料の収集と収蔵、教育研究支援、研究成果の公開および学術標本資料の解析、学術的評価、情報化等の調査研究および研究資源アーカイブに関する各種資料の体系的な収集・保存・運用・これらに必要な調査研究を行う。
低温物質科学研究センター (平成14年4月開設)	液体窒素や液体ヘリウムなどの寒剤を安定的に供給し、低温科学の研究や教育を支援する。低温物質科学に関する独自の研究・教育を行うとともに、実験室・研究設備を共同利用に供する。また、環境安全保健機構の行う業務を支援する。
フィールド科学教育研究センター (平成15年4月開設)	森林生物圏、里域生物圏ならびに沿岸海洋生物圏をつなぐ現場教育とフィールド研究を行うとともに、学内および国内外からの共同利用に供する。
福井謙一記念研究センター (平成14年4月開設)	ノーベル化学賞を受賞された福井謙一博士の研究理念を継承し、基礎化学並びに関連する科学の諸分野に関する研究を進展させ、学術研究の向上を図る。
こころの未来研究センター (平成19年4月開設)	心理学、認知科学、脳科学、人文科学等の学際的研究拠点を構築し、人のこころに関する総合的研究を行う。
文化財総合研究センター (平成20年4月開設)	文化財の調査・保存・活用に関する総合的教育研究を行うとともに、京都大学敷地内の埋蔵文化財についての調査研究及びその保存のため必要な業務を行う。

■物質－細胞統合システム拠点	設置目的
物質－細胞統合システム拠点 (平成 19 年 10 月開設)	物質科学と細胞科学を統合した新たな学際領域の創出を行う。
■その他の学内組織	設置目的
健康科学センター (昭和 41 年 4 月開設)	学生及び職員の健康管理に関する専門的業務を行う。また、環境安全保険機構の行う業務を支援する。
学生総合支援センター (平成 25 年 8 月開設)	カウンセリングルーム、キャリアサポートルームおよび障害学生支援ルームからなり、学生等の修学上、適応上及び就労上の相談、苦情等への対応、就職支援及び障害のある学生の修学上等の支援等を行う。
大学文書館 (平成 12 年 11 月開設)	公文書等の管理に関する法律（平成 21 年法律第 66 号）に基づく特定歴史公文書等その他京都大学の歴史に係る各種の資料の収集、整理、保存、閲覧および調査研究を行う。
アフリカ地域研究資料センター (平成 8 年 4 月開設)	アフリカ地域の学術情報に関する国際学術誌の編集刊行、図書・地理情報・動植物標本・民族資料等の収集・整理・公開、公開研究会および公開シンポジウムの開催、国際学術協定等に基づく研究交流の推進、関連研究機関との情報交換を行う。
男女共同参画推進センター (平成 26 年 4 月開設)	研究者の交流、啓発・広報、育児・介護の支援、就労形態に関する調査その他、女性研究者の支援に関する業務を行う。
白眉センター (平成 21 年 9 月開設)	次世代研究者育成支援事業の企画運営を行うとともに、同事業により雇用する教員の受入部局との協議調整その他次世代研究者育成支援事業の円滑な実施に関し必要な事項を処理する。
学際融合教育研究推進センター (平成 22 年 3 月開設)	学際的な教育研究を推進するための支援を行う。
学術研究支援室 (平成 24 年 4 月開設)	研究者の研究活動の支援を行うとともに、本学における学術研究の推進を図るため、高度な専門知識・経験を有する「リサーチ・アドミニストレーター（URA）」により、研究者が研究活動に専念できる環境を整備し、研究プロジェクトの企画・運営・研究成果の社会還元を支援する。

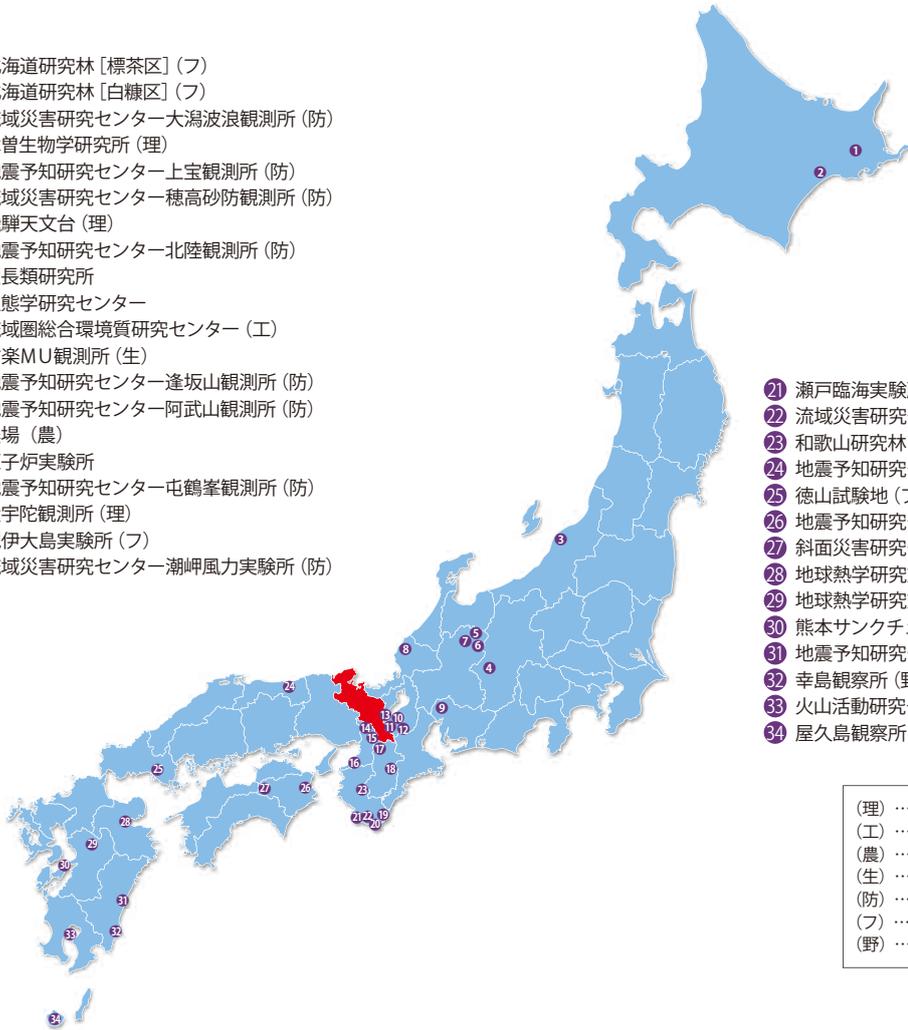
## 協力講座一覧

各研究科では以下の研究所・教育研究施設等の教員から構成される協力講座を設けています。各研究所・教育研究施設において大学院学生として教育を受けることを希望される場合は、下記それぞれの協力講座を設けている大学院研究科に問い合わせ（89 ページ参照）、受入状況をご確認ください。（下表のほかにも協力講座を設けている研究科もあります。）

研究所	研究科	全国共同利用施設	研究科
化学研究所	理学研究科、医学研究科、薬学研究科、工学研究科、農学研究科、人間・環境学研究科、情報学研究科	学術情報メディアセンター	工学研究科、人間・環境学研究科、情報学研究科
人文科学研究所	文学研究科、人間・環境学研究科	放射線生物研究センター	医学研究科、人間・環境学研究科、生命科学研究科
再生医学研究所	理学研究科、医学研究科、工学研究科、生命科学研究科	生態学研究センター	理学研究科
エネルギー理工学研究所	エネルギー科学研究科	野生動物研究センター	理学研究科
生存圏研究所	理学研究科、工学研究科、農学研究科、情報学研究科		
防災研究所	理学研究科、工学研究科、情報学研究科		
基礎物理学研究所	理学研究科		
ウイルス研究所	理学研究科、医学研究科、薬学研究科、人間・環境学研究科、生命科学研究科		
経済研究所	経済学研究科、情報学研究科		
数理解析研究所	理学研究科		
原子炉実験所	理学研究科、医学研究科、工学研究科、農学研究科、エネルギー科学研究科		
霊長類学研究所	理学研究科		
東南アジア研究所	医学研究科、アジア・アフリカ地域研究研究科		
iPS 細胞研究所	医学研究科		
		学内共同教育研究施設	研究科
		高等教育研究開発推進センター	教育学研究科、人間・環境学研究科
		総合博物館	理学研究科
		低温物質科学研究センター	理学研究科
		フィールド科学教育研究センター	理学研究科、農学研究科
		福井謙一記念研究センター	工学研究科
		こころの未来研究センター	人間・環境学研究科
		世界トップレベル研究拠点プログラム	研究科
		物質－細胞統合システム拠点	生命科学研究科
		その他の学内組織	研究科
		健康科学センター	医学研究科
		学際融合教育研究推進センター	工学研究科

## 研究所・附属研究施設等位置図

- ① 北海道研究林 [標茶区] (フ)
- ② 北海道研究林 [白糠区] (フ)
- ③ 流域災害研究センター大湊波浪観測所 (防)
- ④ 木曾生物学研究所 (理)
- ⑤ 地震予知研究センター上宝観測所 (防)
- ⑥ 流域災害研究センター穂高砂防観測所 (防)
- ⑦ 飛騨天文台 (理)
- ⑧ 地震予知研究センター北陸観測所 (防)
- ⑨ 霊長類研究所
- ⑩ 生態学研究センター
- ⑪ 流域圏総合環境質研究センター (工)
- ⑫ 信楽MU観測所 (生)
- ⑬ 地震予知研究センター逢坂山観測所 (防)
- ⑭ 地震予知研究センター阿武山観測所 (防)
- ⑮ 農場 (農)
- ⑯ 原子炉実験所
- ⑰ 地震予知研究センター屯鶴峯観測所 (防)
- ⑱ 大宇陀観測所 (理)
- ⑲ 紀伊大島実験所 (フ)
- ⑳ 流域災害研究センター潮岬風力実験所 (防)



- ㉑ 瀬戸臨海実験所 (フ)
- ㉒ 流域災害研究センター白浜海象観測所 (防)
- ㉓ 和歌山研究林 (フ)
- ㉔ 地震予知研究センター鳥取観測所 (防)
- ㉕ 徳山試験地 (フ)
- ㉖ 地震予知研究センター徳島観測所 (防)
- ㉗ 斜面災害研究センター徳島地すべり観測所 (防)
- ㉘ 地球熱学研究施設 (理)
- ㉙ 地球熱学研究施設火山研究センター (理)
- ㉚ 熊本サンクチュアリ (野)
- ㉛ 地震予知研究センター宮崎観測所 (防)
- ㉜ 幸島観測所 (野)
- ㉝ 火山活動研究センター桜島火山観測所 (防)
- ㉞ 屋久島観測所 (野)

(理) … 理学研究科  
 (工) … 工学研究科  
 (農) … 農学研究科  
 (生) … 生存圏研究所  
 (防) … 防災研究所  
 (フ) … フィールド科学教育研究センター  
 (野) … 野生動物研究センター

## 京都府内研究所・附属研究施設等位置図

京都市内を除く



- A 舞鶴水産実験所 (フ)
- B 牧場 (農)
- C 芦生研究林 (フ)
- D 上賀茂試験地 (フ)
- E 花山天文台 (理)
- F 流域災害研究センター  
宇治川オープンラボラトリー (防)
- G 栽培植物起原学研究室分室 (農)
- H 宇治構内

(理) … 理学研究科  
 (工) … 工学研究科  
 (農) … 農学研究科  
 (生) … 生存圏研究所  
 (防) … 防災研究所  
 (フ) … フィールド科学教育研究センター  
 (野) … 野生動物研究センター

# 学生募集要項配布時期一覧

※グローバル 30 は英語による学位取得コースです。詳細は 11 ページをご覧ください。

## ■修士課程

研究科	一般選抜	社会人特別選抜	外国人留学生特別選抜	特別選考	グローバル 30	秋期(10月)入学者を対象とする入学者選抜			過去問題 (一般選抜)の取扱い
						一般選抜	外国人留学生特別選抜	グローバル 30	
文学研究科	5月・10月 ※1								窓口での閲覧のみ可。
教育学研究科	6月・11月	6月	11月						窓口での閲覧可。身分証明書を持参の場合は、1時間貸し出し可。
法学研究科 (法政理論専攻)	6月		7月						窓口での閲覧、貸出のみ可。
経済学研究科	6月								ホームページに掲載
理学研究科	5月		12月 ※2		8月	5月 ※3	12月 ※2・3	8月 ※3	ホームページに掲載。一部掲載していない英語科目は各専攻事務室に照会してください。
医学研究科 (医科学専攻)	6月	6月			6月				窓口で閲覧のみ可。
医学研究科 (人間健康科学系専攻)	6月	6月							窓口で閲覧のみ可。
薬学研究科	6月		10月				7月		薬学研究科・薬学部図書館での閲覧可。
工学研究科	5月		11月		1月				専攻により異なる。取り扱いについてはホームページに掲載。
農学研究科	6月	6月	11月		9月			9月	窓口での閲覧、貸出のみ可。
人間・環境学研究科	6月・11月								吉田南総合図書館での閲覧可。一部ホームページに掲載。
エネルギー科学研究科	4月	4月	10月					4月	窓口での閲覧可。郵送可(過去2年分)。
情報学研究科	5月・11月 ※4	5月・11月 ※4	11月	5月 (推薦入試)	5月・11月	5月		5月・11月・1月 ※5	一部ホームページに掲載。窓口での閲覧可。
生命科学研究科	4月				3月			3月	窓口での閲覧、貸出のみ可。
地球環境学舎	4月	4月			※6			※6	郵送での請求可。

○枠内の月は、当該選抜の学生募集要項の配付予定時期を示します。また、2ヶ月以上併記されている場合は、一次募集と二次募集の当該選抜の学生募集要項の配付予定時期を示します。なお、研究科・専攻によっては、上記選抜制度及び学生募集要項の配付予定時期が変更となる場合があります。

○特別選考の詳細については、当該研究科のホームページで確認するか、又は直接問い合わせてください。

※1 文学研究科行動文化学専攻の夏期入学試験(4月入学)の学生募集要項は5月に、全ての専攻の学生募集要項は10月に配付する予定です。

※2 理学研究科の外国人留学生特別選抜の学生募集は、数学・数理解析専攻(数学系)のみです。学生募集要項は12月に配付する予定です。

※3 理学研究科の各学生募集要項は春期・秋期入学共通です。

※4 情報学研究科において二次募集を実施する場合は、複雑系科学専攻は10月に、その他の専攻は11月に当該選抜の募集要項を配付する予定です。

※5 情報学研究科の国際コース AO 入試は1月に募集要項を配付します。

※6 地球環境学舎のグローバル 30 については直接お問い合わせください。

## ■専門職学位課程

研究科	一般選抜	社会人特別選抜	外国人留学生特別選抜	特別選考	グローバル 30	秋期(10月)入学者を対象とする入学者選抜		過去問題 (一般選抜)の取扱い
						一般選抜	外国人留学生特別選抜	
法科大学院	6月							一部ホームページに掲載。窓口での閲覧可。
医学研究科 (社会健康医学系専攻)	6月	6月						窓口での閲覧のみ可。
公共政策大学院	7月	7月	7月					ホームページに掲載。窓口での閲覧可。(一般選抜の筆答試験のみ)
経営管理大学院	6月	6月			4月			一部ホームページに掲載。(一般選抜の筆答試験のみ)

○枠内の月は、当該選抜の学生募集要項の配付予定時期を示します。なお、研究科・専攻によっては、上記選抜制度及び学生募集要項の配付予定時期が変更となる場合があります。

## ■ 博士後期課程

研究科	一般選抜	社会人特別選抜	外国人留学生特別選抜	特別選考	グローバル30	秋期(10月)入学者を対象とする入学選抜				
						一般選抜	社会人特別選抜	外国人留学生特別選抜	特別選考	グローバル30
文学研究科	10月									
教育学研究科	11月	6月	11月							
法学研究科 (法政理論専攻)	11月	11月	7月							
経済学研究科	10月	10月								
理学研究科	12月				8月	5月				8月 ※1
医学研究科 (医科学専攻)	8月	8月			8月 (医科学)					
医学研究科 (人間健康科学系専攻)	6月									
薬学研究科	9月		9月			7月		7月		
工学研究科	5月・11月	5月・11月				5月	5月	11月		
農学研究科	11月	11月	11月		9月					9月
人間・環境学研究科	11月									
エネルギー科学研究科	4月・10月	4月・10月	4月・10月		4月	4月	4月	4月		4月
情報学研究科	5月・11月 ※2	5月・11月 ※2	5月・11月 ※2		5月・11月	5月・11月	5月・11月	5月・11月		5月・11月・1月 ※3
生命科学研究科	12月				3月					3月
地球環境学舎	4月・11月	4月・11月		4月・11月	※4	4月	4月		4月	※4

○枠内の月は、当該選抜の学生募集要項の配付予定時期を示します。また、2ヶ月以上併記されている場合は、一次募集と二次募集の当該選抜の学生募集要項の配付予定時期を示します。

なお、研究科・専攻によっては、上記選抜制度及び学生募集要項の配付予定時期が変更となる場合があります。

○特別選考の詳細については、当該研究科のホームページで確認するか、又は直接問い合わせてください。

※1 理学研究科の各学生募集要項は春期・秋期入学共通です。

※2 情報学研究科において二次募集を実施する場合は、11月に当該選抜の募集要項を配付する予定です。

※3 情報学研究科の国際コースAO入試は1月に募集要項を配付します。

※4 地球環境学舎のグローバル30については直接お問い合わせください。

## ■ 博士課程

研究科	一般選抜	社会人特別選抜	外国人留学生特別選抜	第3年次編入学	グローバル30	秋期(10月)入学者を対象とする入学選抜		過去問題 (一般選抜)の取扱い
						一般選抜	外国人留学生特別選抜	
医学研究科 (医学専攻)	8月	8月			8月			窓口での閲覧のみ可。
薬学研究科 (薬学専攻)	6月							薬学研究科・薬学部図書館での閲覧可。
アジア・アフリカ 地域研究研究科	4月 ※1			10月			※2	英語：窓口での閲覧可。 専門：ホームページに掲載(過去3年分)。 窓口での閲覧可。
総合生存学館(思修館)	4月							窓口での閲覧及び郵送可。 請求方法についてはホームページに記載。

○枠内の月は、当該選抜の学生募集要項の配付予定時期を示します。なお、上記選抜制度及び学生募集要項の配付予定時期が変更となる場合があります。

○医学研究科(医学専攻)、薬学研究科(薬学専攻)の博士課程は4年制です。

○アジア・アフリカ地域研究研究科及び総合生存学館(思修館)の博士課程は一貫制博士課程(5年制)です。

※1 東南アジア地域研究専攻及びアフリカ地域研究専攻の第2回入試学生募集要項を含みます。

※2 第3年次編入学を希望する国費留学生のみが対象です。詳細については、アジア・アフリカ地域研究研究科へ直接問い合わせてください。

# パンフレット等請求方法・問い合わせ先一覧

## ■パンフレット等請求方法(請求先住所は右記をご参照ください)

文学研究科	受信者の住所・氏名・郵便番号を明記し、400円分の切手を貼付した返信用封筒(角形2号 332mm × 240mm)を同封の上、文学研究科教務掛宛に「修士課程(行動文化学系)夏期入学試験募集要項請求」「修士課程募集要項請求」「博士後期課程編入学募集要項請求」のいずれかを朱書きしてお申し込みください。文学研究科のホームページにも掲載しています。
教育学研究科	受信者の住所・氏名・郵便番号を明記し、400円分の切手を貼付した返信用封筒(角形2号 332mm × 240mm)を同封の上、教育学研究科教務掛宛に「教育学研究科大学院募集要項(専修コース・第2種・研究者養成コース・博士編入学・臨床実践指導者養成コースのうち希望するものを明記)請求」と朱書きしてお申し込みください。
法学研究科	受信者の住所・氏名・郵便番号を明記し、205円分の切手を貼付した返信用封筒(角形2号 332mm × 240mm)を同封の上、法学研究科大学院掛宛に申し込んでください。その際、下記の募集要項のいずれが必要かを朱書きで記入してください。 ○法政理論専攻修士課程 学生募集要項 ○法政理論専攻修士課程 外国人特別選抜要項 ○法政理論専攻博士後期課程 編入学生募集要項 ○法政理論専攻博士後期課程 外国人特別選抜要項
法科大学院	120円切手を貼付した返信用封筒(角型2号 332mm × 240mm、住所・氏名・郵便番号を明記)を同封の上、「法科大学院パンフレット請求」と朱書きし、法学研究科法科大学院掛に請求してください。
経済学研究科	受信者の住所・氏名・郵便番号を明記し、205円分の切手を貼付した返信用封筒(角形2号 332mm × 240mm)を同封の上、経済学研究科教務掛宛に「経済学研究科大学院修士課程募集要項請求」「経済学研究科大学院博士後期課程編入学募集要項請求」「経済学研究科大学院博士後期課程編入学社会人特別選抜募集要項請求」のいずれかを朱書きしてお申し込みください。
理学研究科	募集要項は、理学研究科大学院教務掛で交付します。郵送を希望する場合は、請求者の住所・氏名及び郵便番号を明記し、切手250円分を貼付した返信用封筒(角形2号 332mm × 240mm)を同封して請求してください。その際請求される封筒の表に下記の募集要項のいずれが必要かを朱書きしてください。 ●修士課程学生募集要項 ●博士後期課程学生募集要項 ●10月入学 博士後期課程学生募集要項 ●数学・数理解析専攻数学系修士課程外国人留学生募集要項 ●International Course for Primatology and Wildlife Research (グローバル30)の募集要項は霊長類研究所内のHPへ。 <a href="http://www.cicasp.pri.kyoto-u.ac.jp/program/course-details">http://www.cicasp.pri.kyoto-u.ac.jp/program/course-details</a>
医学研究科	募集要項は、医学研究科教務・学生支援室で交付します。郵送を希望する場合は、受信者の住所・氏名・郵便番号を明記し、下記の料金分の切手を貼付した返信用封筒(角型2号 332mm × 240mm)を同封の上、封筒の表に「医学研究科○○○専攻(○○課程)募集要項請求」と朱書きして医学研究科教務・学生支援室大学院教務掛宛に申し込んでください。 ※人間健康科学系専攻の願書は医学部人間健康科学科教務掛へ申し込んでください。 6月上旬より配付 ・社会健康医学系専攻(専門職学位課程) → 400円切手(パンフレット含む) ・医科学専攻(修士課程) → 250円切手 ・人間健康科学系専攻(修士課程) → 250円切手 ・人間健康科学系専攻(博士後期課程) → 250円切手 8月中旬より配付 ・医学専攻(博士課程) → 250円切手 ・社会健康医学系専攻(博士後期課程) → 400円切手(パンフレット含む) ・医科学専攻(博士後期課程) → 250円切手
薬学研究科	受信者の住所・氏名・郵便番号を明記し、250円分の切手を貼付した返信用封筒(角形2号 332mm × 240mm)を同封の上、京都大学大学院薬学研究科教務掛宛に「薬学研究科・薬学部概要請求」と朱書きしてお申し込みください。
工学研究科	受信者の住所・氏名・郵便番号を明記し、250円分の切手を貼付した返信用封筒(角形2号 332mm × 240mm)を同封の上、京都大学工学研究科教務課大学院掛宛に「工学研究科案内請求」と朱書きしてお申し込みください。
農学研究科	受信者の住所・氏名・郵便番号を明記し、250円切手を貼付した返信用封筒(角形2号 332mm × 240mm)を同封の上、封筒の表に必ず必要とされる募集要項の種類(修士課程/博士後期課程、一般選抜/社会人特別選抜/私費外国人留学生特別選抜)を明記し、「○○募集要項請求」と朱書きして、農学研究科大学院教務掛宛にお申し込みください。
人間・環境学研究科	受信者の住所・氏名・郵便番号を明記し、205円分(募集要項が必要な場合は400円分)の切手を貼付した返信用封筒(角形2号 332mm × 240mm)を同封の上、人間・環境学研究科大学院掛宛に「人間・環境学研究科パンフレット(募集要項)請求」と朱書きしてお申し込みください。
エネルギー科学研究科	募集要項及びパンフレットを郵送で請求する場合は、400円切手を貼付した返信用封筒(角形2号 332mm × 240mm)に住所・氏名・郵便番号を明記したものを同封の上、「エネルギー科学研究科(修士・博士)課程募集要項請求」と朱書きしてお申し込みください。 International Energy Science Course (グローバル30)の募集要項は研究科のHPへ。 <a href="http://www.energy.kyoto-u.ac.jp/IESC/admissions/">http://www.energy.kyoto-u.ac.jp/IESC/admissions/</a>
アジア・アフリカ地域研究研究科	学生募集要項の郵送を希望する場合は、受信者の住所・氏名・郵便番号を明記して250円切手を貼付した返信用封筒(角形2号 (332mm × 240mm)を同封し「学生募集要項請求(又は第3年次編入学学生募集要項請求)」と往信封筒に朱書きして「アジア・アフリカ地域研究研究科 教務掛」へお申し込みください。
情報学研究科	募集要項を郵送で請求する場合は、250円切手を貼付した返信用封筒(角2サイズ 24cm × 34cm)に住所・氏名・郵便番号を明記したものを同封の上「情報学研究科(※修士・博士)課程(※4月期・10月期)学生募集要項請求」と朱書きし、【問い合わせ先】へ請求してください。(※は選択) また、「志望区分案内」は以下のホームページに掲載しています。 <a href="http://www.i.kyoto-u.ac.jp/admission/application.html">http://www.i.kyoto-u.ac.jp/admission/application.html</a>
生命科学研究科	受信者の住所・氏名・郵便番号を明記し、250円分の切手を貼付した返信用封筒(角形2号 332mm × 240mm)を同封の上、生命科学研究科教務掛宛に「生命科学研究科概要請求」と朱書きしてお申し込みください。
総合生存学館(思修館)	学生募集要項(4月上旬より配付)の郵送を希望する場合は、受信者の住所・氏名・郵便番号を明記し、250円分の切手を貼付した返信用封筒(角形2号 332mm × 240mm)を同封の上、「総合生存学館学生募集要項請求」と往信封筒に朱書きして、「総合生存学館(思修館)教務担当」宛にお申し込みください。(請求先住所は右記の総合生存学館の住所です。)
地球環境学舎	受信者の住所・氏名・郵便番号を明記し、250円分の切手を貼付した返信用封筒(角形2号)を同封の上、地球環境学舎教務掛宛に「地球環境学舎ガイドブック請求」と朱書きしてお申し込みください。ホームページからもダウンロードできます。
公共政策大学院	パンフレットや出願書類の郵送を希望する場合は、受信者の住所・氏名・郵便番号を明記し、250円切手を貼付した返信用封筒(角形2号 332mm × 240mm)を同封の上、法学研究科公共政策大学院掛宛に「公共政策大学院出願書類請求」と朱書きしてお申し込みください。
経営管理大学院	返信用封筒(角形2号 332mm × 240mm)を準備し、受信者の住所・氏名・郵便番号のほか、受信者が日本国内に居住している場合は、250円切手を貼付し、外国に居住する場合は、航空便書状200グラム相当の国際返信切手券を同封して申込先へ申し込んでください。その際、送付する封筒の表に朱書きで「経営管理教育部パンフレット請求」と明記してください。

## ■問い合わせ先一覧

研究科	連絡先		ホームページアドレス
	電話	所在地	
文学研究科	075-753-2710	〒 606-8501 京都市左京区吉田本町	http://www.bun.kyoto-u.ac.jp/
教育学研究科	075-753-3010		http://www.educ.kyoto-u.ac.jp/
法学研究科	075-753-3220		http://law.kyoto-u.ac.jp/
法科大学院	075-753-3125		http://lawschool.law.kyoto-u.ac.jp/
経済学研究科	075-753-3406		http://www.econ.kyoto-u.ac.jp/
理学研究科	075-753-3613	〒 606-8502 京都市左京区北白川追分町	http://www.sci.kyoto-u.ac.jp/
医学研究科(医学・医科学・社会健康医学系専攻)	075-753-4306	〒 606-8501 京都市左京区吉田近衛町	http://www.med.kyoto-u.ac.jp/
医学研究科(人間健康科学系専攻)	075-751-3906	〒 606-8507 京都市左京区聖護院川原町 53	http://www.med.kyoto-u.ac.jp/
薬学研究科	075-753-4514	〒 606-8501 京都市左京区吉田下阿達町	http://www.pharm.kyoto-u.ac.jp/
工学研究科	075-383-2040	〒 615-8530 京都市西京区京都大学桂	http://www.t.kyoto-u.ac.jp/
農学研究科	075-753-6014	〒 606-8502 京都市左京区北白川追分町	http://www.kais.kyoto-u.ac.jp/
人間・環境学研究科	075-753-2951	〒 606-8501 京都市左京区吉田二本松町	http://www.h.kyoto-u.ac.jp/
エネルギー科学研究科	075-753-9212	〒 606-8501 京都市左京区吉田本町	http://www.energy.kyoto-u.ac.jp/
アジア・アフリカ地域研究研究科	075-753-7374	〒 606-8501 京都市左京区吉田下阿達町 46	http://www.asafas.kyoto-u.ac.jp/
情報学研究科	075-753-4894	〒 606-8501 京都市左京区吉田本町	http://www.i.kyoto-u.ac.jp/
生命科学研究科	075-753-9222	〒 606-8501 京都市左京区吉田近衛町	http://www.lif.kyoto-u.ac.jp/
総合生存学館(思修館)	075-762-2002	〒 606-8306 京都市左京区吉田中阿達町 1 番	http://www.gsais.kyoto-u.ac.jp/
地球環境学舎	075-753-9167	〒 606-8501 京都市左京区吉田本町	http://www2.ges.kyoto-u.ac.jp/
公共政策大学院	075-753-3126	〒 606-8501 京都市左京区吉田本町	http://www.sg.kyoto-u.ac.jp/
経営管理大学院	075-753-3410		http://www.gsm.kyoto-u.ac.jp/

## 大学院入試説明会・オープンキャンパス等日程

(平成 26 年度実施分)

27 年度の実施日程については各研究科にお問い合わせください。

4 月

法科大学院入試説明会  
 理学研究科生物科学専攻動物学系(修士課程)入試説明会  
 理学研究科生物科学専攻生物物理学系(修士課程)入試説明会  
 理学研究科生物科学専攻大学院入試説明会、オープンラボ&レクチャー(京都)  
 理学研究科地球惑星科学専攻(修士課程)入試説明会(横浜)  
 薬学研究科大学院入試説明会  
 工学研究科原子核工学専攻大学院入試説明会(第1回)  
 工学研究科材料工学専攻大学院入試特別選考研究室見学会  
 工学研究科創成化学専攻群大学院入試説明会(京都、東京)  
 工学研究科先端化学専攻群大学院入試説明会  
 農学研究科大学院入試説明会(京都)  
 農学研究科応用生命科学専攻大学院入試説明会  
 エネルギー科学研究科エネルギー基礎科学専攻入試説明会  
 アジア・アフリカ地域研究研究科オープンキャンパス(京都)  
 総合生存学館(思修館)入試説明会(京都)  
 地球環境学舎入試説明会(京都・東京)

5 月

理学研究科化学専攻見学会  
 理学研究科生物科学専攻植物学系(修士課程)入試説明会  
 理学研究科数学・数理解析専攻数学系 カロア祭  
 医学研究科医学専攻、医科学専攻大学院説明会  
 医学研究科人間健康科学系専攻大学院説明会(看護科学コース)  
 工学研究科社会基盤工学専攻・都市社会工学専攻合同大学院入試説明会  
 工学研究科都市環境工学専攻大学院入試説明会  
 工学研究科機械理工学専攻・マイクロエンジニアリング専攻・航空宇宙工学専攻合同大学院入試説明会  
 工学研究科原子核工学専攻大学院入試説明会(第2回・第3回)  
 農学研究科大学院入試説明会(東京)  
 農学研究科地域環境科学専攻生物・生態系大学院入試説明会  
 エネルギー科学研究科エネルギー基礎科学専攻入試説明会  
 エネルギー科学研究科エネルギー社会・環境科学専攻入試説明会(京都・東京)  
 エネルギー科学研究科エネルギー変換科学専攻入試説明会  
 アジア・アフリカ地域研究研究科大学院説明会(東京)  
 情報学研究科知能情報学専攻入試説明会  
 情報学研究科理工学専攻入試説明会(第1回)  
 情報学研究科社会情報学専攻入試説明会  
 情報学研究科システム科学専攻入試説明会(第1回)  
 情報学研究科通信情報システム専攻入試説明会  
 情報学研究科システム科学専攻入試説明会(第2回)  
 情報学研究科複雑系科学専攻入試説明会  
 総合生存学館(思修館)入試説明会(福岡・東京・京都・大阪)  
 地球環境学舎入試説明会(東京)  
 化学研究所バイオインフォマティクスセンター合同見学会・入試説明会  
 エネルギー理工学研究所公開講演会入試相談会  
 iPS細胞研究所(CIRA)大学院説明会・研究室見学会(医学研究科 医学・医科学専攻大学院説明会の一環として)

6 月

教育学研究科入試説明会(京都)  
 理学研究科数学・数理解析専攻数学系(修士課程)入試説明会(東京・京都)  
 理学研究科数学・数理解析専攻数理解析系(修士課程)入試説明会(東京・京都)  
 理学研究科物理学・宇宙物理学専攻(修士課程)入試説明会(東京・京都)  
 理学研究科地球惑星科学専攻(修士課程)入試説明会(京都)  
 理学研究科地球惑星科学専攻 ヲヱゲナー祭(地球惑星科学系オープンラボ)  
 理学研究科物理学・宇宙物理学専攻 ローレンツ祭  
 医学研究科社会健康医学系専攻オープンキャンパス  
 医学研究科人間健康科学系専攻大学院説明会(検査技術科学コース・リハビリテーション科学コース)  
 薬学研究科大学院入試説明会  
 工学研究科建築学専攻大学院入試説明会  
 人間・環境学研究科入試説明会(東京)  
 情報学研究科理工学専攻入試説明会(第2回)  
 総合生存学館(思修館)入試説明会(東京・京都)  
 地球環境学舎入試説明会(京都)  
 公共政策大学院説明会(第1回)

7 月

教育学研究科入試説明会(東京)  
 法学研究科法政理論専攻(修士課程)入試説明会  
 法科大学院入試説明会(京都・東京)  
 人間・環境学研究科入試説明会(京都)  
 エネルギー科学研究科エネルギー応用科学専攻入試説明会  
 大学院経営管理教育部入試説明会

9 月

文学研究科歴史文化学系、現代史学専攻大学院進学説明会  
 エネルギー科学研究科エネルギー基礎科学専攻入試説明会

10 月

宇治キャンパス公開 2014  
 地球環境学舎入試説明会(京都)  
 大学院経営管理教育部入試説明会

11 月

教育学研究科入試説明会(京都)  
 人間・環境学研究科入試説明会(東京)  
 情報学研究科複雑系科学専攻入試説明会(第2回)  
 地球環境学舎入試説明会(東京)  
 公共政策大学院説明会(第2回)

12 月

工学研究科都市環境工学専攻大学院入試説明会  
 人間・環境学研究科入試説明会(京都)  
 総合生存学館(思修館)入試説明会(東京・京都)

2 月

霊長類研究所オープンキャンパス  
 地球環境学舎入試説明会(京都)

3 月

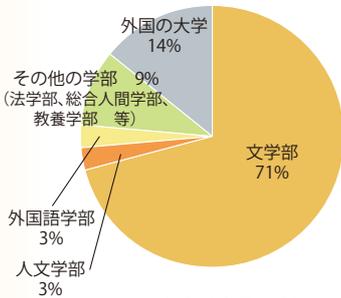
文学研究科西洋文献文化学系大学院進学説明会

# 研究科別入学者出身学部

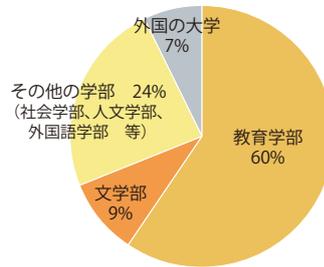
(平成 26 年 4 月入学)

## 修士課程

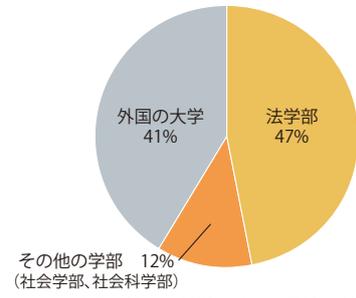
### 文学研究科



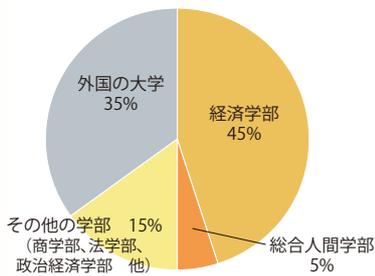
### 教育学研究科



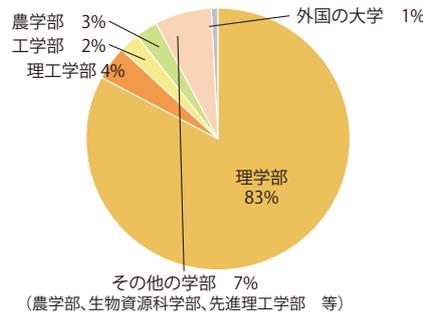
### 法学研究科 (法政理論専攻)



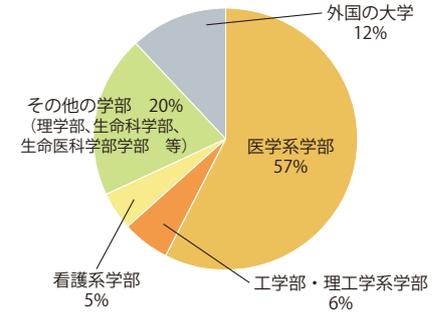
### 経済学研究科



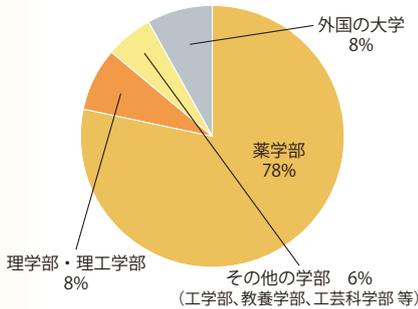
### 理学研究科



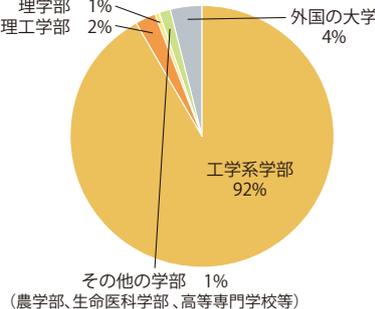
### 医学研究科 (医科学専攻・人間健康科学系専攻)



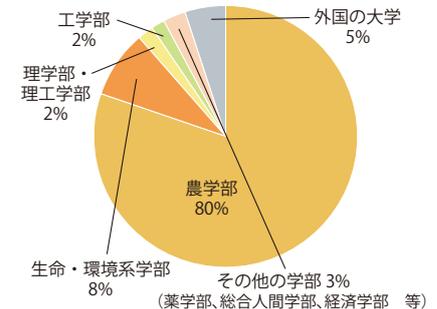
### 薬学研究科



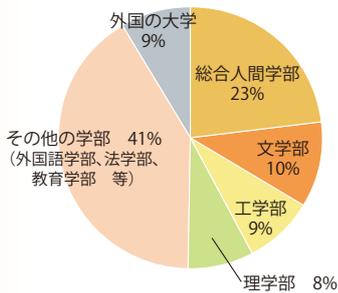
### 工学研究科



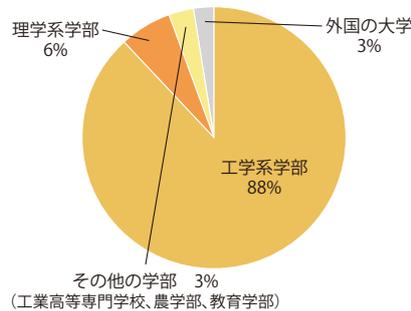
### 農学研究科



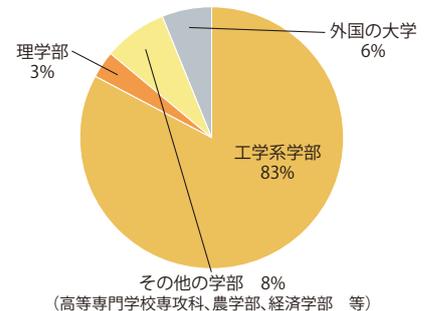
### 人間・環境学研究科



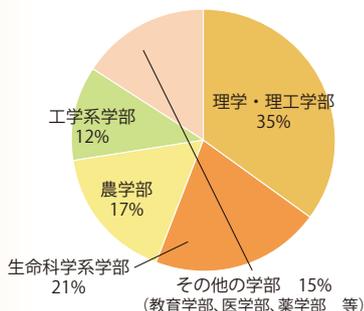
### エネルギー科学研究科



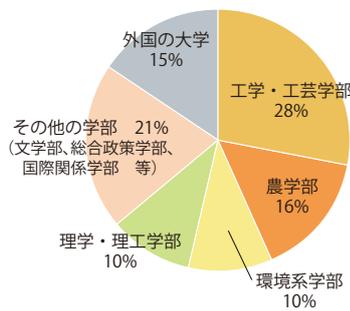
### 情報学研究科



### 生命科学研究科



### 地球環境学舎



## 先輩に聞いてみました

(他大学出身者の声)

アジア・アフリカ地域研究研究科・東南アジア地域研究専攻  
 ロンドン大学東洋アフリカ研究学院・南アジア研究所  
 英国アカデミーニュートン国際フェロー

宮本 万里さん



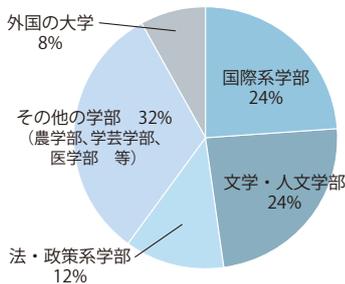
私が大学院アジア・アフリカ地域研究研究科の院生として研究生生活を始めたのは2000年の4月でした。入国困難で先行文献も少ない、ヒマラヤの小王国ブータンについて研究したいという私の意志を尊重し、応援してくれる諸先生を山口大学時代に続き身近に得られたのは何より大きいことでした。対象国での長期滞在調査が難しいという状況は博士論文の進捗にも影響を与えていましたが、長期間の交渉の末、博士後期3年目の秋に講座の諸先生のご協力も得てついにブータン政府から1年間の調査許可を得ることができました。松下国際財団からの奨学金を受けて実施したこの長期調査では、当該社会に関する新たな知見とともに得難い経験と素晴らしい友人たちを得ることができ、それらは現在まで私の研究の支えとなっています。

帰国後は日本学術振興会の特別研究員として現地調査を続け、3年目の春に博士論文を提出しました。現地調査が叶わなかった期間は、政治学の枠組みによって政策文書や国会議事録の分析を行い、調査が可能になってからは、政策の受け手としての人々の生活世界を人類学的な手法をとって重層的に描き出そうと試みてきたつもりです。地域研究は学問体系の分類においてはしばしば複合新領域というカテゴリーに配置されます。所属した研究科でも文理融合と学際研究は常に課題として掲げられていましたが、対象地域のその時々政治社会状況において可能であり必要な研究手法を柔軟に選択できるのは、地域研究の強みでもあるでしょう。また、京大での個性的な先生や先輩、同期との分野を超えた交流は、様々な意味で刺激的であり、研究者としての人生や在り方についても多くのことを学びました。博士論文執筆の過程は一方で専門性を高めることが求められますが、それは研究関心の幅を狭めることを必ずしも意味しません。私自身の関心分野は、博士課程の修了を契機に様々な分野とリンクしながら一層自由な広がりをもちつつあり、それは大学院やその後のポスドク期間をとって学際的な研究環境に身を置いてきたことによると考えています。

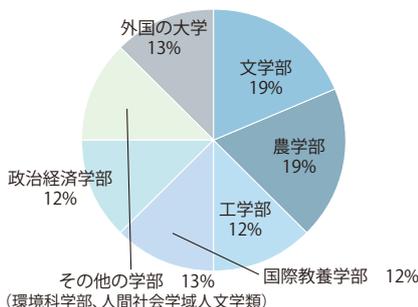
2014年からは英国アカデミーの研究員として拠点をロンドンに移しています。異なる文化的政治的背景を持つ多様な人々が混じり合うこの魅力的な国際都市の研究環境では、自らの性や人種あるいは民族的な背景を意識させられることは稀です。誰もが異なる他者であることを前提に個々の生き方や考え方が尊重されているという感覚は、得難く貴重なことなのだと感じ、実感をもって学んでいます。研究職を目指すというのは困難の多い選択でもあります。けれども、その道筋は私たちの思考を解放し、思いもよらない出会いや場所へと導く翼をもっています。大学院はその可能性を育てる場所であり、希望を託す価値はあるのではないかと思います。

### 一貫制博士課程

#### アジア・アフリカ地域研究研究科

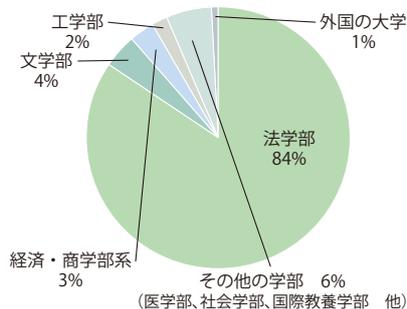


#### 総合生存学館

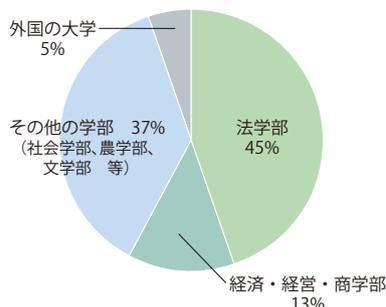


### 専門職学位課程

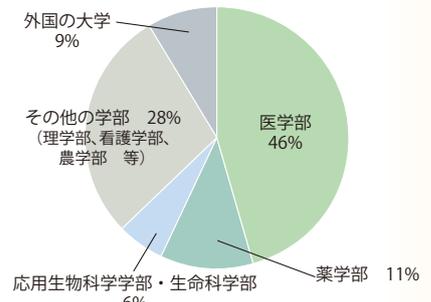
#### 法科大学院



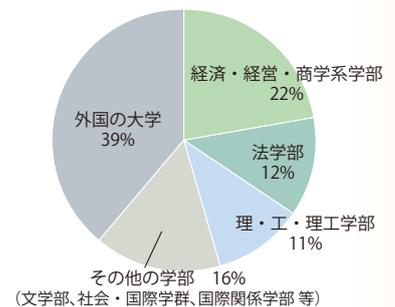
#### 公共政策大学院



#### 医学研究科 (専門職課程)



#### 経営管理大学院



# 吉田キャンパス



百周年時計台記念館



## 北部構内

農学部、農学研究科  
理学部、理学研究科  
基礎物理学研究所  
数理解析研究所  
低温物質科学研究センター  
フィールド科学教育研究センター

## 医学部構内

医学部医学科、医学研究科  
生命科学研究科  
放射性同位元素総合センター  
放射線生物研究センター  
男女共同参画推進センター



## 本部構内

文学部、文学研究科  
経済学部、経済学研究科  
法学部、法学研究科  
教育学部、教育学研究科  
工学部、工学研究科  
エネルギー科学研究科  
情報学研究科  
地球環境学堂・学舎  
法科大学院  
公共政策大学院  
経営管理大学院  
人文科学研究科  
経済研究所  
環境科学センター  
国際交流センター  
産官学連携本部  
文化財総合研究センター  
学生総合支援センター  
健康科学センター  
学術情報メディアセンター（北館）  
ベンチャー・ビジネス・ラボラトリー  
インフォメーションセンター

## 薬学部構内・病院西構内

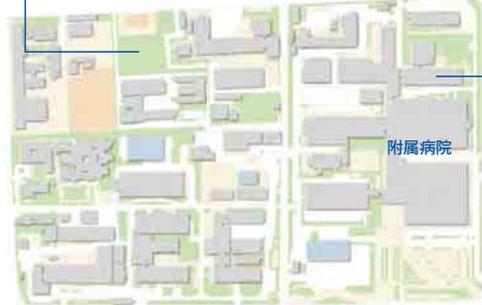
薬学部、薬学研究科  
医学部人間健康科学科  
アジア・アフリカ地域研究研究科  
東南アジア研究所  
ウイルス研究所  
再生医学研究所  
iPS細胞研究所  
こころの未来研究センター  
地域研究総合情報センター  
アフリカ地域研究資料センター

## 吉田南構内

総合人間学部、人間・環境学研究科  
国際高等教育院  
学術情報メディアセンター（南館）  
高等教育研究開発推進センター

## 病院東構内

医学部附属病院



## 吉田キャンパスへの交通

主要鉄道駅	利用交通機関等	乗車バス停	市バス系統	市バス経路	本学までの所要時間※	下車バス停
京都駅 (JR/近鉄)	市バス	京都駅前	206系統	「東山通 三十三間堂 清水寺 祇園・北大路バスターミナル」行	約35分	「京大正門前」又は「百万遍」、医・薬構内は「近衛通」
			17系統	「河原町通 四条河原町・銀閣寺」行	約35分	「百万遍」、北部構内は「京大農学部前」、薬構内は「荒神口」
河原町駅 (阪急)	市バス	四条河原町	201系統	「東山通 祇園・百万遍」行	約25分	「京大正門前」又は「百万遍」、医・薬構内は「近衛通」
			31系統	「東山通 高野・岩倉」行	約25分	
			17系統	「河原町通 出町柳駅 百万遍 銀閣寺」行	約25分	「百万遍」、北部構内は「京大農学部前」、薬構内は「荒神口」
			3系統	「河原町通 出町柳駅 百万遍 北白川仕伏町(上終町・京都造形芸大)」行	約25分	「百万遍」、薬構内は「荒神口」
烏丸今出川駅 (地下鉄烏丸線)	市バス	烏丸今出川	203系統	「白川通 出町柳駅 銀閣寺・錦林車庫」行	約15分	「百万遍」、北部構内は「京大農学部前」
			201系統	「東山通 出町柳駅 百万遍・祇園」行	約15分	「京大正門前」又は「百万遍」、医・薬構内は「近衛通」
			(急行Exp.)102	「出町柳駅・銀閣寺・錦林車庫」行き	約15分	
東山駅 (地下鉄東西線)	市バス	東山三条	206系統	「東山通 高野・北大路バスターミナル」行	約20分	「京大正門前」又は「百万遍」、医・薬構内は「近衛通」
			201系統	「東山通 百万遍・千本今出川」行	約20分	
			31系統	「東山通 高野・岩倉」行	約20分	
出町柳 (京阪)	徒歩	(東へ)			約20分	本部構内は当駅から徒歩約15分 北部、吉田南構内は徒歩約20分
	市バス	出町柳駅前	201系統	「東山通 百万遍・祇園」行	約10分	「京大正門前」又は「百万遍」、医・薬構内は「近衛通」
神宮丸太町駅 (京阪)	徒歩	(東へ)	17系統	「白川通 銀閣寺・錦林車庫」行	約10分	「百万遍」、北部構内は「京大農学部前」
					約10分	医・薬構内は、当駅から徒歩約10分

※本学までの所要時間はあくまでも目安であり、交通事情等により超えることがあります。

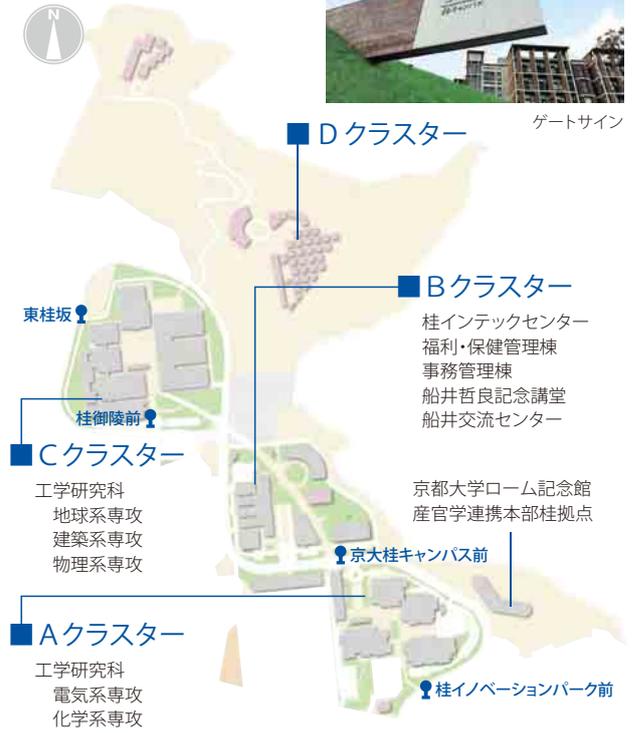
## 宇治キャンパス



### 宇治キャンパスへの交通

主要鉄道駅	駅からのアクセス
黄檗駅(JR/京阪)	黄檗駅下車西へ徒歩約10分

## 桂キャンパス

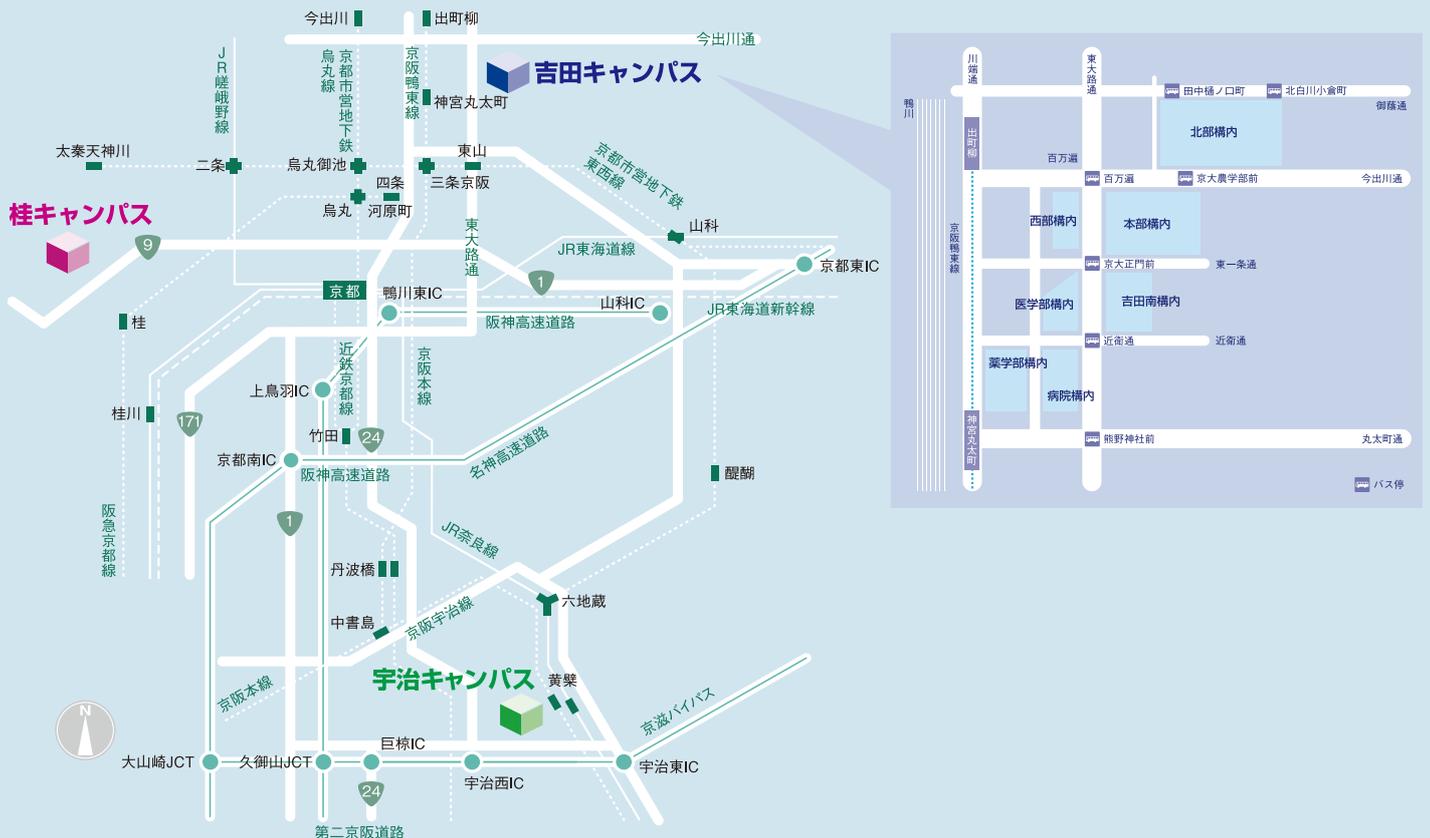


### 桂キャンパスへの交通

主要鉄道駅	利用交通機関等	乗車バス停	バス系統	バス経路	下車バス停
桂駅(阪急)	市バス 京阪京都交通	桂駅西口	西6系統	「京大桂キャンパス 西桂坂・桂坂中央」行	京大桂キャンパス前 (所要時間約15分)
			20・20B系統	「京大桂経由桂坂中央」行	
桂川駅(JR)	京阪京都交通	JR桂川駅	22系統	「京大桂経由桂坂中央」行	京大桂キャンパス前 (所要時間約20分)
			22B系統		
			6号系統 65号系統	桂坂方面「桂坂中央」行	

※本学までの所要時間はあくまでも目安であり、交通事情等により超えることがあります。

## 京都大学キャンパス配置図





京都大学 大学院案内 発行 平成27年3月

京都大学 学務部教務企画課  
〒606-8501 京都市左京区吉田本町 TEL 075-753-2395

<http://www.kyoto-u.ac.jp/>